鳥取県教育文化財団調査報告書 93

一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ　第３分冊

鳥取県西伯郡名和町

茶畑遺跡群

古御堂笹尾山遺跡
古御堂新林遺跡

２００４

財団法人　鳥取県教育文化財団
国土交通省　倉吉河川国道事務所

鳥取県教育文化財団調査報告書　93
一般国道9号(名和淀江道路)改築に係る埋蔵文化財発掘調査報告書　第3分冊
『茶畑遺跡群　　古御堂笹尾山遺跡・古御堂新林遺跡』

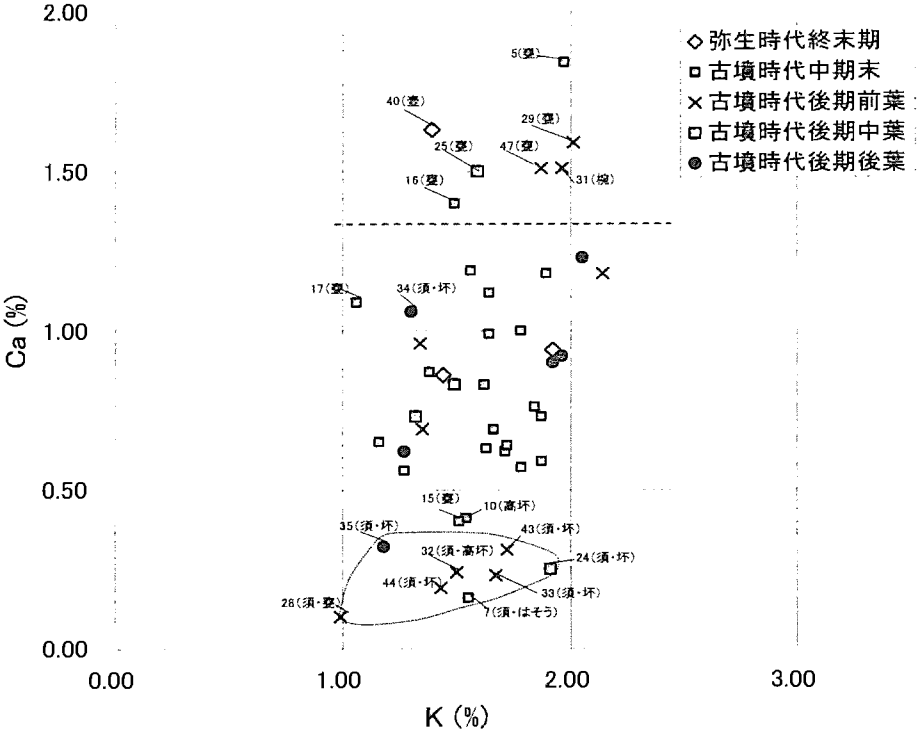
正誤表

頁	行・図・表	誤箇所	正
3－5	図5	左端の等高線「56．50m」	55．50m
3－62	2行目	F7	F8
3－67・68	炭化材樹種一覧表	試料番号1 「クリスもしくはダジイ」	クリもしくはスダジイ
3－72	表5	試料番号9 「茅・屋根」	丸太
3－73	図83	凡例 「硬化した焼土を検出した範囲」	平面図：硬化した焼土を検出した範囲 土層断面図：焼土を多量に包含する層
3－80	図93	平面図および断面図の遺物ポイント「F9」	F10
3－85	図99	平面図および断面図の遺物ポイント「F11	F12
3－86	12行目	F12	F13
3－88	11行目	F13	F14
3－95	表6	試料番号6 「茅」	丸太
3－107	8行目～11行目	土坑9の記載　3－39pと重複のため記載削除	
3－133	出土遺物観察表	桃核　図版「空欄」	図版12
3－186	表1	竪穴住居22　試料番号5、6 「茅・屋根」	丸太か？
3－186	表1	竪穴4　試料番号6 「茅」	丸太
図版30	写真6	竪穴住居23・・断ち割り状況(東から)	(北から)
	抄録	茶畑第1遺跡(ちゃばたけだいいせき)	茶畑第1遺跡(ちゃばだだいいせき)

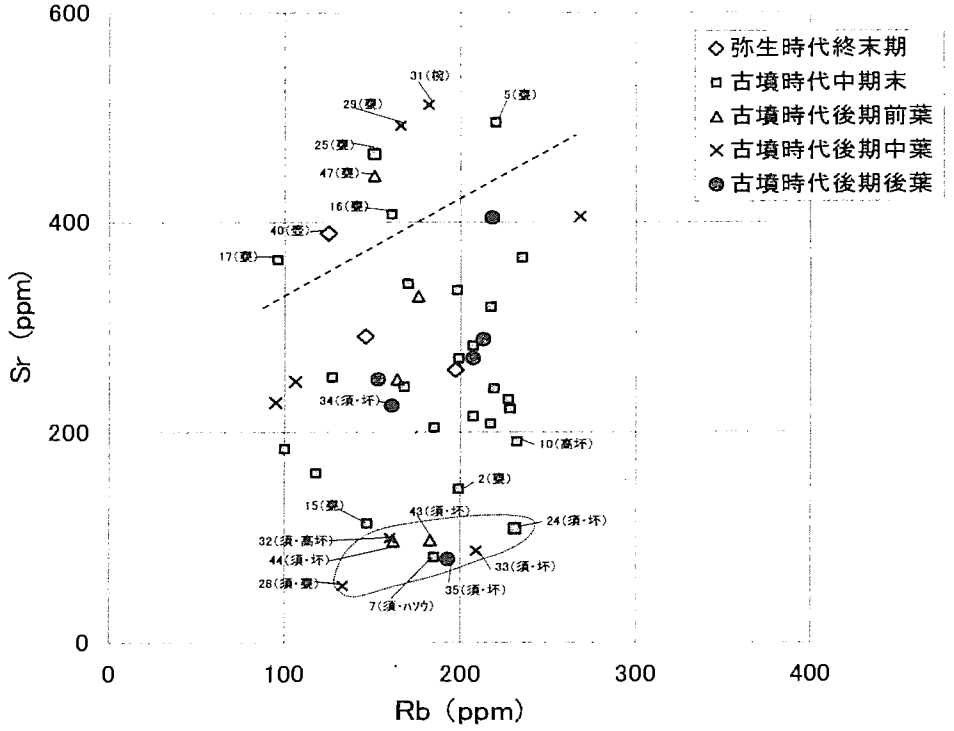
3－168頁　表1　差し替え

表1　古御堂笹尾山遺跡出土土器の胎土分析一覧表

試料No	遺構名	掲載番号	層位	器種	時期	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	Rb	Sr	Zr
1	竪穴4	443	①層	壺	古墳時代中期末(2期)	65.35	1.31	22.58	4.48	0.04	1.84	0.65	2.32	1.16	0.12	100	184	399
2	竪穴4	444	①層	壺	古墳時代中期末(2期)	63.28	1.04	24.52	4.03	0.03	2.02	0.59	2.09	1.87	0.33	199	146	317
3	竪穴4	445	①層	壺	古墳時代中期末(2期)	58.64	1.30	28.93	4.82	0.04	2.09	0.56	2.10	1.27	0.08	118	161	404
4	竪穴4	456	①層	壺	古墳時代中期末(2期)	65.91	1.05	19.03	6.21	0.07	1.89	1.18	2.41	1.89	0.12	235	366	321
5	竪穴4	457	①層	壺	古墳時代中期末(2期)	66.46	1.04	18.75	4.96	0.05	1.95	1.84	2.49	1.97	0.19	220	495	305
6	竪穴4	452	①層	壺	古墳時代中期末(2期)	61.63	1.20	21.85	8.31	0.08	2.03	1.12	1.81	1.64	0.10	198	335	332
7	竪穴4	461	①層	須恵器 樽形ﾊｿｳ	古墳時代中期末(2期)	67.57	0.95	19.25	6.25	0.07	1.80	0.16	2.03	1.55	0.20	185	81	393
8	竪穴4	463	①層	高坏	古墳時代中期末(2期)	62.21	1.18	20.84	8.44	0.09	1.75	0.63	2.72	1.63	0.30	185	204	431
9	竪穴4	464	①層	高坏	古墳時代中期末(2期)	61.21	1.10	22.66	8.06	0.08	1.96	0.76	1.87	1.84	0.16	219	241	332
10	竪穴4	467	①□②層 最下層	高坏	古墳時代中期末(2期)	62.05	1.04	19.77	9.97	0.10	1.82	0.41	1.98	1.54	1.03	232	191	351
11	竪穴4	469	①層	高坏	古墳時代中期末(2期)	66.99	1.06	19.36	4.83	0.07	1.96	1.00	2.43	1.78	0.30	199	270	321
12	竪穴4	474	①層	大型壷	古墳時代中期末(2期)	63.36	1.38	23.47	4.38	0.04	1.88	0.87	2.46	1.38	0.57	127	252	381
13	竪穴4	405	床直	壺	古墳時代中期末(2期)	63.27	0.86	19.76	8.42	0.09	1.86	1.19	2.69	1.56	0.14	170	341	288
14	竪穴4	406	床直	壺	古墳時代中期末(2期)	64.92	1.13	23.97	2.83	0.02	1.78	0.73	2.44	1.87	0.15	168	243	344
15	竪穴住居27	331	④層	壺	古墳時代中期末(2期)	65.26	1.33	22.58	4.34	0.04	1.79	0.40	2.36	1.51	0.19	147	113	442
16	竪穴住居27	332	④層	壺	古墳時代中期末(2期)	65.76	0.99	20.62	5.90	0.06	1.81	1.40	1.62	1.49	0.15	161	407	323
17	竪穴住居27	333	④層	壺	古墳時代中期末(2期)	56.13	1.09	28.86	6.39	0.06	2.10	1.09	2.90	1.06	0.10	96	364	392
18	竪穴住居27	336	④層	壺	古墳時代中期末(2期)	64.28	1.14	20.87	5.99	0.06	2.06	0.62	2.81	1.71	0.21	228	222	354
19	竪穴住居27	338	④層	壺	古墳時代中期末(2期)	63.58	1.13	20.17	8.16	0.08	1.99	0.69	2.09	1.66	0.20	227	231	374
20	竪穴住居27	339	④層	壺	古墳時代中期末(2期)	66.52	1.21	19.48	5.51	0.07	2.02	0.99	2.15	1.64	0.17	217	319	390
21	竪穴住居27	341	④層	高坏	古墳時代中期末(2期)	64.01	1.13	21.28	6.40	0.05	1.89	0.64	2.55	1.72	0.16	207	215	343
22	竪穴住居27	342	④層	高坏	古墳時代中期末(2期)	67.11	1.11	19.10	6.28	0.05	1.93	0.57	1.61	1.78	0.24	217	208	379
23	竪穴住居27	343	④層	高坏	古墳時代中期末(2期)	66.31	1.00	18.90	6.25	0.07	1.98	0.83	2.63	1.62	0.16	207	282	336
24	竪穴住居22	255	②層	須恵器坏蓋	古墳時代中期末(2期)	69.87	1.08	18.52	3.68	0.03	1.82	0.25	2.44	1.91	0.24	231	109	356
25	竪穴住居22	235	床直	壺	古墳時代中期末(2期)	65.12	1.29	20.38	5.87	0.08	1.97	1.50	1.83	1.59	0.17	151	465	357
26	竪穴住居22	242	床直	高坏	古墳時代中期末(2期)	59.96	1.31	25.74	5.79	0.05	2.18	0.73	2.50	1.32	0.24	106	248	399
27	竪穴住居22	238	床直	壺	古墳時代中期末(2期)	61.31	1.25	25.61	4.68	0.04	1.93	0.83	2.40	1.49	0.25	95	228	437
28	竪穴住居16	181	床直	須恵器壺	古墳時代後期中葉(4期)	70.82	0.97	17.43	5.56	0.04	1.76	0.10	1.92	0.99	0.24	133	54	591
29	竪穴住居16	178	床面P6	壺	古墳時代後期中葉(4期)	64.30	1.22	20.59	5.66	0.06	1.83	1.59	2.25	2.01	0.22	166	492	296
30	竪穴住居16	174	床面P4	壺	古墳時代後期中葉(4期)	67.67	1.11	18.37	4.74	0.05	1.91	1.18	2.45	2.14	0.18	268	405	307
31	竪穴住居16	177	床面P6	椀	古墳時代後期中葉(4期)	67.22	1.11	18.79	4.62	0.06	1.80	1.51	2.57	1.96	0.13	182	512	308
32	竪穴住居16	187	下層	須恵器高坏	古墳時代後期中葉(4期)	66.82	1.04	20.12	4.87	0.05	1.97	0.24	3.07	1.50	0.15	160	99	334
33	竪穴住居16	184	①□②層	須恵器坏身	古墳時代後期中葉(4期)	69.08	0.88	17.35	6.30	0.05	1.83	0.23	2.28	1.67	0.18	209	87	395
34	竪穴住居15	164	床直	須恵器坏蓋	古墳時代後期後葉(5期)	64.19	1.06	20.11	7.32	0.09	2.04	1.06	2.56	1.30	0.11	161	225	359
35	竪穴住居15	160	⑥□⑦ ⑧層	須恵器坏蓋	古墳時代後期後葉(5期)	66.45	0.97	18.20	4.57	0.03	2.47	0.32	5.47	1.18	0.22	193	79	334
36	竪穴住居15	172	床直	蓋	古墳時代後期後葉(5期)	67.38	1.14	18.27	4.41	0.05	2.06	1.23	3.03	2.05	0.20	218	404	308
37	竪穴住居15	165	床直	壺	古墳時代後期後葉(5期)	66.74	1.03	18.22	5.83	0.07	2.05	0.90	2.85	1.92	0.17	213	288	313
38	竪穴住居15	166	床直	壺	古墳時代後期後葉(5期)	60.71	1.40	22.37	9.09	0.09	1.86	0.62	2.27	1.27	0.09	153	250	275
39	竪穴住居15	167	床直	壺	古墳時代後期後葉(5期)	66.97	1.01	18.06	5.92	0.07	1.99	0.92	2.69	1.96	0.16	207	270	301
40	竪穴住居21	126	床直	壺	弥生時代終末期	62.21	1.14	22.48	6.44	0.08	1.94	1.63	2.32	1.39	0.08	125	389	387
41	竪穴住居21	125	床直	壺	弥生時代終末期	66.38	1.16	18.55	5.99	0.06	1.97	0.94	2.62	1.92	0.22	197	259	339
42	竪穴住居21	132	床直	器台	弥生時代終末期	57.66	1.13	24.72	8.61	0.09	2.29	0.86	2.93	1.44	0.07	146	291	363
43	竪穴住居23	265	床直	須恵器坏蓋	古墳時代後期前葉(3期)	65.65	0.85	19.49	7.56	0.06	1.87	0.31	2.15	1.72	0.17	183	97	456
44	竪穴住居23	266	炭化材直上	須恵器坏蓋	古墳時代後期前葉(3期)	68.39	1.20	20.07	4.09	0.04	1.88	0.19	2.36	1.43	0.18	162	96	355
45	竪穴住居23	269	②□③層	壺	古墳時代後期前葉(3期)	65.96	1.08	21.14	4.59	0.04	1.93	0.96	2.63	1.34	0.17	176	329	340
46	竪穴住居23	268	②層	壺	古墳時代後期前葉(3期)	66.06	0.99	19.50	6.25	0.04	1.94	0.69	2.72	1.35	0.29	164	250	308
47	竪穴住居23	275	②層(炭化材直上)	壺	古墳時代後期前葉(3期)	66.25	1.11	19.79	4.82	0.04	1.86	1.51	2.35	1.87	0.17	151	444	359



第７図　古御堂笹尾山遺跡の古墳時代前期～後期の胎土比較(K-Ca散布図)



第８図　古御堂笹尾山遺跡出土古墳時代前期～後期の胎土比較(Sr-Rb散布図)

鳥取県教育文化財団調査報告書 93

一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ　第３分冊

鳥取県西伯郡名和町

茶畑遺跡群

古御堂笹尾山遺跡
古御堂新林遺跡

２００４

財団法人　鳥取県教育文化財団
国土交通省 倉吉河川国道事務所

例　言（第３分冊）

1．本書は、鳥取県教育文化財団が2002(平成14)年度、2003(平成15)年度に実施した「一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査」の調査報告書のうち、第３分冊「古御堂笹尾山遺跡、古御堂新林遺跡」である。

2．第３分冊に収録した遺跡の所在地は次の通りである。
古御堂笹尾山遺跡：西伯郡名和町大字古御堂字上笹尾836ほか
古御堂新林遺跡：西伯郡名和町大字古御堂字上前場653ほか

3．第４章および第５章の作成は、鳥取県教育文化財団職員　森本倫弘、小林桃子、岡野雅則が行い、第３分冊の編集は岡野が行った。文責は各項目の文末に記載している。

4．調査時点における遺跡の略号はＫＳＡ(古御堂笹尾山遺跡)、ＫＳＢ(古御堂新林遺跡)とし、遺構図面への記載および遺物の注記に使用した。なお、現場で採取した図面･写真などのデータはすべて調査時点での遺構番号を記載している。参照の際には下の遺構番号対照表をご覧いただきたい。

新旧遺構対照表

報告時遺構名	調査時遺構名
竪穴住居1	SI30
竪穴住居2a	SI31
竪穴住居2b	SI38
竪穴住居3	SI32
竪穴住居4	SI28
竪穴住居5	SI10
竪穴住居6	SI22
	SI23
竪穴住居7	SK5
竪穴住居8	SI29
竪穴住居9	SI39
竪穴住居10	SI4
竪穴住居11	SI15
竪穴住居12	SI36
竪穴住居13	SI16
竪穴住居14	SI14
竪穴住居15	SI1
竪穴住居16	SI2
竪穴住居17	SI18
竪穴住居18	SI24
竪穴住居19a	SI3
竪穴住居19b	SI27
竪穴住居20	SI13
竪穴住居21	SI5
竪穴住居22	SI7
竪穴住居23	SI12
竪穴住居24	SI17
竪穴住居25	SI26
竪穴住居26	SI8
竪穴住居27	SI11

報告時遺構名	調査時遺構名
竪穴住居28	SI20
竪穴住居29	SI19
竪穴住居30	SI44
竪穴住居31	SI41
竪穴住居32	SI40
竪穴1	SI42
竪穴住居33	SI25
竪穴住居34	SI21
竪穴2	SI46
竪穴3	SI43
竪穴4	SI9
竪穴5	SI6
竪穴6	SK2
竪穴7	SK4
竪穴8	SK1
掘立柱建物1	SB5
掘立柱建物2	SB2
掘立柱建物3	SB3
掘立柱建物4	SB4
掘立柱建物5	SB6
掘立柱建物6	SB9
掘立柱建物7	SB8
掘立柱建物8	－
掘立柱建物9	SB1
掘立柱建物10	SB7
土坑1	SK33
土坑2	SK9
土坑3	SK8
土坑4	SK16
土坑5	SK17

報告時遺構名	調査時遺構名
土坑6	SK6
土坑7	SK25
土坑8	SK23
土坑9	SK29
土坑10	SK35
土坑11	SK34
土坑12	SK32
土坑13	SK31
土坑14	SK18
土坑15	SK19
土坑16	SK3
土坑17	SK11
土坑18	SK22
土坑19	SK7
土坑20	SK13
土坑21	SK10
土坑22	SK15
土坑23	SK12
土坑24	SK14
土坑25	SK21
土坑26	SK20
土坑27	SK24
土坑28	SK27
土坑29	SK28
土坑30	SK30
土坑31	SK26
土坑32	SK36
溝1	SD1

凡　例

1．第３分冊は、以下の縮尺を基本としておもな遺構、遺物の図面を掲載した。第１分冊、第２分冊とは一部が異なるので留意されたい。

遺構図：　竪穴住居　１／60　　掘立柱建物　１／60　　土坑　１／30　　遺構全体図　１／300

遺物実測図：　土器　１／４　　石器　１／１、１／３、１／４　　鉄製品　１／２

2．遺構ならびに遺物の時期比定については下の編年対照表のうち、網掛けで表示したものを参考に行っている。その表記は、例えば後期前葉というように表中の時期区分にしたがっている。

編年対照表

時代／時期			濵田2000[1]	辻2000[2]	濵田2003[3]	清水1992[4]	松井1997[5]	牧本1994[6]	牧本1999[7]	岡野2004[8]
弥生時代	前期		越敷山式／前期1式							
			前期2式			Ⅰ－1				
			前期3式			Ⅰ－2				
			前期4式			Ⅰ－3				
	中期	前葉				Ⅱ－1・2				
		中葉				Ⅲ－1				
				Ⅲ－1		Ⅲ－2	西伯耆Ⅰ期			
				Ⅲ－2		Ⅲ－3	西伯耆Ⅱ期			
		後葉		Ⅳ－1a		Ⅳ－1	西伯耆Ⅲ期			
				Ⅳ－1b		Ⅳ－2				
							西伯耆Ⅳ期			
				Ⅳ－3		Ⅳ－3				
	後期	前葉			Ⅴ－1期古相	Ⅴ－1	西伯耆Ⅴ期	大山Ⅰ期		
					Ⅴ－1期新相					
		中葉			Ⅴ－2期古相	Ⅴ－2	西伯耆Ⅵ期	空白期		
					Ⅴ－2期新相					
		後葉			Ⅴ－3期	Ⅴ－3	西伯耆Ⅶ期	大山Ⅱ期		
	終末期	前葉				Ⅵ－1	西伯耆Ⅷ・Ⅸ期			
							西伯耆Ⅹ期	大山Ⅲ期		
		後葉				Ⅵ－2		大山Ⅳ期		
							西伯耆ⅩⅠ期	大山Ⅴ期	天神川Ⅰ期	
古墳時代	前期	前葉					西伯耆ⅩⅡ期		天神川Ⅱ期	
							西伯耆ⅩⅢ期	大山Ⅵ期(古)		
		中葉					西伯耆ⅩⅣ期	大山Ⅵ期(新)	天神川Ⅲ期	
		後葉							天神川Ⅳ期	
	中期	前葉						大山Ⅶ期	天神川Ⅴ期	
		中葉						空白期	天神川Ⅵ期	
								大山Ⅷ期	天神川Ⅶ期	1期
		後葉							天神川Ⅷ期	
		末葉						大山Ⅸ期	天神川Ⅸ期	2期
	後期	前葉							天神川Ⅹ期	3期
		中葉								4期
		後葉								5期

註

（１）濵田竜彦　2000「山陰地方における弥生文化成立期の様相」『弥生文化の成立』第47回埋蔵文化財研究集会発表要旨　埋蔵文化財研究会

（２）辻　信宏　1999「弥生時代中期中～後葉の土器について」『茶畑山道遺跡発掘調査報告書』名和町教育委員会

（３）濵田竜彦　2003「大山北麓地域における弥生時代後期土器の編年」『史跡妻木晩田遺跡第４次発掘調査報告書』

（４）清水真一　1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年（山陽・山陰編）』

（５）松井　潔　1997「東の土器、南の土器－山陰東部における弥生時代後期中葉～古墳時代初頭の非在地系土器の動態」『古代吉備』第19集

（６）牧本哲雄　1994「第１節　土器編年について」『南谷大山遺跡Ⅱ、南谷29号墳』鳥取県教育文化財団

（７）牧本哲雄　1999「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ、園第６遺跡』鳥取県教育文化財団

（８）岡野雅則　2004「古墳時代中期後葉から後期の土器について」本書3－198ｐ～3－204ｐ

第3分冊　目次

例言・凡例
目次

第4章　古御堂笹尾山遺跡の調査

第1節　調査の概要　（岡野）
　1．調査の経過と方法　3－1
　2．調査地の地形と層序　3－2
　3．遺構の概要　3－5
第2節　弥生時代後期から古墳時代前期の調査　（森本・小林・岡野）　3－6
第3節　古墳時代中期から後期の調査　（森本・小林・岡野）　3－44
第4節　その他の時期の遺構と遺物　（森本・小林）　3－102
第5節　古御堂笹尾山遺跡の集落変遷　（岡野）　3－117
　出土遺物観察表　3－120

第5章　古御堂新林遺跡の調査

第1節　調査の経過と方法　（岡野）　3－135
第2節　調査地内の堆積　（岡野）
第3節　遺構の概要　（岡野）
第4節　弥生時代後期から終末期の調査　（岡野）　3－140
第5節　時期不明の遺構および包含層の調査　（岡野）　3－147
　出土遺物観察表　155

第6章　特論

第1節　茶畑第1遺跡掘立柱建物3の復原設計　浅川滋男　3－158
第2節　押平尾無・古御堂笹尾山・茶畑第1遺跡出土土器　白石　純　3－166
第3節　鳥取県名和町茶畑第1遺跡出土鉄片の金属学的解析　佐々木 稔　3－176
第4節　古御堂笹尾山遺跡焼失住居跡から出土した炭化材の樹種　古川郁夫　3－181
第5節　古御堂新林遺跡・茶畑第1遺跡・押平尾無遺跡における出土炭化材の樹種
　パリノサーヴェイ　3－187
第6節　竪穴住居床面にみられる斜坑状のピットについて　森本倫弘　3－192
第7節　弥生時代遺構出土桃核についての一考察　小林桃子　3－195
第8節　古墳時代中期から後期の土器について　岡野雅則　3－198

第7章　まとめ

　茶畑遺跡群の集落変遷について　中森　祥　3－205
　岡野雅則

図版

挿図目次

第４章　古御堂笹尾山遺跡

図１　調査地位置図
図２　調査地基本層序図
図３　集落遺構概念図
図４　調査区土層断面図
図５　調査前の地形
図６　竪穴住居１（1）
図７　遺構全体図（弥生時代後期～古墳時代前期）
図８　竪穴住居１（2）
図９　竪穴住居１出土遺物
図10　竪穴住居２
図11　竪穴住居２遺物出土状況図
図12　竪穴住居２出土遺物(1)　床面直上出土遺物
図13　竪穴住居２出土遺物(2)　石器
図14　竪穴住居３
図15　竪穴住居３出土遺物
図16　竪穴住居４
図17　竪穴住居５
図18　竪穴住居５出土遺物
図19　竪穴住居６
図20　竪穴住居６出土遺物
図21　竪穴住居７
図22　竪穴住居８
図23　竪穴住居８出土遺物
図24　竪穴住居９
図25　竪穴住居９出土遺物
図26　竪穴住居10（1）
図27　竪穴住居10（2）
図28　竪穴住居10出土遺物(1)
図29　竪穴住居10出土遺物(2)　①層出土遺物
図30　竪穴住居11
図31　竪穴住居11遺物出土状況
図32　竪穴住居11出土遺物(1)　床面直上出土遺物
図33　竪穴住居11出土遺物(2)　埋土中出土遺物
図34　竪穴住居12
図35　竪穴住居12出土遺物
図36　掘立柱建物１
図37　掘立柱建物２
図38　掘立柱建物３
図39　掘立柱建物４
図40　掘立柱建物５
図41　掘立柱建物６
図42　掘立柱建物６出土遺物
図43　掘立柱建物７
図44　掘立柱建物８および出土遺物
図45　土坑１
図46　土坑５および出土遺物
図47　土坑８
図48　土坑９および出土遺物
図49　溝１および出土遺物
図50　ピット出土遺物(1)
図51　遺構全体図（古墳時代中期～後期）
図52　竪穴住居13
図53　竪穴住居13出土遺物
図54　竪穴住居14
図55　竪穴住居14出土遺物　床面直上出土遺物
図56　竪穴住居15
図57　竪穴住居15遺物出土状況図
図58　竪穴住居15出土遺物(1)　①層出土遺物
図59　竪穴住居15出土遺物(2)　床面直上出土遺物
図60　竪穴住居16
図61　竪穴住居16出土遺物(1)　床面直上出土遺物
図62　竪穴住居16出土遺物(2)　埋土中出土遺物
図63　竪穴住居16出土遺物(3)　①層出土遺物
図64　竪穴住居17・18
図65　竪穴住居17・18出土遺物
図66　竪穴住居19b(1)
図67　竪穴住居19b(2)
図68　竪穴住居19ａ
図69　竪穴住居19出土遺物
図70　竪穴住居20出土遺物
図71　竪穴住居20
図72　竪穴住居21出土遺物
図73　竪穴住居21
図74　竪穴住居22
図75　竪穴住居22炭化材出土状況図
図76　炭化材出土状況図
図77　竪穴住居22出土遺物(1)　床面直上出土遺物
図78　竪穴住居22床面遺物出土状況図
図79　竪穴住居22出土遺物(2)　覆土中出土遺物
図80　竪穴住居22出土遺物(2)　覆土中出土遺物
図81　竪穴住居23
図82　竪穴住居23出土遺物
図83　竪穴住居23炭化材出土状況図および土層断面図
図84　竪穴住居23炭化材出土状況図
図85　竪穴住居24
図86　竪穴住居24出土遺物(1)　床面直上
図87　竪穴住居24出土遺物(2)　①層出土遺物
図88　竪穴住居24出土遺物(3)　覆土中出土遺物
図89　竪穴住居25
図90　竪穴住居25出土遺物
図91　竪穴住居26
図92　竪穴住居26出土遺物
図93　竪穴住居27(1)
図94　竪穴住居27(2)
図95　竪穴住居27出土遺物(1)　床面直上出土遺物
図96　竪穴住居27出土遺物(2)　④層出土遺物
図97　竪穴住居27出土遺物(3)　①～③層出土遺物
図98　竪穴住居27出土遺物(4)
図99　竪穴住居28
図100　竪穴住居28出土遺物

図101 竪穴住居29
図102 竪穴住居29出土遺物
図103 竪穴住居30・31および出土遺物
図104 竪穴住居32・竪穴1
図105 竪穴住居32・竪穴1出土遺物
図106 竪穴住居33・34
図107 竪穴住居33・34出土遺物
図108 竪穴2
図109 竪穴3
図110 竪穴3出土遺物
図111 竪穴4
図112 竪穴4遺物出土状況図
図113 竪穴4炭化材出土状況図
図114 竪穴4出土遺物(1)　床面直上出土遺物
図115 竪穴4出土遺物(2)　②・③層出土遺物
図116 竪穴4出土遺物(3)　①層出土遺物
図117 竪穴4出土遺物(4)　①層出土遺物
図118 竪穴5
図119 竪穴5出土遺物
図120 竪穴6
図121 竪穴7
図122 竪穴8
図123 竪穴6出土遺物
図124 竪穴7出土遺物
図125 竪穴8出土遺物
図126 掘立柱建物9
図127 掘立柱建物10
図128 ピット出土遺物(2)
図129 土坑分布図
図130 土坑2・3・4・6・7・10
図131 土坑11～16
図132 土坑17～22
図133 土坑23～28
図134 土坑29～32
図135 土坑14・29出土遺物
図136 包含層出土遺物(1)
調査地南側斜面部灰褐色土出土遺物
図137 包含層出土遺物(2)
調査地北側斜面部黒色土(⑧層)出土遺物
図138 包含層出土遺物(3)　Ⅰ層出土遺物
図139 調査地内撹乱層等出土遺物
図140 古御堂笹尾山遺跡集落変遷図

第5章　古御堂新林遺跡

図1　調査地基本層序図
図2　遺構全体図
図3　調査地土層断面図
図4　調査前の地形
図5　竪穴住居1出土遺物
図6　竪穴住居1
図7　竪穴住居2出土遺物
図8　竪穴住居2a
図9　竪穴住居2b・3
図10　竪穴住居4
図11　竪穴住居5
図12　テラス1
図13　掘立柱建物1
図14　土坑1
図15　道1～3
図16　包含層出土遺物(1)　斜面部黒色土・暗褐色土出土遺物
図17　包含層出土遺物(2)　斜面部黒色土・暗褐色土出土遺物
図18　包含層出土遺物(3)　斜面部黒色土・暗褐色土出土遺物
図19　包含層出土遺物(4)　斜面部黒色土・暗褐色土出土遺物
図20　包含層出土遺物(5)　斜面部黒色土・暗褐色土出土遺物

第４章　古御堂笹尾山遺跡の調査

第１節　調査の概要

１．調査の経過と方法

古御堂笹尾山遺跡は、名和町教育委員会による試掘調査により確認された遺跡である。弥生時代から古墳時代に該当する住居跡や遺物が出土し、本調査において集落遺構の存在が予察された。

調査期間は、調査区の拡張等の原因により次の３回にわけて調査した。平成14年10月１日～同15年３月13日、平成15年４月23日～同５月30日、平成15年７月１日～同７月31日である。調査面積は4660㎡である。

調査は、調査地を縦横断する数本のサブトレンチを設定し、これにより便宜的にＡ～Ｑまでのグリッドを設定し、包含層遺物の取り上げなどの基準とした。遺構面は２面確認した。Ⅱ層上面（第一遺構面）において古墳時代中期から後期の集落跡、Ⅲ・Ⅳ層上面（第二遺構面）において弥生時代後期から古墳時代前期集落跡ほかの調査を行った。古墳時代中期後葉から後期後葉にかけての竪穴住居跡21棟、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡13棟のほか掘立柱建物跡、土坑などを調査した。遺構からのデータ収集に努めたが調査期間との関係上、土坑の土層断面、焼失住居の焼土検出状況など一部の図面記録は採取できなかった。竪穴住居覆土中の遺物は層位確認を重視し層ごとに一括して取り上げを行った。遺構完掘状況の平面図は業者委託で作成した。

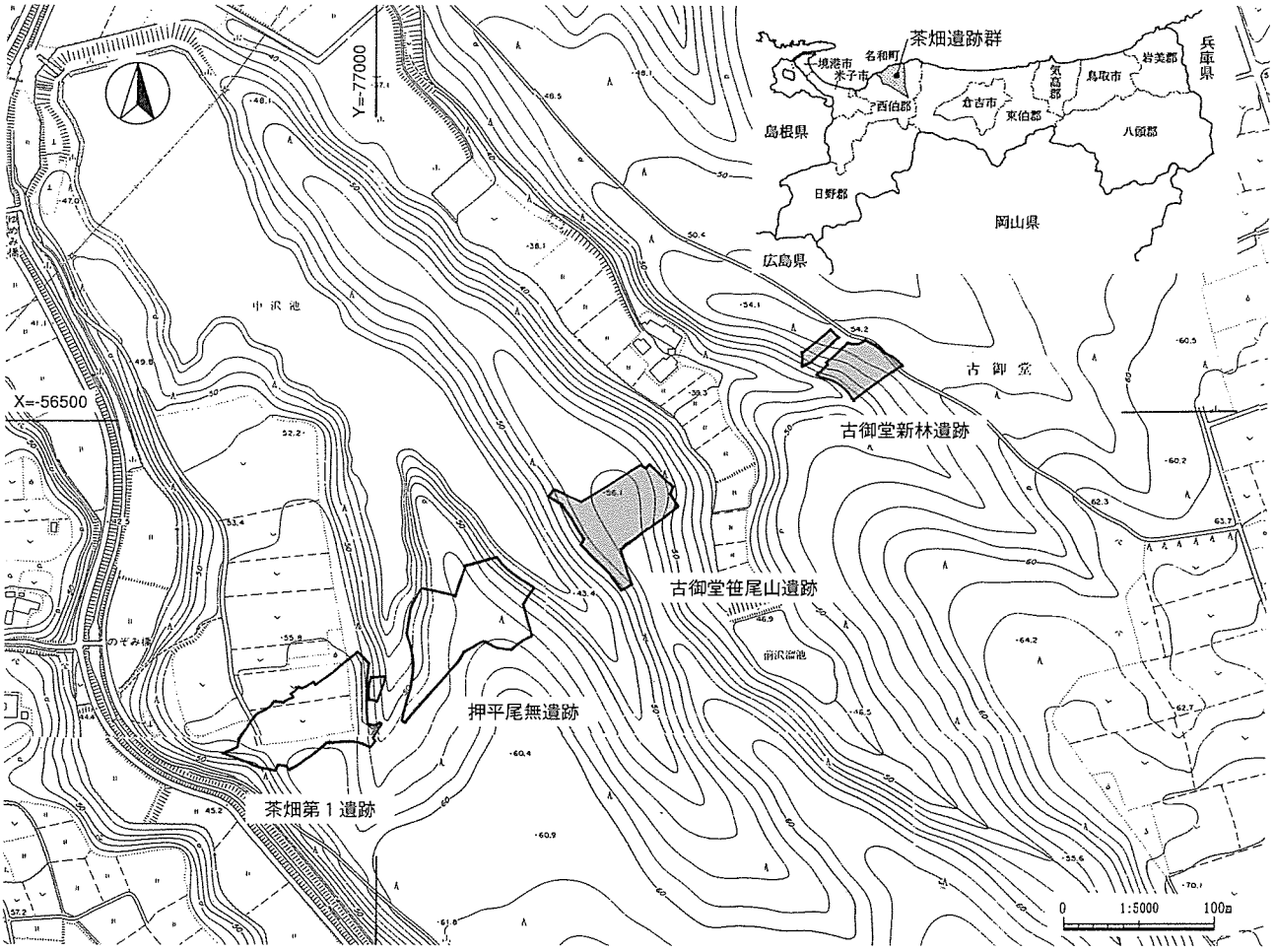


図１　調査地位置図

出土遺物の整理、報告書の作成は、現場開始と同時に着手し、平成16年３月末までおこなった。報告に際して、主柱穴がなく住居としての機能が想定しがたい住居状の遺構については竪穴として報告した。住居外のピットは、すべて第二遺構面で検出した。これらは出土遺物や調査地内の遺構埋土の色調からみて、暗褐色土系統の埋土のピットを古墳時代中期から後期、淡い褐色土系統の埋土をもつピットを弥生時代から古墳時代前期に比定し、遺構図面上で他の遺構と合成した。

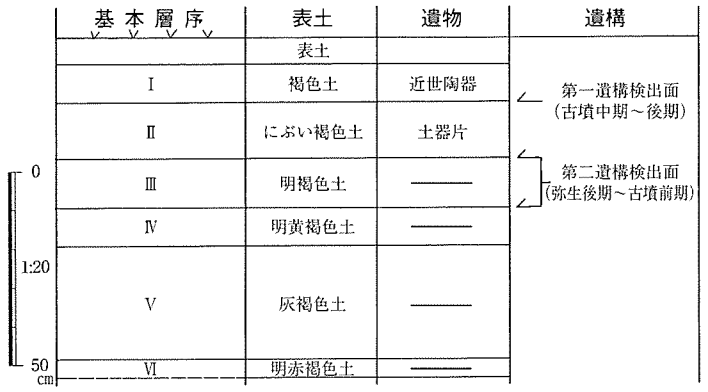


図２　調査地基本層序図

２．調査地の地形と層序

遺跡が立地する大山北麓域は、北に向かい緩やかに傾斜する火山裾野面であるが、これを大小の河川が開削し幾筋もの谷と幅の狭い台地をなしている。遺跡の立地する台地は、北東から南西方向にのび、20～60m前後の幅をもつ。調査地付近では約60mと幅広になる。調査着手前は植林が行われてい

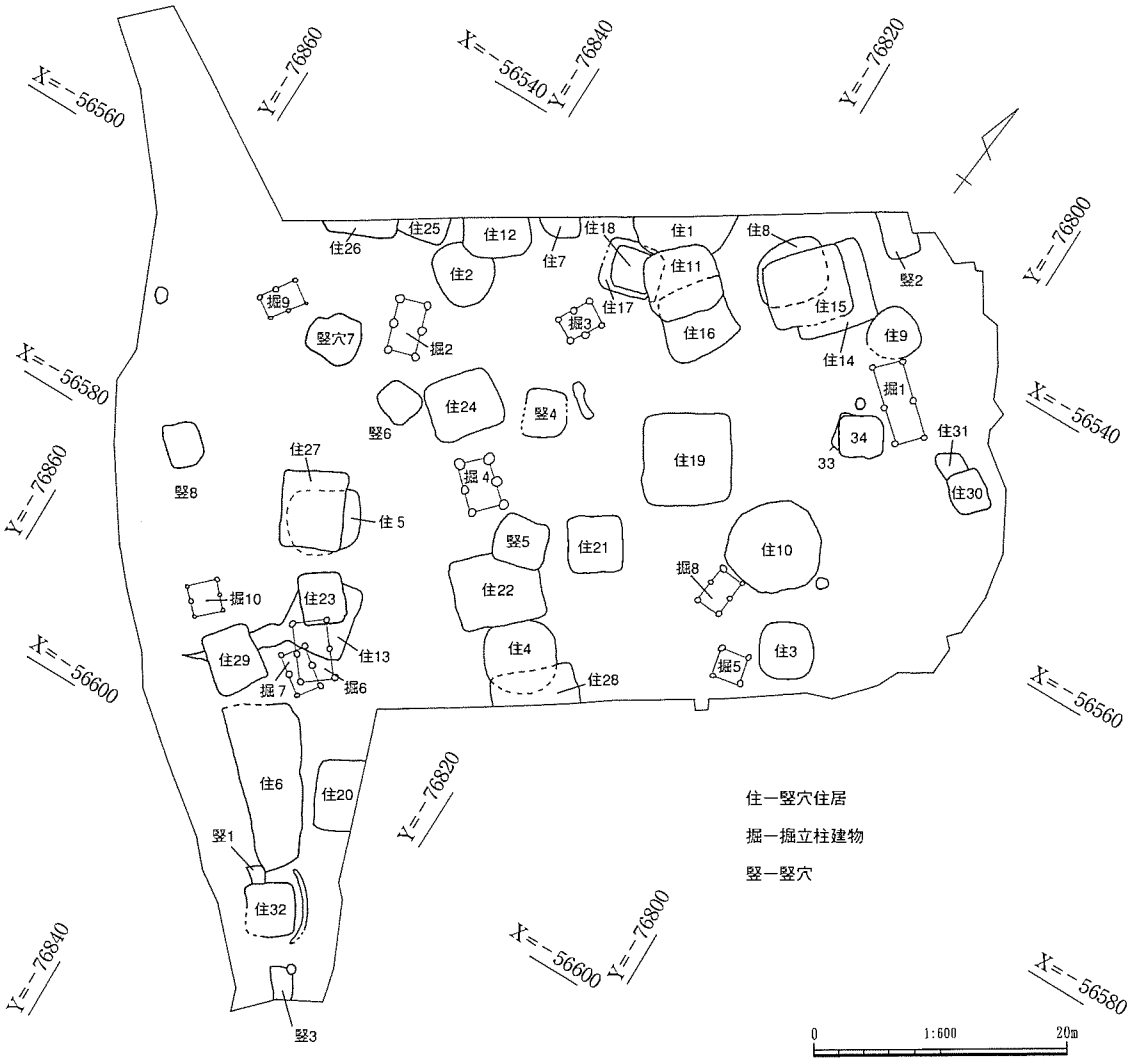
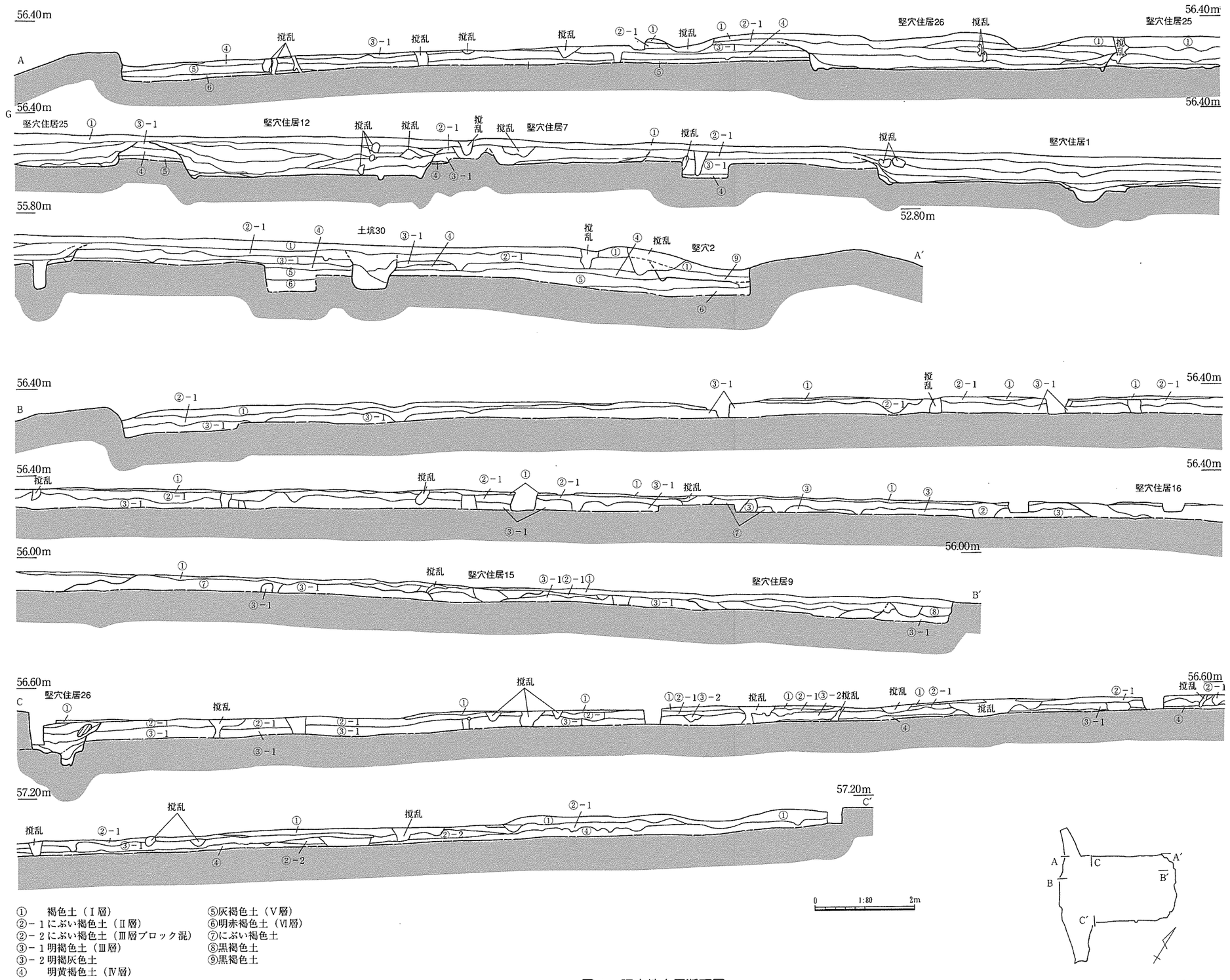


図３　集落遺構概念図



①　　褐色土（Ⅰ層）
②－１にぶい褐色土（Ⅱ層）
②－２にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック混）
③－１明褐色土（Ⅲ層）
③－２明褐灰色土
④　　明黄褐色土（Ⅳ層）
⑤灰褐色土（Ⅴ層）
⑥明赤褐色土（Ⅵ層）
⑦にぶい褐色土
⑧黒褐色土
⑨黒褐色土

図４　調査地土層断面図

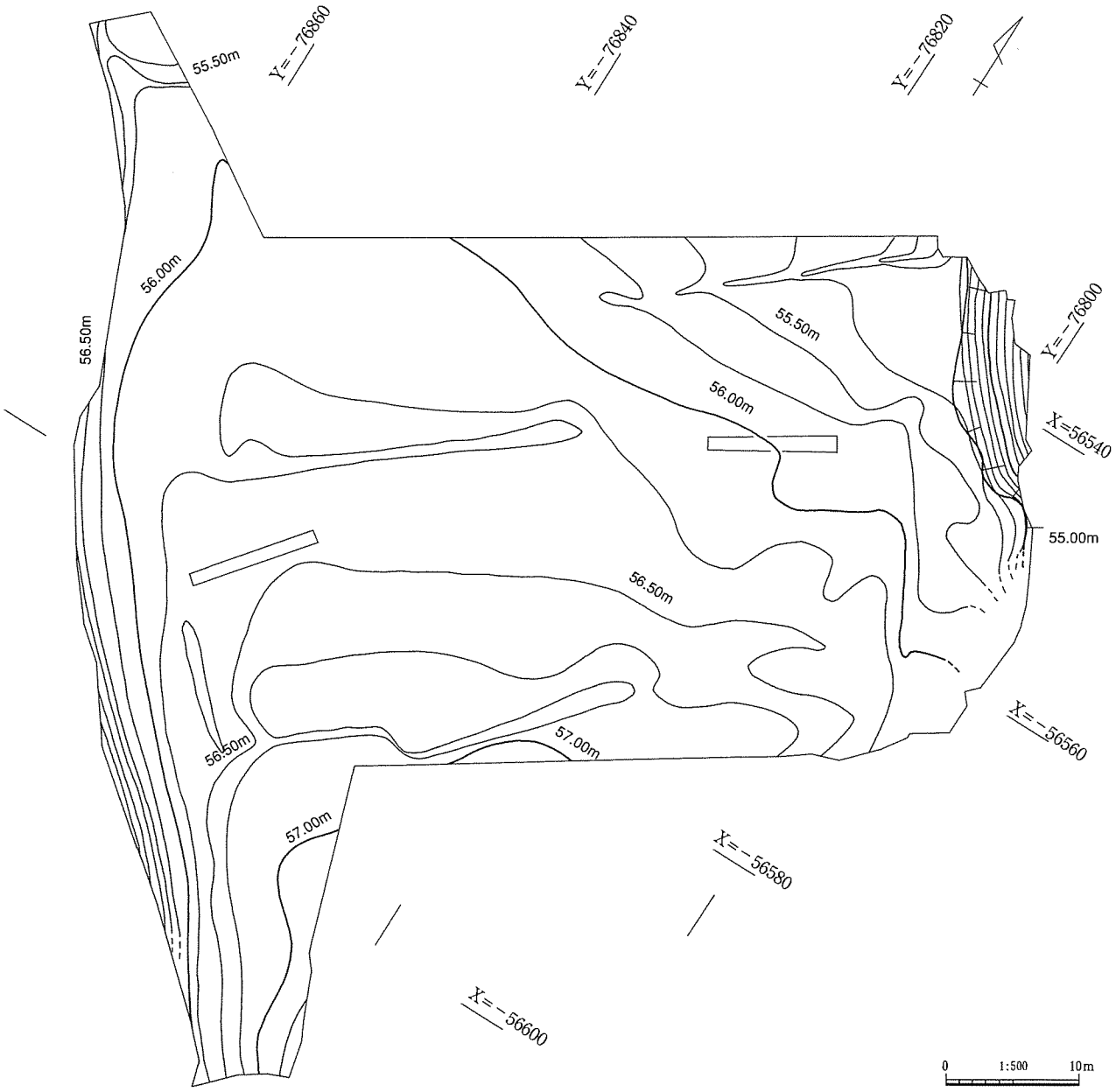


図５　調査前の地形

た。調査地内の堆積はⅠ～Ⅴ層に分かれる。Ⅰ層は台地の両端部付近を除く調査地全面に分布する。厚さ５～10cm前後であり近世の遺物を含む。植林地開拓の際の整地によるものと考えられる。Ⅱ層は調査地ほぼ全面に堆積し、５～15cm程度の厚さである。上面では古墳時代中期末から後期の遺構を検出した。Ⅱ層には少量の遺物を包含するが、堆積時期を限定することはできなかった。調査地南東側ではⅢ層が削平されているため、Ⅱ層直下にⅣ層が堆積する。Ⅲ層またはⅣ層上面で弥生時代後期から古墳時代前期の遺構を検出した。Ⅳ層は明黄褐色のシルト層でありＡＴ層と思われる。確認した限りⅢ～Ⅴ層には遺構、遺物を包含しないため、Ⅲ層上面で最終遺構面と判断した。

３．遺構の概要

弥生時代後期から古墳時代後期にかけて断続的に営まれる集落遺跡である。弥生時代後期後葉から古墳時代前期の竪穴住居跡12棟、古墳時代中期後葉から後期後葉の竪穴住居跡22棟、竪穴状遺構８棟

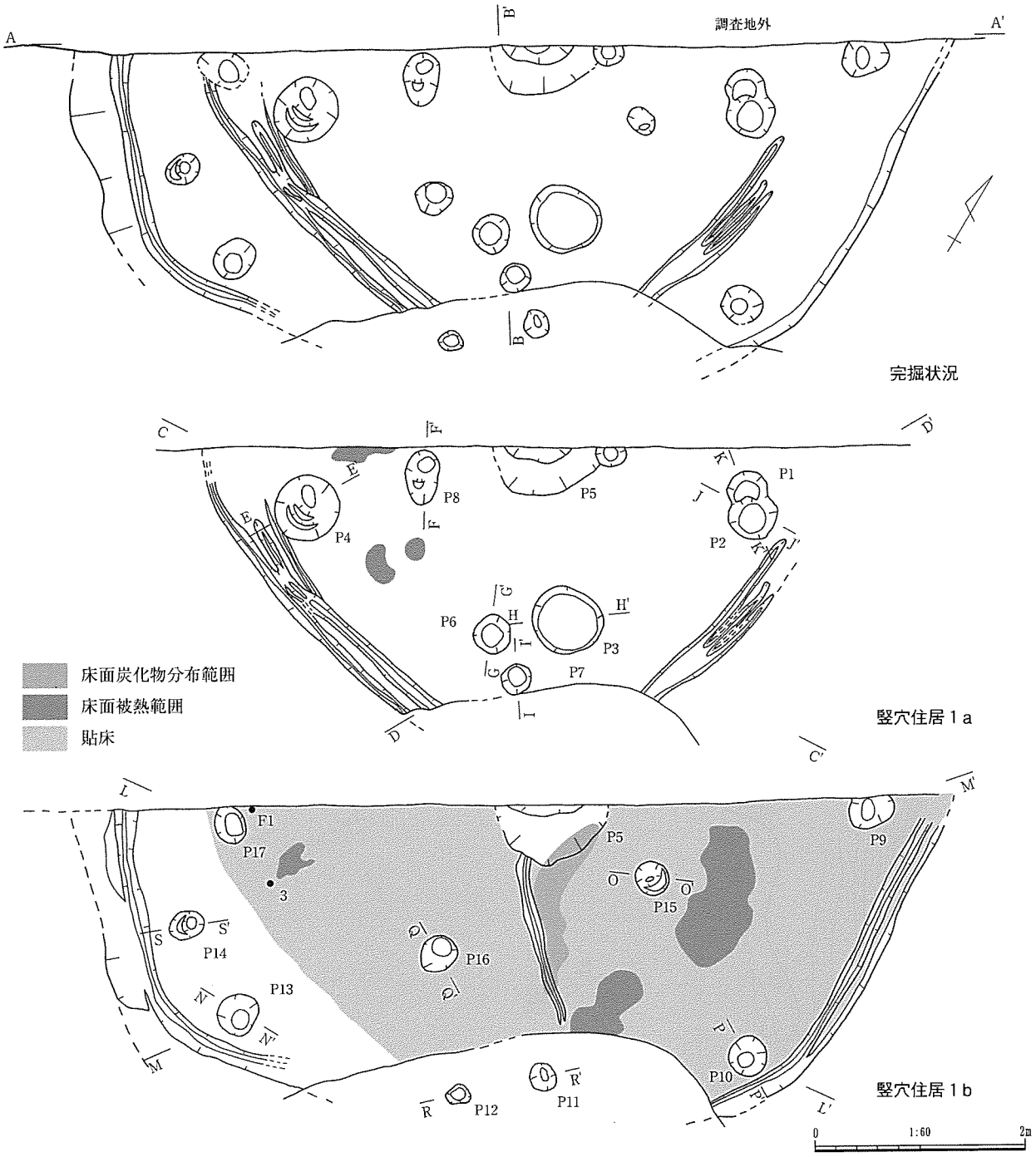


図６　竪穴住居１（1）

のほか掘立柱建物跡10棟、落し穴状土坑などを検出した。古墳時代前期後葉から中期中葉までは断絶する。

弥生時代後期後葉の住居跡のうち、テラス状をなす竪穴住居６からは、板状鉄斧、袋状鉄斧が出土した。弥生時代終末期から古墳時代前期初頭にかけての住居跡のうち、竪穴住居10は床面積33.4㎡、平面六角形の比較的大型の住居跡である。掘立柱建物跡３からは桃核が出土した。古墳時代中期後葉から後期の住居跡のうち、竪穴住居22･23は焼失住居であり多量の炭化材・焼土が出土した。竪穴住居32からは鋳造鉄斧が出土した。竪穴住居27、竪穴４からは短期間に投棄されたとみられる一括性の高い土器が出土した。

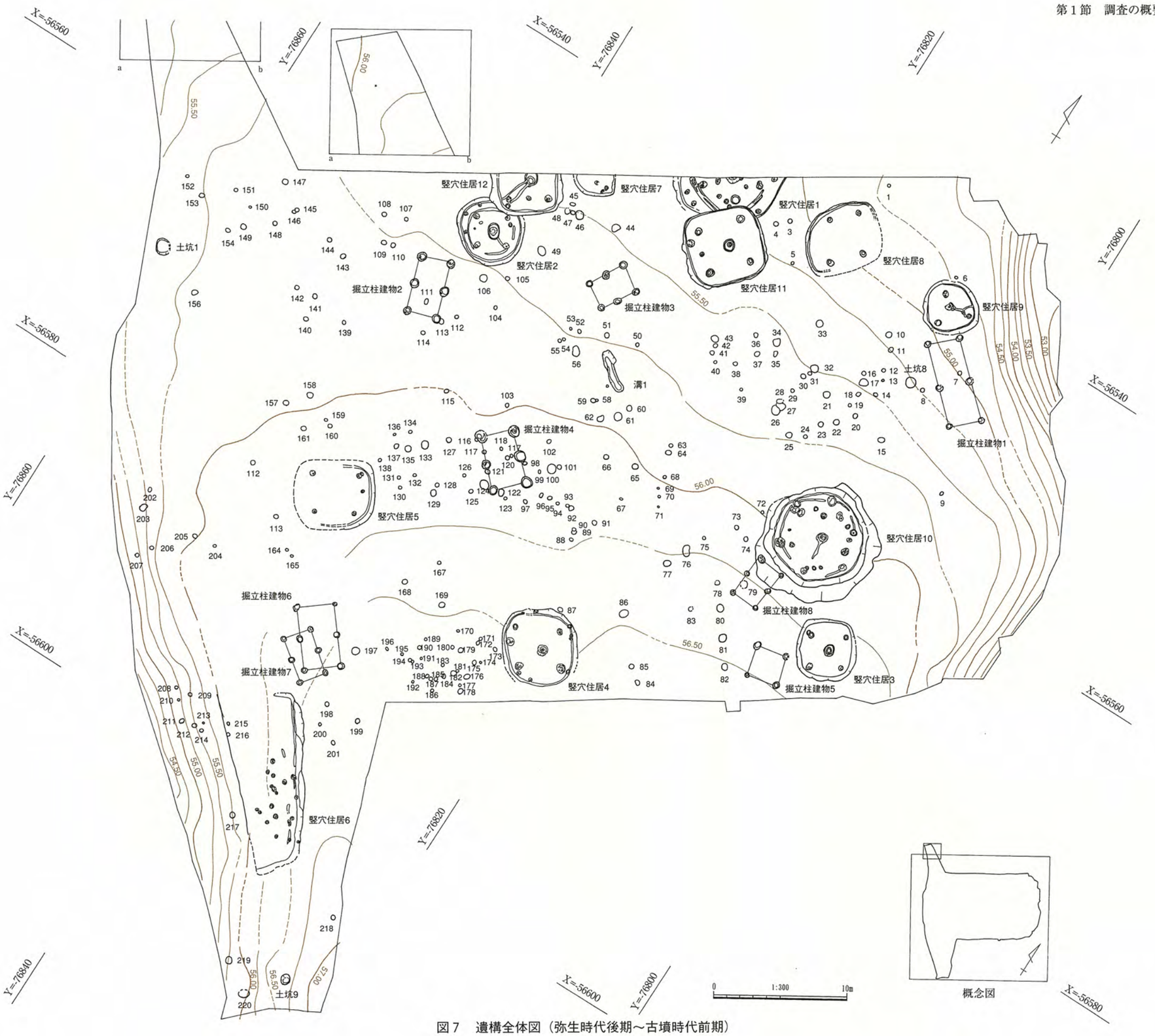


図７　遺構全体図（弥生時代後期～古墳時代前期）

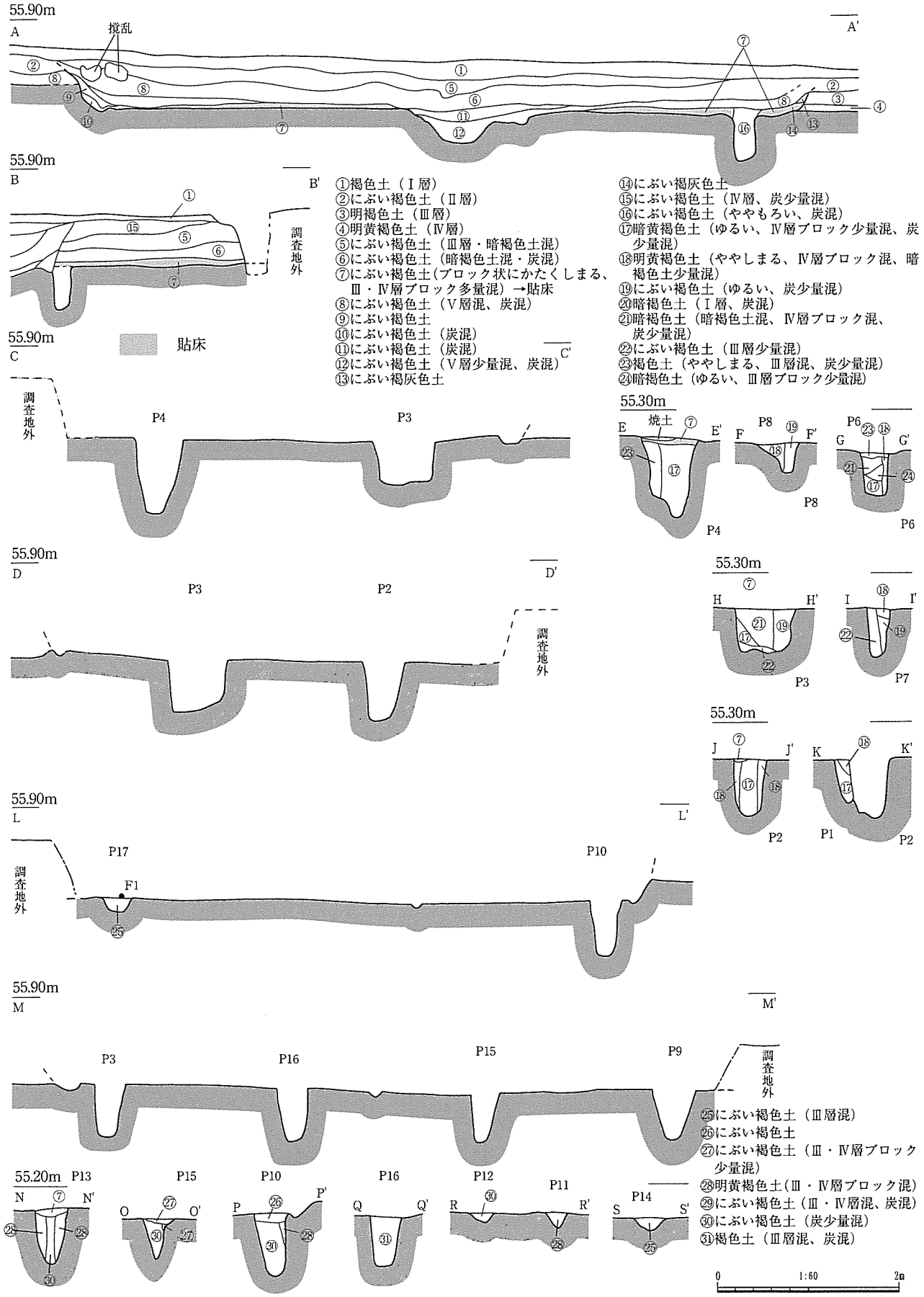

55.90m
A
A'
撹乱
55.90m
B
B'
調査地外
55.90m
C
C'
貼床
①褐色土（Ⅰ層）
②にぶい褐色土（Ⅱ層）
③明褐色土（Ⅲ層）
④明黄褐色土（Ⅳ層）
⑤にぶい褐色土（Ⅲ層・暗褐色土混）
⑥にぶい褐色土（暗褐色土混・炭混）
⑦にぶい褐色土(ブロック状にかたくしまる、Ⅲ・Ⅳ層ブロック多量混）→貼床
⑧にぶい褐色土（Ⅴ層混、炭混）
⑨にぶい褐色土
⑩にぶい褐色土（炭混）
⑪にぶい褐色土（炭混）
⑫にぶい褐色土（Ⅴ層少量混、炭混）
⑬にぶい褐灰色土
⑭にぶい褐灰色土
⑮にぶい褐色土（Ⅳ層、炭少量混）
⑯にぶい褐色土（ややもろい、炭混）
⑰暗黄褐色土（ゆるい、Ⅳ層ブロック少量混、炭少量混）
⑱明黄褐色土（ややしまる、Ⅳ層ブロック混、暗褐色土少量混）
⑲にぶい褐色土（ゆるい、炭少量混）
⑳暗褐色土（Ⅰ層、炭混）
㉑暗褐色土（暗褐色土混、Ⅳ層ブロック混、炭少量混）
㉒にぶい褐色土（Ⅲ層少量混）
㉓褐色土（ややしまる、Ⅲ層混、炭少量混）
㉔暗褐色土（ゆるい、Ⅲ層ブロック少量混）
P4
P3
55.30m
E
焼土
E'
F
P8
F'
G
P6
G'
55.90m
D
D'
P3
P2
調査地外
55.30m
H
H'
P3
I
I'
P7
55.30m
J
J'
P2
K
K'
P1
P2
55.90m
L
L'
P17
F1
P10
55.90m
M
M'
P3
P16
P15
P9
㉕にぶい褐色土（Ⅲ層混）
㉖にぶい褐色土
㉗にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック少量混）
㉘明黄褐色土(Ⅲ・Ⅳ層ブロック混）
㉙にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層混、炭混）
㉚にぶい褐色土（炭少量混）
㉛褐色土（Ⅲ層混、炭混）
55.20m
P13
N
N'
P15
O
O'
P10
P
P'
P16
Q
Q'
P12
R
R'
P11
P14
S
S'
0
1:60
2m

図８　竪穴住居１（2）

第２節　弥生時代後期から古墳時代前期の調査

１．概要

弥生時代後期後葉の竪穴住居跡５棟、終末期から古墳時代前期中葉の竪穴住居跡５棟、弥生時代後期から古墳時代前期とみられる掘立柱建物跡８棟を検出した。調査地中央付近には住居跡は分布せず掘立柱建物跡がみられる。弥生時代終末期の竪穴住居６は平面六角形、床面積約33.4㎡の大型住居である。竪穴住居６はテラス状を呈し、覆土中から板状鉄斧、袋状鉄斧が出土した。

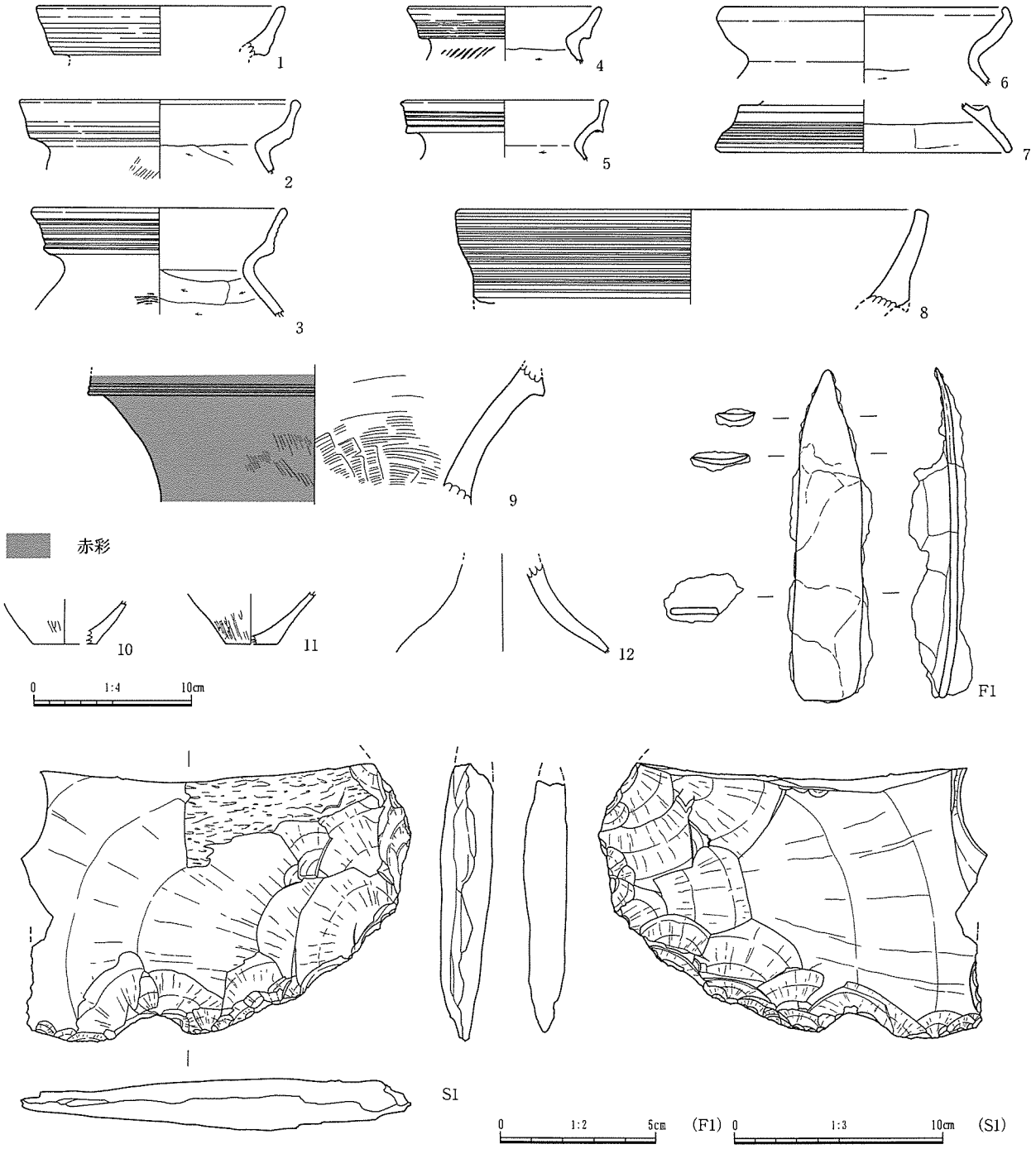
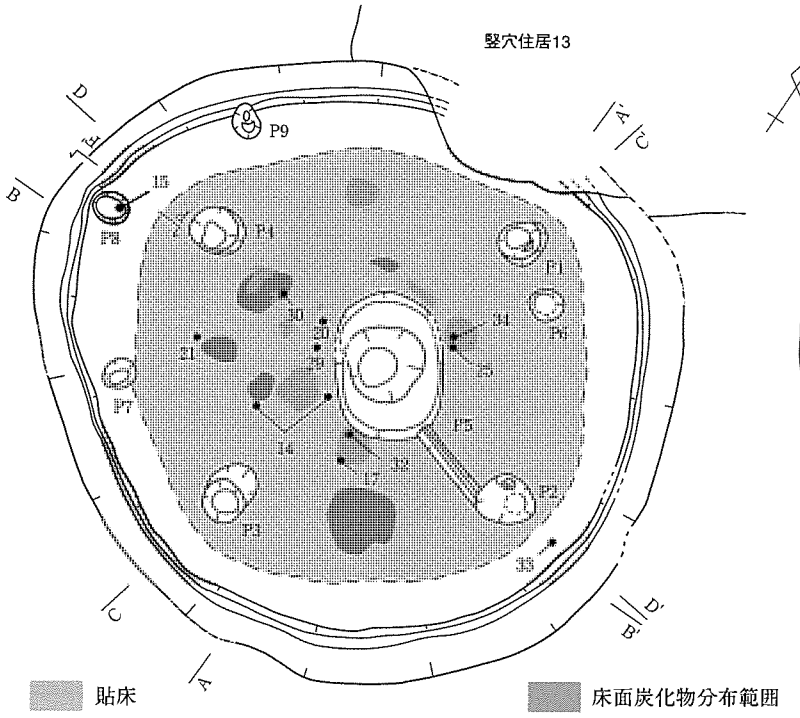
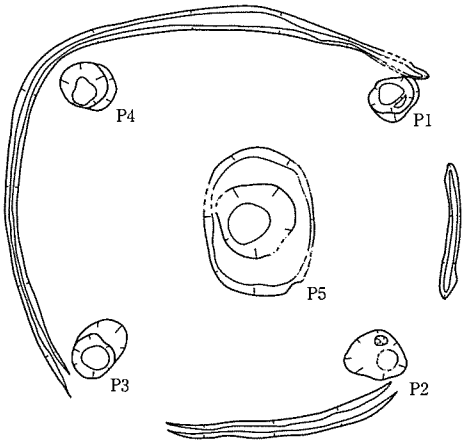


図９　竪穴住居１出土遺物





竪穴住居2a（貼床除去後）

貼床　　床面炭化物分布範囲

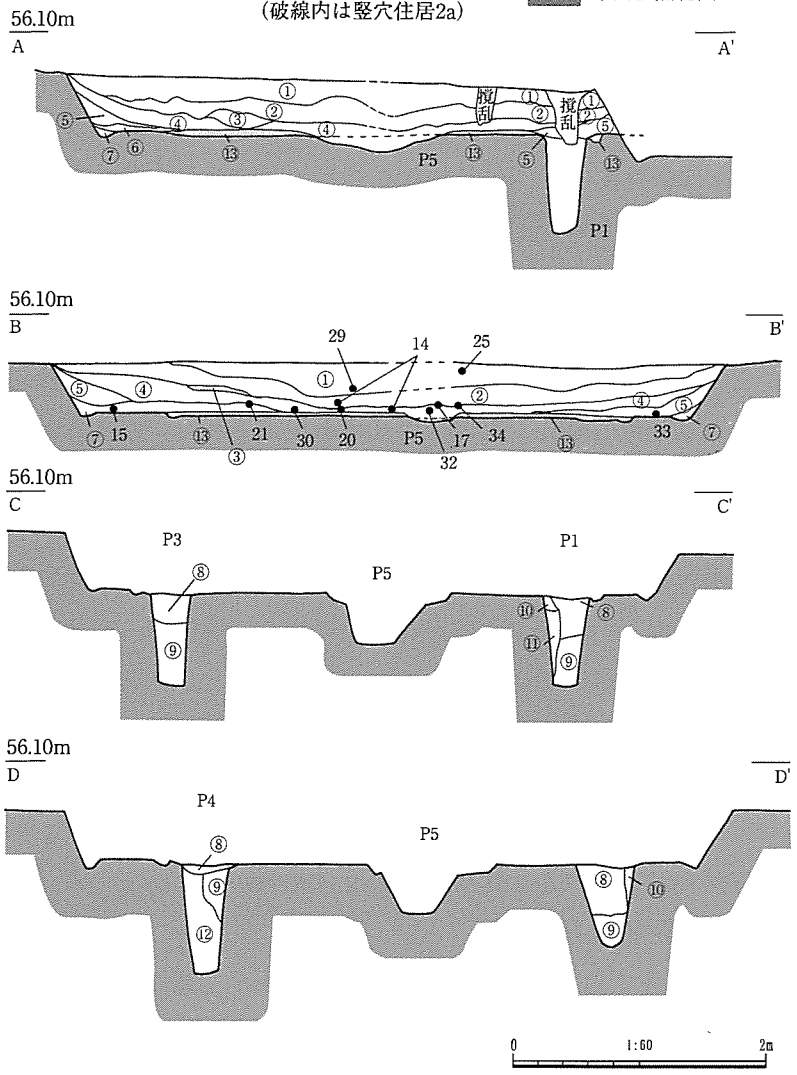
床面被熱範囲

竪穴住居2b
（破線内は竪穴住居2a）

竪穴住居２bピット計測表

P No.	長径×短径	深さ（cm）	床面の高さ（m）	土色・備考
P6	27×26	5	55.23	灰褐色土（Ⅳ層混、炭混）
P7	28×22	20	55.13	灰褐色土（Ⅳ層混、炭混）
P8	30×26	5	55.29	灰褐色土（Ⅳ層混、炭混）
P9	30×20	12	55.13	灰褐色土（Ⅳ層混、炭混）

①にぶい褐色土（Ⅳ層混、炭混）
②灰褐色土（明褐色土・明黄褐色土混、炭混）
③にぶい褐色土（ブロック）
④にぶい褐色土（Ⅳ層混、炭混）
⑤にぶい褐色土（Ⅳ層混、炭混）
⑥にぶい褐色土（Ⅳ層混、炭混）
⑦にぶい褐色土（Ⅳ層混、炭混）
⑧灰褐色土（Ⅳ層混、炭混）
⑨暗灰褐色土（Ⅳ層混、炭混）
⑩にぶい褐色土
⑪にぶい褐色土（やや暗い）
⑫にぶい褐色土（Ⅳ層混、炭混）
⑬にぶい褐色土（貼床、しまる、炭混）



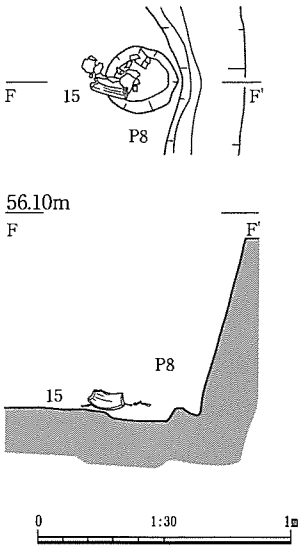


図10　竪穴住居２

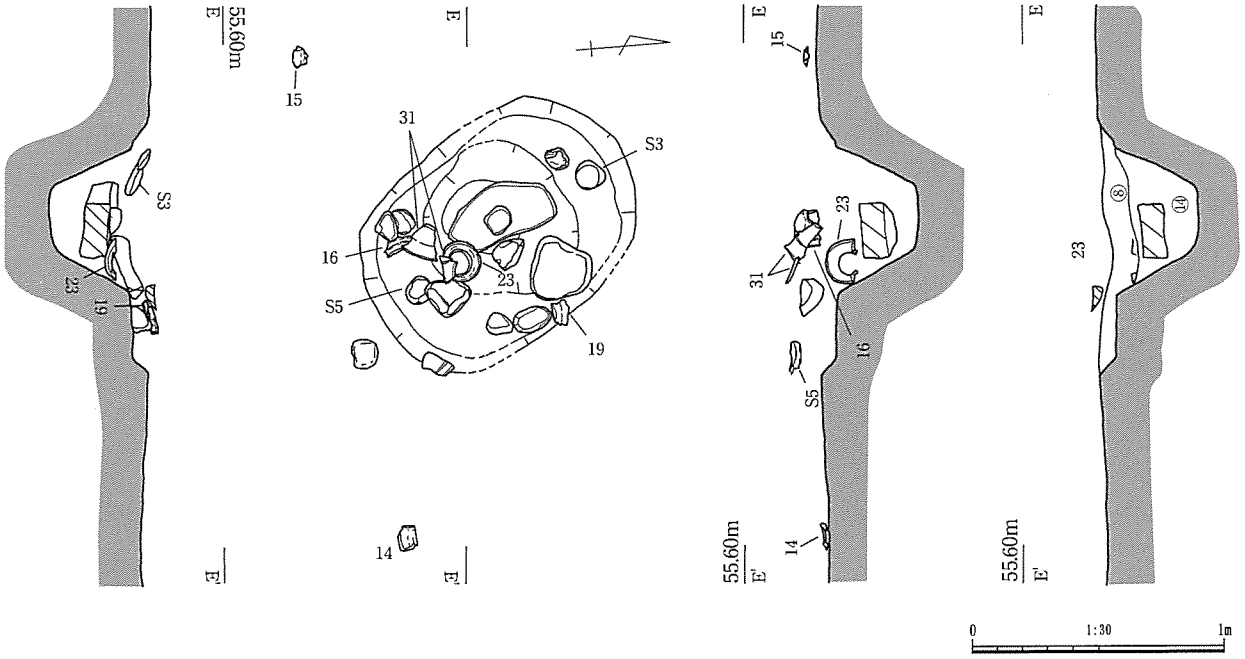


図11　竪穴住居２遺物出土状況図

２．遺構の調査

竪穴住居１（図６・８・９、図版２・３・45・64・65）

調査地北西端に位置する。住居全体の約1/2を調査した。貼床があること、周壁溝が貼床の下からも検出されたことから住居が２時期にわたって使用されたと考えられる。貼床下に検出された古い住居跡を１ａ、最終段階の住居跡を１ｂとする。

１ａの平面形は、隅丸方形と推定される。検出面から床面までは南西側で60cmで、Ⅲ層（明褐色土）を床面とする。周壁溝は３本検出され、Ｐ１・Ｐ２が切り合うことから建替えが想定される。主柱穴はＰ１～Ｐ３・Ｐ６が想定される。床面からは被熱し硬化した部分が３カ所検出された。周壁溝から壺口縁部の破片１が出土した。

竪穴住居１ｂの平面形は隅丸の多角形と推測される。１ａに貼床を施して床面とする。主柱穴はＰ９・Ｐ10・Ｐ13と考えられ、住居のほぼ中央付近に検出されたＰ５は１ａを再使用したものと想定される。Ｐ５から溝が東に向かい延びる。溝の底面レベルはＰ５側がわずかに高い。溝周辺の床面からは炭化物が検出された。また、床面では３ヶ所から被熱し硬化した部分が検出された。住居覆土は周壁から中央に向かい緩やかな傾斜で堆積する。１ｂの床面上では甕口縁部片２のほか石器Ｓ１、ほぼ完形の鉈Ｆ１が出土した。出土土器から、弥生時代後期後葉に廃絶した遺構とみられる。　（小林）

竪穴住居２（図10～13、図版２・３）

調査地北西側に位置する。北側は竪穴住居13に切られる。建替えもしくは拡張が行われている。古い段階の住居を竪穴住居２ａ、最終段階を竪穴住居２ｂとする。

竪穴住居２ａの平面形は隅丸方形を呈し、床面での長軸は3.54m、短軸は3.44m、床面積は約8.7㎡である。床面に幅約12cm、深さ約６cmの周壁溝を検出した。

竪穴住居２ｂの平面形はやや不整な円形を呈する。床面での長軸は4.46m、短軸4.44m、床面積は約14.2㎡である。側壁の高さは南東側で75cmである。幅15cm、深さ５cmの周壁溝が全周する。主柱穴

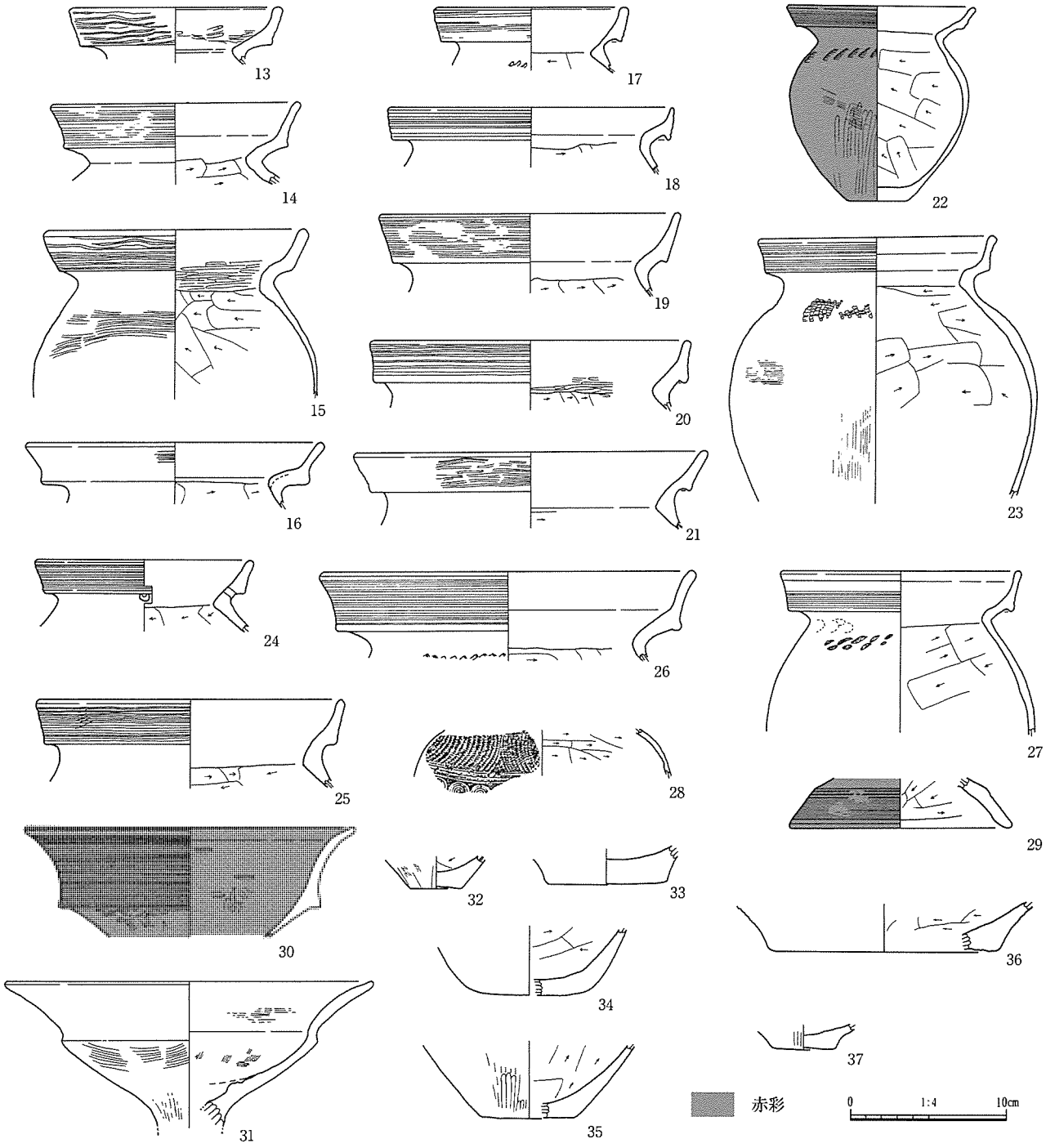


図12　竪穴住居２出土遺物（1）　床面直上出土遺物

と考えられるのはＰ１～４で、２ａの柱穴を再使用している。住居中央部のＰ５周辺には被熱した硬化面と、床面に薄く広がる炭化物を検出した。Ｐ２からＰ５にのびる深さが約２cmの浅い溝を検出した。住居覆土は弓なり状の堆積が窺われるが、Ⅲ層・Ⅳ層の地山ブロックが多く混入する。

床面直上からは甕16が出土した。Ｐ５周辺の床面およびＰ５埋土中から礫Ｓ３、Ｓ５、土器17･20･32が出土し、Ｐ５の下層(⑭層)から方形の礫（40cm×22cm×９cm）の礫が出土した。表面に使用痕は観察できない。この礫の直上で口縁部が完存する甕24が出土した。Ｐ５東側の⑧層からも扁平な礫（26cm×20cm×6.5cm）の礫が出土した。表裏に若干の敲打痕が窺える。⑧層および周辺の床面直上からの小型の礫11個（長袖12cm、短袖９cm前後）が出土した。うち使用痕がみられる敲石Ｓ３・Ｓ５を

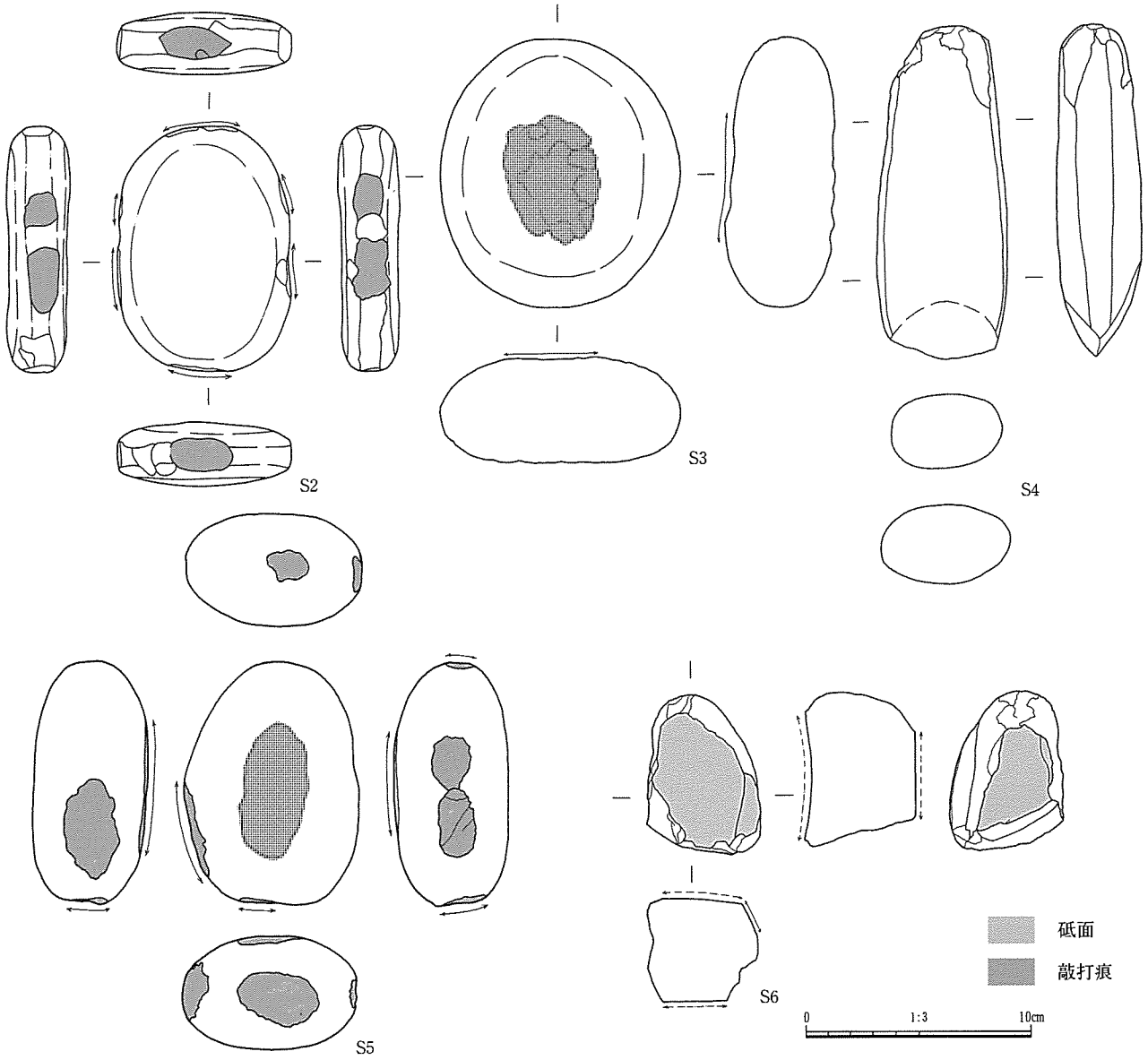


図13　竪穴住居２出土遺物（2）　石器

図化した。Ｐ５検出面直上で高坏31が出土した。埋土中および検出面からまとまって出土する状況からみて、住居を放棄する際にＰ５を土器・石器などで埋めた可能性が考えられる。住居覆土中より小型壺の体部片28、器台30、石斧Ｓ４などが出土した。出土遺物より、弥生時代後期後葉に廃絶した住居であろう。（森本）

竪穴住居３（図14・15、図版４・５）

調査地東側、台地平坦面上に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、床面での長軸は4.12m、短軸は3.84m、床面積は約13.4㎡である。側壁の高さは最も残存する南東側で56㎝である。主柱穴と考えられるのはＰ１～４で、住居中央部にはＰ５を検出した。平面は隅丸方形を呈し、二段に掘り込まれる。Ｐ５周辺には被熱して硬化した床面と、床面直上に薄く広がる炭化物を検出した。住居覆土は弓なり状の堆積が窺われるが、Ⅲ層・Ⅳ層の地山ブロックが多く混入する。

遺物はＰ５⑦層より甕40が出土し、床面直上からは、台石または石皿とみられるＳ７が出土した。また、住居覆土中より口縁部に浮文を施した壺44などが出土した。

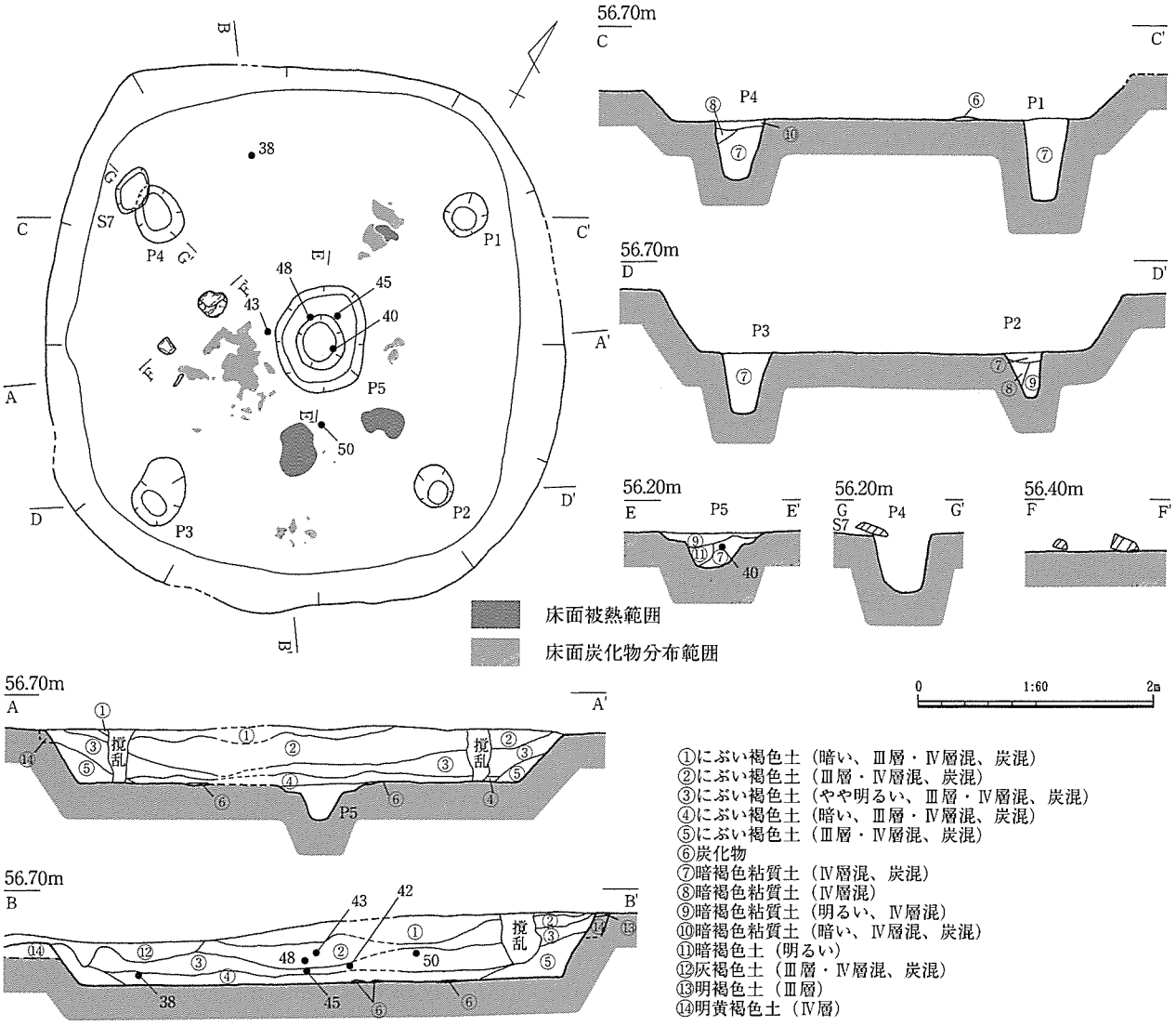


図14　竪穴住居３

出土した土器から判断して、弥生時代後期後葉に放棄された遺構と考えられる。　（森本）

竪穴住居４（図16、図版４・５）

調査地南東側に位置する。床面での主軸は約5.1ｍのいびつな隅丸方形を呈する。床面積は約20.9㎡である。検出面から床面までの深さは最も残存する北西側で40㎝であり、基本層序Ⅳ層（明黄褐色土）を床面とする。床面周囲には幅約10㎝の周壁溝が全周する。主柱穴はＰ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５で、住居中央部分にはＰ６がある。平面形は方形を呈し、底面部にはわずかに凹凸がある。Ｐ６周辺の床面５カ所で被熱した硬化面が検出された。住居覆土はほぼ水平に堆積しており、地山ブロックを多量に含むことから住居を放棄した後人為的に埋め戻された可能性が考えられる。床面直上から土器小片が出土したが、図化できない。覆土中からは弥生時代後期の甕口縁部が出土している。覆土中出土遺物や、隅丸方形の平面形からみて、弥生時代後期前後に廃絶したと想定される。　（小林）

竪穴住居５（図17、図版５）

調査地南西側に位置する。平面隅丸方形の竪穴住居跡である。床面では一辺4.3ｍ前後の規模が想定される。床面の標高は56.1ｍである。西側の大半は竪穴住居27に切られており床面は残存しない。

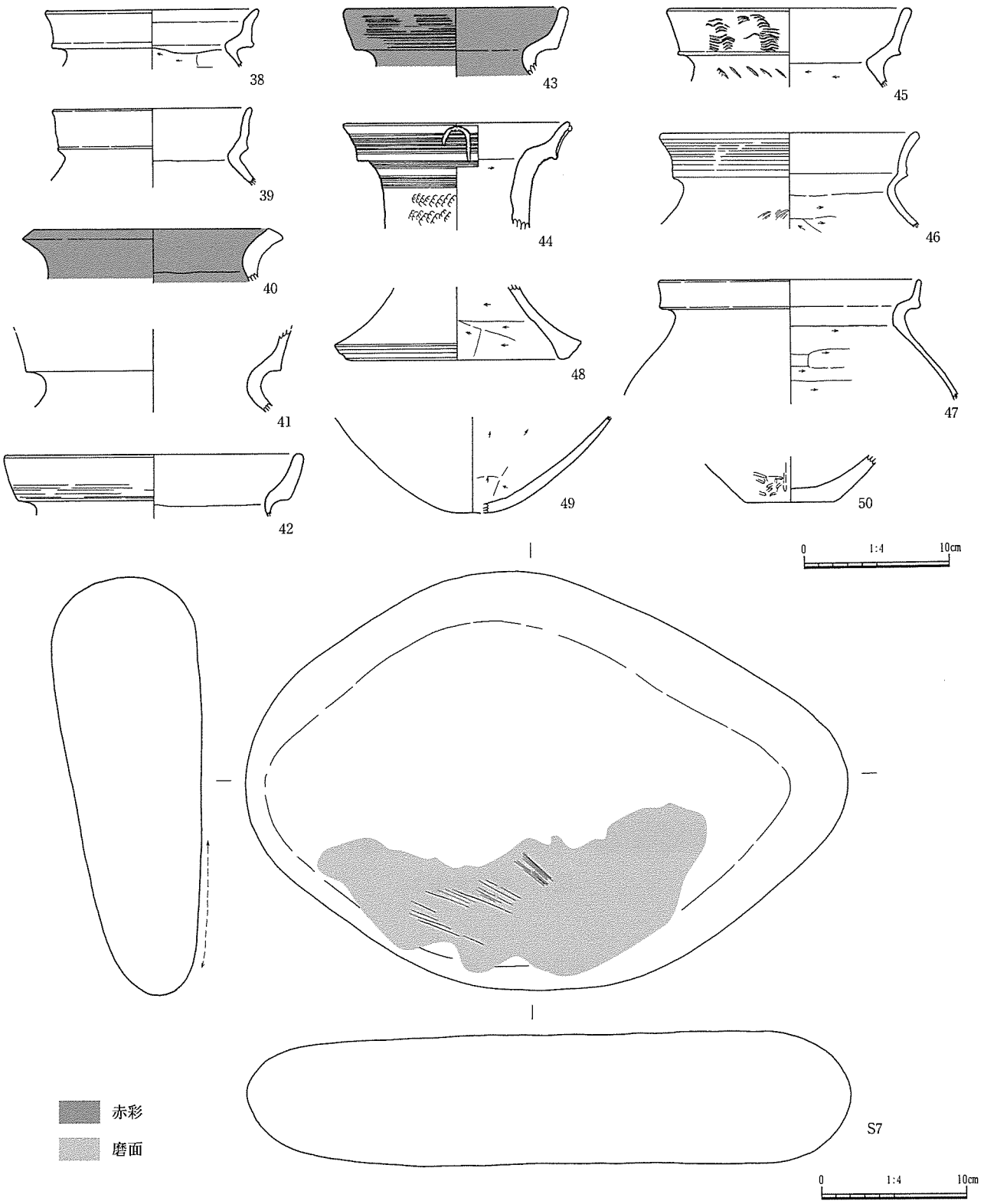
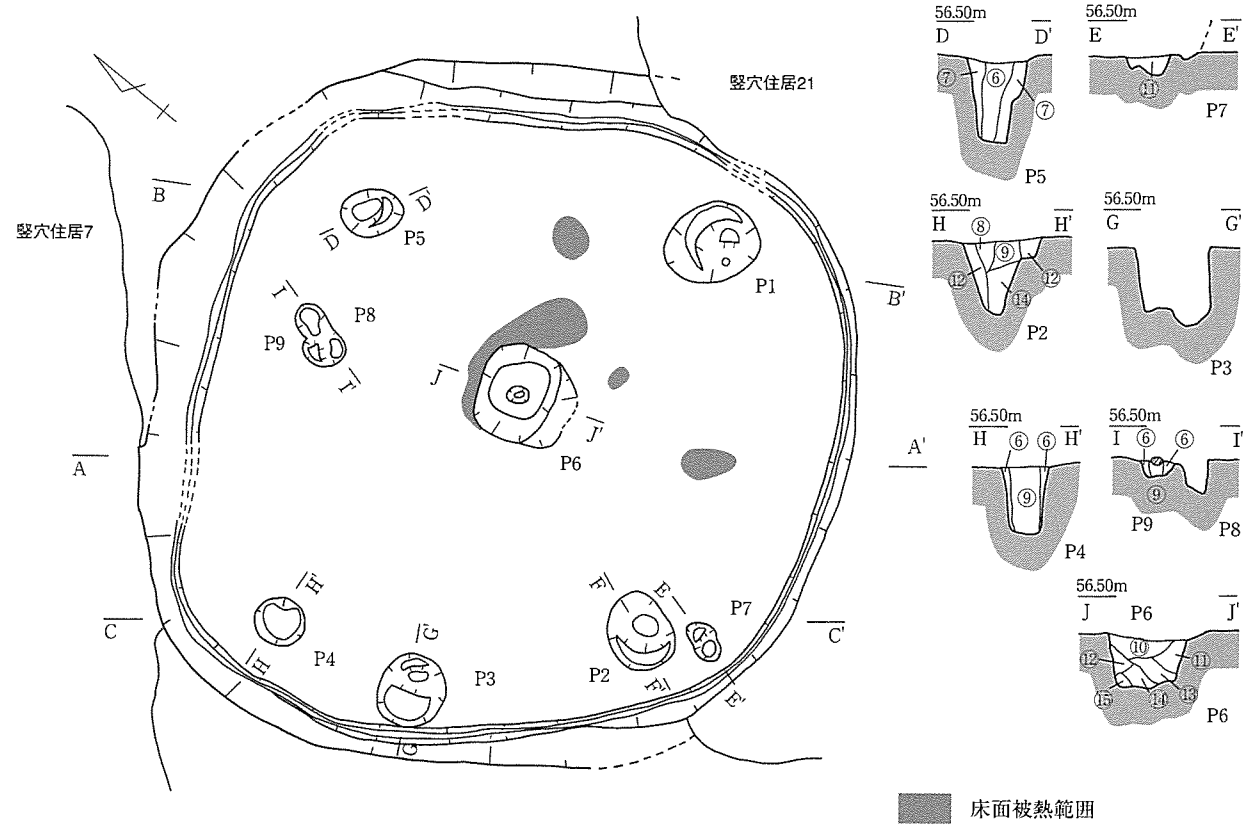
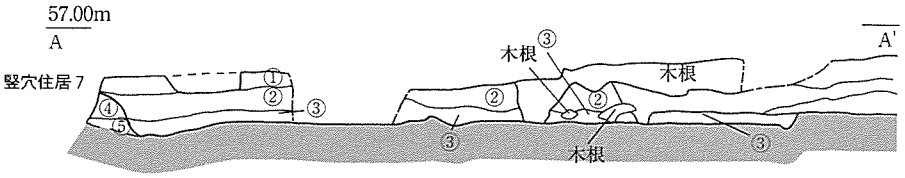
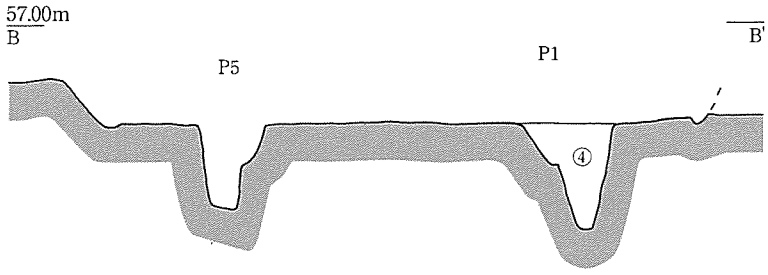
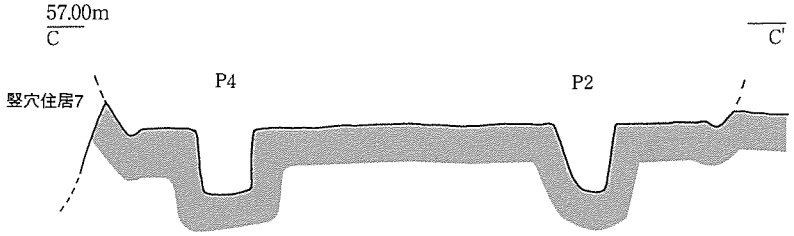


図15　竪穴住居３出土遺物









①にぶい褐色土（ややしまる、１～２㎝大のⅢ層ブロック混）
②にぶい褐色土（ややしまる、３～５㎝大の炭混、５㎜のⅢ層ブロック混）
③炭褐色土（ややしまる、２～５㎜大の炭混）
④明褐色土（Ⅲ層）
⑤明黄褐色土（Ⅳ層）
⑥明褐色土（しまる、Ⅲ層ブロック混）
⑦明褐色土（炭少量混）
⑧にぶい褐色土（炭少量混）
⑨にぶい褐色土（しまる、炭混）
⑩にぶい褐色土（しまる、Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、暗褐色土少量混、炭混）
⑪にぶい褐色土（しまる、Ⅲ・Ⅳ層ブロック少量混、炭混）
⑫にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、炭少量混）
⑬暗褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
⑭暗褐色土（Ⅳ層ブロック多量混、Ⅲ層ブロック少量混、炭少量混）
⑮暗褐色土（Ⅲ・Ⅳ層混、炭少量混）

0　1:60　2m

図16　竪穴住居４

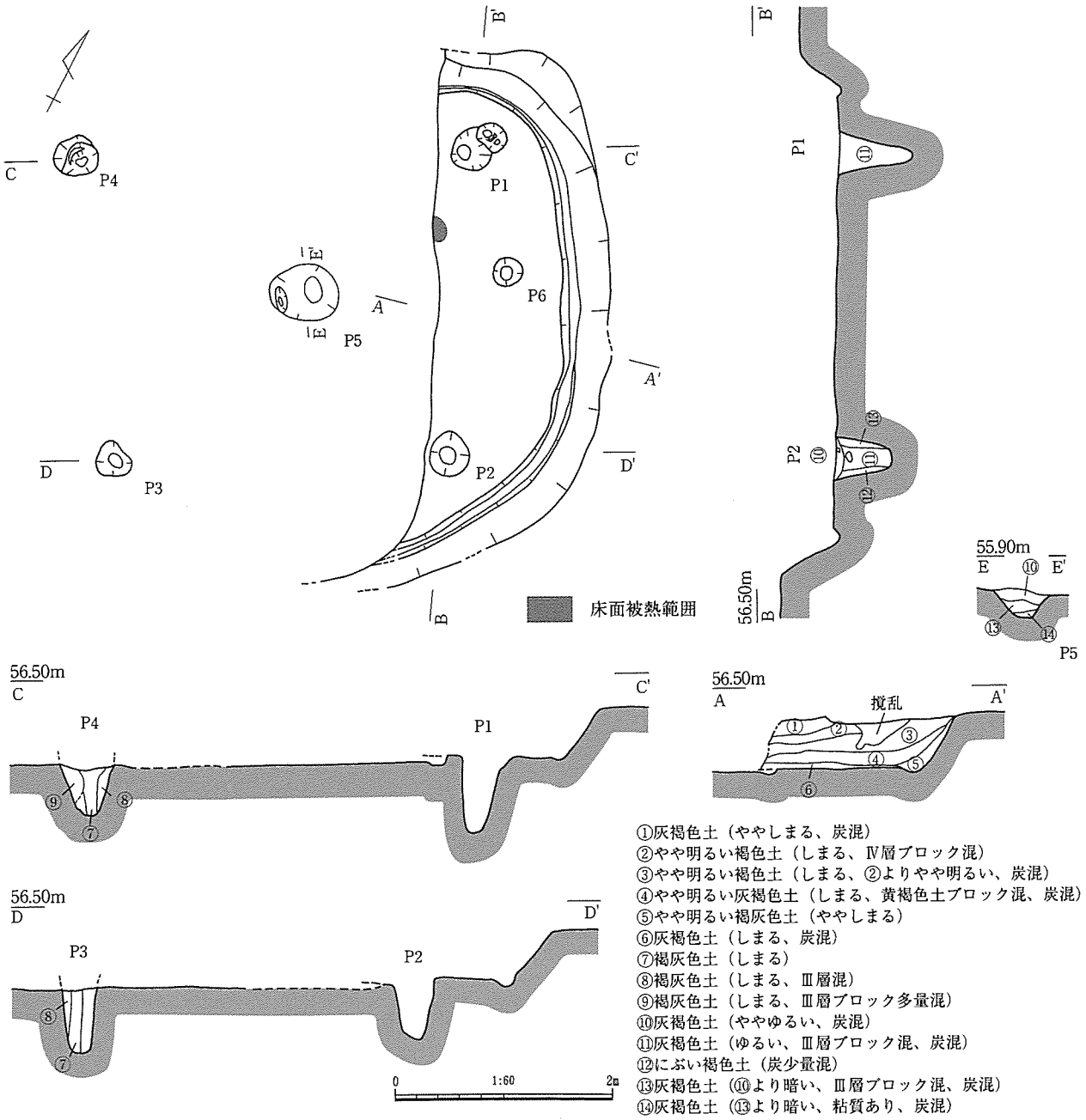


図17　竪穴住居５

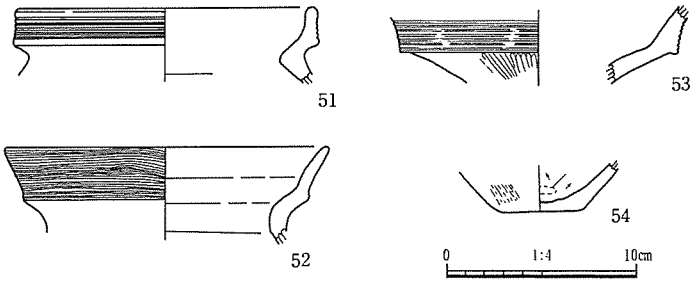
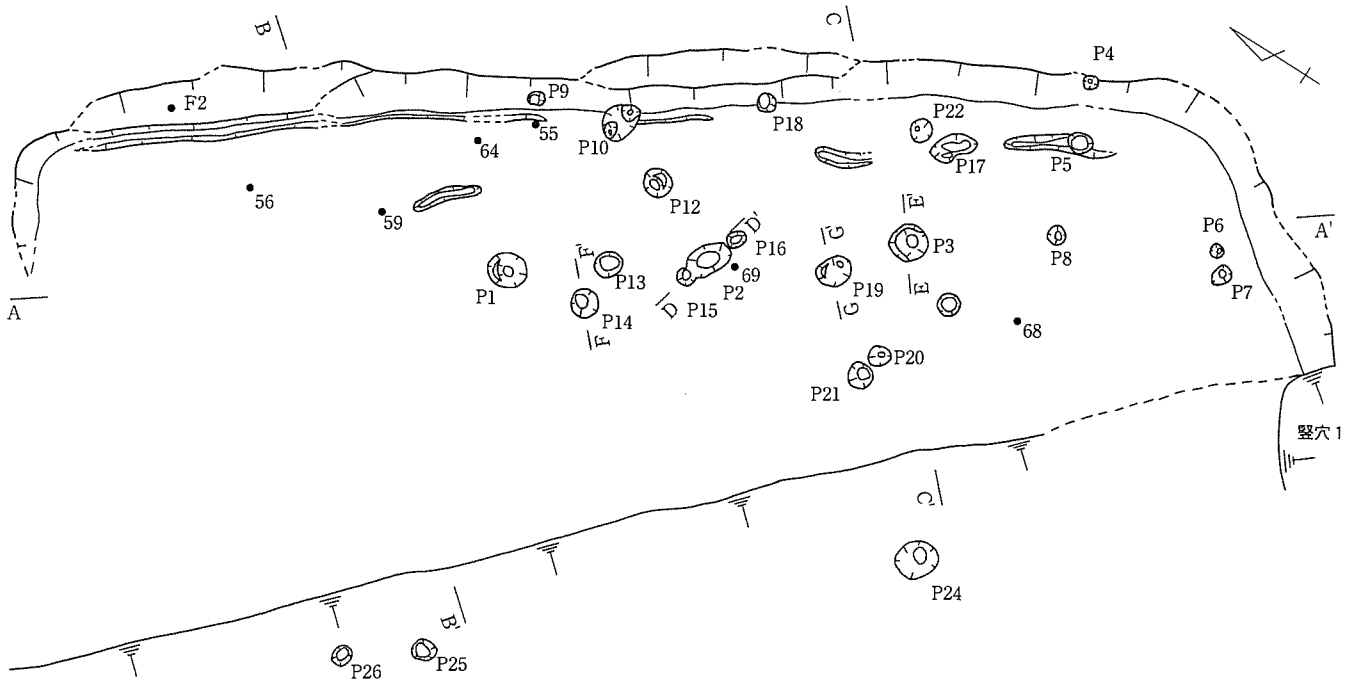
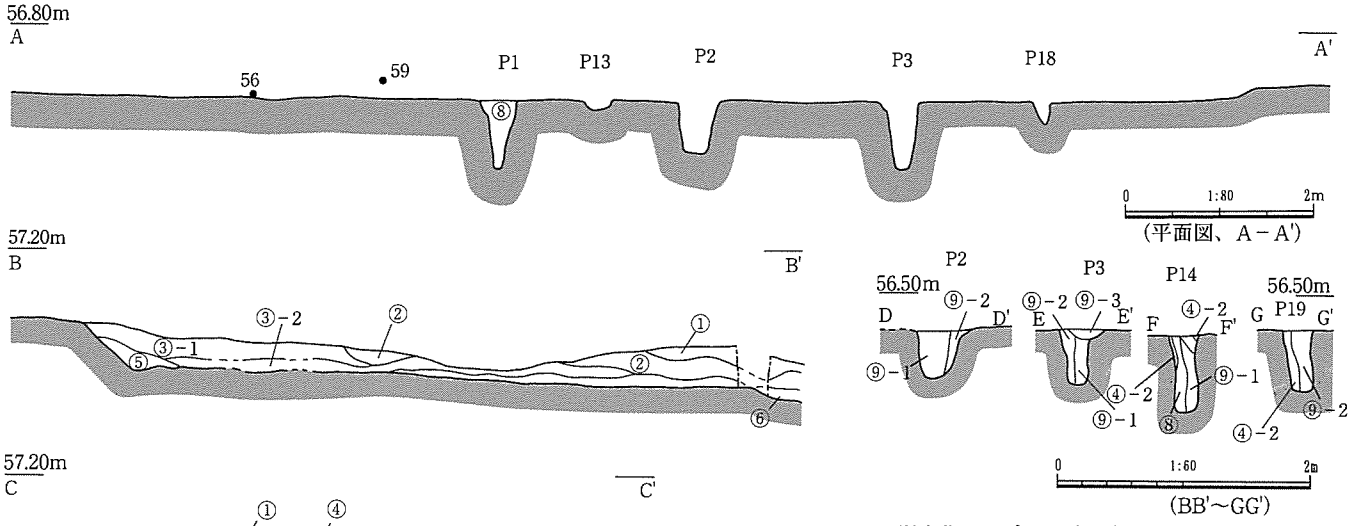


図18　竪穴住居５出土遺物





① にぶい褐色土
② 暗褐色土（Ⅰ層ブロック混、炭混）
③－1 にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック混）
③－2 にぶい褐色土（Ⅲ層土ブロック混、１cm程度の炭混）
④－1 明褐色土（Ⅳ層ブロック混）
④－2 明褐色土（Ⅳ層ブロック混、炭少量混）
⑤ 褐灰色土（しまりあり、粘質あり）
⑥ 明るい褐灰色土（もろい）
⑦ 明赤褐色土（Ⅵ層）
⑧－1 にぶい褐色土（しまる、Ⅲ層多量に混）
⑧－2 にぶい褐色土（Ⅲ層混、炭少量混）
⑨－1 にぶい褐色土（しまる、Ⅲ層ブロック混、炭混）
⑨－2 にぶい褐色土（しまる、Ⅲ層ブロック少量混、炭混）
⑨－3 にぶい褐色土（Ⅲ層少量混）
⑩ 明褐色土（Ⅲ層）
⑪ 明黄褐色土（Ⅳ層）

竪穴住居７ピット計測表

P No.	長径－短径	深さ (cm)	底面の標高 (m)	土色・備考
P4	16-16	32	55.99	にぶい褐色土
P5	24-22	4	56.20	にぶい褐色土
P6	16-14	14	56.14	にぶい褐色土
P7	23-20	21	56.00	にぶい褐色土
P8	21-19	18	56.03	にぶい褐色土
P9	19-13	13	56.30	にぶい褐色土（炭混）
P10	18-13	18	56.07	にぶい褐色土（Ⅲ層混）
P11	20-17	15	56.16	にぶい褐色土
P12	30-29	17	56.07	にぶい褐色土（Ⅲ層・炭混）
P13	30-26	6	56.15	にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック・炭混）
P15	16-21	17	56.05	にぶい褐色土
P16	21-17	8	56.14	にぶい褐色土（炭混）
P17	48-22	4	56.20	にぶい褐色土（炭混・Ⅲ層少量混）
P18	20-20	17	56.15	にぶい褐色土
P19	38-30	53	55.68	にぶい褐色土（Ⅲ層少量混・炭混）
P20	23-22	40	55.75	にぶい褐色土（Ⅲ層・炭混）
P22	24-24	32	55.93	にぶい褐色土
P23	24-23	11	56.08	にぶい褐色土
P24	42-37	58	55.22	にぶい褐色土
P25	28-25	12	55.742	にぶい褐色土
P26	23-20	10	55.775	にぶい褐色土

図19　竪穴住居６

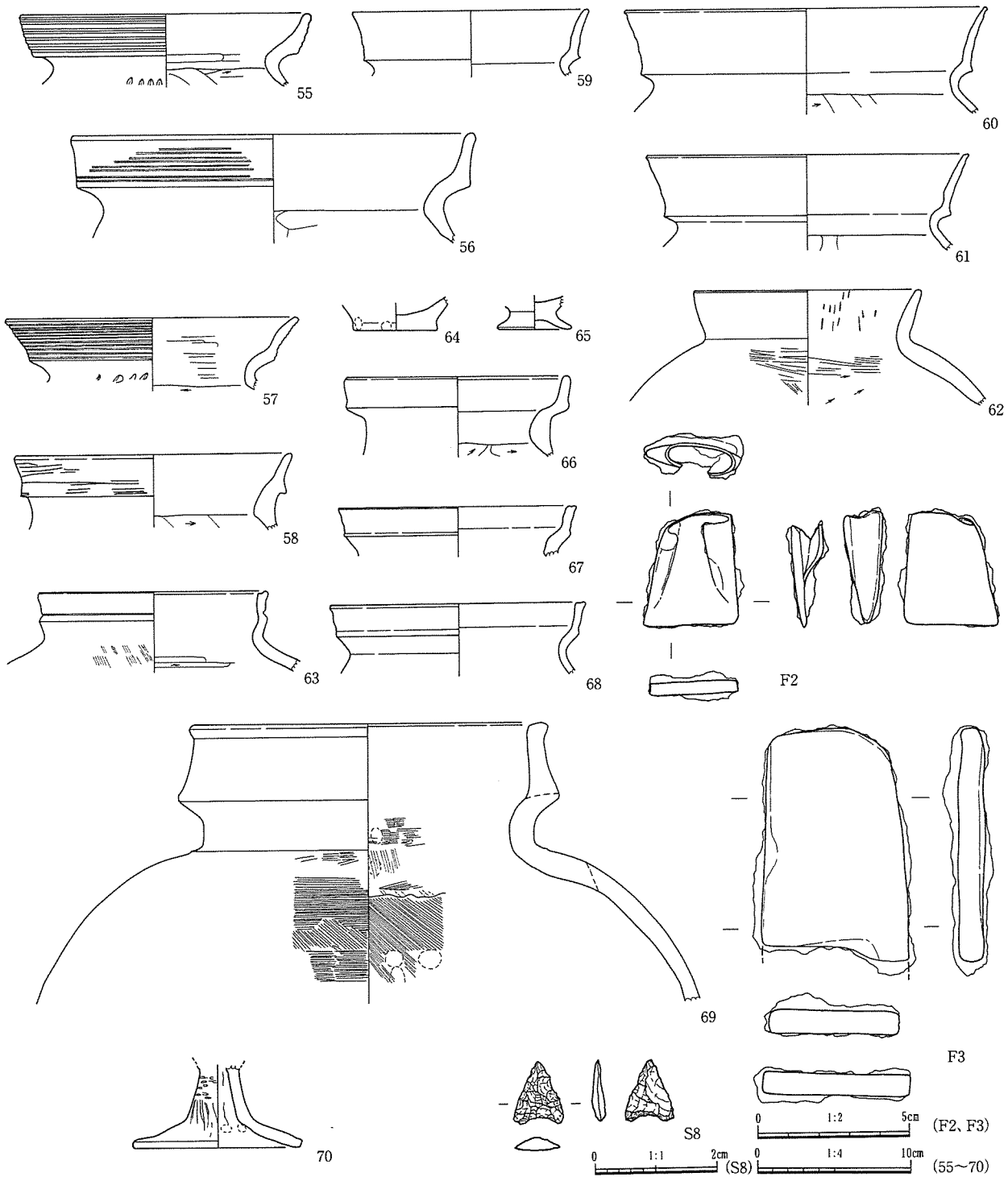


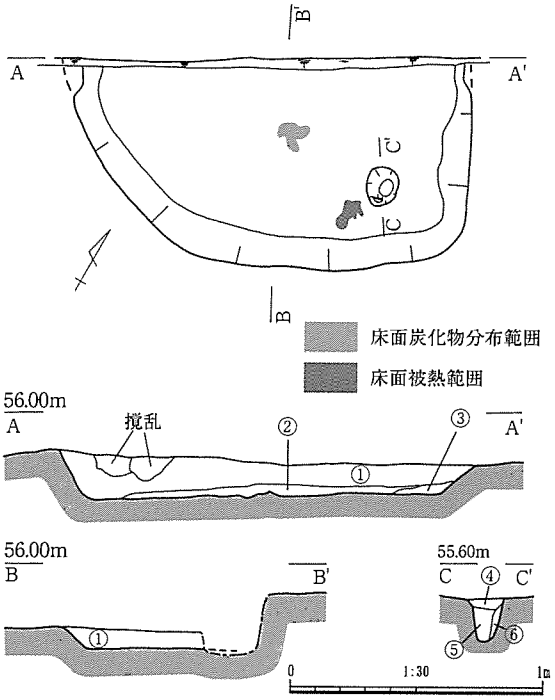
図20　竪穴住居６出土遺物

Ｐ１～Ｐ４が主柱穴とみられる。Ｐ１南側床面で若干の焼土面を検出した。覆土にはⅣ層、Ｖ層ブロックが混入する。

床面直上から遺物は出土していない。埋土中から出土した数点の土器からみて弥生時代後期後葉に廃絶した遺構と考えられる。（岡野）

竪穴住居６（図19・20、図版６・７）

調査地南側、台地の縁辺部に位置する。緩斜面をテラス状に掘削している。北西－南東方向の床面は9.2mである。側壁の高さは最大35cmで、Ⅵ層（明赤褐色土）を床面とする。床面積は53㎡に達する。側壁の傾斜は緩慢である。側壁直下で周壁溝が部分的に検出されが、この内側でも一部で溝を検出しており、拡張された可能性がある。ピットは26個検出した。そのうちＰ１～３、およびＰ14・Ｐ19は2.1m～2.2mの間隔で配列しており上屋構造の支柱と考えられる。北西側では本遺構に伴うピットは検出されていない。斜面側にはピット（Ｐ24～Ｐ26）が検出されており、床面が斜面側に広がる可能性がある。覆土②層は古墳時代後期に下る堆積である。



①にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック・褐色ブロック混、炭混）
②にぶい褐色土（①より暗い、炭混）
③にぶい褐色土（暗褐色土混）
④灰褐色土
⑤灰褐色土（④より明るい）
⑥にぶい褐色土（明褐色土ブロック・褐色ブロック混、炭混）

図21　竪穴住居７

床面直上から甕55、底部片64、石鏃Ｓ8が出土した。覆土③・④層とみられる位置から鍛造品の板状鉄斧Ｆ2、袋状鉄斧Ｆ3、弥生時代終末期の甕60が出土した。②層からは古墳時代後期の土器62～69が出土した。大型壺69は本遺構から出土した口縁部と、竪穴４から出土した胴部が頸部を境に接合した。

床面直上出土遺物から、弥生時代後期後葉に廃絶されたものと考えられる。（小林）

竪穴住居７（図21、図版８）

調査地北西側に位置する。平面はいびつな方形を呈し、北東－南西方向の床面では約1.4mである。覆土はにぶい褐色土を呈し、古墳時代後期の竪穴１～８とは色調が異なる。床面南東側で２カ所の被熱面を検出した。図化していないが、覆土中から弥生時代後期後葉とみられる土器小片が３点出土した。出土遺物や覆土の色調からみて弥生時代後期後葉に廃絶した遺構と考えられる。（岡野）

竪穴住居８（図24・25、図版８）

調査地北西部に位置する。竪穴住居15により大部分が切られており、西側約１／３が残存する。床面では長軸約5.2m、短軸は約4.1mの平面隅丸方形の住居跡である。側壁の高さは北西側で最大20cmで、Ⅳ層（明黄褐色土）を床面とする。幅12cm、深さ６cm前後の周壁溝がめぐる。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間距離は約3.0m（Ｐ１－Ｐ２）、約2.6m（Ｐ２－Ｐ３）、約3.2m（Ｐ３－Ｐ４）、約2.2m（Ｐ４－Ｐ１）である。

床面上からは土器片が数点出土したが遺存状態が悪く、時期を判別できるものはなかった。住居覆土中からは椀の底部片74が出土した。出土遺物や隅丸方形の平面形からみて、弥生時代後期から古墳時代前期に廃絶した住居と考えられる。（小林）

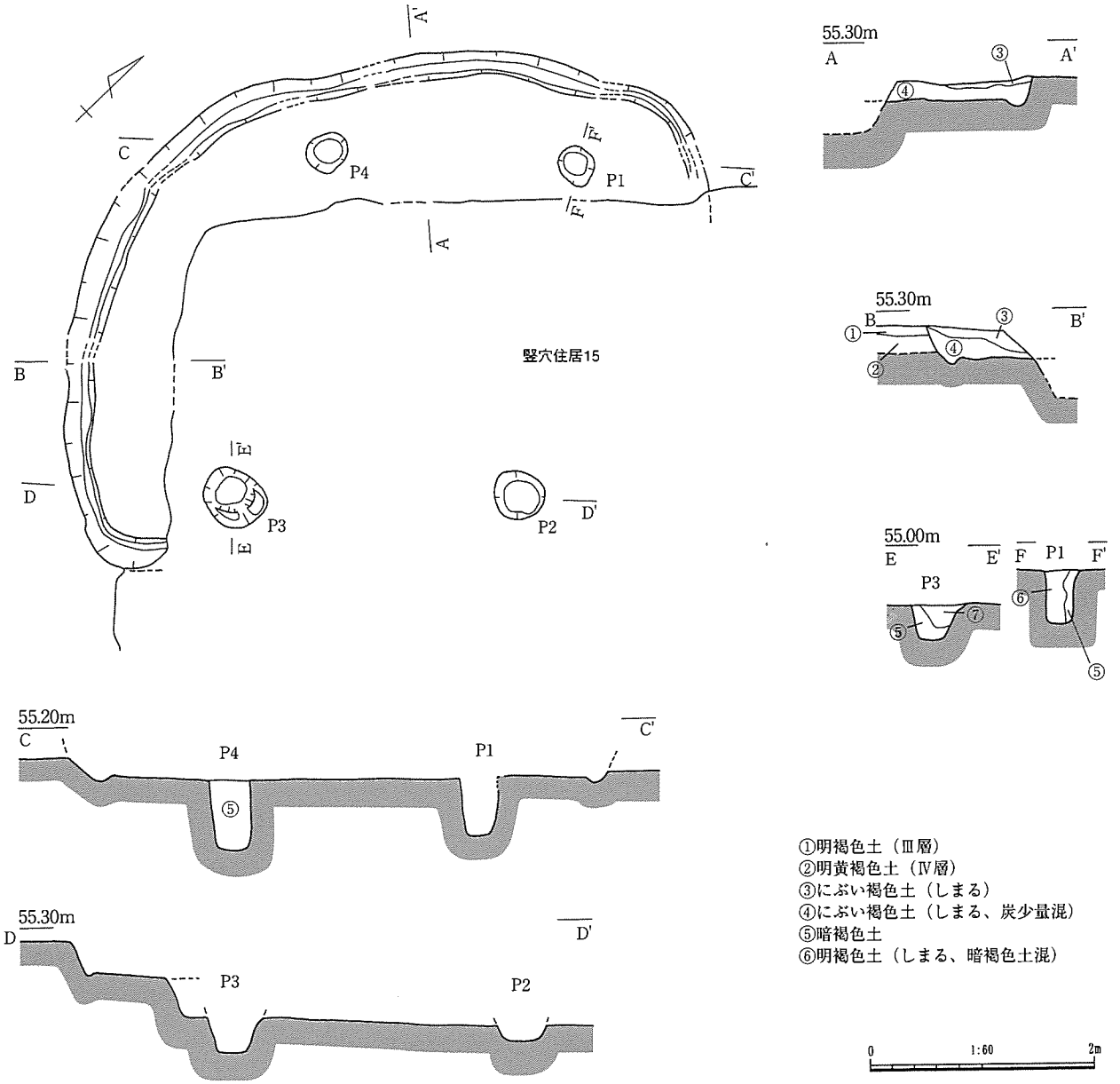


図22　竪穴住居８

竪穴住居９（図26･27、図版８・47）

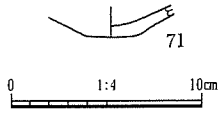


図23　竪穴住居８
出土遺物

調査地北端、台地平坦面の北側縁辺部に位置する。平面形は隅丸三角形を呈する。床面での一辺はＰ１－Ｐ２の主柱穴方向で約3.6m、住居北西端の頂点から南東側の壁面までの垂直二等分線で約3.5mである。床面積は約9.3㎡である。検出面から床面までの深さは最も残存する南東側で50cmであり、基本層序Ⅲ層（明褐色土）を床面とする。床面には幅６cm、深さ５cmの周壁溝が巡っている。北西側が一部途切れているが本来は全周していたものと考えられる。主柱穴と考えられるのはＰ１～３で、３本柱の建物であったと考えられる。柱間距離は約2.5m（Ｐ１－Ｐ２）、約2.4m（Ｐ２－Ｐ３）、約2.4m（Ｐ３－Ｐ１）である。床面中央付近にあるＰ４は長軸70cm、短軸60cmのいびつな平面形を呈し、埋土には少量の炭化物を含む。Ｐ４からは周壁溝につながる溝が東に向かって延びており、溝底面のレベルはＰ４側がやや低い。また、Ｐ４の北側には床面が被熱し硬化した部分が検出された。

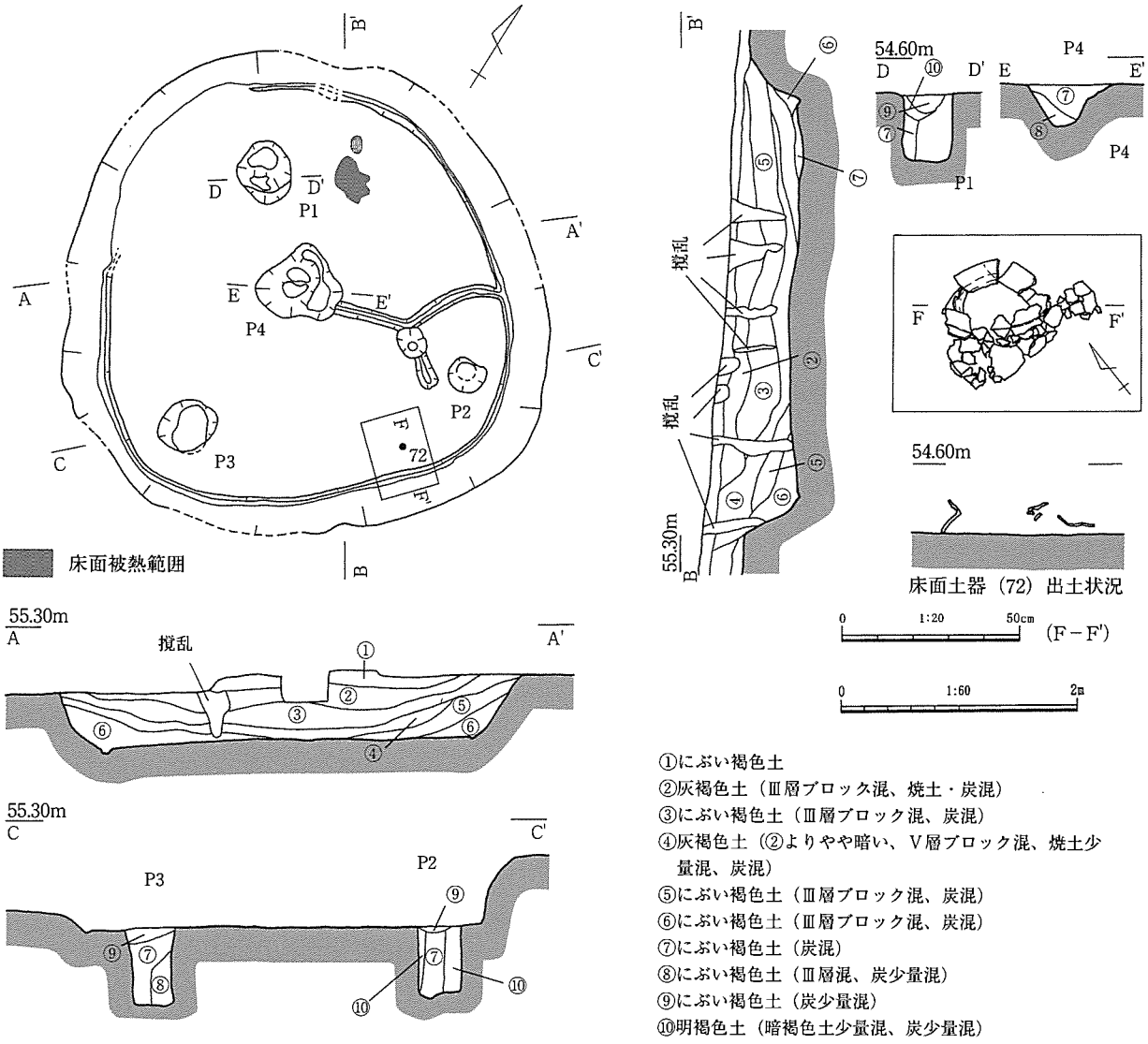


図24　竪穴住居９

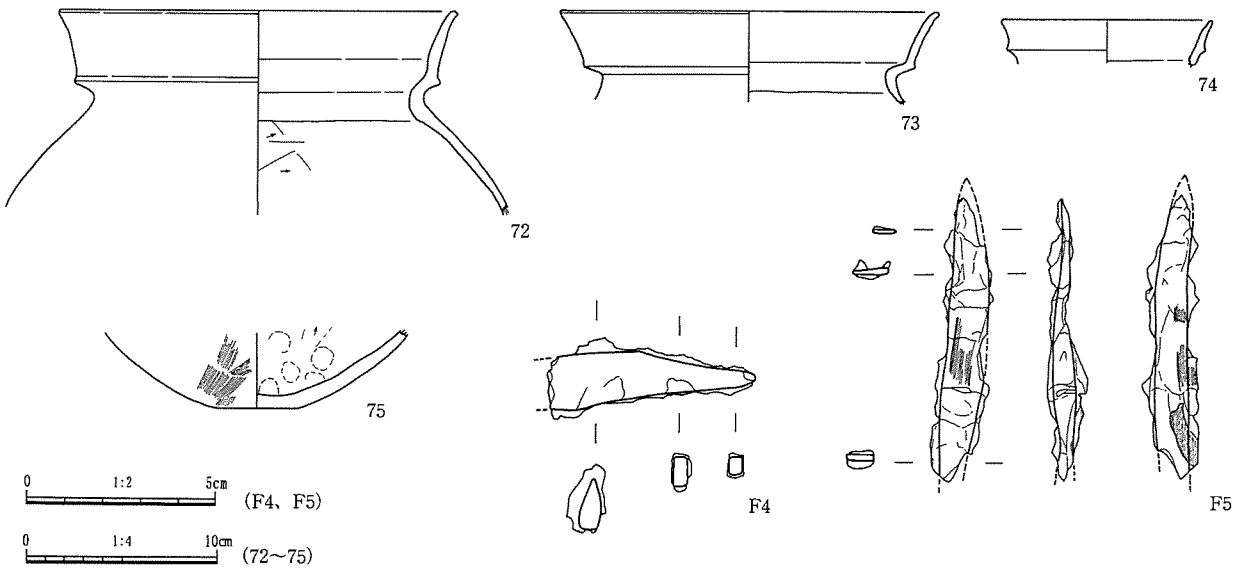


図25　竪穴住居９出土遺物

住居覆土は周壁から住居中央部に向かって緩やかに傾斜して堆積している。

床面直上からは甕72がつぶれた状態で出土した。住居覆土中からは土器73～75のほか鉄器２点Ｆ４・Ｆ５が出土した。最下層から出土したＦ４は刀子もしくは鉈の茎と考えられる。上層から出土したＦ５は小型の丸鑿もしくは小型の鉈の刃先と考えられる。

床面直上で出土した甕72から、弥生時代終末期に廃絶した遺構であると考えられる。　（小林）

竪穴住居10（図26～29、図版８・９）

調査地南東側、台地平坦面の縁辺部付近に位置する。床面に周壁溝と並行して検出された溝の存在から、建替えが想定される。建替え前を竪穴住居10ａ、建替え後を竪穴住居10ｂとする。床面に検出したピットの数、またＰ８～12の配列を考えるとさらなる建替えも想定される。

竪穴住居10ａの平面形は五角形を呈し、床面での長軸は6.44m、短軸は6.20m、床面積は約24.7㎡である。床面に幅10cm、深さ８cmの周壁溝を検出した。主柱穴と考えられるのはＰ12・14～17で、柱間距離は3.02m（Ｐ12－14）、2.46m（Ｐ14－15）、2.32m（Ｐ15－16）、2.82m（Ｐ16－17）、2.66m（Ｐ17－12）である。住居中央のＰ７は、平面楕円形を呈す。南側には溝が掘削されており、溝の底面での標高はＰ７側が２cmほど低い。

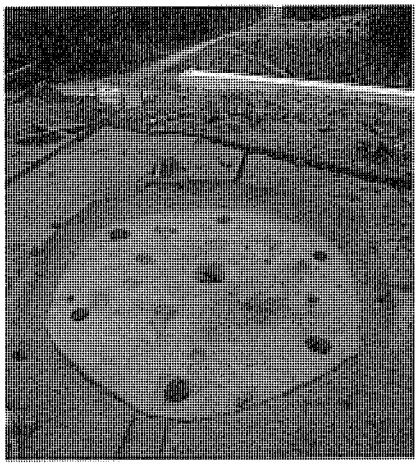
竪穴住居10ｂの平面形は六角形を呈し、床面での長軸は6.68m、短軸は6.60m、床面積は約33.4㎡である。側壁の高さは最も残存する南東側で96.3cmである。床面には幅10cm、深さ８cmの周壁溝が全周する。柱間距離は3.06m（Ｐ１－２）、2.74m（Ｐ２－３）、2.84m（Ｐ３－４）、2.72m（Ｐ４－５）、2.66m（Ｐ５－６）、2.88m（Ｐ６－１）である。Ｐ７は竪穴住居10ａを再使用したものと想定される。Ｐ７周辺には被熱して硬化した床面と、床面直上に薄く広がる炭化物を検出した。炭化物はＰ７南側の溝の上面を覆うことから、住居の最終段階では溝は埋没していたと判断できる。Ｐ７の埋土のうち⑫層には炭化物を多量に含む。数本の棒状の炭化物が放射状に検出された（図版９－３）。

住居覆土の最上層（①層）は暗褐色土を呈し、古墳時代後期後葉までの遺物を多数包含する。古墳時代後期にいたり埋没の最終段階にあった窪みに土器を投棄したものであろう。②層から下層はにぶい褐色を呈しⅢ・Ⅳ層ブロックを含む。

遺物は床面直上より甕76、敲石Ｓ９が出土した。覆土最下層からは有溝石錘Ｓ11が出土した。②層では弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺物を包含する。Ｆ６は②層からの出土で、小型の刀子である。床面直上より出土した遺物から、弥生時代終末期に廃絶した遺構と判断される。　（森本）

竪穴住居11（図32～35、図版10）

調査地北端付近に位置する。古墳時代後期の竪穴住居16・17・18に切られ、竪穴住居１を切る。床面では長軸約5.6m、短軸約5.5mの平面隅丸方形の住居跡である。床面積は約27㎡である。側壁の高さは最大56cmである。Ⅲ層（明褐色土）を床面としており、幅６cm、深さ３cmの周壁溝がめぐる。


竪穴住居10b（南西から）

主柱穴はＰ１～４で、柱間距離は約3.2m（Ｐ１－Ｐ２）、約3.2m（Ｐ２－Ｐ３）、約3.1m（Ｐ３－Ｐ４）、約3.3m（Ｐ４－Ｐ１）である。床面中央にあるＰ５は２段の掘方を有し、上段の平面形はややいびつな方形で長軸90cm、短軸84cm、深さ６cm、下段の平面形は円形で長軸47cm、短軸44cm、深さ48cmである。Ｐ５の埋土下層からは

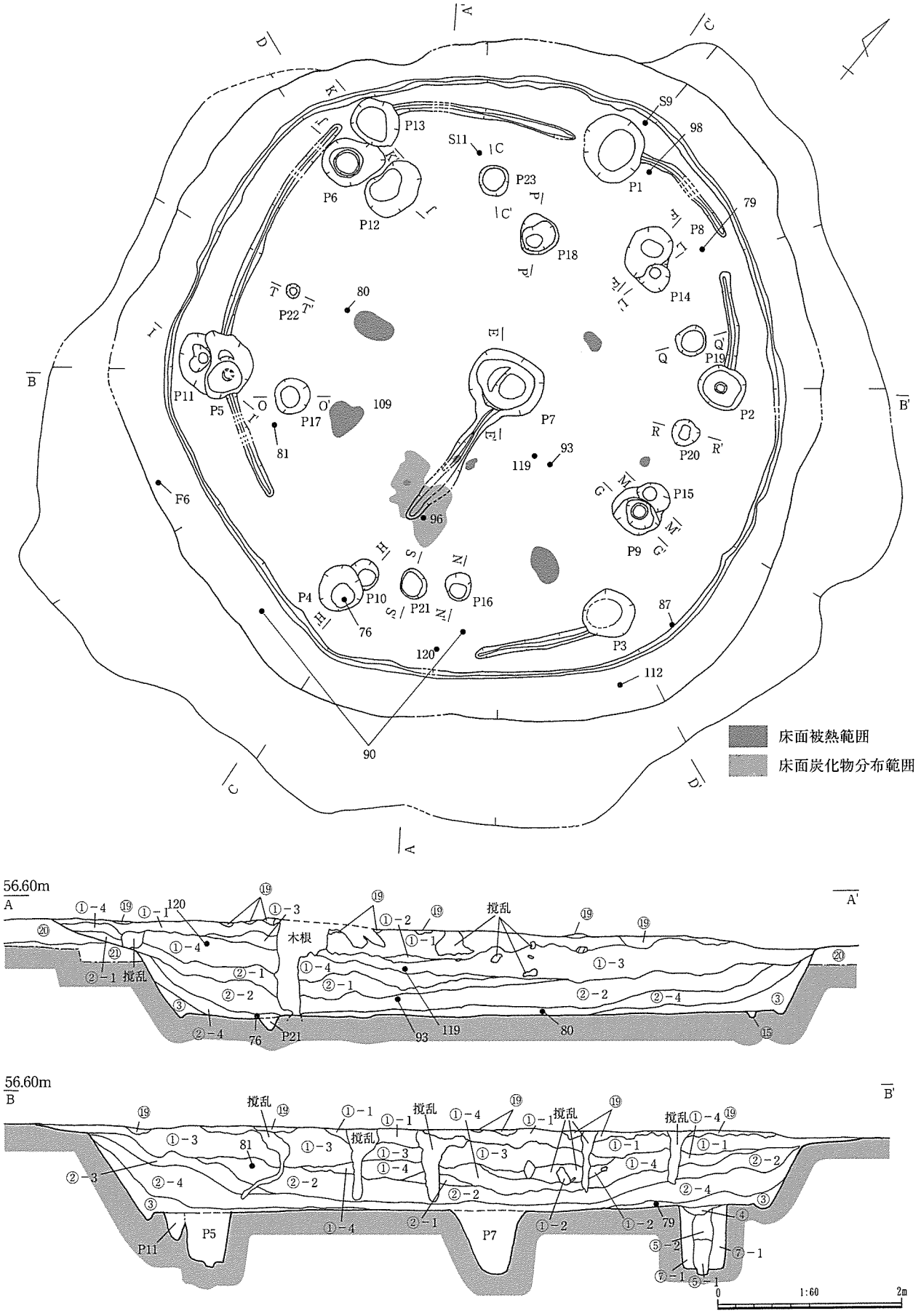
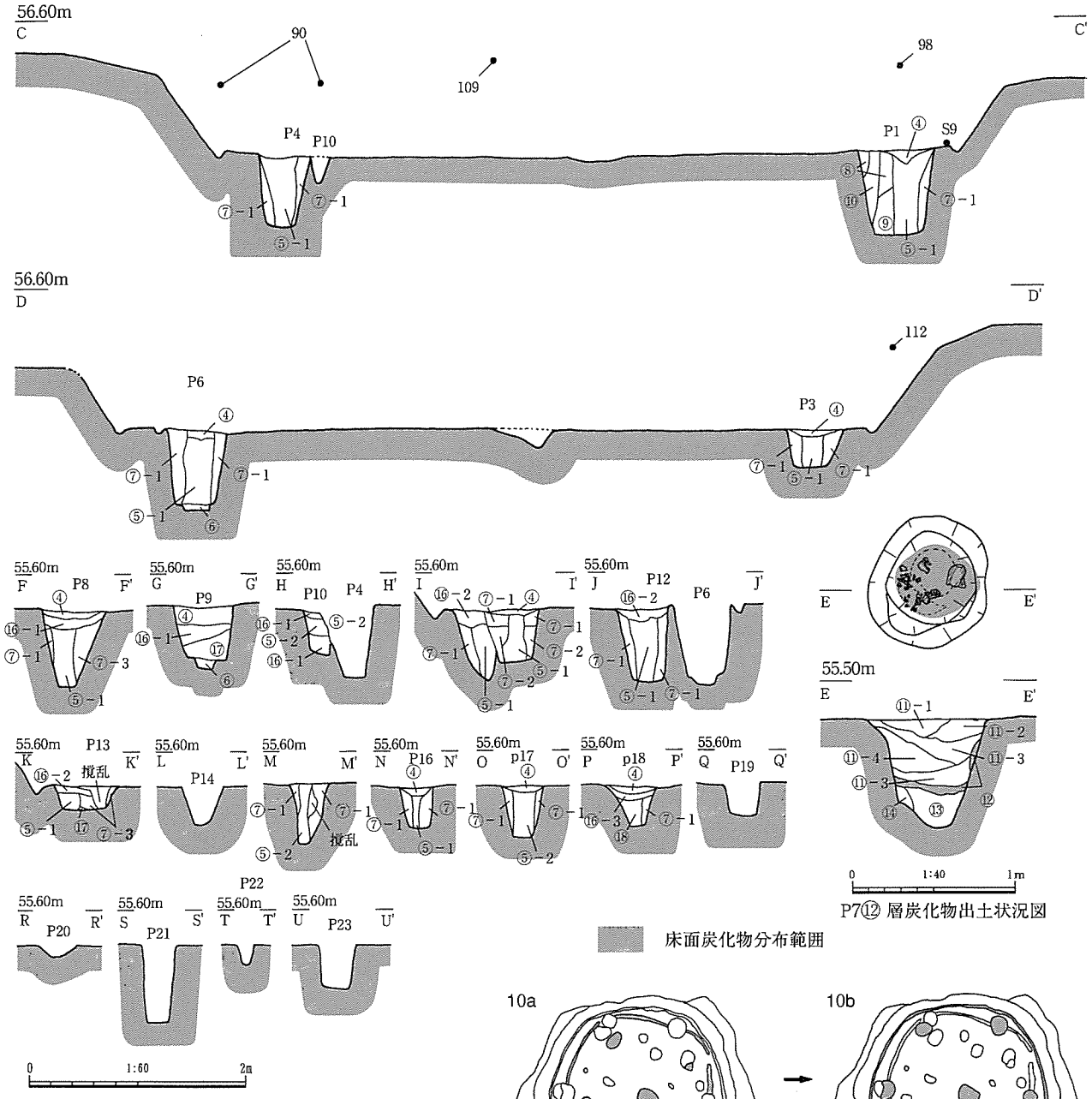
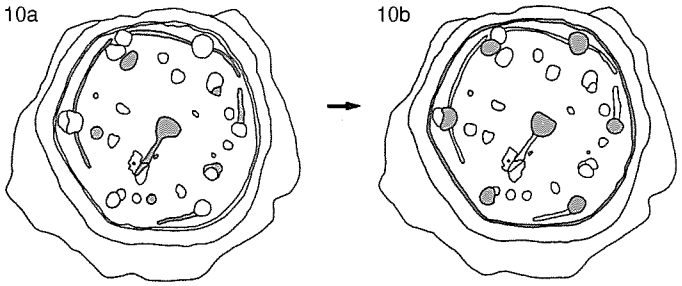

床面被熱範囲
床面炭化物分布範囲
56.60m
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P20
P21
P22
P23
S9
S11
F6
76
79
80
81
87
90
93
96
98
109
112
119
120
木根
撹乱
1:60
2m

図26　竪穴住居10（1）



P7⑫ 層炭化物出土状況図

床面炭化物分布範囲



変遷図

①－1 暗褐色土（炭混）
①－2 暗褐色土（淡い、炭・焼土混）
①－3 暗褐色土（炭・焼土混）
①－4 暗褐色土（やや淡い、炭・焼土混）
②－1 にぶい褐色土（やや淡い、Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
②－2 にぶい褐色土（淡い、Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
②－3 にぶい褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
②－4 にぶい褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
③　暗褐色土粘質土（ややしまる、Ⅳ層混、炭混）
④　暗褐色土粘質土（もろい、Ⅲ層混、炭混）
⑤－1 暗褐色土粘質土（もろい、炭混）
⑤－2 にぶい褐色土（やや暗い、よくしまる、Ⅲ層混、炭混）
⑥　にぶい褐色土（しまる、炭混）
⑦－1 にぶい褐色土（やや暗い、しまる、炭混）
⑦－2 にぶい褐色土（Ⅲ層混、炭混）
⑦－3 にぶい褐色土（ややしまる、暗褐色土混）
⑧　にぶい褐色土（もろい、暗褐色粘質土混）
⑨　暗褐色土（もろい、炭混）
⑪－1 灰褐色粘質土（Ⅲ層混、炭混）
⑪－2 灰褐色粘質土（淡い、Ⅲ層混、炭混）
⑪－3 灰褐色粘質土（暗い、Ⅲ層混、炭混）
⑪－4 灰褐色粘質土（やや暗い、Ⅲ層混）
⑫　炭化物
⑬　灰褐色粘質土（炭混）
⑭　灰褐色粘質土（明るい、明褐色土混）
⑮　灰褐色粘質土
⑯－1 にぶい褐色土（よくしまる、炭混）
⑯－2 にぶい褐色土（よくしまる、Ⅲ層混、炭混）
⑯－3 にぶい褐色土（よくしまる、暗褐色土混、炭混）
⑰　灰褐色粘質土（Ⅲ層混、炭混）
⑱　にぶい褐色土（もろい、暗褐色土粘質土混）
⑲　褐色土（Ⅰ層）
⑳　明褐色土（Ⅲ層）
㉑　明黄褐色土（Ⅳ層）

図27　竪穴住居10（2）

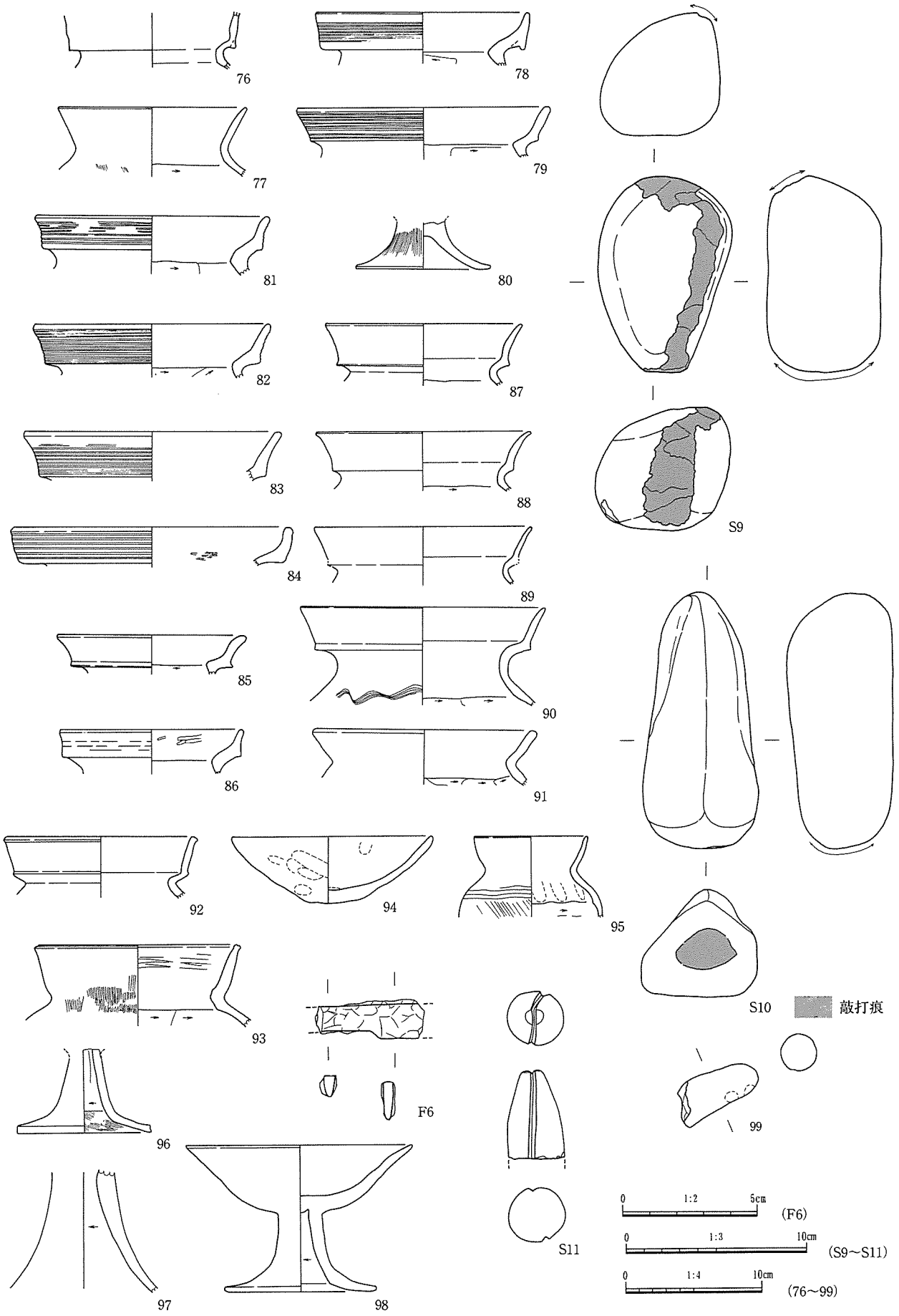


図28　竪穴住居10出土遺物（1）

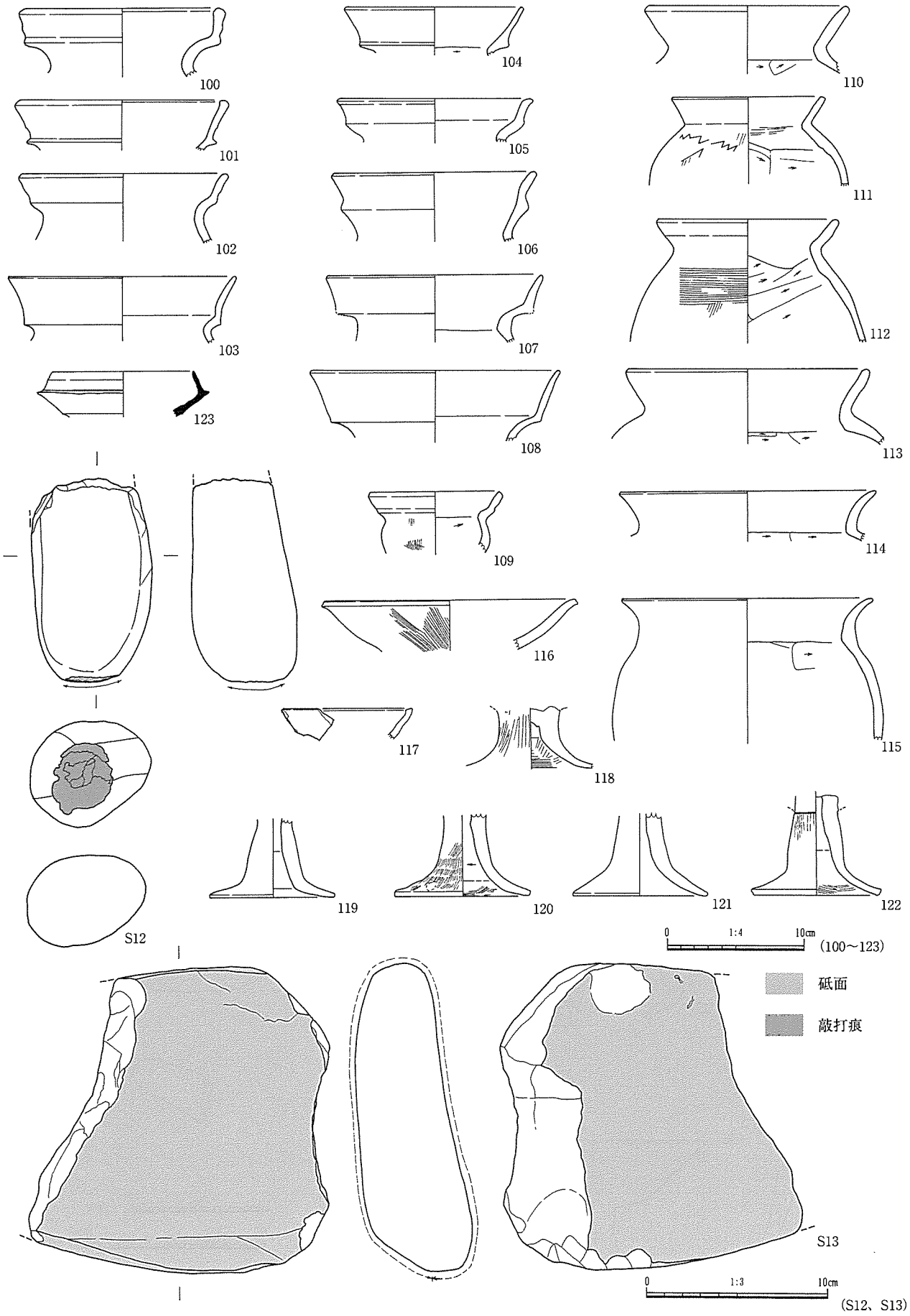
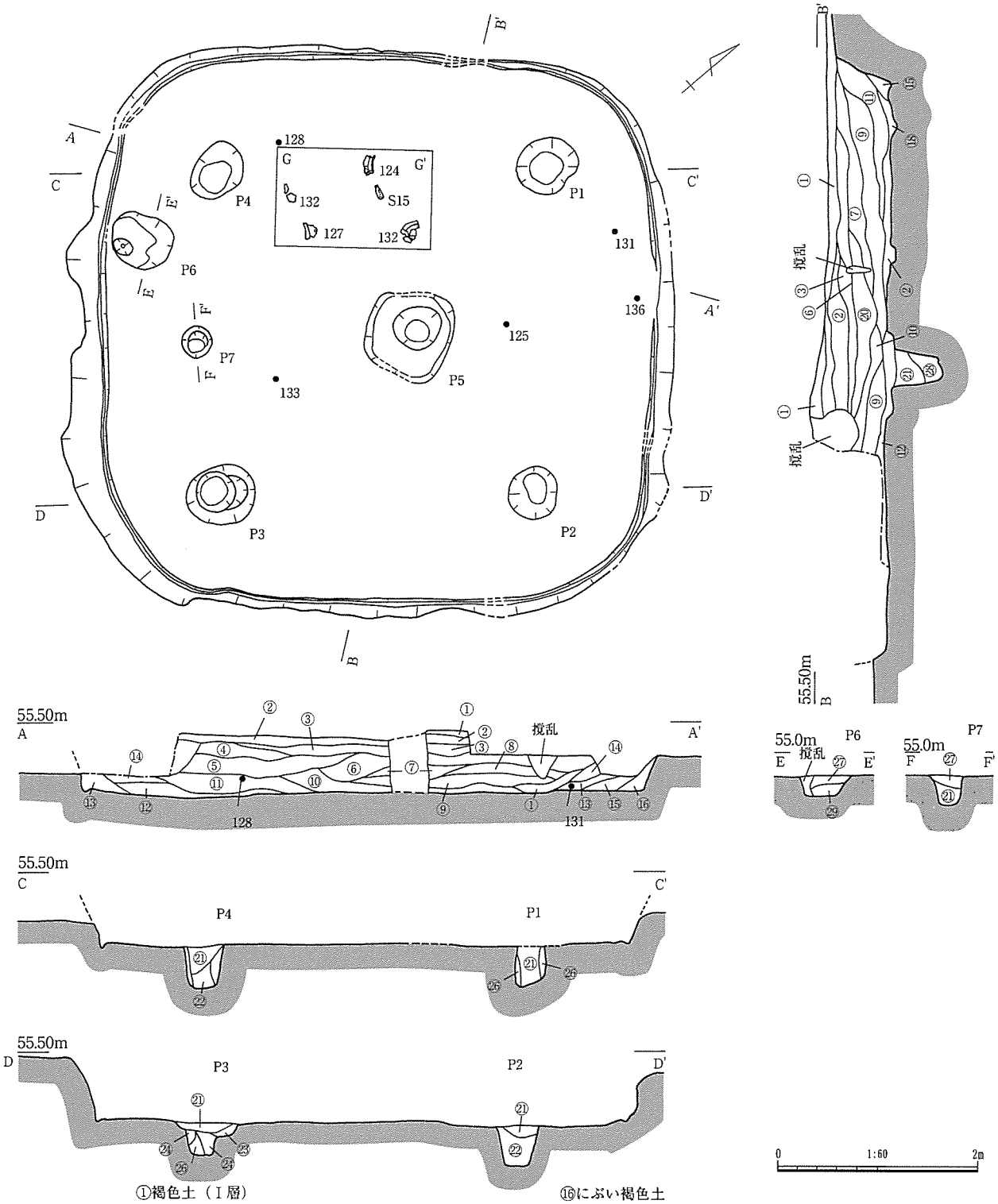


図29　竪穴住居10出土遺物（２）　①層出土遺物



①褐色土（Ⅰ層）
②暗褐色土（Ⅲ層、炭混）
③暗褐色土（炭多量混、焼土少量混）
④暗褐色土（Ⅲ層、炭少量混）
⑤にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック混、炭少量混）
⑥にぶい褐色土（Ⅲ層混、Ⅳ層ブロック混、炭混）
⑦にぶい褐色土（炭混）
⑧にぶい褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層、炭混）
⑨にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック混、炭少量混）
⑩にぶい褐色土（Ⅲ層、炭混）
⑪にぶい褐色土（炭混）
⑫にぶい褐色土（炭少量混）
⑬にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層混、炭混）
⑭にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層混、炭少量混）
⑮にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混）
⑯にぶい褐色土
⑰にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層多量混）
⑱にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック少量混）
⑲暗褐色土（Ⅲ層混、炭少量混）
⑳にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック少量混）
㉑にぶい褐色土（Ⅲ層混、炭少量混）
㉒にぶい褐色土（Ⅳ層混、Ⅲ層ブロック多量混）
㉓明褐色土（暗褐色土少量混）
㉔明褐色土（炭少量混）
㉕にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック少量混、炭少量混）
㉖明褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混）
㉗暗褐色土（暗褐色土ブロック混・Ⅲ層ブロック混）
㉘暗褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、炭少量混）
㉙褐色土（暗褐色土混、炭少量混）

図30　竪穴住居11

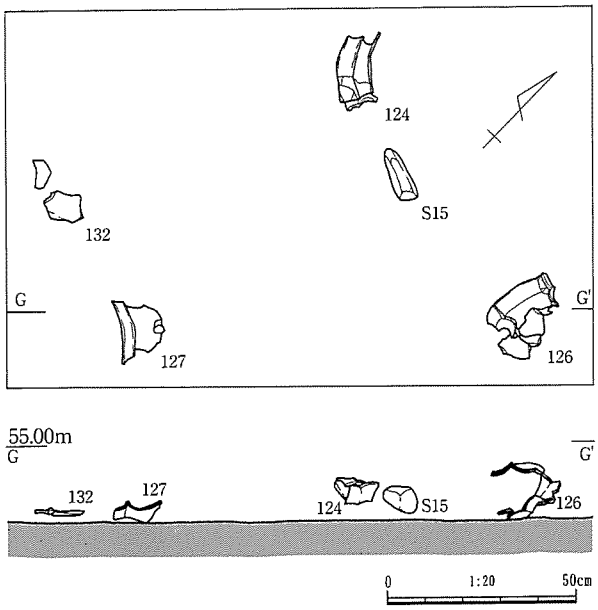


図31　竪穴住居11遺物出土状況

炭化物が出土した。また、Ｐ５の内部・埋土を含め住居内の床面上には顕著な被熱硬化部分は認められなかった。

床面直上からは壺口縁部の破片124、126、127と甕口縁部の破片125が出土した。これらの土器から、古墳時代終末期に廃絶した住居と考えられる。（小林）

竪穴住居12（図34・35、図版11）

調査地北西側に位置する。南側では竪穴住居２を切り掘削されている。床面での一辺が4.5m前後の平面隅丸方形の住居跡と考えられる。側壁の高さは最も残存する南西側で72cmである。床面に幅16cm、深さ６cm前後の周壁溝を検出した。主柱穴はＰ１・２で、柱穴間距離は3.02m（Ｐ１－Ｐ２）である。Ｐ１－Ｐ２ライン上に桁材や梁材を支持する柱とみられるＰ４がある。住居中央部に検出したＰ３は二段掘りである。周辺には被熱して硬化した床面と、床面直上に薄く広がる炭化物を検出した。Ｐ３の南側には溝１・２がある。溝１・２の底面の標高はＰ３側が１cmほど低い。住居覆土のうち⑥･⑦･⑧層にはⅣ･Ⅴ層ブロックが比較的多く含まれる。

遺物は床面直上より磨石Ｓ７が、住居覆土の上層から高坏139、器台140が出土した。

時期比定の根拠に欠けるが、竪穴住居２を切ることや土器139、140から判断して弥生時代後期後葉以降に掘削され、古墳時代前期までに廃絶した遺構と考えられる。（森本）

掘立柱建物１（図36、図版11）

調査地北東側、台地北西側の縁辺部に位置する。梁行１間(2.5m)×桁行２間(6.4m)の建物跡である。主軸はＮ－49°－Ｗ、桁梁に囲まれた範囲の面積は約16.0㎡である。柱間距離は梁行方向Ｐ３－Ｐ４、Ｐ６－Ｐ１が2.4m～2.5m、桁行方向Ｐ１－Ｐ２、Ｐ５－Ｐ６が3.3m～3.4m、Ｐ２－Ｐ３、Ｐ４－Ｐ５が3.0m～3.1mである。掘方底面での標高は54.34m～54.48mである。遺物は出土していない。淡い埋土の色調から判断して、弥生時代後期から古墳時代前期の時間幅に収まる遺構と想定される。（森本）

掘立柱建物２（図37、図版12）

調査地中央やや北西側、台地平坦面上に位置する。梁行１間(2.40m)×桁行２間(4.24m)の建物跡である。主軸はＮ－20°－Ｗ、梁桁に囲まれる面積は約10.18㎡である。柱間距離は梁行方向が2.38m～2.40m、桁行方向が2.00m～2.16mである。掘方底面には径20cm～25cm前後、底面からの深さ約４cm～15cmの柱当たりがみられ、底面は若干硬化していた。土層断面では、柱当たり直上に径15cm～25cm前後の柱痕が観察される。柱痕は周囲の埋土より若干もろく、少量の炭化物を含む。柱当たり底面での標高は55.02m～55.08mである。柱痕周囲の埋土は淡くⅣ･Ⅴ層ブロックを多量に含む。

遺物は出土していないが、淡い埋土の色調から判断すると、弥生時代後期から古墳時代前期の時間幅に収まる可能性がある。（森本）

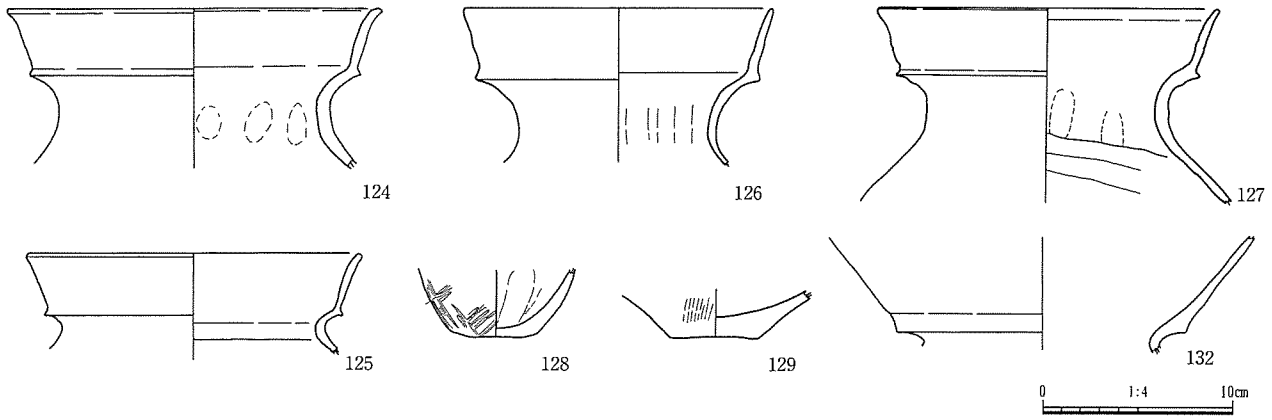


図32　竪穴住居11出土遺物（1）　床面直上出土遺物

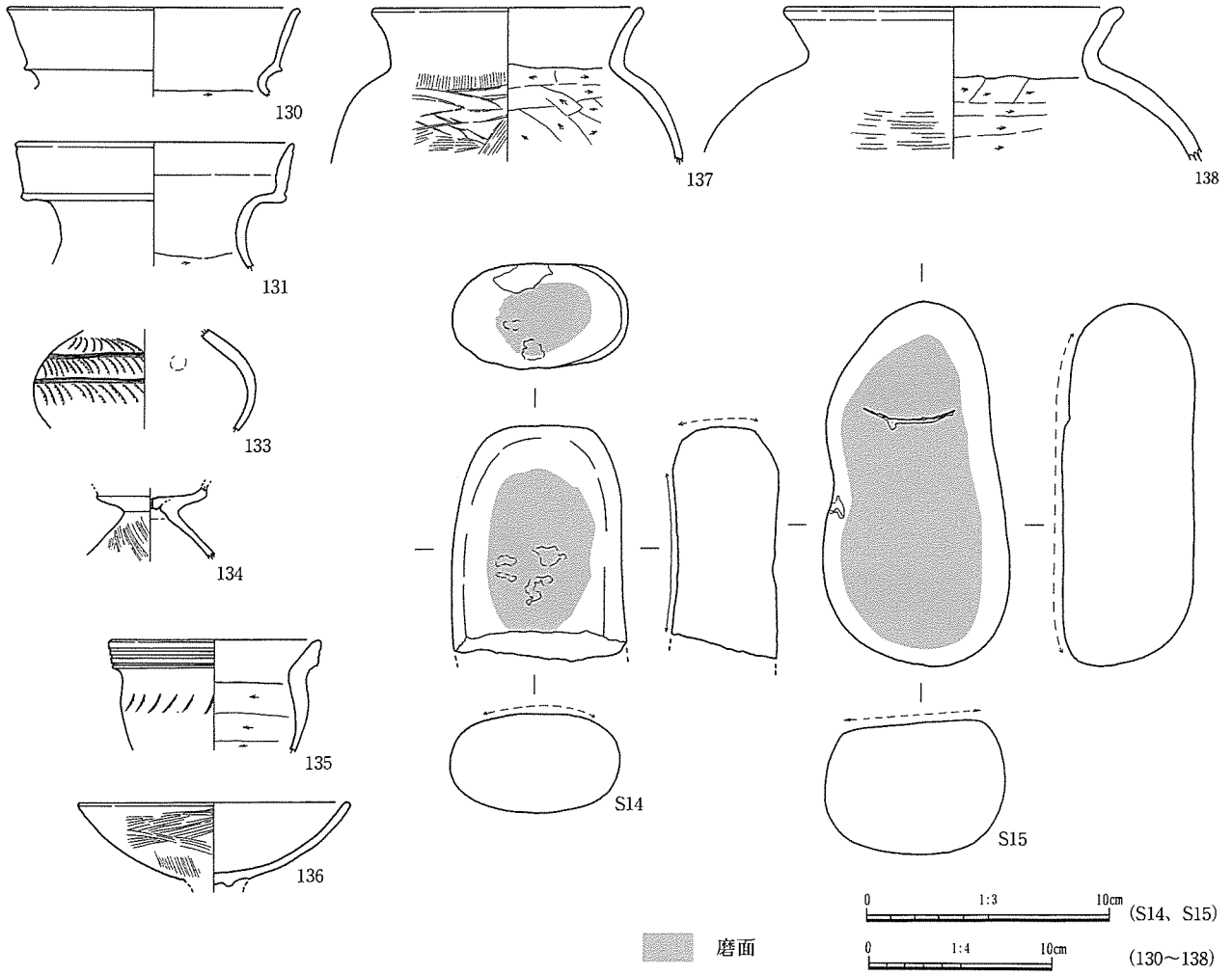


図33　竪穴住居11出土遺物（2）　埋土中出土遺物

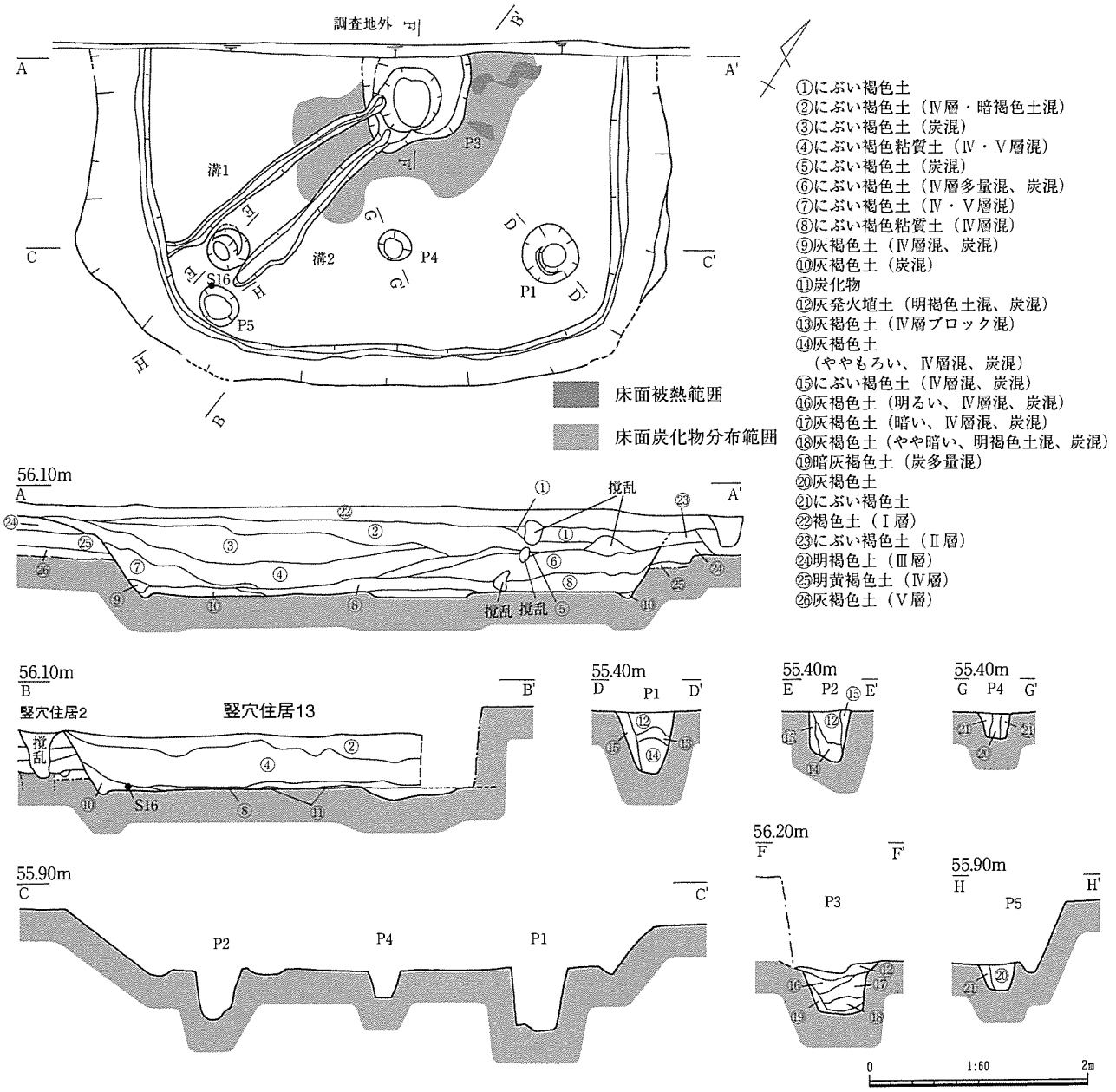


図34　竪穴住居12

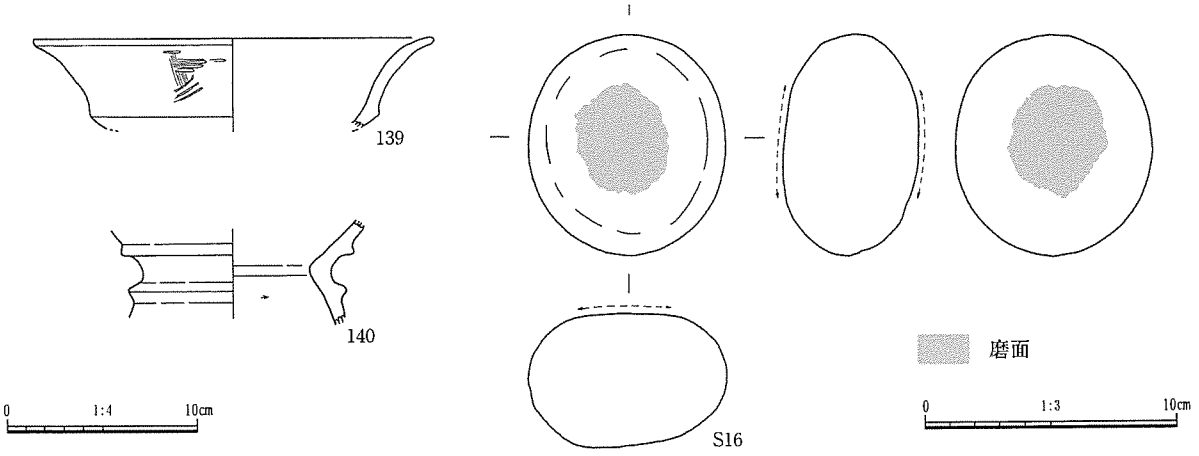


図35　竪穴住居12出土遺物

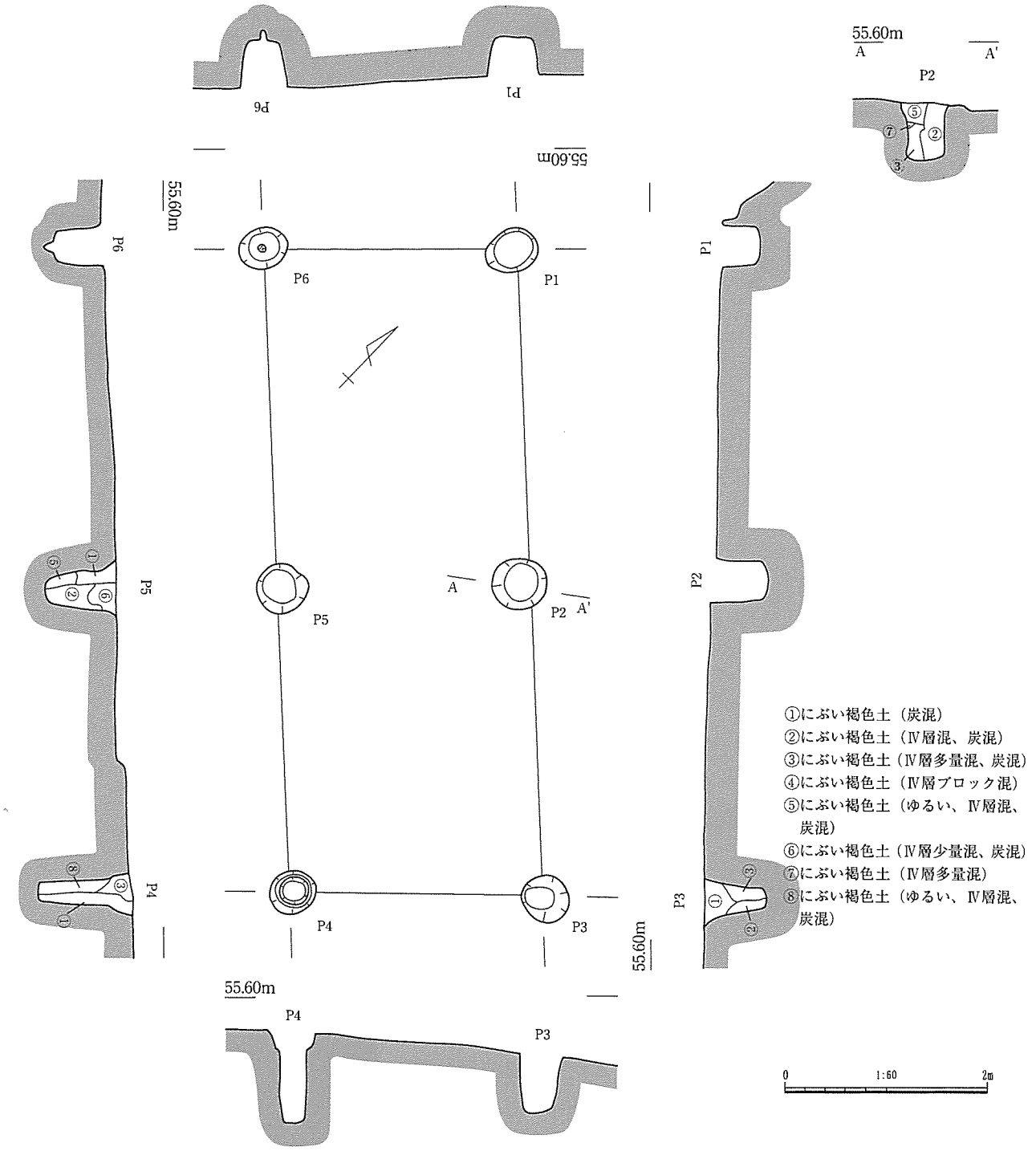
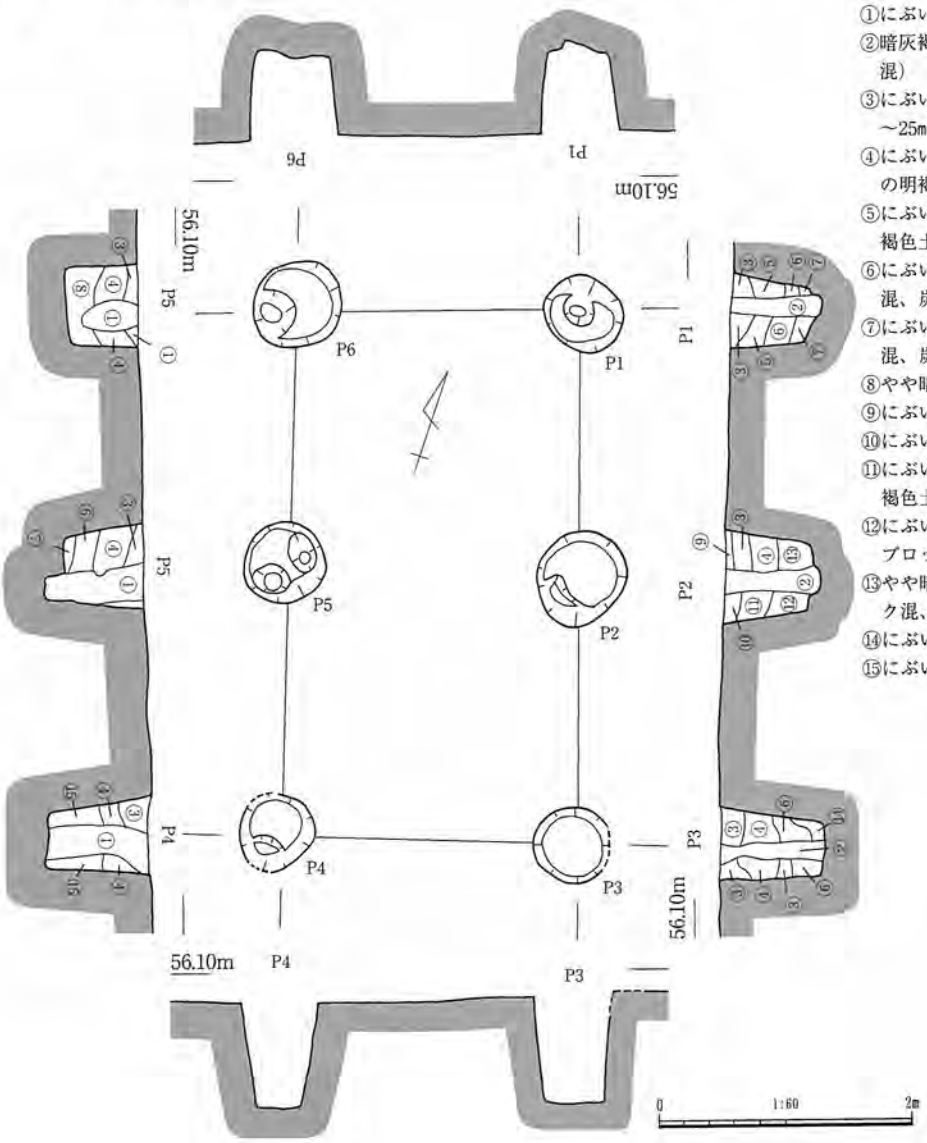


図36　掘立柱建物１

掘立柱建物３（図38、図版12）

調査地西側、台地平坦面上に位置する。１間×２間の掘立柱建物で、主軸はN－32°－Wである。建物の規模は桁行約3.0m、梁行約2.0mで、桁行方向の柱間距離は約1.3mである。ピット土層断面から判断して、直径17～22cmの柱材を使用したと推察される。Ｐ３の埋土④層から椀もしくは底部片と思われる厚さ2mmに満たない薄い器壁を持つ土器が出土したが、取り上げに際して粉化したため、図化できなかった。また、埋土中からは弥生時代終末期～古墳時代前期のものと思われる土器の小片が出土した。Ｐ２の埋土中からは土器片は数点出土しているが、小片のため図化できなかった。また、



①にぶい褐色土（もろい、明褐色土混、炭混）
②暗灰褐色土（もろい、明褐色土ブロック混、炭混）
③にぶい褐色土（ややゆるい、①より明るい、３～25㎜大の明褐色土ブロック多量混、炭混、）
④にぶい褐色土（しまる、①より明るい、３㎜大の明褐色土ブッロック混、炭混）
⑤にぶい褐色土（③より明るい、３～10㎜大の明褐色土ブロック混、炭混）
⑥にぶい褐色土（５～10㎜大の明褐色土ブロック混、炭混）
⑦にぶい褐色土（５～15㎜大の明褐色土ブロック混、炭混）
⑧やや暗い褐灰色土
⑨にぶい褐色土（炭少量混）
⑩にぶい褐色土（⑨より明るい、炭少量混）
⑪にぶい褐色土（⑨より明るい、５～10㎜大の明褐色土ブロック混、炭少量混）
⑫にぶい褐色土（④より暗い、３㎜大の明褐色土ブロック混、炭混）
⑬やや暗い褐色土（３～10㎜大の明褐色土ブロック混、炭混）
⑭にぶい褐色土（しまる）
⑮にぶい褐色土（明褐色土ブロック多量混）

図37　掘立柱建物２

Ｐ２・Ｐ３の埋土中からは桃核が各１点ずつ出土した。埋土の色調と、埋土中から出土した土器片などから、弥生時代終末期～古墳時代前期の遺構と思われる。　（小林）

掘立柱建物４（図39、図版12・13）

調査地中央やや北西側、台地平坦面上に位置する。梁行１間（2.79m）×桁行２間（4.14m）の建物跡である。主軸はＮ－47°－Ｗ、梁桁に囲まれる面積は約11.55㎡である。柱間距離は、梁行方向が2.67m～2.79m、桁行方向が2.01～2.12mである。Ｐ１、５、６掘方底面には径16～35㎝前後、底面からの深さ約６㎝～17㎝の柱当たりがみられる。この部分に硬化した部分はみられなかった。Ｐ１、４～６の土層断面では、径17㎝～23㎝前後の柱痕が観察される。柱痕は周囲の埋土より若干暗く、少量の炭化物を含む。柱痕周囲の埋土は淡く

掘立柱建物４　完掘状況（北東から）

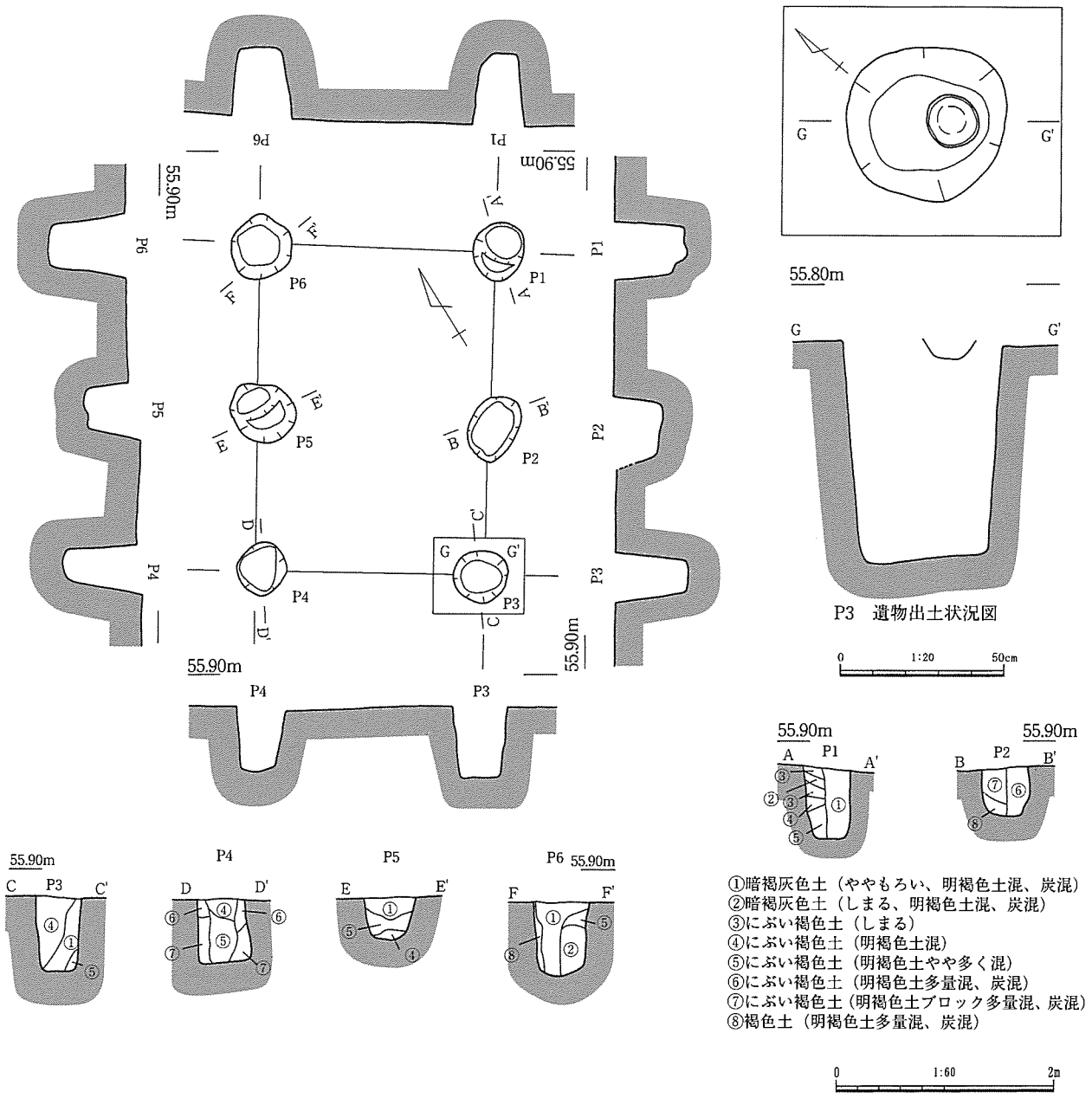


図38　掘立柱建物３

Ⅳ・Ⅴ層ブロックを多く含む。柱当たり底面での標高は55.33m～55.44mである。遺物は出土していない。時期を判断する根拠に欠けるが、同様の淡い埋土をもつ掘立柱建物３・６やピットから弥生時代終末期から古墳時代前期とみられる土器が出土していることからみて、弥生時代後期から古墳時代前期の時間幅に収まる遺構と想定される。（森本）

掘立柱建物５（図40、図版14）

調査地北東側、台地平坦面上に位置する。検出したのは１間×１間の建物跡であるが、南側もしくは東側の調査地外に建物が続いている可能性が高い。柱痕を特定するのは難しいが、柱間距離は概ね2.36m（Ｐ１－Ｐ２）、2.36m（Ｐ２－Ｐ３）、2.40m（Ｐ３－Ｐ４）2.31m（Ｐ４－Ｐ１）と思われる。底面の標高は56.07m～56.11mである。遺物は出土していない。淡い埋土の色調から判断して、弥生時代後期から古墳時代前期の時間幅に収まる遺構と想定される。（森本）

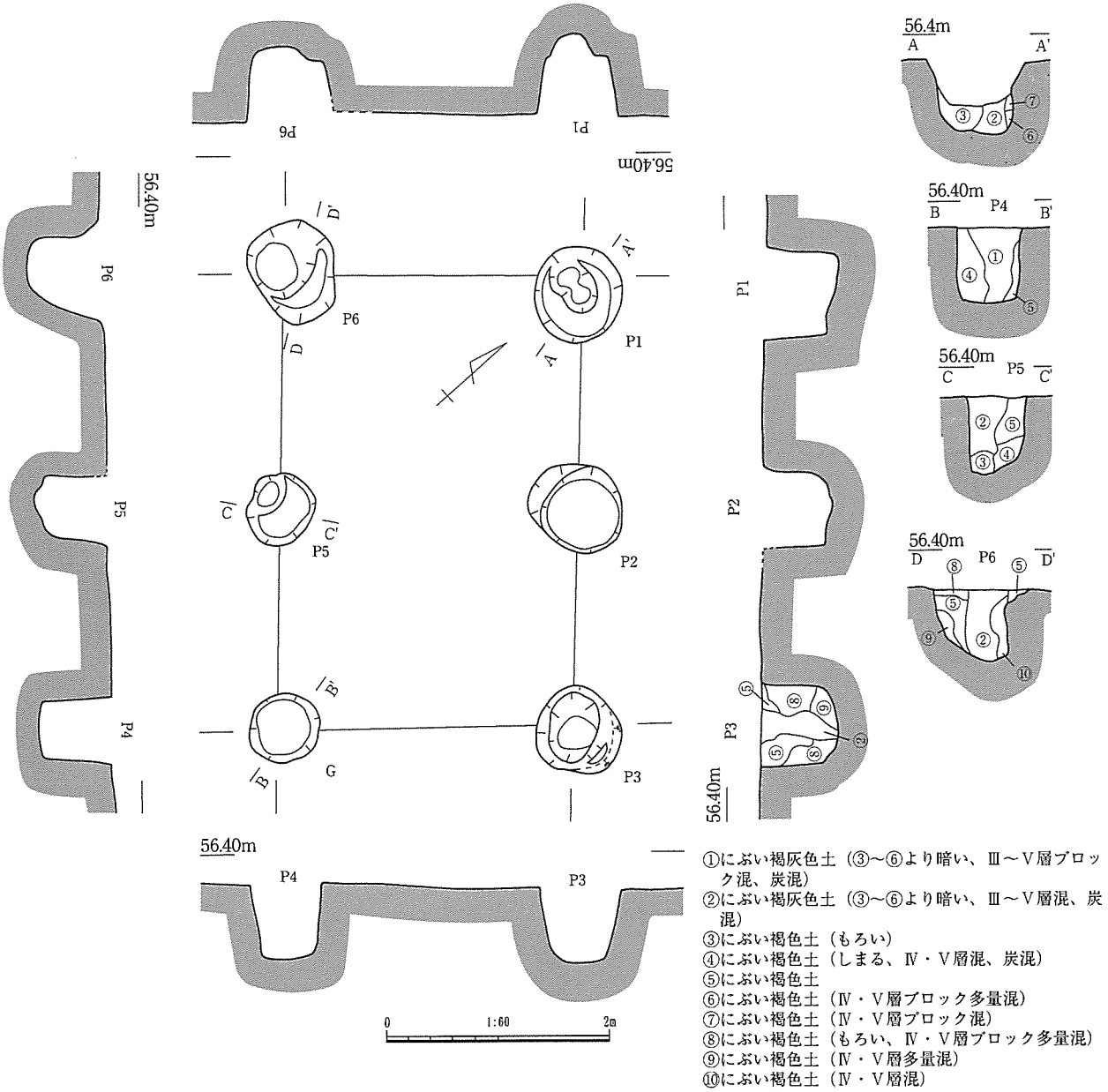


図39　掘立柱建物４

掘立柱建物６（図41・42、図版14）

調査地南側、台地平坦面上に位置する。梁行１間（2.9m）×桁行２間（4.8m）の建物跡である。北側は竪穴住居６・23に切られ、Ｐ１は竪穴住居23、Ｐ２・Ｐ６は竪穴住居６の床面に検出した。主軸はＮ－39°－Ｗ、梁桁に囲まれる面積は約13.9㎡である。柱間距離は、梁行方向が2.9m、桁行方向が2.3～2.4mである。Ｐ５掘方底面には径約11cm、底面からの深さ約７cmの柱当たりがみられる。土層断面では、柱当たり直上に径15cm前後の柱痕が観察される。柱痕は周囲の埋土より若干もろい。柱当たり底面での標高は55.46mである。Ｐ１～４、６底面の標高は55.50m～55.82mである。Ｐ３の土層断面では径20cm前後の柱痕が観察される。

Ｐ３③層に長径約33cm、短径約17cm、厚さ約17cmの礫が出土した。表面に使用痕は観察できない。礫の直下からは、甕の口縁部141が出土している。土器141と淡い埋土の色調から判断して、弥生時代終末期のものと想定している。（森本）

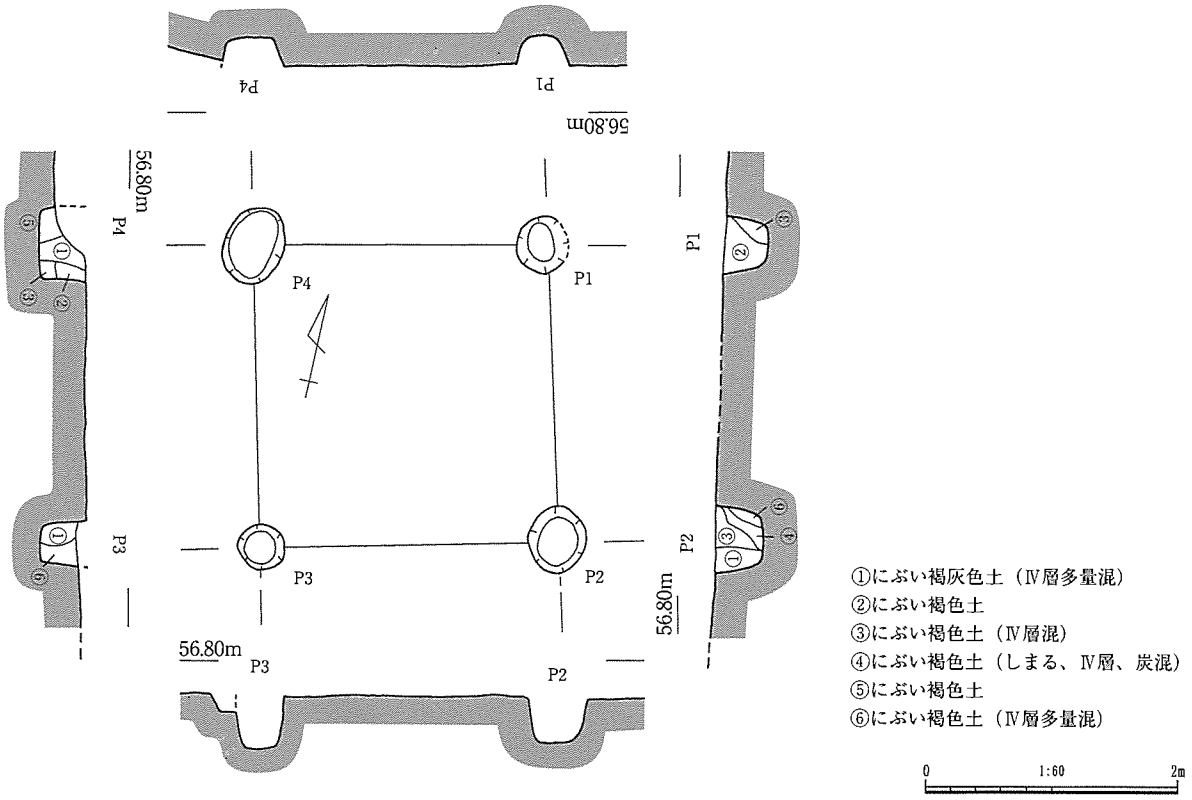


図40　掘立柱建物５

掘立柱建物７（図43）

調査地南側、台地平坦面上に位置する。梁行１間（2.2m）×桁行２間（3.5m）の建物跡である。北側は竪穴住居６に切られ、Ｐ１は竪穴住居６の床面に検出した。主軸はＮ－53°－Ｗである。梁桁に囲まれる面積は約7.7㎡である。柱間距離は、梁行方向が2.1m～2.2m、桁行方向が3.54mである。Ｐ２掘方底面には径約18cm、底面からの深さ約９cmの柱当たりがみられる。土層断面では、柱当たり直上に径15cm前後の柱痕が観察される。柱痕は周囲の埋土より若干もろく、わずかに炭化物が混じる。柱当たり底面での標高は55.61mである。Ｐ１・３～５掘方底面の標高は55.60m～55.83mである。遺物は出土していない。淡い埋土の色調から判断して、弥生時代後期から古墳時代前期の時間幅に収まる遺構と想定される。（森本）

掘立柱建物８（図44）

調査地南側、台地平坦面上に位置する。梁行１間（2.1m）、桁行２間（3.3m）の建物跡である。主軸はＮ－７°－Ｅ、梁桁に囲まれる面積は約6.9㎡である。柱間距離は、梁行方向が2.1m、桁行方向が3.2m～3.3mである。Ｐ４掘方底面には径約20cm、底面からの深さ約４cmの柱当たりがみられる。土層断面では、柱当たり直上に径13cm前後の柱痕が観察される。柱当たり底面での標高は56.00mである。他のピットの掘方底面の標高は55.60m～55.92mである。Ｐ５埋土中より、甕の口縁部142が出土している。

土器142と淡い埋土の色調から判断して、弥生時代後期から古墳時代前期の時間幅に収まる遺構と想定される。（森本）

土坑１（図45、図版14）

調査地南西端、台地の縁辺部分に位置する。長軸120cmで、平面形はいびつな隅丸方形を呈する。

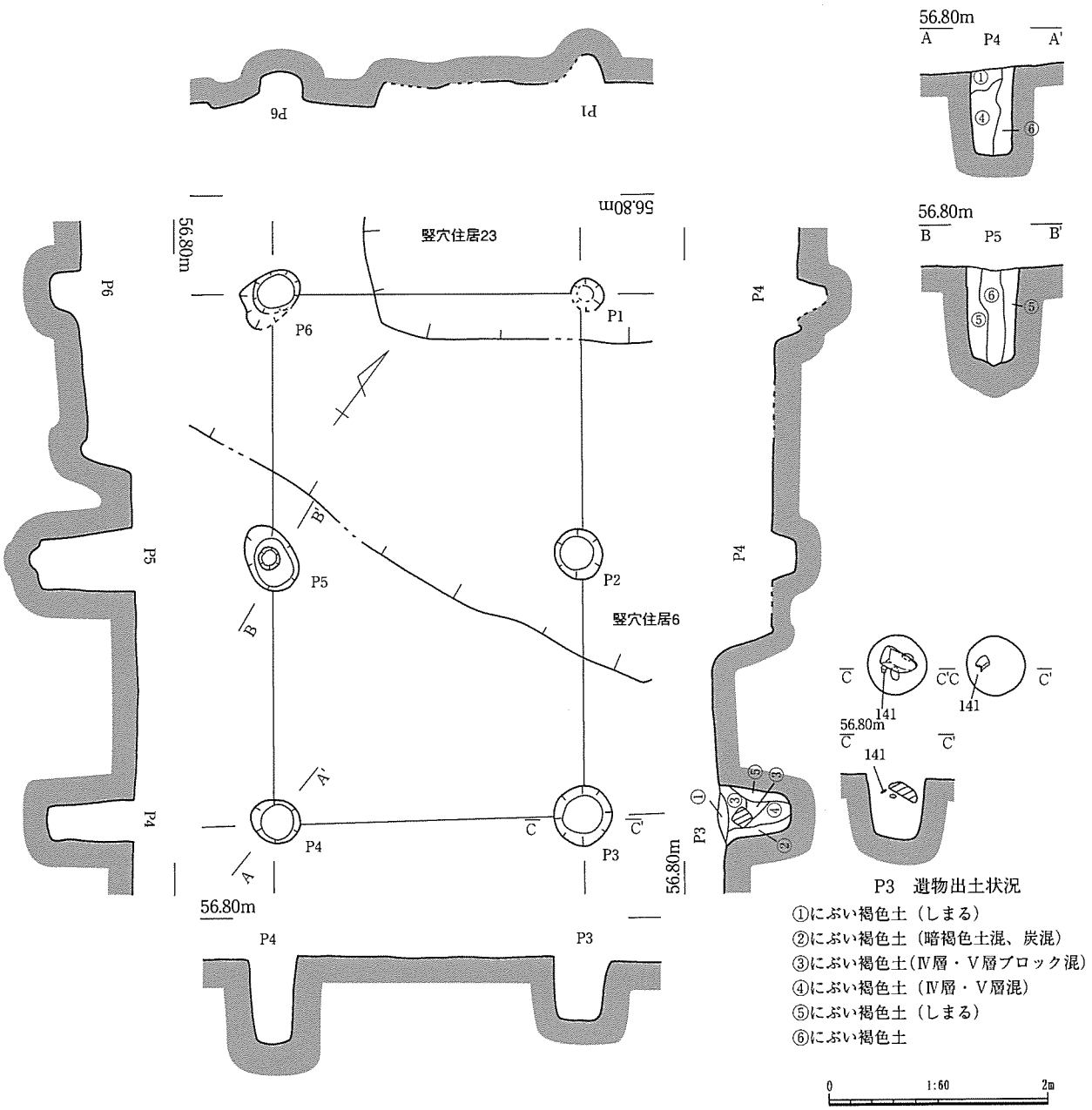


図41　掘立柱建物６

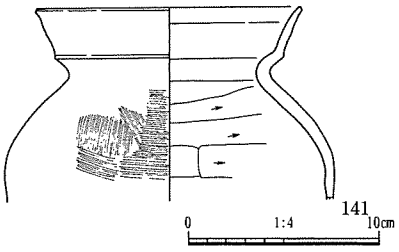
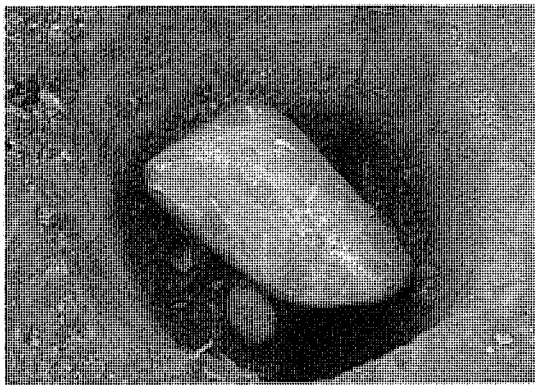


図42　掘立柱建物６出土遺物



掘立柱建物６　P3　遺物出土状況

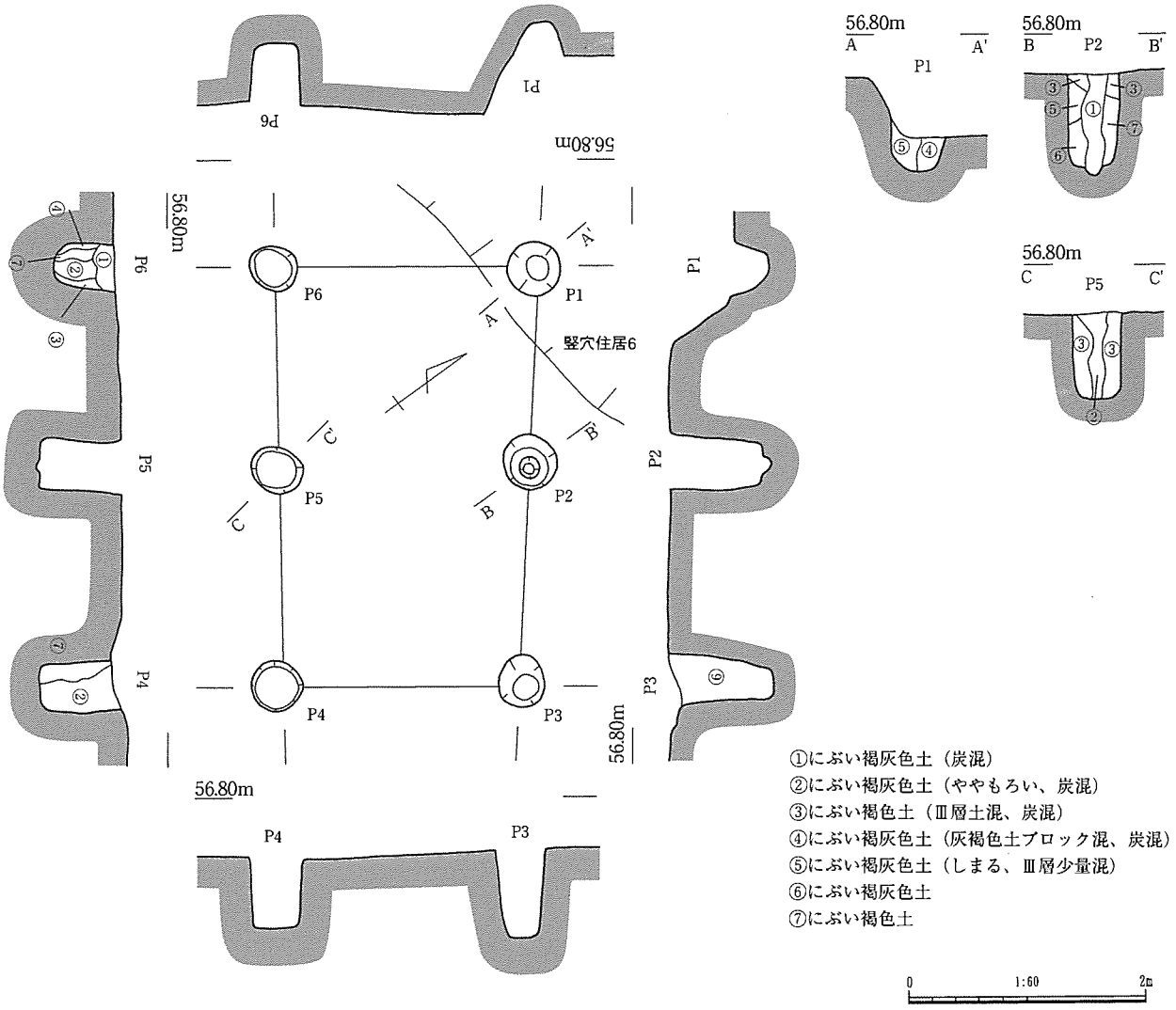


図43　掘立柱建物７

深さは最大で24cmである。断面形は逆台形を呈する。遺物は出土していない　（小林）

土坑５（図46）

調査地南西部の縁辺寄りに位置する。平面形は長軸105cm、短軸86cmの楕円形を呈する。深さは最大で36cmである。断面形は逆台形を呈し、埋土は灰褐色土である。底面直上からは壺口縁143が出土した。出土遺物から弥生時代後期の遺構と考えられる。　（小林）

土坑８（図47、図版14）

調査地東側に位置する。平面形は長軸89cm、短軸76cmの円形を呈する。深さは最大で82cmである。断面形はやや袋状を呈する。埋土には炭を少量含む。遺物は出土していない。　（小林）

土坑９（図48）

調査地南東端、台地平坦面上に位置する。平面形は長軸65cmの隅丸方形とみられる。深さは最大17cmで、断面形は逆台形である。埋土に炭化物を含む。竪穴３に北側を切られる。埋土中からは高坏の杯部片144が出土した。　（小林）

溝１（図51、図版14）

調査地ほぼ中央に位置する。検出面の幅は約43cm～約100cm、検出面からの深さは約10cm～12cmで

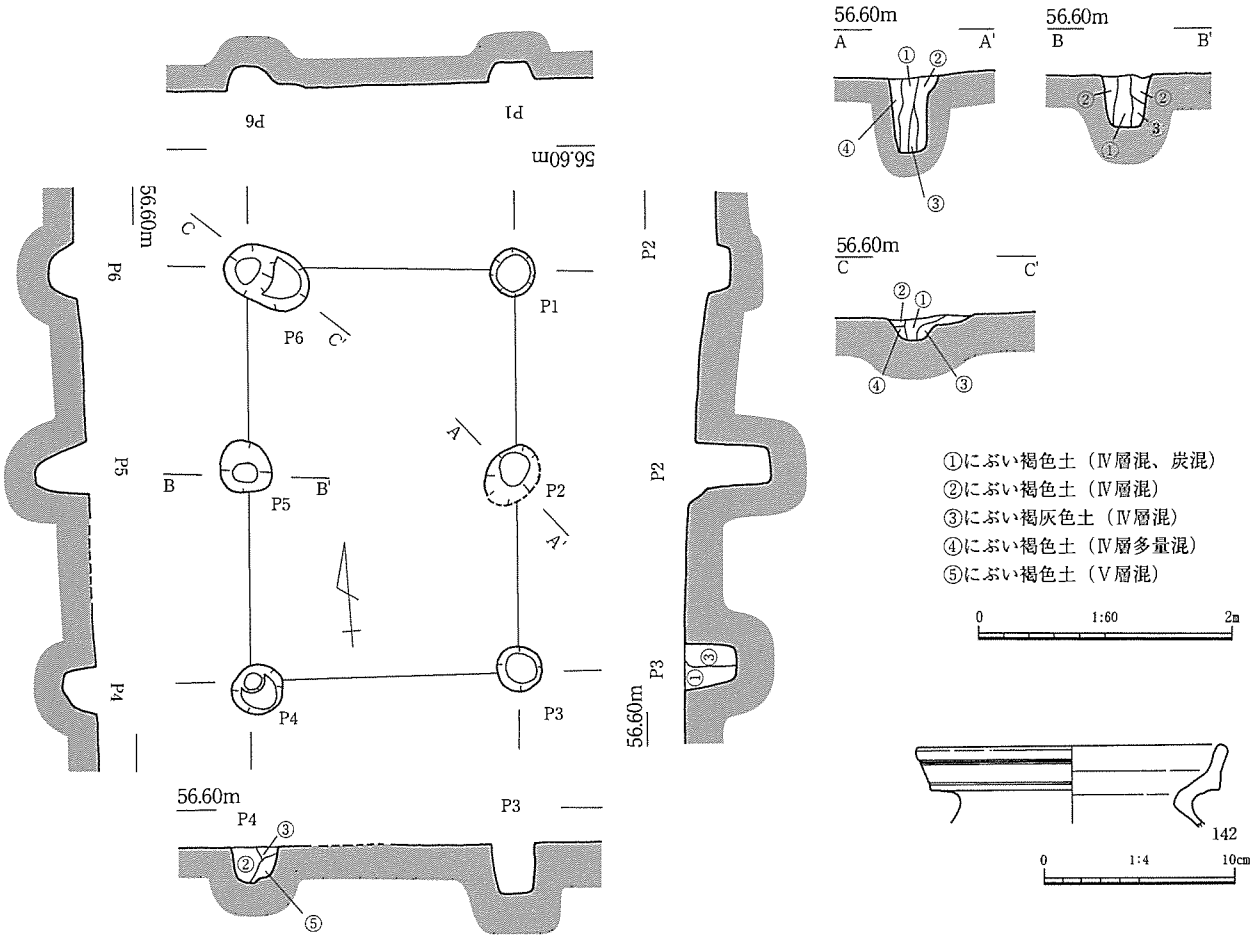


図44　掘立柱建物８および出土遺物

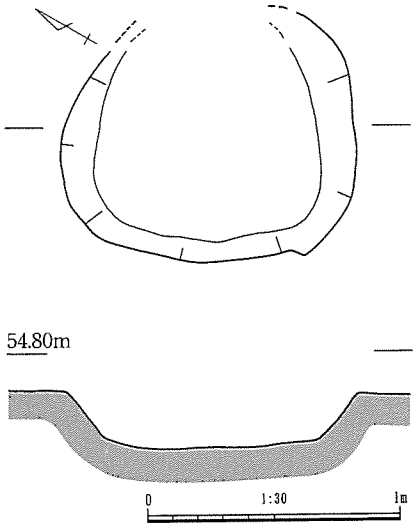


図45　土坑１

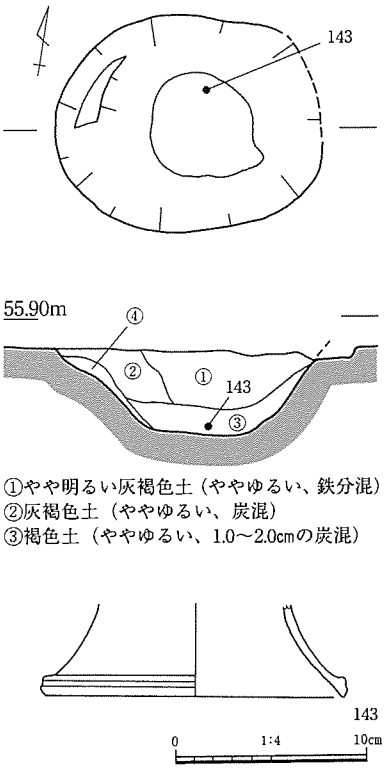


図46　土坑５および出土遺物

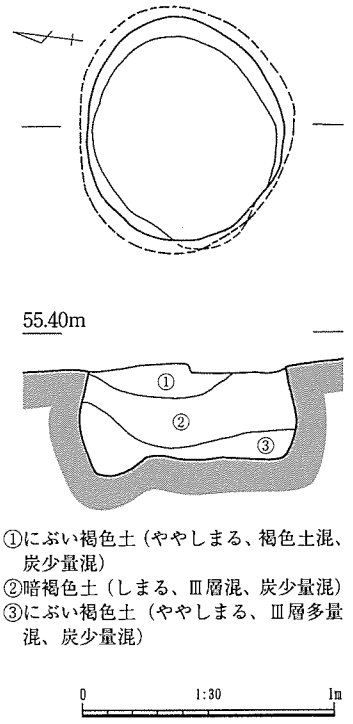


図47　土坑８

ある。底面の標高は南東側で55.9m、北西側で55.7mである。底面直上より脚部145が出土した。弥生時代終末期もしくは古墳時代前期の遺構と推察する。（森本）

ピット（図７・50、表１・２）

調査地内から掘立柱建物跡として認識できないピットが約660個出土した。これらの埋土は大別して暗褐色土とにぶい褐色土に分かれる。にぶい褐色土はⅢ～Ⅴ層の地山ブロックを多量に含む淡い色調である。このうちにぶい褐色土の埋土のピットから出土した遺物は弥生時代後期から古墳時代初頭の土器である。対して暗褐色土のピットからは古墳時代後半期の土器が出土している。このためピット埋土の色調の差は掘削された時期の差と判断した。中には判断を躊躇するものも

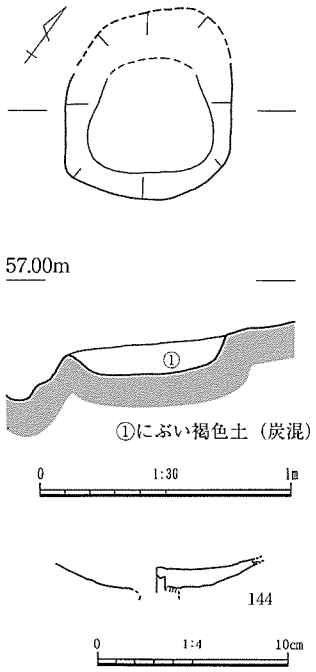


図48　土坑９および出土遺物

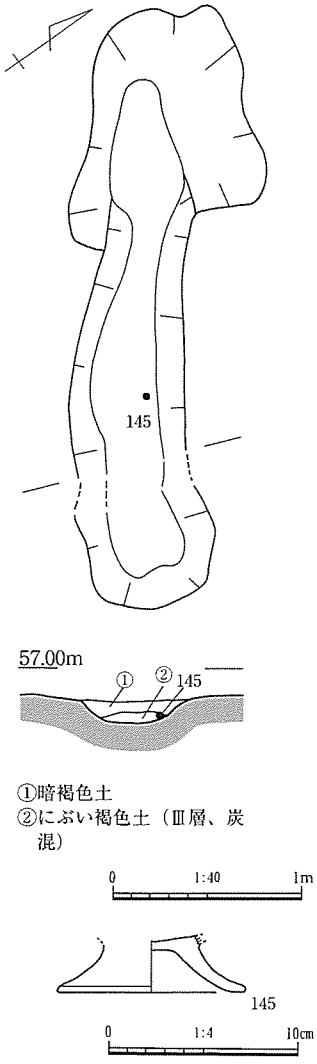


図49　溝１および出土遺物

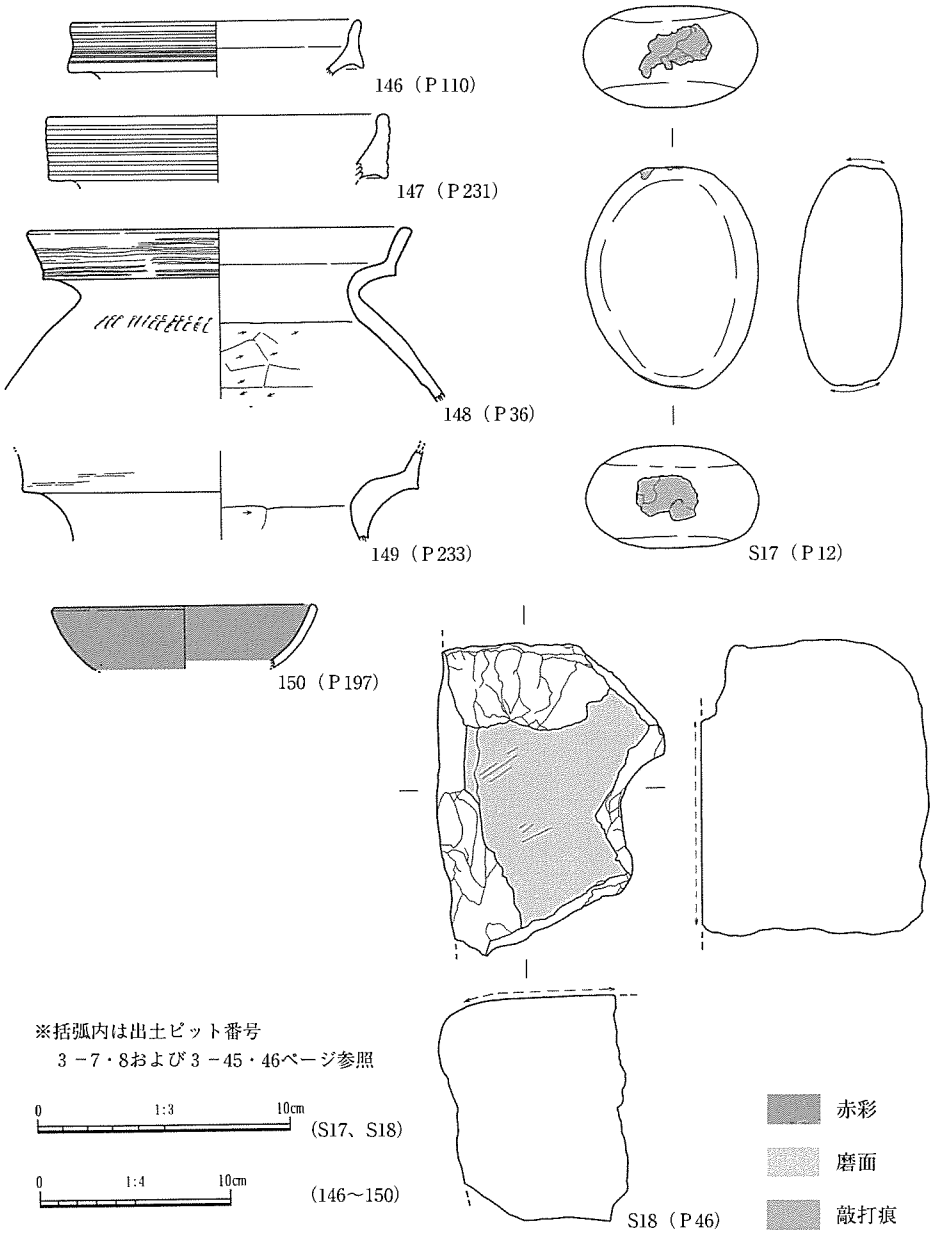


図50　ピット出土遺物（1）

ありすべてが厳密に時期比定出来るわけではないので、誤差は発生するものと思われる。判断に迷うものや土色記載漏れのピットについては弥生時代から古墳時代前期の項目に含めて扱った。

（岡野）

表１　ピット計測表

P No.	長径×短径	深さ(cm)	底面の標高(m)	土色・備考
P1	19×16	12	54.66	にぶい褐色土(炭混)
P3	34×32	68	54.35	―
P4	38×37	42	54.64	にぶい褐色土(炭混)
P5	27×26	71	54.51	にぶい褐色土
P6	26×24	34	54.38	―
P7	30×28	17	54.81	灰褐色土(Ⅲ層ブロック混)
P8	38×30	48	54.73	にぶい褐色土(炭混)
P9	28×25	56	55.03	―
P10	44×42	65	54.51	にぶい褐色土(炭混)
P11	44×34	34	54.88	にぶい褐色土(炭混)
P12	30×28	55	54.80	にぶい褐色土(炭混)
P13	23×16	44	54.99	―
P14	36×30	28	55.22	にぶい褐色土(炭混)
P15	56×34	59	55.06	にぶい褐色土
P16	30×28	17	55.28	にぶい褐色土(炭混)
P17	80×58	41	55.12	にぶい褐色土(炭混)
P18	42×29	34	55.21	―
P19	28×23	13	55.47	にぶい褐色土(炭混)
P20	38×34	41	55.23	にぶい褐色土(炭混)
P21	52×50	89	54.71	にぶい褐色土(炭混)
P22	44×42	57	54.15	にぶい褐色土(炭混)
P23	42×41	48	55.26	にぶい褐色土(炭混)
P24	30×27	31	55.43	―
P25	52×47	49	55.28	にぶい褐色土(炭混)
P26	76×56	99	54.77	にぶい褐色土(Ⅲ層ブロック混、炭混)
P27	34×28	―	―	にぶい褐色土(Ⅲ層ブロック混、炭混)
P28	50×46	―	―	にぶい褐色土(Ⅲ層ブロック混、炭混)
P29	35×30	37	55.27	―
P30	38×36	43	55.17	にぶい褐色土(Ⅲ層ブロック混、炭混)
P31	32×28	29	55.29	にぶい褐色土(炭混)
P32	66×56	41	55.14	にぶい褐色土(炭混)
P33	58×49	44	54.97	にぶい褐色土(炭混)
P34	53×48	24	55.27	にぶい褐色土(炭混)
P35	42×32	59	54.97	―
P36	38×33	45	55.12	にぶい褐色土(Ⅲ層ブロック混、炭混)
P37	42×36	70	54.90	にぶい褐色土
P38	36×35	29	55.34	―
P39	24×19	9	55.55	にぶい褐色土
P40	26×24	27	55.35	にぶい褐色土
P41	32×38	31	55.31	にぶい褐色土
P42	32×25	34	55.28	にぶい褐色土
P43	63×46	95	54.64	にぶい褐色土
P44	67×50	56	54.91	にぶい褐色土(ややゆるい、Ⅲ層混、炭混)
P45	48×26	15	55.33	にぶい褐色土
P46	72×57	50	55.10	褐色土(ややもろい、Ⅲ層ブロック混)
P47	34×27	19	55.31	―
P48	45×35	31	55.20	にぶい褐色土(Ⅲ層ブロック混、炭混)
P49	68×60	45	55.15	―
P50	24×20	20	55.52	―
P51	40×38	22	55.50	―
P52	30×25	43	55.33	にぶい褐色土
P53	18×17	20	55.56	―
P54	20×18	19	55.60	―
P55	25×22	14	55.55	―
P56	78×50	26	55.55	―
P57	22×18	21	55.64	―
P58	22×16	10	55.58	―
P59	37×31	69	55.23	―
P60	46×39	20	55.70	―
P61	67×63	66	55.32	にぶい褐灰色土(しまる、Ⅲ層ブロック混)
P62	46×42	38	55.59	にぶい褐色土
P63	32×31	50	55.44	―
P64	49×34	36	55.61	―
P65	53×47	23	55.80	にぶい褐色土(Ⅲ層ブロック混、炭混)
P66	40×36	48	55.44	にぶい褐色土(Ⅲ層ブロック混、炭混)
P67	23×16	24	55.84	にぶい褐色土(Ⅲ層ブロック混、炭混)
P68	26×25	13	55.88	にぶい褐色土(炭混)
P69	16×14	16	55.88	―
P70	21×15	11	55.96	―
P71	16×15	29	55.79	―
P72	22×20	26	55.76	―
P73	37×33	49	55.60	にぶい褐色土(Ⅳ層混、炭混)
P74	37×33	42	55.70	にぶい褐色土(Ⅳ層混)
P75	25×22	40	55.78	にぶい褐色土
P76	79×46	28	56.02	にぶい褐色土
P77	48×44	35	55.99	にぶい褐色土
P78	40×34	29	56.04	にぶい褐色土
P79	63	15	56.12	にぶい褐色土(Ⅳ層混)
P80	56×50	72	55.65	にぶい褐色土
P81	64×54	78	55.64	にぶい褐色土
P82	50×45	86	55.73	―
P83	30	―	―	にぶい褐色土(炭混)
P84	42×30	33	56.32	にぶい褐色土
P85	38×34	35	56.23	にぶい褐色土
P86	72×52	30	56.18	にぶい褐色土
P87	38×33	22	56.32	―
P88	25	10	56.19	―
P89	36	17	56.04	―
P90	34×28	33	55.86	―
P91	38×28	55	55.63	―

表２　ピット計測表

P No.	長径×短径	深さ(cm)	底面の標高(m)	土色・備考
P92	44×36	52	55.47	―
P93	28×22	32	55.69	―
P94	24×23	10	56.03	―
P95	31×20	36	55.77	―
P96	27×19	17	55.97	―
P97	30×25	―	―	―
P98	34×29	73	55.37	にぶい褐色土(Ⅲ層土ブロック混)
P99	24×21	38	55.70	―
P100	74×68	70	55.36	にぶい褐色土(Ⅲ層土ブロック混)
P101	41×39	55	55.43	―
P102	35×33	23	55.82	にぶい褐色土
P103	35×27	30	55.65	にぶい褐色土
P104	28×22	33	55.47	―
P105	34×28	28	55.47	にぶい褐色土
P106	62×56	67	55.11	―
P107	31×29	18	55.55	にぶい褐色土(炭混)
P108	37×36	44	55.28	にぶい褐色土(Ⅲ層土ブロック混)
P109	36×31	26	55.53	―
P110	39×34	66	55.12	にぶい褐色土
P111	44×33	43	55.43	にぶい褐色土(Ⅲ層土ブロック混、炭混)
P112	28×26	19	55.69	にぶい褐色土
P113	44×38	18	55.75	にぶい褐色土
P114	32×27	15	55.62	―
P115	39×28	41	55.57	―
P116	23×19	44	55.65	―
P117	35×29	16	55.96	―
P118	31×22	12	55.98	―
P119	31×24	68	55.42	―
P120	34×32	36	55.76	―
P121	29×28	18	55.96	―
P122	34×31	43	56.20	にぶい褐灰色土(Ⅴ層ブロック混、炭混)
P123	26×25	11	56.05	にぶい褐色土(Ⅲ層土ブロック混)
P124	38×34	48	55.09	褐色土(にぶい褐色土混)
P125	33×30	40	55.75	にぶい褐色土
P126	22×19	43	55.74	―
P127	41×38	37	55.76	―
P128	34×33	47	55.72	―
P129	46×43	36	55.87	にぶい褐色土
P130	26×25	35	55.47	にぶい褐色土
P131	23×21	46	55.85	にぶい褐色土
P132	25×24	63	55.38	―
P133	60×53	84	55.30	にぶい褐色土(Ⅲ層土混)
P134	28×26	23	55.91	―
P135	46×40	85	55.32	にぶい褐色土
P136	19×17	33	55.80	―
P137	42×36	41	55.74	―
P138	23×20	32	55.89	にぶい褐色土
P139	32×24	14	55.80	―
P140	33×30	26	55.66	灰褐色土
P141	36×26	25	55.66	―
P142	36×32	27	55.56	にぶい褐色土
P143	36×34	19	55.67	―
P144	35×33	22	55.63	にぶい褐色土
P145	33×30	34	55.47	にぶい褐色土
P146	30×26	26	55.56	にぶい褐色土
P147	43×40	23	55.60	―
P148	36×34	37	55.49	にぶい褐色土
P149	44×40	47	55.39	にぶい褐色土
P150	23×22	20	55.65	にぶい褐色土
P151	33×31	27	55.58	にぶい褐色土
P152	28×23	39	55.25	にぶい褐色土
P153	44×34	30	55.45	にぶい褐色土
P154	34×30	30	55.55	―
P155	49×38	53	55.54	にぶい褐色土(Ⅲ層土ブロック混、炭混)
P156	49×36	13	55.63	―
P157	38×35	56	55.41	にぶい褐色土
P158	50×44	56	55.39	にぶい褐色土
P159	24×22	46	55.56	にぶい褐色土
P160	32×30	53	55.52	にぶい褐色土
P161	42×37	44	55.58	にぶい褐色土
P162	40×33	33	55.67	にぶい褐色土
P163	35×34	33	55.73	にぶい褐色土
P164	21×19	10	56.07	にぶい褐色土
P165	19×18	25	55.94	にぶい褐色土
P166	85	27	55.90	にぶい褐色土
P167	23×18	22	56.20	―
P168	40×39	74	55.71	―
P169	50×40	66	55.81	―
P170	24×19	48	56.09	―
P171	25×23	46	56.10	褐灰色土
P172	29×28	40	56.17	褐灰色土
P173	34×27	44	56.13	―
P174	20×18	23	56.39	―
P175	34×30	73	55.90	にぶい褐灰色土(Ⅴ層ブロック混、炭混)
P176	40×31	43	56.24	にぶい褐色土
P177	22×20	16	56.50	―
P178	39×34	55	56.11	にぶい褐灰色土(Ⅴ層ブロック混　炭混)
P179	33×32	69	55.94	―
P180	24×22	64	56.01	―
P181	22×21	56	56.09	―
P182	39×32	63	56.04	にぶい褐色土
P183	25×23	16	56.46	―
P184	29×24	26	56.40	―
P185	28×24	41	56.25	にぶい褐色土
P186	23×22	16	56.49	―
P187	30×26	38	56.26	にぶい褐色土
P188	35×31	74	55.87	にぶい褐色土
P189	25×23	21	56.38	―
P190	31×29	43	56.15	にぶい褐色土
P191	25×22	17	56.43	―
P192	23×22	66	55.97	―
P193	23×20	39	56.19	にぶい褐色土
P194	28×26	59	55.99	にぶい褐色土
P195	24×21	41	56.18	―
P196	26×19	22	56.42	―
P197	61×52	22	56.32	―
P198	32×31	59	55.88	にぶい褐色土
P199	35×34	57	56.07	―
P200	25×24	74	55.95	―
P201	29×26	23	56.38	―
P202	38×26	33	55.28	にぶい褐色土
P203	68×40	33	55.23	にぶい褐色土
P204	28×23	45	55.54	にぶい褐色土
P205	32×31	45	55.58	にぶい褐色土
P206	30×29	26	55.38	にぶい褐色土
P207	36×31	28	55.03	にぶい褐色土
P208	23×21	16	55.11	にぶい褐色土
P209	37×30	38	55.22	にぶい褐色土
P210	23×19	13	55.15	にぶい褐色土
P211	43×23	41	54.88	にぶい褐色土
P212	36×28	19	55.32	にぶい褐色土
P213	21×17	32	55.37	にぶい褐色土
P214	31×28	16	55.43	にぶい褐色土
P215	23×19	11	55.78	にぶい褐色土
P216	28×25	13	55.74	にぶい褐色土
P217	43×36	60	55.21	にぶい褐色土
P218	37×31	51	56.44	にぶい褐色土
P219	53×44	49	55.39	にぶい褐色土
P220	83	76	55.55	にぶい褐色土

第３節　古墳時代中期から後期の調査

１．概要

古墳時代中期後葉から後期後葉にかけての竪穴住居22棟、竪穴８棟、掘立柱建物跡２棟を検出した。すべて方形の平面をもつ。遺構は調査区ほぼ全面に分布するが、大きく５時期に分かれる。古墳時代中期後葉１棟、中期末６棟、後期前葉６棟、後期中葉10棟、後期後葉１棟である。床面に柱穴をもたない方形の遺構は、後期前葉から中葉にみられるが、適当な名称がないため竪穴住居との構造上の違いを重視し竪穴と称した。中期後葉から後期の住居跡は茶畑第１遺跡で１棟、押平尾無遺跡で１棟が検出されている（表３）。

上屋が焼失した竪穴住居を３棟、竪穴を１棟検出した。うち竪穴住居22･23からは多量の焼土･炭化材が出土した。焼土は住居周辺部に比較的厚く堆積する。小屋組の大半は丸太材とみられるが、側壁に沿って厚さ約３cmの板材が２枚出土し入口施設の一部と思われる。ともに焼土と炭化材の層位的関係からみてから上屋構造に土が使用されていた可能性がある。炭化材の樹種同定からは多様な木材を使用していたことが分かった。

竪穴住居27および竪穴４の覆土中からは短期間に投棄したと思われる一括性の高い土器が出土した。このうち竪穴４から須恵器の樽形瑞が出土した。後期中葉の住居跡は、南東側壁直下の床面に断面斜坑状のピットをもつ。埋土の堆積状況や形態からみて上屋構造の支柱とはみられない。周辺の床面は低く窪んでおり土器が出土することが多い。古墳時代前期から後期に至る住居跡では住居一辺の中央付近にピットや土坑状の掘り込みをもつものが多いが、断面斜坑状のピットもこうしたバリエーションの一つと考えられる。

古墳時代中期から後期の住居跡の覆土は、弥生時代後期から古墳時代前期の住居覆土より若干暗い。上層には自然堆積とみられる暗褐色土がレンズ状に堆積する。このため調査に際しては最上層の暗褐色土、床面出土遺物、その他の覆土中出土遺物のおおむね３種類に大別し遺物取り上げを行った。

古墳時代中期から後期に比定しうる掘立柱建物は掘立柱建物９・10の２棟のみである。いずれも小型の建物で、台形の縁辺部に位置する。こうした竪穴住居とのアンバランスについては今後検討してゆく必要がある。

２．遺構の調査

竪穴住居13（図52･53、図版５・６）

調査地南側で検出した。床面では長軸5.7m、短軸5.2mの平面方形の住居跡である。北西側は竪穴住居23に切られており床面は残存しない。壁面の高さは南側で約63cmである。床面での標高は約56m

表３　古墳時代遺構消長表

	古墳時代									
	前期前葉	前期中葉	前期後葉	中期前葉	中期中葉	中期後葉（1期）	中期末（2期）	後期前葉（3期）	後期中葉（4期）	後期後葉（5期）
茶畑六反田遺跡										
茶畑第1遺跡	2	1							1	
押平尾無遺跡	4			1		1	1			
古御堂笹尾山遺跡			1			1	6	6	10	1
古御堂新林遺跡										

※数値は竪穴住居および竪穴の棟数

図51　遺構全体図（古墳時代中期～後期）

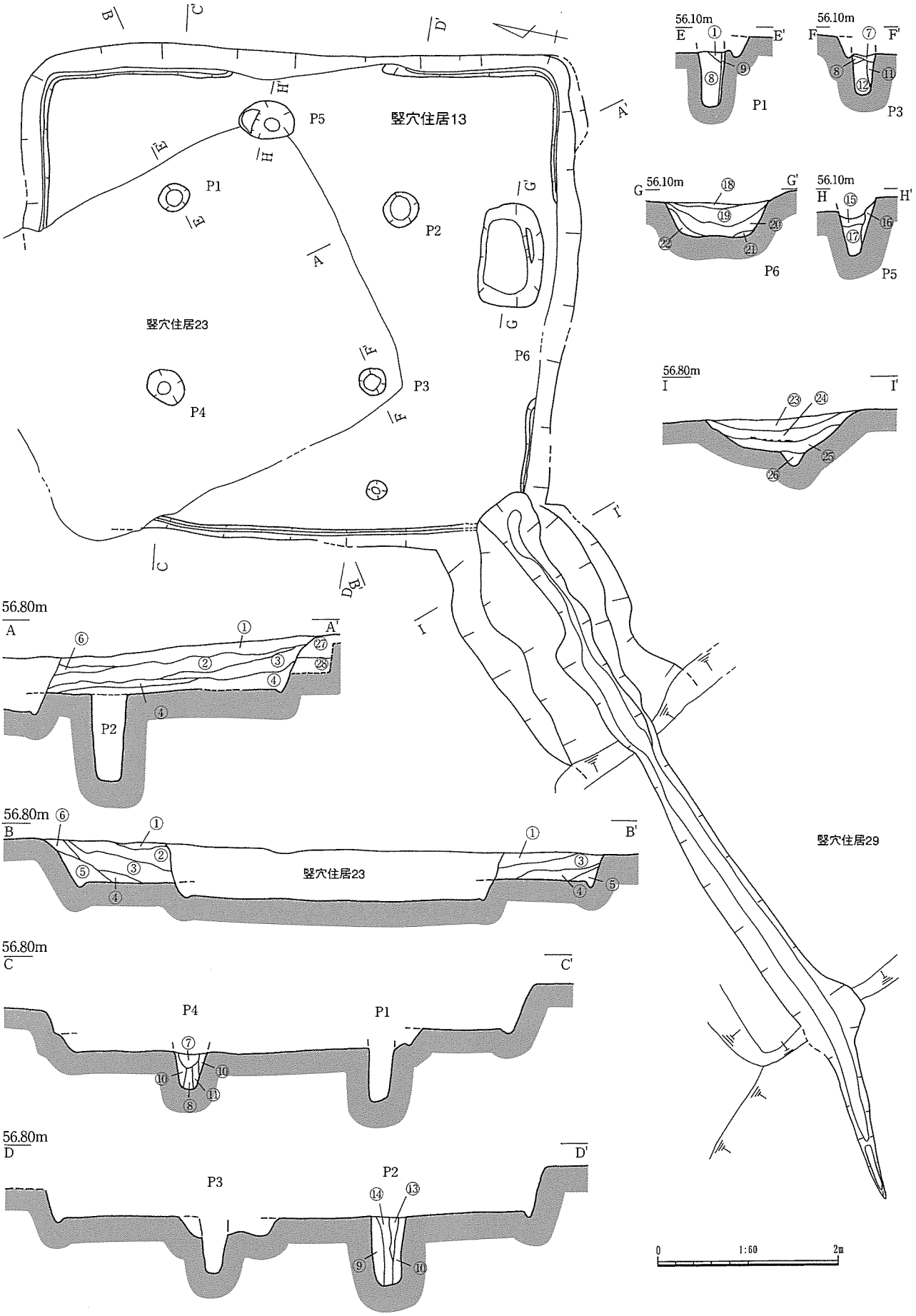


図52　竪穴住居13

①暗褐色土
②暗褐色土（土器・炭混）
③にぶい褐色土（明褐色土混）
④にぶい褐色土（明褐色土多量混）
⑤暗褐色土
⑥にぶい褐色土
⑦褐色土（Ⅲ層混、炭少量混）
⑧暗褐色土（ゆるい、褐色土混、炭少量混）
⑨褐色土（暗褐色土、炭少量混）
⑩褐色土（暗褐色土ブロック多量混、炭少量混）
⑪にぶい褐色土（しまりあり、暗褐色土・Ⅲ層ブロック混、炭混）
⑫暗灰褐色土（しまる、Ⅲ層ブロック多量混、炭少量混）
⑬暗灰褐色土（ややゆるい、Ⅲ層混、炭混）
⑭褐色土（しまる、暗褐色土混、炭少量混）
⑮暗褐色土（ゆるい、褐色土混、炭少量混）
⑯褐色土（ややゆるい、炭少量混）
⑰暗褐色土（ややゆるい、褐色土ブロック多量混、炭少量混）
⑱にぶい褐色土（しまる、暗褐色土混、炭混）
⑲にぶい褐色土（しまる、Ⅲ層ブロック混、炭混）
⑳暗褐色土（しまる、Ⅲ層ブロック混、炭多量混）
㉑明褐色土（しまる、暗褐色土混）
㉒暗褐色土（しまる、Ⅲ層ブロック多量混）
㉓にぶい褐色土（褐色土ブロック少量混）
㉔暗褐色土（10㎜～30㎜の炭多量混）
㉕にぶい褐色土（10㎜～30㎜の炭少量混）
㉖にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック混）

竪穴住居13土色

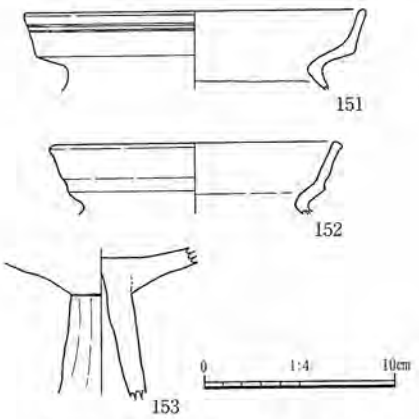


図53　竪穴住居13出土遺物

である。おおむね27㎡程度の床面積が想定される。床面では周壁溝のほか、主柱とみられるＰ１～Ｐ４、およびＰ５、Ｐ６を検出した。覆土下層はにぶい褐色、上層は暗褐色を呈する。南西隅部から台地縁辺部の斜面に向かい溝を検出した。一部は竪穴住居29に切られる。検出面での幅は1.3～1.8m、長さ約8.9mである。底部の一部は幅25cm～45cmにわたり溝状に窪む。溝底での標高は住居床面付近から台地縁辺部側端部までおおむね55.8m～55.9mであり高低差はみられない。溝の埋土は暗褐色を呈し、Ｉ－Ｉ′ライン付近では㉔層上面に炭化物を多量に包含する薄い層がみられる。床面出土遺物はない。覆土中から土器151～153が出土した。152、153や、住居コーナーから台地縁辺部へのびる溝が古墳時代後期中葉の竪穴住居29に切られることからみて古墳時代中期後葉から後期前葉に廃絶した遺構と推察される。（岡野）

竪穴住居14（図54・55、図版15・16・49・53）

調査地北端に位置する。平面形は方形と推定される。西側が竪穴住居15により切られており東側４割程度を検出した。床面における長軸は約6.5m、短軸は約6.3m、床面積は約38㎡程度が想定される。側壁の高さは東側で最大42cmである。床面には幅10cm、深さ6cmの周壁溝が巡る。主柱穴とみられるのはＰ１～Ｐ４で、柱間距離は約3.7m（Ｐ１－Ｐ２）、約3.7m（Ｐ２－Ｐ３）、約3.9m（Ｐ３－Ｐ４）、約3.7m（Ｐ４－Ｐ１）である。Ｐ１・Ｐ２から周壁溝へ延びる溝を検出した。底面レベルは両者とも周壁溝側がわずかに低い。南東側側壁直下のＰ５は斜坑状を呈している。ピット周辺は長軸150cm、短軸80cmの範囲で10cm程度テラス状に窪む。住居覆土にⅢ層のブロックが多量に混入する状況は自然堆積とは考えがたい。

竪穴住居14　156・158出土状況

竪穴住居14　154出土状況

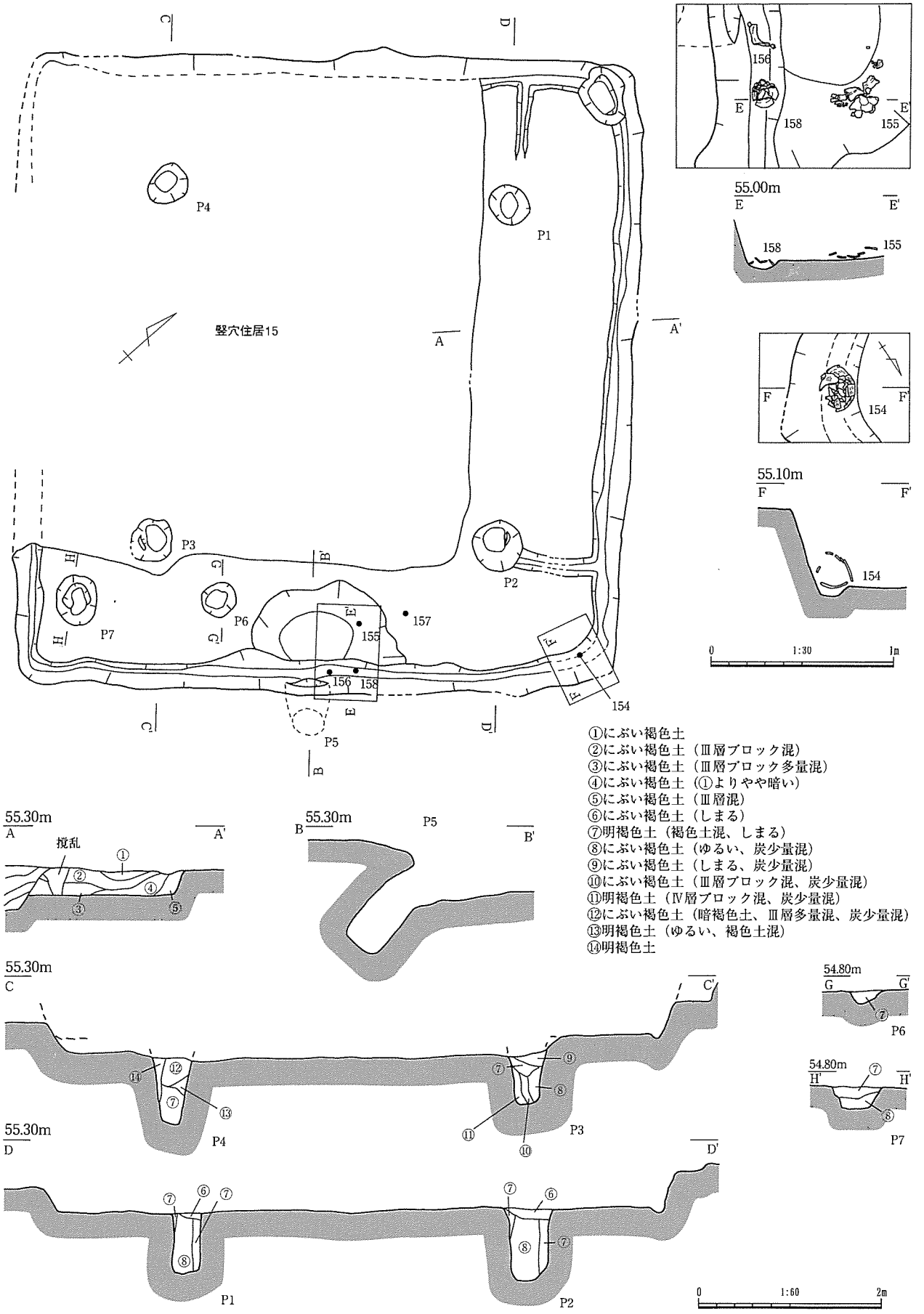

竪穴住居15
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
156
158
155
157
154
55.00m
55.10m
55.30m
54.80m
搅乱
①にぶい褐色土
②にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック混）
③にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック多量混）
④にぶい褐色土（①よりやや暗い）
⑤にぶい褐色土（Ⅲ層混）
⑥にぶい褐色土（しまる）
⑦明褐色土（褐色土混、しまる）
⑧にぶい褐色土（ゆるい、炭少量混）
⑨にぶい褐色土（しまる、炭少量混）
⑩にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック混、炭少量混）
⑪明褐色土（Ⅳ層ブロック混、炭少量混）
⑫にぶい褐色土（暗褐色土、Ⅲ層多量混、炭少量混）
⑬明褐色土（ゆるい、褐色土混）
⑭明褐色土
0
1:30
1m
1:60
2m

図54　竪穴住居14

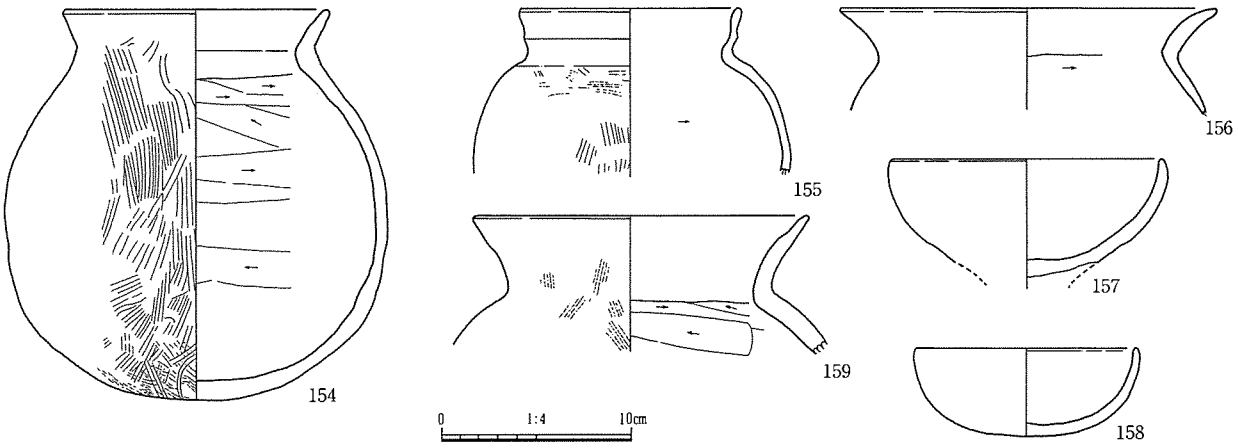


図55　竪穴住居14出土遺物　床面直上出土遺物

床面直上から甕154～156、高杯157、椀158が出土した。甕154、椀158は完形の状態で周壁溝内から出土した。甕155はＰ５周辺のテラス状の窪みから出土した。

床面直上出土遺物から、この遺構は古墳時代後期中葉に廃絶した住居と考えられる。　（小林）

竪穴住居15（図56～59、図版16・17・49・50）

調査地北端に位置する。竪穴住居８・14を切り掘削されている。平面形は長方形を呈する。床面における長軸は約6.1m、短軸は約5.3m、床面積は約27㎡である。床面はⅢ層である。側壁の高さは南東側で52cmである。幅11cm、深さ６cmの周壁溝を部分的に検出したが、一部掘りすぎのため本来的には全周していたことが考えられる。主柱穴と考えられるのはＰ１～Ｐ４で、柱間距離は約3.4m（Ｐ１－Ｐ２）、約2.5m（Ｐ２－Ｐ３）、約3.3m（Ｐ３－Ｐ４）、約3.0m（Ｐ４－Ｐ１）である。床面の中央には長袖110cm、短袖70cmの範囲で被熱した硬化面が検出された。硬化面は２～３cm程度浅く窪み、細かい凹凸がみられる。住居覆土は緩やかな傾斜で堆積するが、上層（①～③層）の暗褐色土と下層のにぶい褐色土にわかれる。

床面直上出土遺物は図59に図示した。このうち甕３点165、167、170はつぶれた状態、高坏168は杯部のみが完形で出土した。床面出土遺物からみて、古墳時代後期後葉に廃絶した住居と考えられる。（小林）

竪穴住居16（図60～63、図版18・49・50）

調査地北西端、竪穴住居15の南４mに位置する。竪穴住居11の東端を切って作られており、平面形は隅丸方形を呈する。床面における長軸は約4.7m、短軸は約4.4m、床面積は約18.9㎡である。検出面からの深さは最大76cm、Ⅲ層(明褐色土)を床面とする。幅12cm、深さ８cmの周壁溝がめぐらされているが、竪穴住居11との切り合い部分の床面では土色の違いが不明瞭であり確認できない。

主柱穴と考えられるのはＰ１～Ｐ４で、柱間距離は約2.2m（Ｐ１-Ｐ２）、約1.7m（Ｐ２-Ｐ３）、約2.3m（Ｐ３-Ｐ４）、約2.0m（Ｐ４-Ｐ１）である。南東壁面中央下部にあるＰ５は斜坑状を呈する。埋土は土が流れ込んだように堆積している。上層は炭を含むにぶい褐色土、下層は炭を含む暗褐色土である。Ｐ５付近の床面は長軸120cm、短軸70cmの範囲で約9cmテラス状に窪む。床面の中央には長軸90cm、短軸70cmの範囲で、細かい凹凸を伴い被熱し硬化した部分が検出された。覆土の堆積状況は、上層①～⑤層は自然堆積による埋没と推定できるが、下層⑥～⑨層は不自然である。

床面直上およびピット内出土遺物は図61に図示した。低脚坏180は伏せた状態で出土した。Ｐ５の

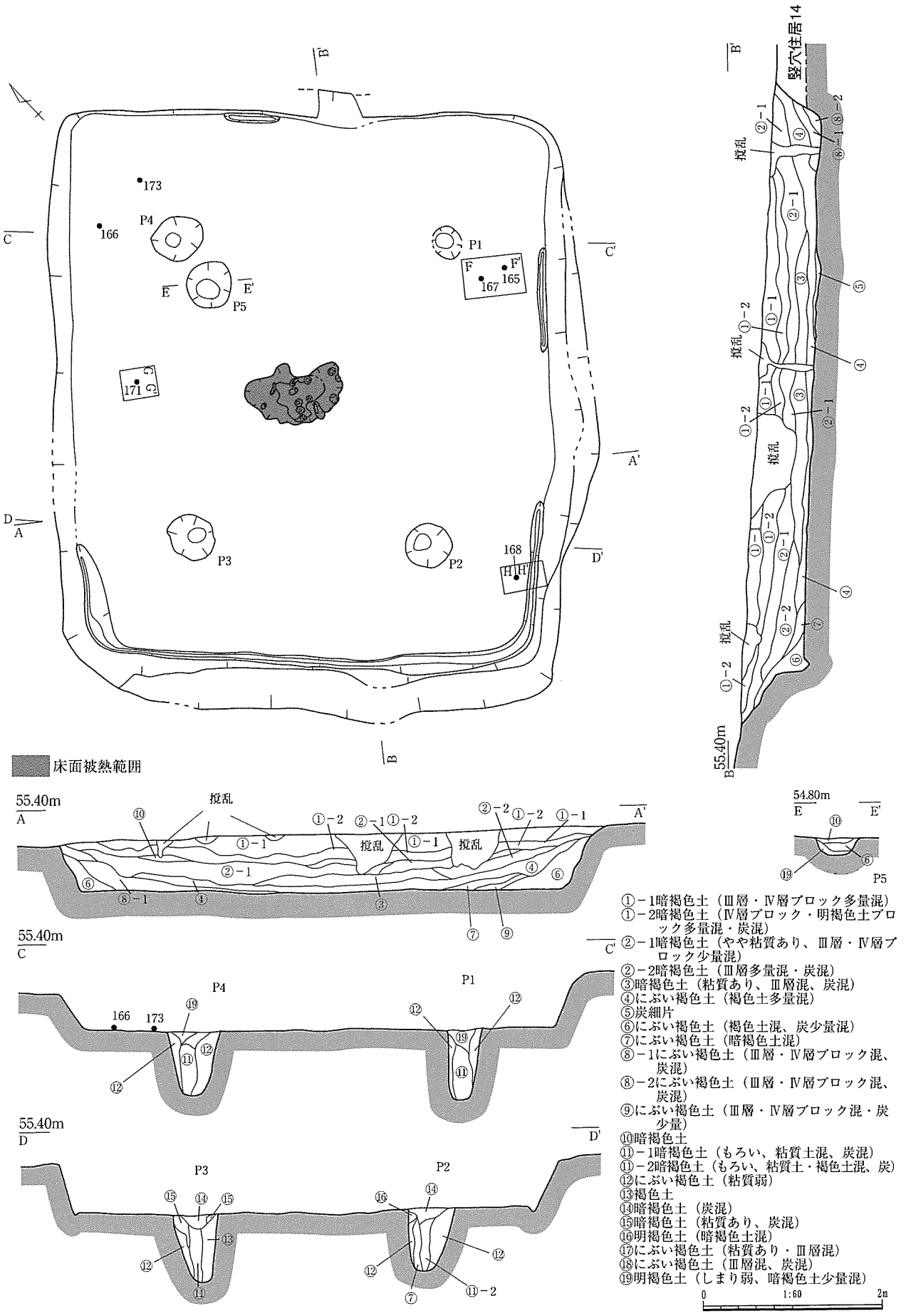

竪穴住居14
床面被熱範囲
55.40m
54.80m
P1
P2
P3
P4
P5
撹乱
①－1暗褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層ブロック多量混）
①－2暗褐色土（Ⅳ層ブロック・明褐色土ブロック多量混・炭混）
②－1暗褐色土（やや粘質あり、Ⅲ層・Ⅳ層ブロック少量混）
②－2暗褐色土（Ⅲ層多量混・炭混）
③暗褐色土（粘質あり、Ⅲ層混、炭混）
④にぶい褐色土（褐色土多量混）
⑤炭細片
⑥にぶい褐色土（褐色土混、炭少量混）
⑦にぶい褐色土（暗褐色土混）
⑧－1にぶい褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層ブロック混、炭混）
⑧－2にぶい褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層ブロック混、炭混）
⑨にぶい褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層ブロック混・炭少量）
⑩暗褐色土
⑪－1暗褐色土（もろい、粘質土混、炭混）
⑪－2暗褐色土（もろい、粘質土・褐色土混、炭）
⑫にぶい褐色土（粘質弱）
⑬褐色土
⑭暗褐色土（炭混）
⑮暗褐色土（粘質あり、炭混）
⑯明褐色土（暗褐色土混）
⑰にぶい褐色土（粘質あり・Ⅲ層混）
⑱にぶい褐色土（Ⅲ層混、炭混）
⑲明褐色土（しまり弱、暗褐色土少量混）
0　1:60　2m

図56　竪穴住居15

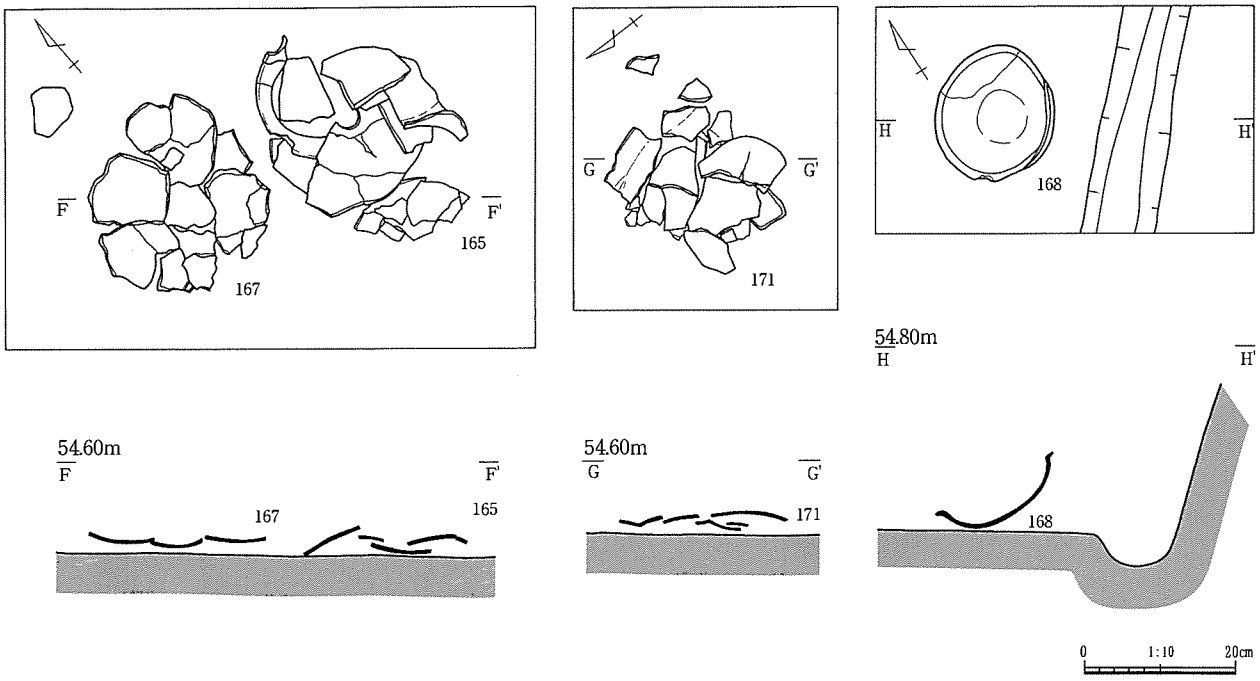


図57　竪穴住居15遺物出土状況図

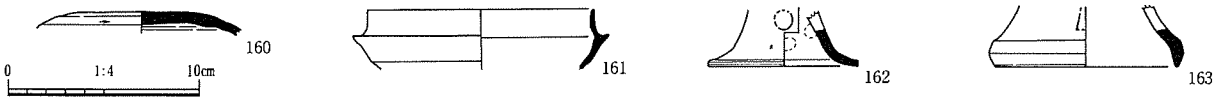


図58　竪穴住居15出土遺物（1）　①層出土遺物

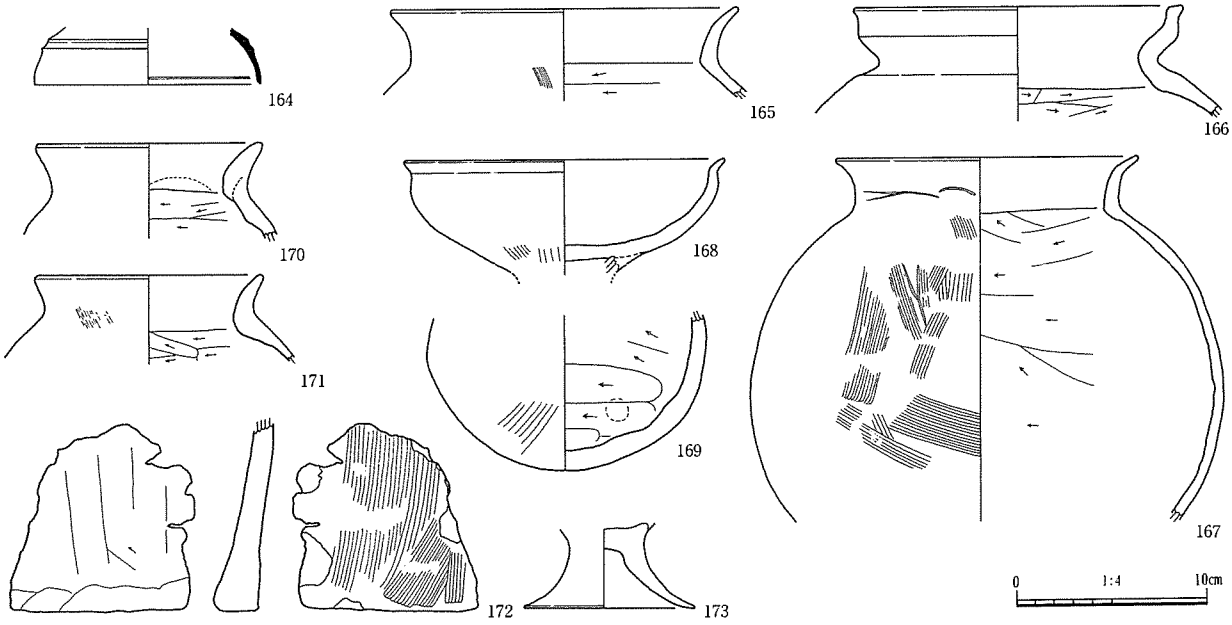
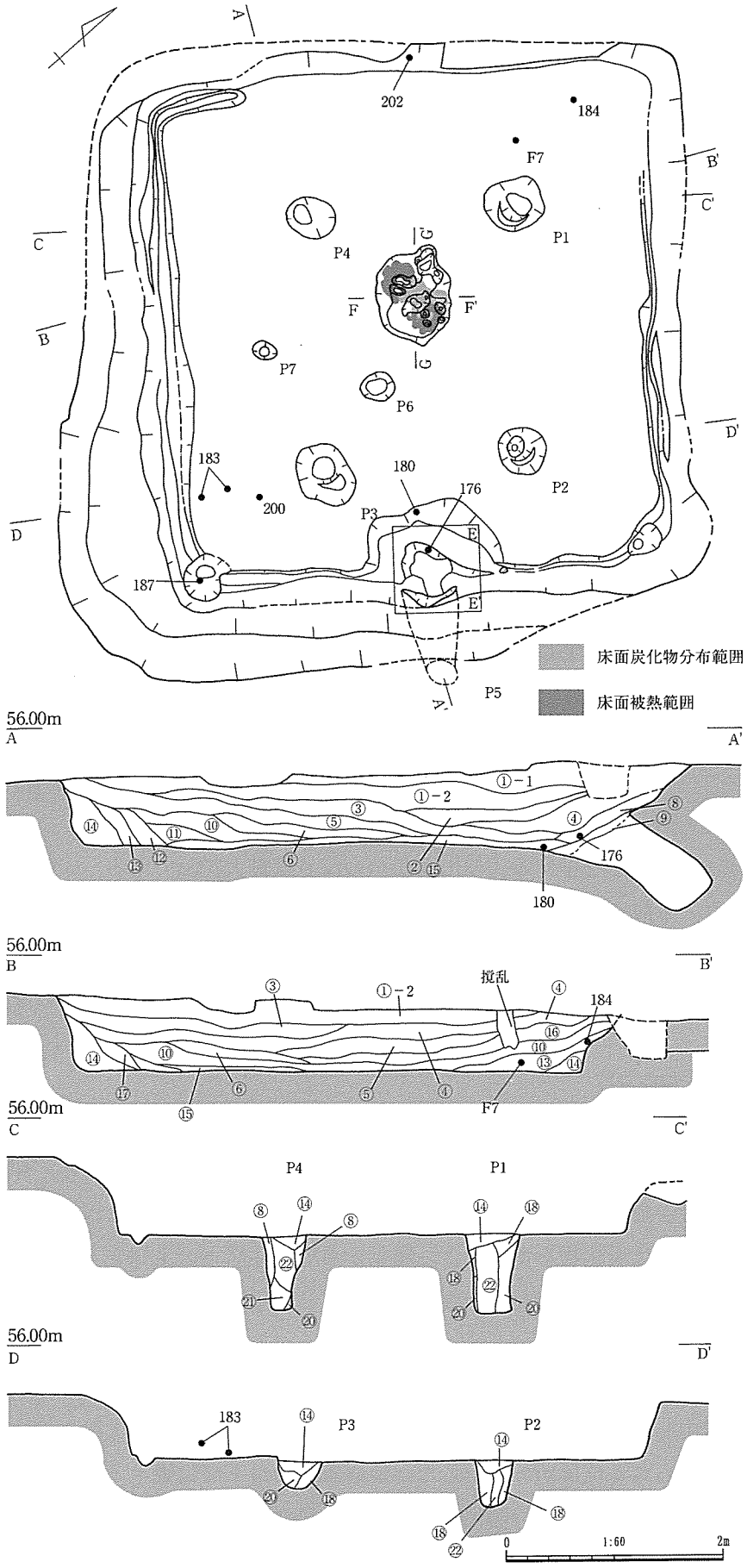


図59　竪穴住居15出土遺物（2）　床面直上出土遺物



①暗褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層ブロック少量混）
①暗褐色土
②にぶい褐色土
③暗褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層ブロック少量混）
④にぶい褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層ブロック少量混・暗褐色土混）
⑤にぶい褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層ブロック少量混・炭混）
⑥暗褐色土（炭少量混）
⑦にぶい褐色土（暗褐色土多量混）
⑧にぶい褐色土（暗褐色土多量混・Ⅲ層・Ⅳ層ブロック多量混）
⑨にぶい褐色土（暗褐色土多量混・Ⅲ層・Ⅳ層ブロック少量混）
⑩にぶい褐色土（暗褐色土多量混・Ⅲ層・Ⅳ層ブロック少量混・炭混）
⑪にぶい褐色土（炭少量混）
⑫暗褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層ブロック少量混・炭少量混）
⑬褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層ブロック少量混・炭少量混）
⑭にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック少量混・炭少量混）
⑮暗褐色土（Ⅳ層ブロック少量混）
⑯にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック少量混・炭少量混）
⑰にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック少量混・炭少量混）
⑱明褐色土（暗褐色土）
⑲明褐色土
⑳明褐色土（しまり弱、暗褐色土少量混）
㉑にぶい褐色土（明褐色土混）
㉒にぶい褐色土
㉓暗褐色土（炭・焼土混）
㉔暗褐色土（炭多量混）
㉕赤褐色土（焼土）

図60　竪穴住居16

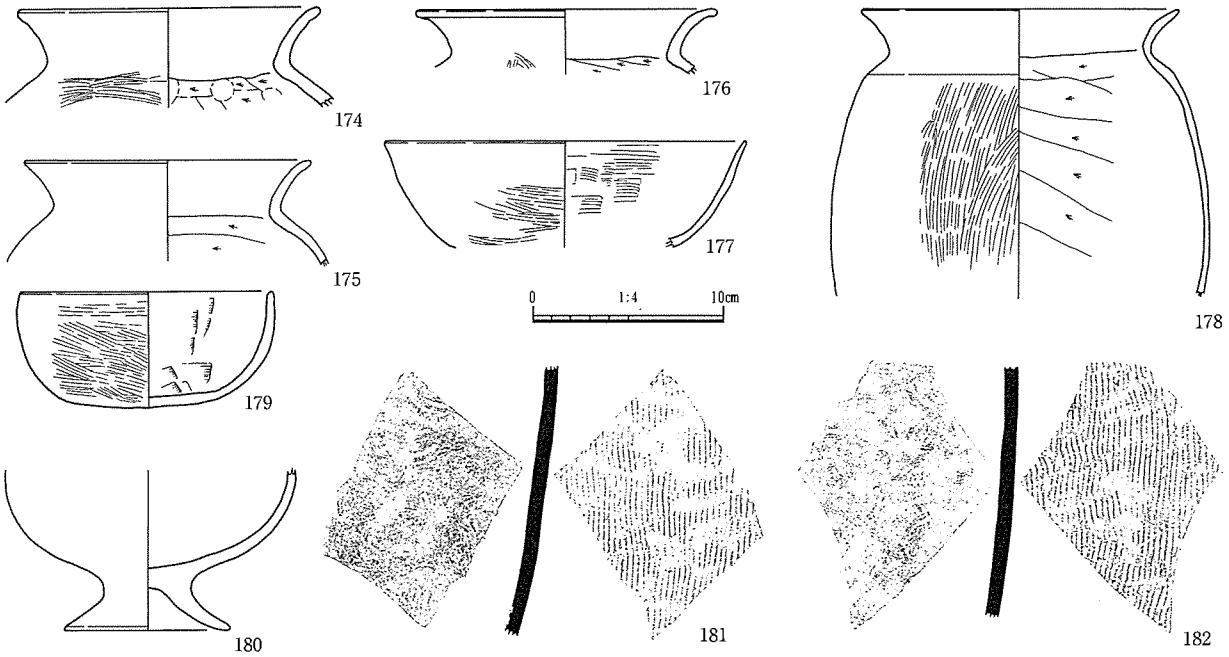


図61　竪穴住居16出土遺物（1）　床面直上出土遺物

埋土中からは甕口縁175、ほぼ完形の椀179が出土した。Ｐ５周辺の窪みからは甕178、高坏の杯部177が出土した。

床面直上およびＰ５とその周辺から出土した遺物から、古墳時代後期に廃絶した住居であると考えられる。（小林）

竪穴住居17（図64・65、図版19・20・50・51）

調査地北側に位置する。一辺約5.6mの方形を呈する。検出面からの深さは最大70cmである。床面の大半を竪穴住居18に削平されている。床面には周壁溝を検出した。竪穴住居18の床面では伴うとみられるピットは検出されなかった。Ｐ１・Ｐ２を再使用したことも考えられるが、本来的に床面に主柱をもたない可能性もある。覆土中から土器小片が出土したが時期を判断できる破片は出土していない。（小林）

竪穴住居18（図64・65、図版19・20・50・51）

竪穴住居17廃絶後に覆土を掘り込んでつくられている。平面形はほぼ正方形を呈する。検出面からの深さは最大76cm、床面における長軸は約4.9m、短軸は約4.8mである。床面積は約21.3㎡である。住居覆土中や床面直上から焼土・炭化材が出土したことから焼失住居と考えられる。床面には周壁溝のほかＰ１～Ｐ５を検出した。Ｐ１、Ｐ２は炭化物を多量に含む埋土から竪穴住居18の主柱穴と考えられる。柱間距離は約2.2mである。Ｐ５は埋土中に炭化材が含まれており、家屋が焼失した時点ではオープン状態であったと考えられる。

床面直上もしくは床面から数cm浮いた状態で炭化材が出土した。大半が分解・小片化しているが、最下層から出土した丸太材２は住居中心から放射状になっており、垂木と考えられる。丸太材３は床面から30cm浮いた状態であり②層とみられる位置から出土した。住居覆土の最下層は焼土・炭化材を多量に含む。③層は焼土や炭化物のほかに地山Ⅲ層（明褐色土）を多量に含んでおり、焼失時に崩落したものかもしくは人為的に埋められた可能性も考えられる。

竪穴住居18の床面直上から出土した土器に良好な資料は少ないが、住居北東隅からは扁平な蛇紋岩

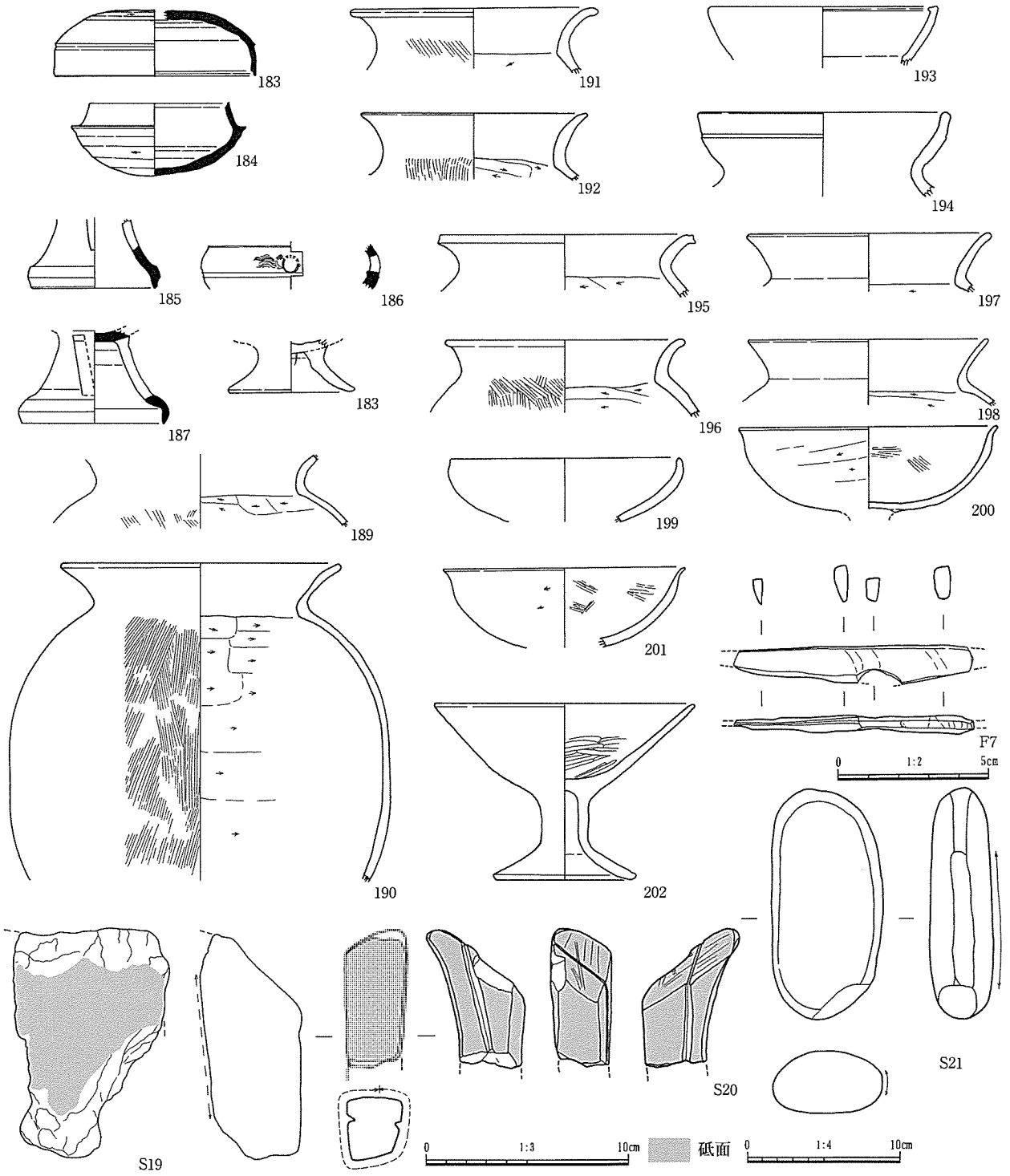


図62　竪穴住居16出土遺物（2）　覆土中出土遺物

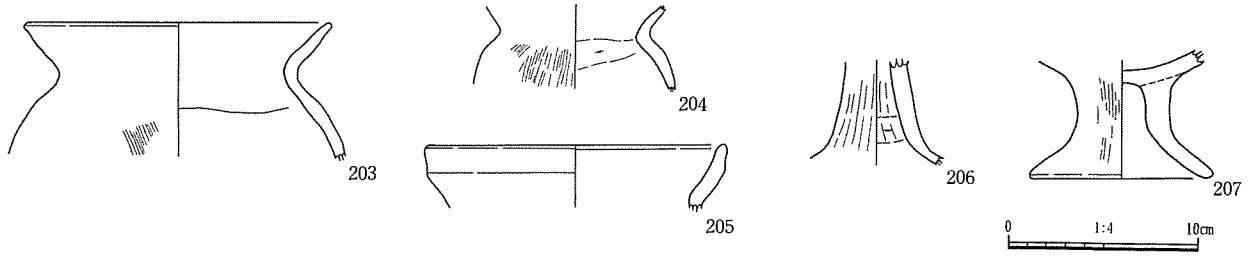
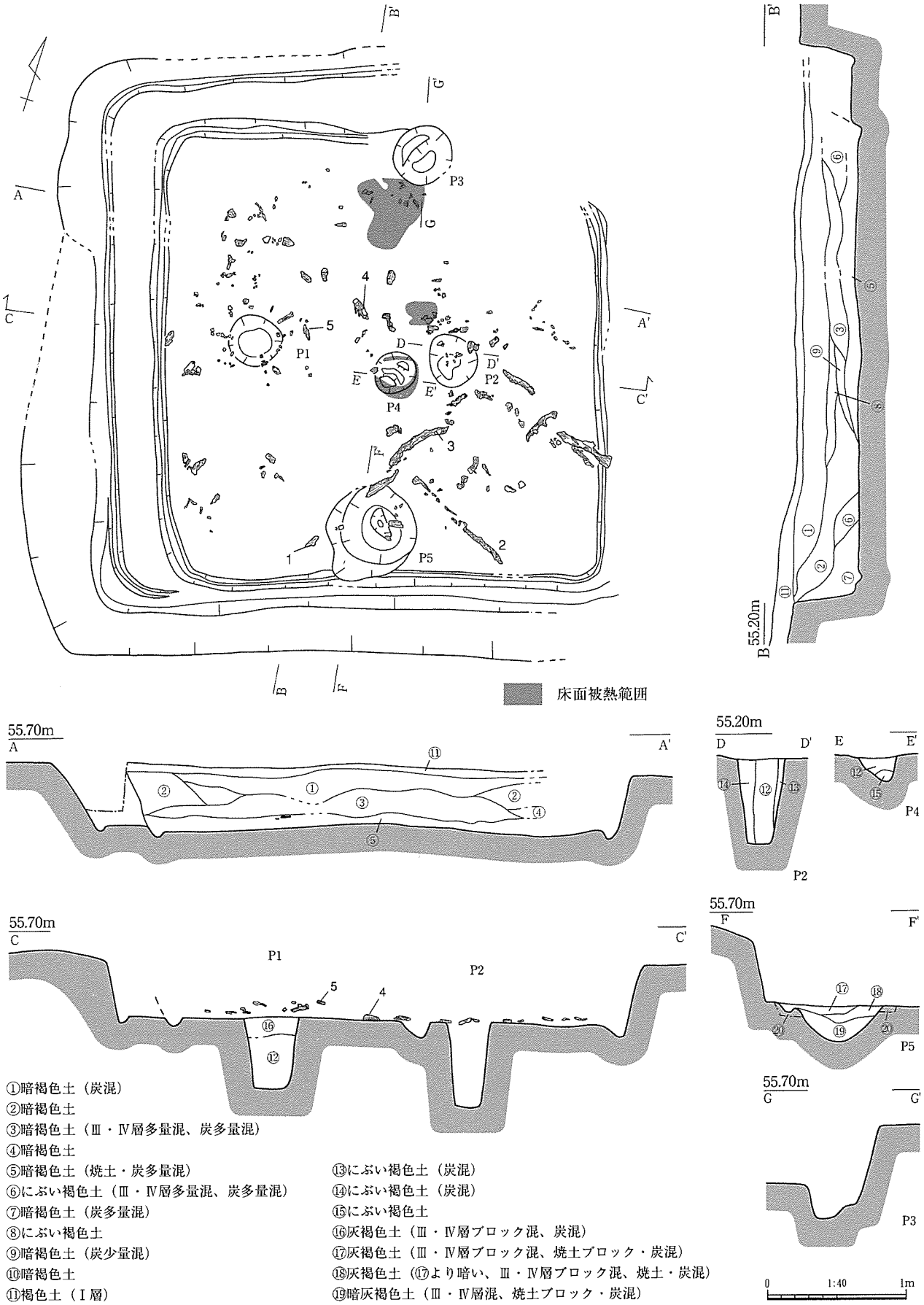


図63　竪穴住居16出土遺物（3）　①層出土遺物



①暗褐色土（炭混）
②暗褐色土
③暗褐色土（Ⅲ・Ⅳ層多量混、炭多量混）
④暗褐色土
⑤暗褐色土（焼土・炭多量混）
⑥にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層多量混、炭多量混）
⑦暗褐色土（炭多量混）
⑧にぶい褐色土
⑨暗褐色土（炭少量混）
⑩暗褐色土
⑪褐色土（Ⅰ層）
⑫暗灰褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
⑬にぶい褐色土（炭混）
⑭にぶい褐色土（炭混）
⑮にぶい褐色土
⑯灰褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
⑰灰褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、焼土ブロック・炭混）
⑱灰褐色土（⑰より暗い、Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、焼土・炭混）
⑲暗灰褐色土（Ⅲ・Ⅳ層混、焼土ブロック・炭混）
⑳明褐色土（Ⅳ層）

図64　竪穴住居17・18

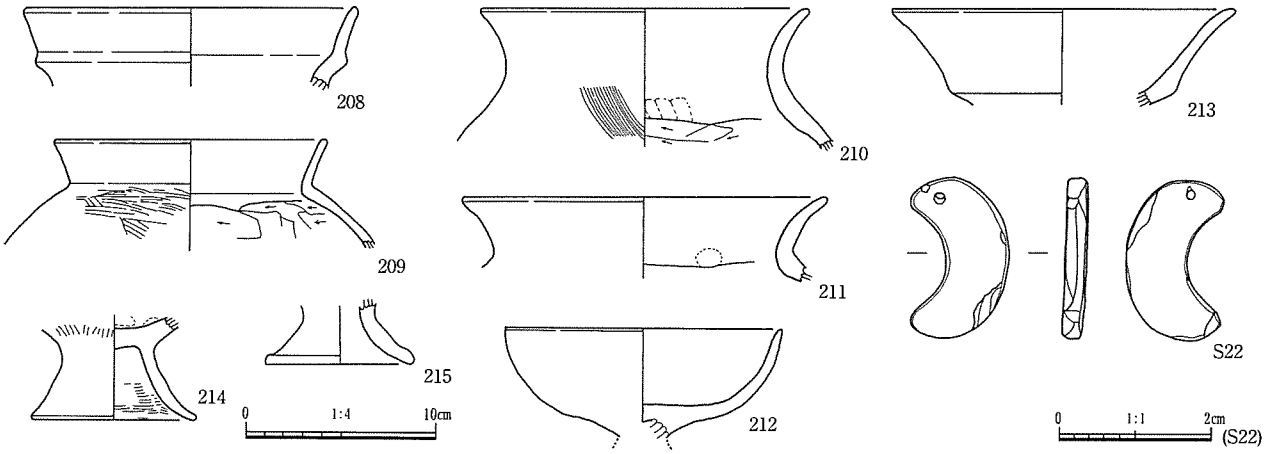


図65　竪穴住居17・18出土遺物

製の勾玉Ｓ22が出土した。覆土中からは甕口縁209･210･211、高坏の杯部212･213、低脚坏の脚部214･215などが出土した。

覆土中から出土した土器からみて、この遺構は古墳時代後期中葉前後に埋没した住居と考えられる。　（小林）

表４　竪穴住居18出土炭化材の樹種
（古川郁夫・菅野仁美鑑定、特論参照）

試料番号	形状・部材	樹種
1	丸太	ヌルデ
2	丸太	ヌルデ？
3	丸太	ヤブニッケイ
4	丸太	モクレン科
5	丸太	ヤマグワ

竪穴住居19（図66～69、図版20～22）

調査地中央部やや北東側に位置する。建替えが行われており、建替え前を竪穴住居19ａ、建替え後を竪穴住居19ｂとする。

竪穴住居19ｂの平面形は方形を呈する。竪穴住居19ａに貼床を施し床面とする。床面での長軸は7.24m、短軸は7.08m、床面積は約40.5㎡である。側壁の高さは最も残存する南東側で48cmである。北側のコーナー部分を除き、幅約12cm、深さ約８cmの周壁溝を検出した。主柱穴と考えられるのはＰ１～４で、柱間距離は約2.7m（Ｐ１－２）、約4.2m（Ｐ２－３）、約3.4m（Ｐ３－４）、約4.0m（Ｐ４－１）である。南東側壁直下に検出したＰ５は、住居の外側に向かい掘削された斜坑状のピットである。Ｐ５付近の床面は、長軸約92cm、短軸約60cmの範囲で、深さ約14cm程度浅く窪みテラス状をなす。Ｐ５底面は床面よりも60cmほど低い位置にある。埋土には若干の炭化物を包含するが、焼土や遺物は皆無である。住居中央部には地床炉１を検出した。地床炉１は長軸60cm短軸50cmの範囲にわたって床面が被熱・硬化しており、中央部分は数cmの窪みがみられる。窪み部分に堆積した⑫層には焼土ブロック・炭化物が含まれる。地床炉１の東側に被熱して硬化した床面を２箇所検出した。Ｐ３－Ｐ４、Ｐ４－Ｐ１ライン上に、直径70cm～100cm、深さ20cm～30cm程度のＰ13・15～19を検出した。土層断面からみて柱穴とは考えにくい。住居覆土の最上層（①層）は暗褐色土を呈し、②層はにぶい褐色土、③層は灰褐色土である。

遺物はＰ５のテラス状の浅い窪みの部分から甕の口縁部216が出土している。また、床面直上より甕の口縁部218、高坏脚部222～224、226が出土した。

竪穴住居19ａの平面形は方形を呈し、床面での長軸は5.58m、短軸は5.70m、床面積は約28.3㎡である。床面はⅥ層であり、幅14cm、深さ８cm前後の周壁溝を検出した。主柱穴はＰ20～23で、柱間距離は3.26m（Ｐ20－21）、3.40m（Ｐ21－22）、2.86m（Ｐ22－23）、3.06m（Ｐ23－20）である。Ｐ20－21上にＰ25、Ｐ21－22上にＰ26、Ｐ22－23上にＰ27を検出した。主柱間のほぼ中央に位置するＰ25～

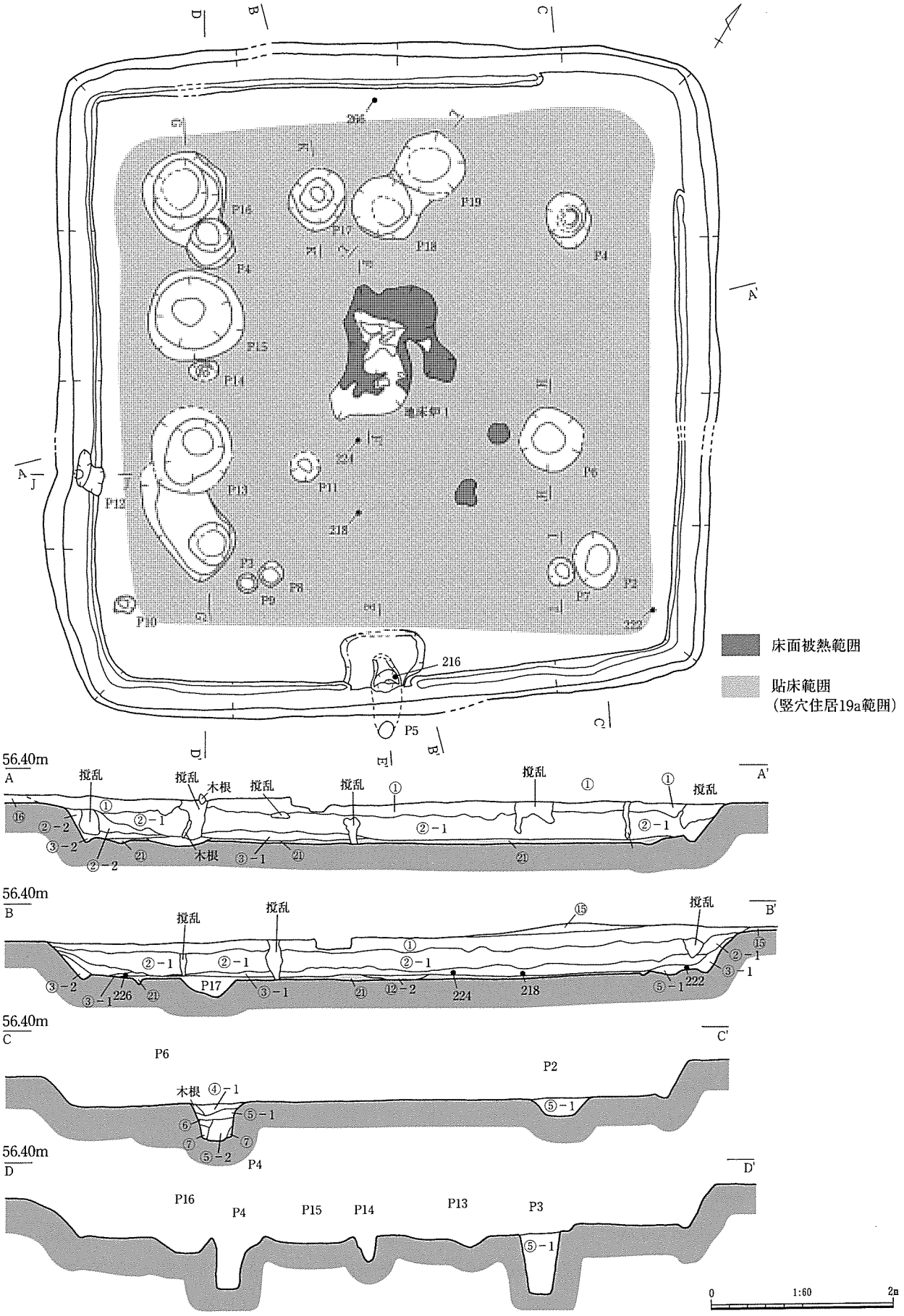
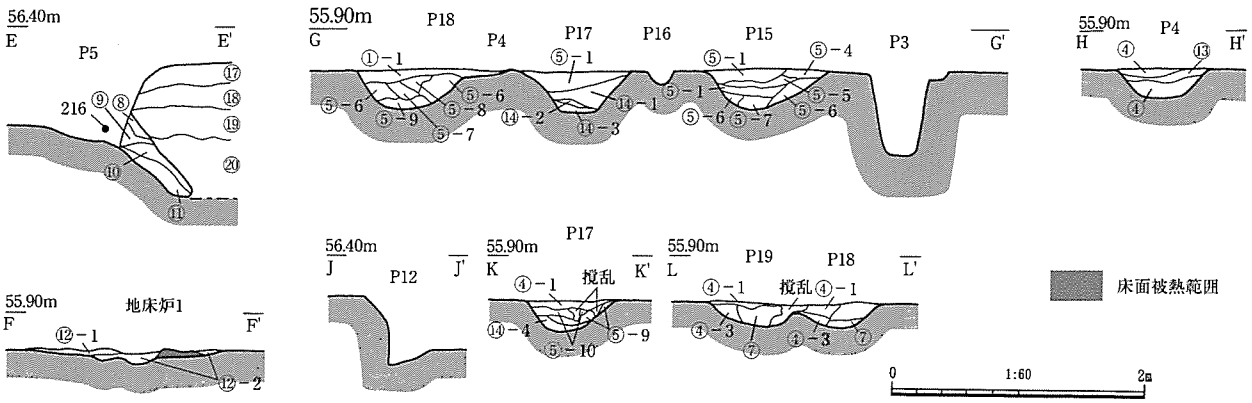


図66　竪穴住居19b（1）



竪穴住居19ピット計測表

P No.	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	底面の標高 (cm)	土色・備考
P4	52×51	59	55.01	灰褐色土 (明黄褐色土混、炭混)
P7	31×29	13	55.51	灰褐色土（褐色土・明黄褐色土混、炭混）
P8	29×27	12	55.62	暗褐色土 (明黄褐色土混、炭混)
P9	22×22	9	55.59	暗褐色土 (明黄褐色土混、炭混)
P10	22×18	28	55.38	灰褐色土 (明黄褐色土混、炭混)
P11	33×32	12	55.52	暗褐色土 (明黄褐色土混、炭混)
P12	38×30	12	55.54	灰褐色土 (明黄褐色土混、炭混)
P14	32×22	11	55.47	暗褐色土 (明黄褐色土混、炭混)

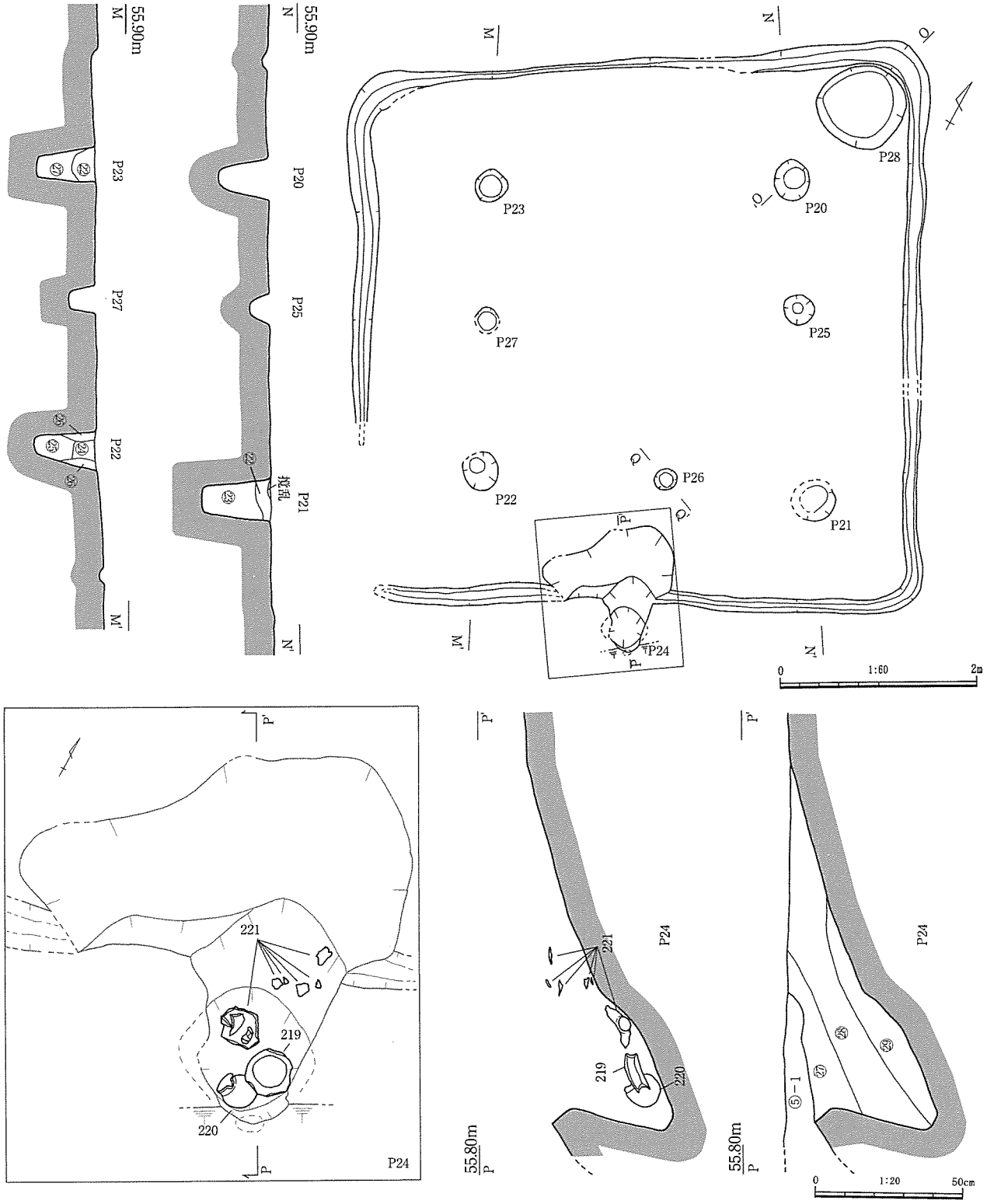
①　暗褐色土（にぶい褐色土混、炭混）
②－1 にぶい褐色土（暗褐色土少量混、炭混）
②－2 にぶい褐色土（暗褐色土混、炭混）
③－1 灰褐色土（Ⅲ層混、炭混）
③－2 灰褐色土（Ⅳ層ブロック混、炭混）
④－1 暗灰褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
④－2 暗灰褐色土（粘質が高い、Ⅳ層混、炭混）
④－3 暗灰褐色土（やや明、Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
⑤－1 灰褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
⑤－2 灰褐色土（もろい、灰褐色土褐色土・Ⅳ層、炭混）
⑤－3 灰褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
⑤－4 灰褐色土（やや暗い、Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
⑤－5 灰褐色土（やや暗い、Ⅲ層・Ⅳ層混、焼土・炭混）
⑤－6 灰褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層多量混、炭混）
⑤－7 灰褐色土（やや明るい、Ⅲ層・Ⅳ層多量混、炭混）
⑤－8 灰褐色土（Ⅳ層混、炭混）
⑤－9 灰褐色土（やや明るい、Ⅲ層・Ⅳ層多量混、炭混）
⑤－10灰褐色土（やや明るい、Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
⑥　にぶい褐色土（Ⅲ層混、Ⅳ層多量混）
⑦　にぶい褐色土（Ⅲ層混、Ⅳ層ブロック状に混）
⑧　褐色土（炭混）
⑨　褐色土（ややもろい、Ⅲ層・Ⅳ層ブロック混）
⑩　褐色土（もろい、Ⅲ層・Ⅳ層ブロック混）
⑪　にぶい褐色土（Ⅲ層混）
⑫－1 暗褐色土（Ⅲ層混、焼土混）
⑫－2 暗褐色土（やや暗い、Ⅳ層混、焼土・炭混）
⑬　にぶい褐色土（Ⅲ層混、Ⅳ層ブロック多量混、炭混）
⑭－1 暗褐色土（しまる、Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
⑭－2 暗褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層多量混、炭混）
⑭－3 暗褐色土（しまる、Ⅲ層・Ⅳ層多量混）
⑭－4 暗褐色土（ややゆるい、Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
⑮　褐色土（Ⅰ層）
⑯　暗褐色土（Ⅱ層）
⑰　明褐色土（Ⅲ層）
⑱　明黄褐色土（Ⅳ層）
⑲　灰褐色土（Ⅴ層）
⑳　明赤褐色土（Ⅵ層）

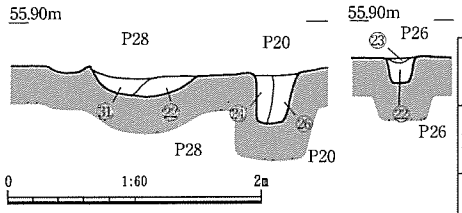
図67　竪穴住居19b（2）

27は桁や梁の支柱と思われる。南東側の周壁溝ほぼ中央に検出したＰ24は壁面外側に向かい斜坑状を呈するピットである。底面のレベルは床面より50cm低い位置にある。Ｐ24周辺の床面は、長軸136cm、短軸50cm、深さ15cm程度の範囲で浅く窪みテラス状をなす。Ｐ24内部から口縁部が完存する甕219のほか、壺220、高坏杯部221がほぼ完存した状態で出土した。埋土にはⅢ層・Ⅳ層ブロックが多く混入することや、直後に貼床を施し19ｂを構築していることなどから、Ｐ24に土器を入れた後、人為的に埋め戻したことが推察される。竪穴住居19は出土遺構から、古墳時代後期中葉に廃絶した遺構と考えられる。（森本）

竪穴住居20（図71、図版11）

調査地南端付近に位置する。全体の約1/2を調査した。床面での一辺が約5.5ｍの平面方形の住居跡である。床面での標高は56.45ｍである。主柱穴はＰ１、Ｐ２と調査地外に想定される２本を含めた４本主柱であろう。Ｐ６～Ｐ８は直径約70～80cmの浅いピットである。Ｐ７よりＰ６が新しい。覆土最下層がＰ６内に流入していることから、住居廃絶時にはＰ６はオープン状態であったとみられる。南西側壁の中央付近ではいびつな方形を呈するＰ９を検出した。床面中央付近で検出したＰ４は被熱し赤化していた。埋土には炭化物を含む。覆土④･⑤層は暗褐色土を呈し自然堆積と考えられる。⑦･⑧





P No.	長径×短径－深さ（cm）	底面の標高（m）	土色・備考
P25	32×30－19	55.19	暗褐色土（Ⅳ層混、炭混）
P27	24×22－28	55.37	暗褐色土（Ⅳ層混、炭混）

㉑にぶい褐色土（貼床、しまる、Ⅲ層・Ⅳ層多量混）
㉒にぶい褐色土（Ⅳ層混、炭混）
㉓暗褐色土（Ⅲ層・Ⅳ層混、炭混）
㉔にぶい褐色土（やや明るい、しまる、Ⅳ層混、炭混）
㉕にぶい褐色土（やや明るい、ややもろい、Ⅳ層混、炭混）
㉖にぶい褐色土（しまる、Ⅳ層混）
㉗暗褐色土（Ⅳ層混、炭混）
㉘灰褐色土（明るい、Ⅲ層・Ⅳ層ブロック多量混、炭混）
㉙灰褐色土（ややもろい、Ⅳ層混、炭混）
㉚暗褐色土（もろい、Ⅳ層混、炭混）
㉛にぶい褐色土（Ⅳ層混）

図68　竪穴住居19a

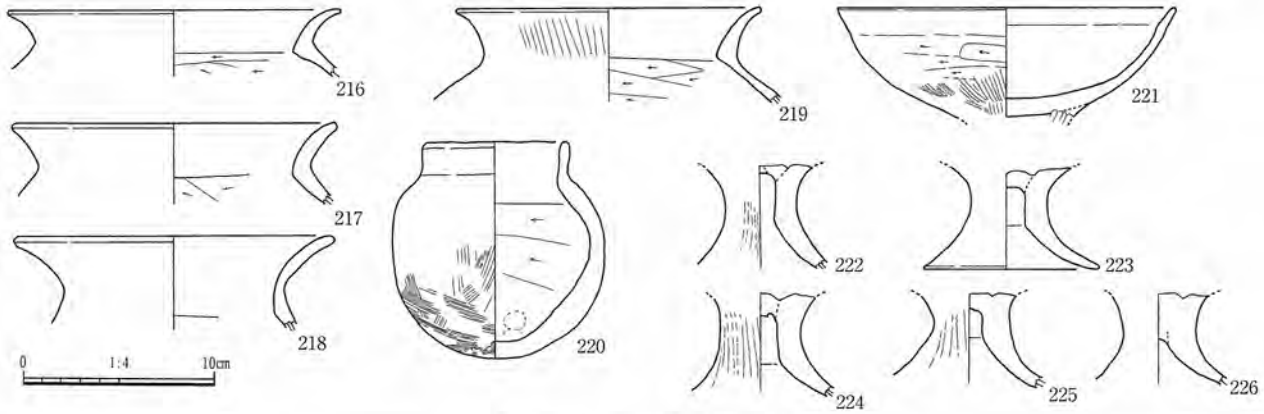


図69　竪穴住居19出土遺物

竪穴住居19ｂ　Ｐ５土層断面

竪穴住居19ａ　Ｐ24遺物出土状況

層にはⅣ・Ⅴ層ブロックを含む。

床面直上から遺物は出土していない。覆土⑤～⑦層で甕227、高坏228が、上層から須恵器坏蓋229が出土した。住居の平面形および覆土中から出土した土器からみて古墳時代中期末から後期前葉に廃絶した遺構と考えられる。（岡野）

竪穴住居21（図72・73、図版31）

調査地中央部やや東側に位置する。平面形は方形を呈し、床面での長軸は4.2m、短軸は4.0m、床面積は約14.5㎡である。側壁の高さは最も残存する南東側で66cmである。床面では周壁溝のほか、主柱とみられるＰ１～Ｐ４を検出した。柱間距離は2.30m（Ｐ１－２）、1.84m（Ｐ２－３）、2.16m（Ｐ３－４）、1.52m（Ｐ４－１）である。南東側壁直下ほぼ中央の床面にＰ６を検出した。住居壁面に向かい斜坑状に掘り込まれるピットである。底部は床面より64cm低い位置にある。Ｐ６周辺の床面は、長軸66cm、短軸42cm、深さ12cm程度浅く窪みテラス状をなす。Ｐ６埋土には炭化物や焼土は混入せず、遺物は皆無である。住居中央部で検出したＰ９は、長軸140cm、短軸76cmの範囲にわたり床面が被熱し硬化しており、深さ２～３cm前後の浅い凹凸がみられる。この窪みには焼土ブロック、炭化物が多量に混入する。Ｐ６周辺の床面直上には炭化物が薄く広がる。住居覆土のうち、②層から下層にはⅢ層およびⅣ層の地山ブロックが多量に混入することからみて人為的に埋められた可能性が考えられる。

床面出土遺物は、Ｐ６につながるテラス付近から出土した坏蓋231のほか、東側のコーナー付近か

ら出土した蓋230である。住居覆土上層からは鑿か鉈と思われるＦ７が出土している。

231･230が陶邑編年のTK47型式に併行するとみられることから、古墳時代後期前葉に廃絶した遺構と考えられる。（森本）

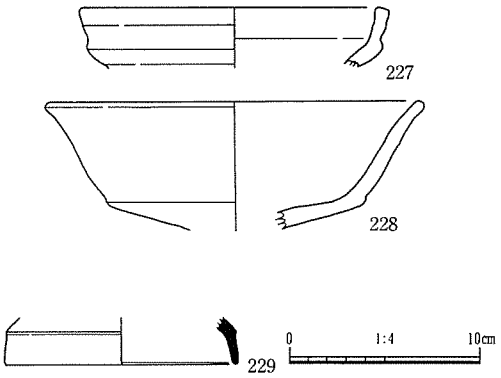


図70　竪穴住居20出土遺物

竪穴住居22（図74～80、図版23～26）

台地平坦面のほぼ中央付近に位置する古墳時代後期前葉の住居跡である。北側は竪穴５に切られている。１度建替えが行われており、古い住居跡を22ａ、最終段階の住居跡を22ｂとする。

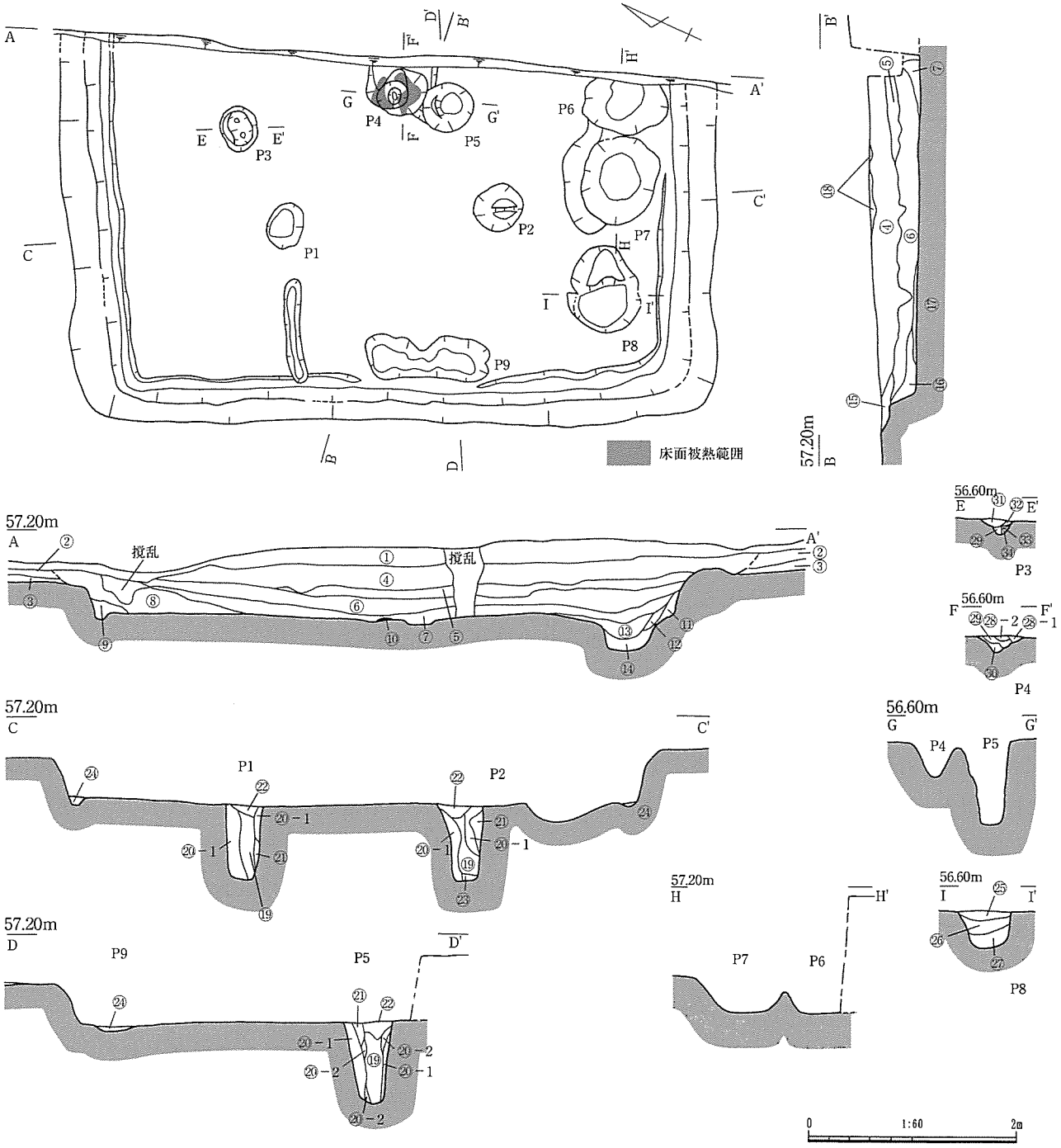
22ａは平面方形である。規模は周壁溝の底部で計測すると北西－南東方向で約4.4m、北東－南西方向で約4.9m、床面積は18.9㎡である。伴う柱穴はＰ８、Ｐ10であり、２本柱の住居である。周壁溝と同様に焼土・多量の炭化物を包含しない埋土であることから22ｂのものとは区別できた。

22ｂは平面方形である。多量の焼土・炭化材が出土しており家屋が焼失したものと考えられる。規模は、周壁溝の底部では北西－南東方向で約5.2m、北東－南西方向で約6.5m、検出面から床面までは最も残存する南東側壁面で約75cm、床面積は31.7㎡前後と想定される。床面では周壁溝のほか主柱穴とみられるＰ４～Ｐ６、Ｐ７、南東側壁中央付近にＰ１、西側にはＰ２、Ｐ９を検出した。主柱穴Ｐ４～６の柱痕部分には炭化・分解した柱材が認められた。径約12～18cmの柱材とみられる。Ｐ１、Ｐ２、Ｐ９の埋土には多量の焼土とともに炭化物を含むことから、家屋が焼失した時点ではオープンな状態であったと考えられる。壁面上端付近に検出されたＰ12～Ｐ15は炭化物を含む埋土からみて本住居跡に伴う可能性がある。北西側の側壁上端では検出されなかった。このほか周壁溝から直交方向に伸びる短い溝を５カ所で検出した。長さ70cm～90cm前後のものでいわゆる仕切溝である。埋土には微細な炭化物が混入するのみであり焼失時には埋められていたことが考えられる。

床面の一部が被熱し赤化した被熱面ａ～ｆが検出された。被熱面ａ・ｂ・ｃはＰ５－Ｐ６ラインに対して直交する方向に筋状に伸びるものである。炎上、崩壊した家屋の垂木の痕跡と考えられる。直上から形状が伺える炭化材は出土していないが燃え尽きたものと推察される。

覆土最下層から多量の焼土・炭化材が出土した。焼土は覆土⑤層、⑧層に顕著に含まれており、住居のほぼ全面に確認できた。住居の中央付近より周辺部においてやや厚く堆積している。比較的硬く塊化した部分は図75の平面図に示した。西側のドーナツ状に広がる焼土はＰ２の直上で検出した。Ｐ３直上の⑧-1には一部空洞がみられ柱材の痕跡と思われる。住居東隅の焼土は⑧-1層に相当する高さで検出した。⑤層直上で少量の炭化材を検出したが部材として認識できるものは少ない。こうした焼土層が形成される解釈として、本来的に屋根を被覆した屋根土または壁土が家屋とともに崩壊したもの、もしくは消火作業用に投入された土がある。本遺構の焼土層は住居縁辺部において比較的均一に堆積しており、イレギュラーに投入された土とは考え難い。住居中央付近にも堆積することから、崩壊した壁土または屋根を被覆した土が崩壊した結果と解するのが適当であろう。

住居中央付近の炭化材は大半が床面直上から出土した。周辺部では丸太材14･15が焼土層上面（⑧-１層上面）から出土した。炭化部材は住居の中心付近で比較的良好に検出されたが、いずれも燃え尽きて分解した状態である。部材の周囲では厚さ数cmに薄く広がる炭化物の層を検出した。認識で



①褐色土（Ⅰ層）
②にぶい褐色土（Ⅱ層）
③明褐色土（Ⅲ層）
④暗褐色土
⑤淡暗褐色土
⑥にぶい褐色土
⑦にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混）
⑧にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層混、炭混）
⑨にぶい褐色土（炭混）
⑩暗褐色土（炭混）
⑪にぶい褐色土
⑫にぶい褐灰色土
⑬にぶい褐灰色土（もろい、炭混）
⑭にぶい褐色土（明褐色土混）
⑮にぶい褐色土（炭少量混）
⑯にぶい明褐色土（炭少量混）
⑰にぶい褐色土（Ⅳ層ブロック多量混）
⑱やや明るい暗褐色土
⑲にぶい褐色土（もろい、炭混）
⑳褐色土（炭混）
⑳褐色土
㉑褐色土（Ⅲ層混）
㉒灰褐色粘質土（かたくしまる）
㉓にぶい褐色土（炭混）
㉔にぶい褐色土（Ⅲ層混、炭混）
㉕にぶい褐灰色土（ややもろい、１～２cm大の炭多量混）
㉖灰褐色土（Ⅲ層ブロック混）
㉗にぶい褐色土（もろい、１～２cm大の炭少量混）
㉘やや明るい褐色土
㉘やや明るい褐灰色土（炭少量混）
㉙褐色土（炭多量混）
㉚焼土（かたい）
㉛にぶい褐色土（炭多量混）
㉜にぶい褐色土（焼土ブロック多量混）
㉝Ⅳ層ブロック
㉞やや明るい赤褐色土（炭混）

図71　竪穴住居20

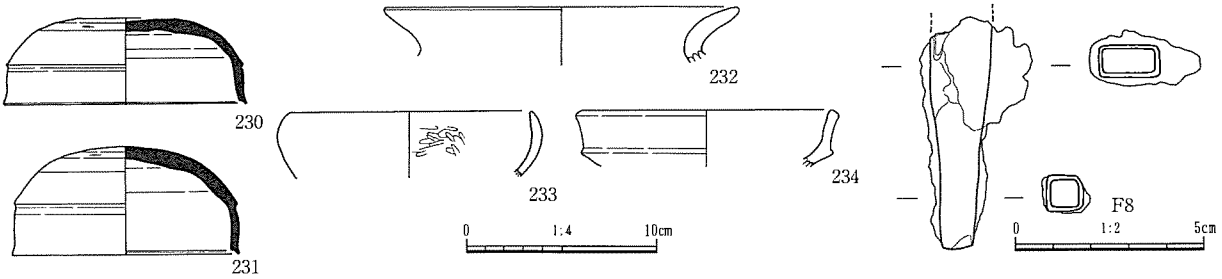


図72　竪穴住居21出土遺物

きた部材に板状の部材は検出されなかった。住居の周辺部ではカヤが出土した。カヤ12･16は住居壁面に貼り付いた状態で出土し、いずれも壁面に平行する繊維方向である。西側隅部で検出したカヤ13は⑧-1層直上に相当する高さから出土した。炭化材の樹種鑑定を行った結果、構造材にはケヤキ、ヤマザクラ、サカキ、クリまたはスダジイ、ヤブニッケイなど多様な樹種が使用されていることが分かった。カヤはアシであることが指摘された（第６章　特論参照）。

覆土⑩層、⑬層、⑥層から上層にかけては炭化物、焼土の包含が極端に少なくなり、地山のⅢ層、Ⅳ層のブロックが多量に混入する。腐植化した土層もみられないことから時間幅のある堆積とは考え難い。住居が崩壊した後、まもなくして埋められた可能性が指摘される。

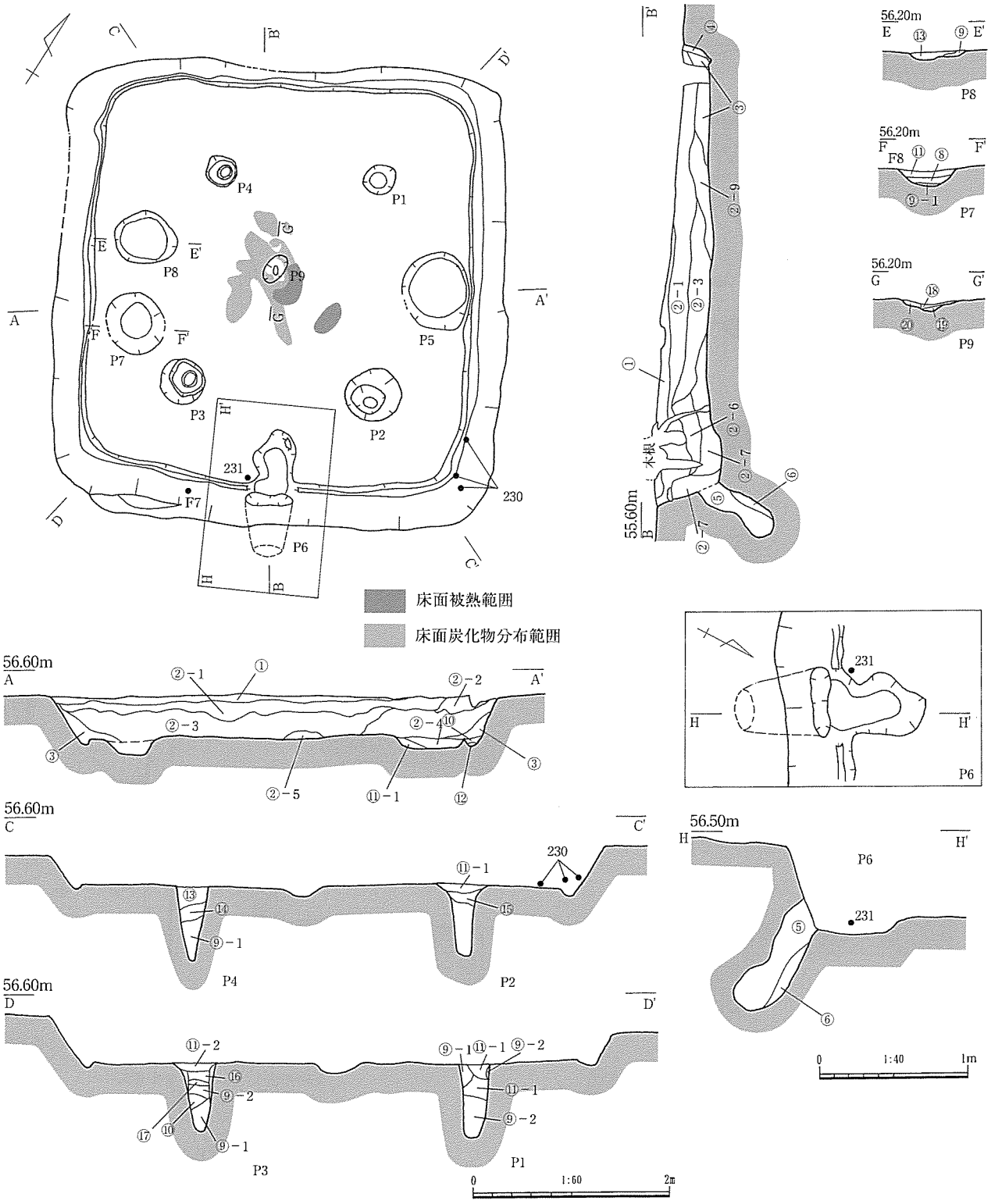
床面出土遺物は図77に示した。甕237･238はＰ１南東側床面から出土した。237は胴部下半の一部を除く器形の約3/5が、238は胴部の約1/2のみがつぶれた状態で出土した。237は胴部最大径付近の一部を打ち欠く。Ｐ１東側の周壁溝直上では高坏242、小型壺239、蓋に転用したとみられる高坏の杯部241が出土した。241の上に高坏242が逆位に乗った状態である。小型壺239の直上で出土した須恵器の瑞256は壁面に貼り付いた状態でつぶれて出土した。北側では最下層（⑧-1層）上面で甕249が破片化した状態で出土した。接合は困難であるが同一個体とみられる。中央付近の床面では、大型の礫２個（38cm×30cm×８cm、29cm×19cm×６cm）が置かれていた。上面全体が被熱している。床面出土遺物から、古墳時代後期前葉に焼失した住居と考えられる。（岡野）

竪穴住居23（図81～84、表５、図版23～30･55）

調査地南西側、台地西側の縁辺部近くに位置する。古墳時代後期前葉の焼失住居跡である。竪穴住居13を切り掘削されている。平面形は方形で、規模は周壁溝の底部で計測すると北西－南東方向で約3.9m、北東－南西方向で約3.2mである。検出面から床面までは最も残存する北西側側壁で約65cmである。床面での標高は約55.8m、床面積は11.2㎡である。床面では周壁溝のほかＰ１～Ｐ８を検出した。主柱穴とみられるＰ２～Ｐ５では炭化した柱痕が確認された。柱痕から計測する限り直径10cm～15cm前後の柱材を使用したと考えられる。Ｐ１、Ｐ６、Ｐ８埋土には炭化物を多量に含む。住居南端の周壁溝からＰ１に向けて浅い溝が掘削されている。Ｐ１は南東側周壁溝の中央付近に検出された斜坑状のピットである。床面はほぼ全面が被熱しているが、顕著な赤化は認められなかった。

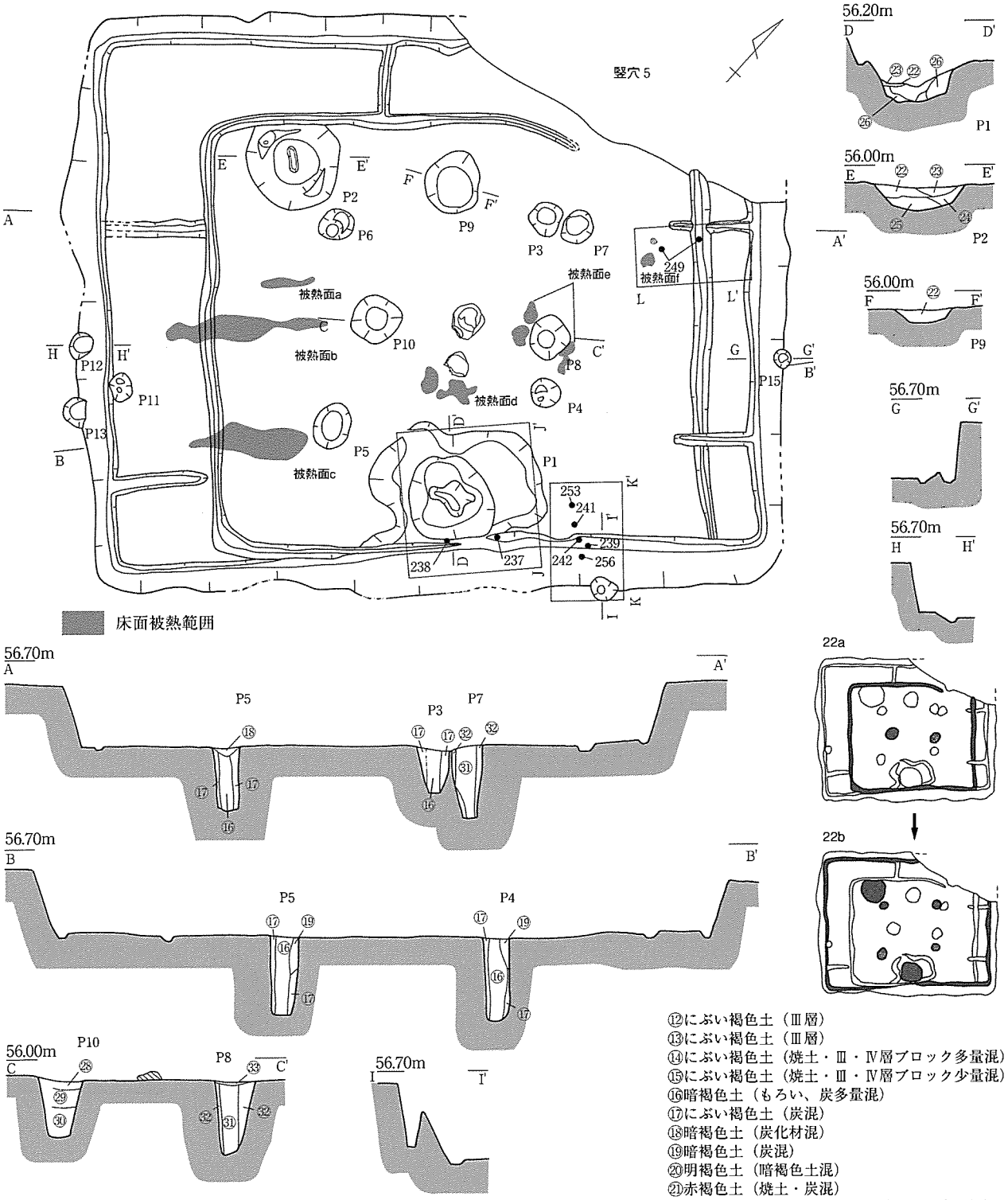
覆土は、住居周辺部で高く中央部に向かい弓なり状に低くなる堆積である。①層のみが顕著に暗褐色を呈する。焼土を含む層は②層から下層であり住居全面に堆積するが、住居縁辺部において厚く、中央部付近は薄い。なかでも⑦･⑧層は大半が焼土と炭化物、④･⑤層は焼土である。塊化したものはみられないが、比較的硬化した焼土を図83に図示した。

③～⑤層、⑦～⑩層には焼土とともに多量の炭化材が検出された。炭化材出土状況は大別して以下



①暗褐色土（0.5～1.0cmのⅢ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
②－1にぶい褐色土（0.5～1.0cmのⅢ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
②－2にぶい褐色土（②－１より明るい、Ⅲ・Ⅳ層ブロック混・炭混）
②－3にぶい褐色土（1.0～2.0cmのⅢ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
②－4にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
②－5にぶい褐色土（②－１より暗い、Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
②－6にぶい褐色土（②－１よりやや明るい、Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
②－7にぶい褐色土（②－１よりやや暗い、1.0～2.0cmのⅢ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
②－8にぶい褐色土（②－１より明るい、褐色土ブロック・Ⅲ・Ⅳ層ブロック混、炭混）
②－9にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混・炭混）
③にぶい褐色土（炭混）
④にぶい褐色土（②－１より明るい、0.5～1.5cmのⅢ・Ⅳ層多量混）
⑤褐色土（もろい）
⑥にぶい褐色土（もろい）
⑦灰褐色土（Ⅲ・Ⅳ層シミ状に混）
⑧暗褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック・褐色土ブロック混）
⑨－1やや暗い褐色土（しまりあり、Ⅲ・Ⅳ層ブロック）
⑨－2やや暗い明褐色土（しまり弱、Ⅲ層ブロック）
⑩灰褐色土（しまり弱、Ⅲ層土ブロック・Ⅴ層ブロック混、炭混）
⑪－1灰褐色土（しまりあり、Ⅴ層ブロック・炭混）
⑪－2灰褐色土（しまり弱、Ⅴ層土ブロック・炭混）
⑫暗灰褐色土（Ⅴ層ブロック混、炭混）
⑬灰褐色土（Ⅴ層ブロック混）
⑭暗灰褐色土（Ⅲ層ブロック混）
⑮暗灰褐色土（Ⅲ層シミ状に混）
⑯暗灰褐色土（Ⅲ層ブロック混、炭混）
⑰明褐色土（Ⅴ層ブロック混）
⑱灰褐色土（ややゆるい）
⑲暗灰褐色土（ややゆるい、Ⅴ層少量混、焼土ブロック混）
⑳暗褐色土（炭多量混）

図73　竪穴住居21



①暗褐色土
②にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック多量混）
③にぶい褐色土（②より明るい、Ⅲ層ブロック多量混）
④にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック多量混）
⑤暗赤褐色土（暗褐色土＋炭＋焼土ブロック）
⑥褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック混）
⑦にぶい赤褐色土（焼土・炭多量混）
⑧にぶい赤褐色土（焼土＋炭＋Ⅲ・Ⅳ層ブロック）
⑧にぶい赤褐色土（焼土ブロック多量混）
⑧暗赤褐色土（もろい、焼土・炭多量混）
⑨にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック多量混）
⑩にぶい褐色土（⑨より暗い、Ⅲ・Ⅳ層ブロック多量混）
⑪暗褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック多量混）
⑫にぶい褐色土（Ⅲ層）
⑬にぶい褐色土（Ⅲ層）
⑭にぶい褐色土（焼土・Ⅲ・Ⅳ層ブロック多量混）
⑮にぶい褐色土（焼土・Ⅲ・Ⅳ層ブロック少量混）
⑯暗褐色土（もろい、炭多量混）
⑰にぶい褐色土（炭混）
⑱暗褐色土（炭化材混）
⑲暗褐色土（炭混）
⑳明褐色土（暗褐色土混）
㉑赤褐色土（焼土・炭混）
㉒赤褐色土（焼土・炭多量混、暗褐色土多量混）
㉓暗褐色土（焼土・炭多量混）
㉔暗褐色土（もろい、焼土混）
㉕暗褐色土（もろい、焼土・炭多量混）
㉖褐色土（焼土混）
㉗赤褐色土（焼土ブロック）
㉘褐色土（しまる、Ⅴ層ブロック混）
㉙灰褐色土（しまる、炭混）
㉚褐色土（しまる、炭混）
㉛暗褐色土（もろい）
㉜にぶい褐色土（もろい、Ⅲ・Ⅳ層ブロック混）
㉝暗褐色土
㉞暗褐色土（炭混）→ピット埋土

図74　竪穴住居22

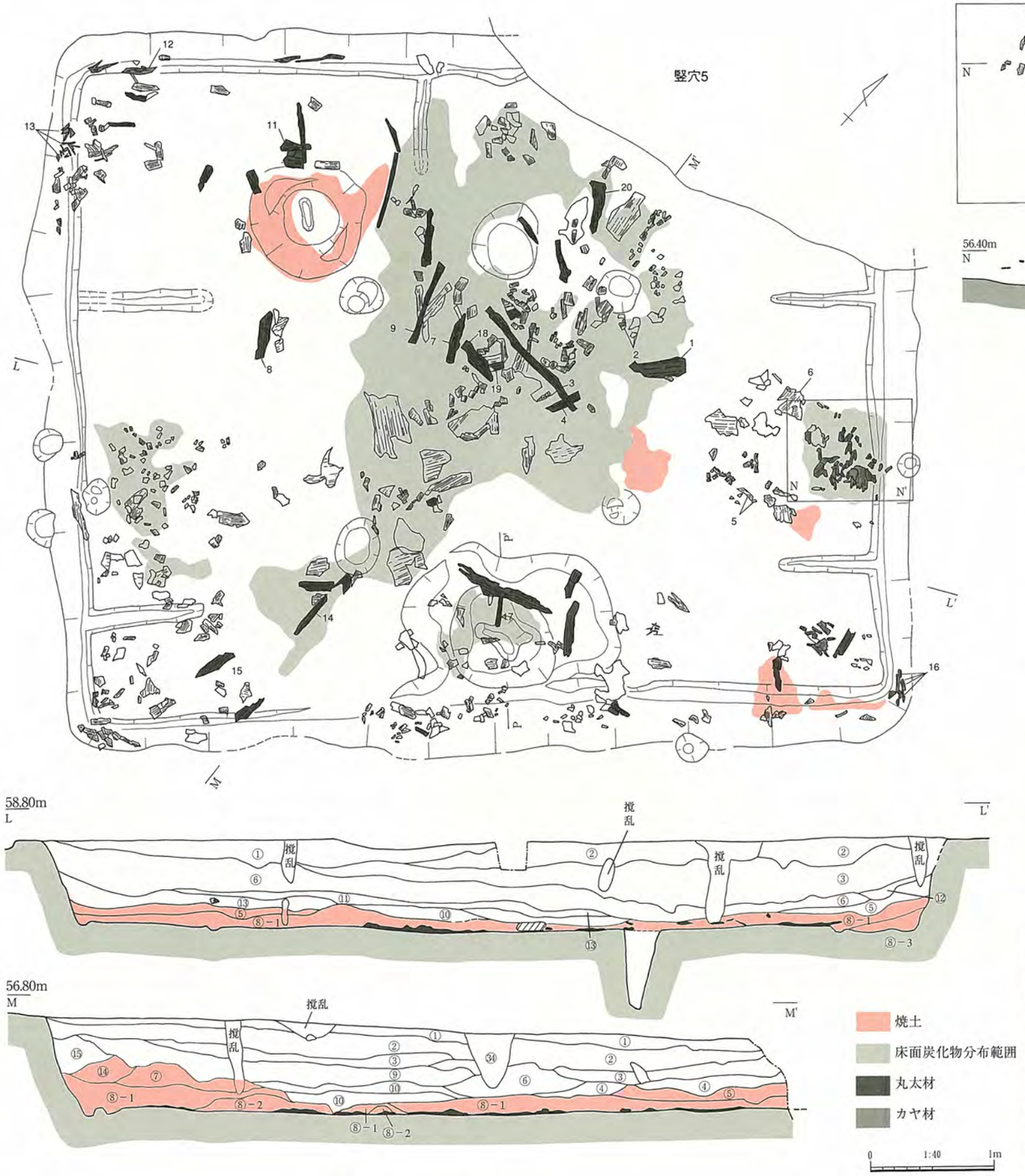


図75　竪穴住居22炭化材出土状況図

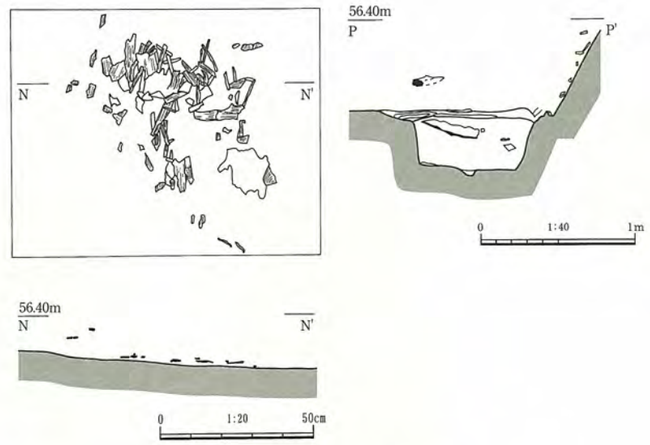


図76　炭化材出土状況図

竪穴住居22出土炭化材樹種

（古川郁夫・菅野仁美鑑定、特論参照）

資料番号	形状・部材	樹種
1	丸太	クリスもしくはダジイ
2	丸太？	ケヤキ
3	丸太	コナラ亜属コナラ節
4	丸太	ヤマザクラ
5	丸太？	アカメガシワ？
6	丸太？	クスノキ科
7	丸太	コナラ亜属クヌギ節
8	丸太	コナラ亜属クヌギ節
9	丸太	サカキ
10	丸太・Ｐ3柱	散孔材
11	丸太	サカキ
12	茅	ヨシ（アシ）
13	茅	ヨシ（アシ）
14	丸太	ヤブニッケイ
15	丸太	コナラ亜属クズギ節
16	茅	ヨシ（アシ）
17	丸太	ヤブニッケイ
18	丸太	コナラ亜属クヌギ節
19	丸太	ハンノキ
20	丸太	サカキ
21	Ｐ11主柱	ケヤキ

床直遺物炭化物出土状況　北から

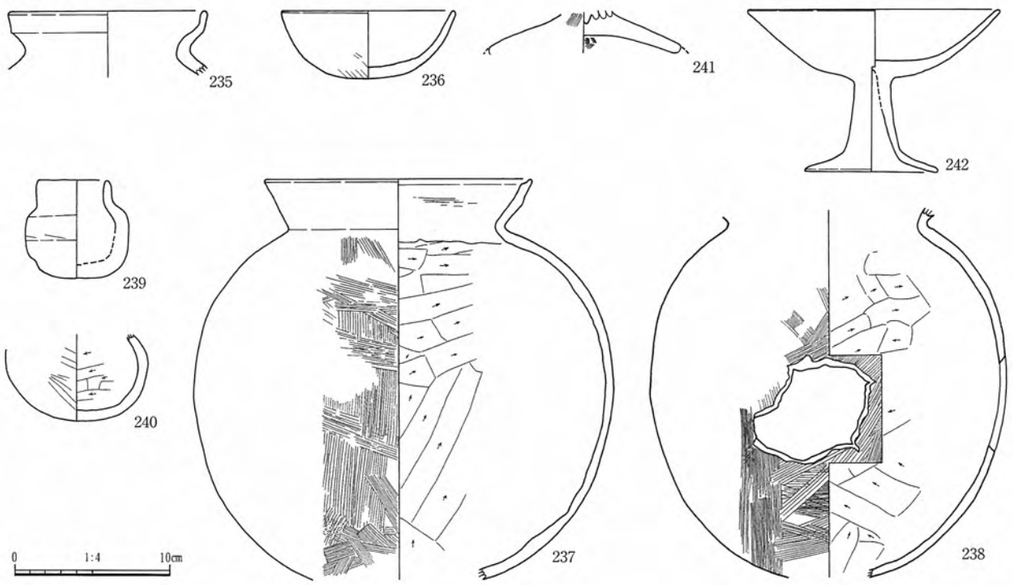


図77　竪穴住居22出土遺物（1）　床面直上出土遺物

床直遺物・炭化物出土状況　北から（J－J'）

床面遺物出土状況　北から（K－K'）

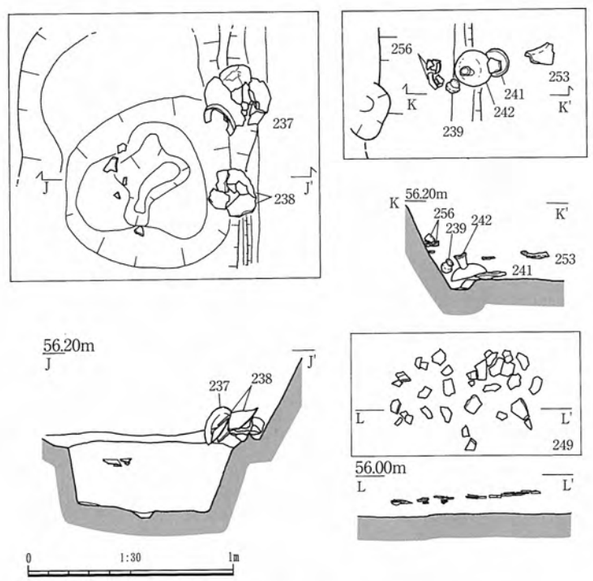


図78　竪穴住居22　床面遺物出土状況図

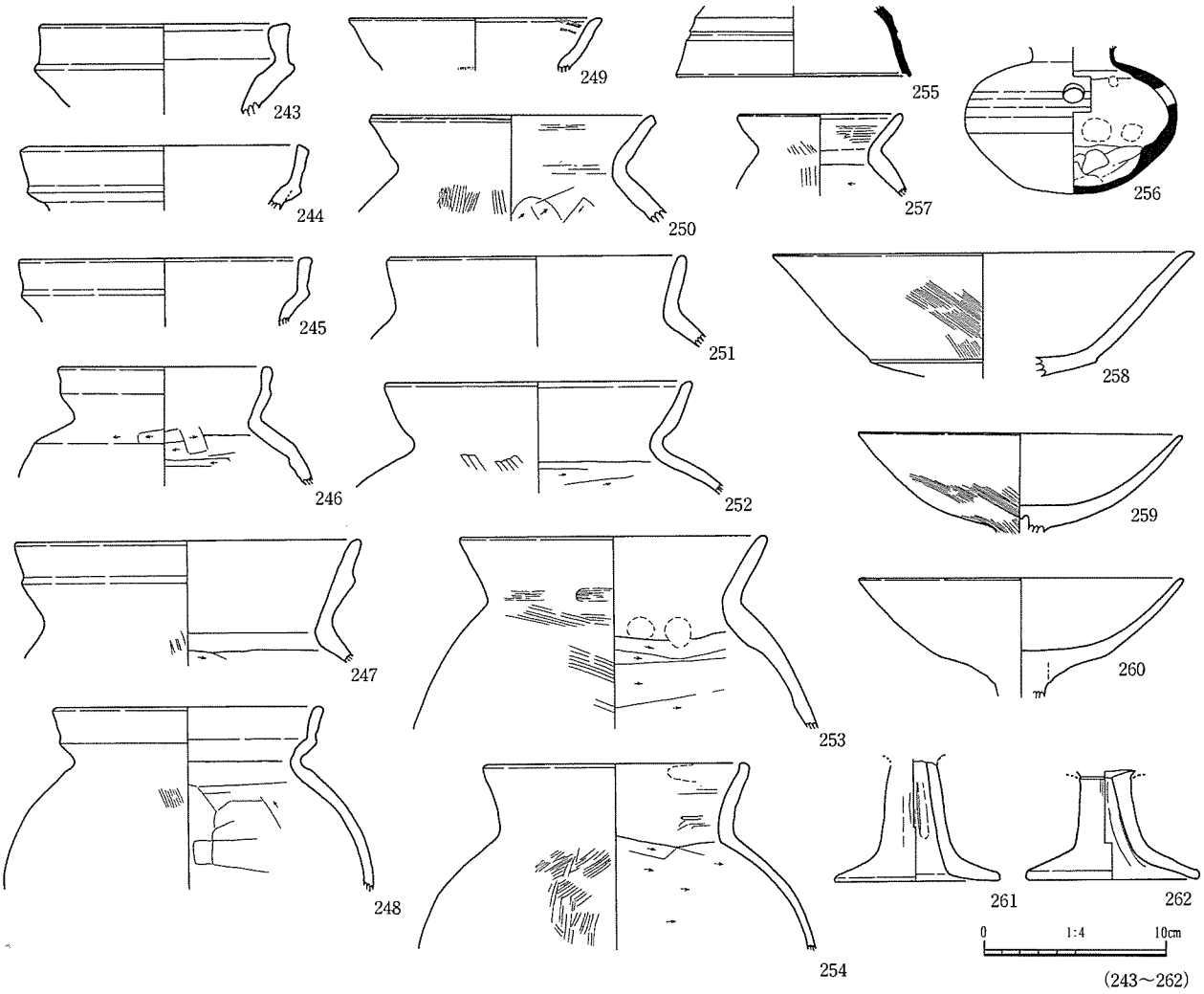


図79　竪穴住居22出土遺物（2）　覆土中出土遺物

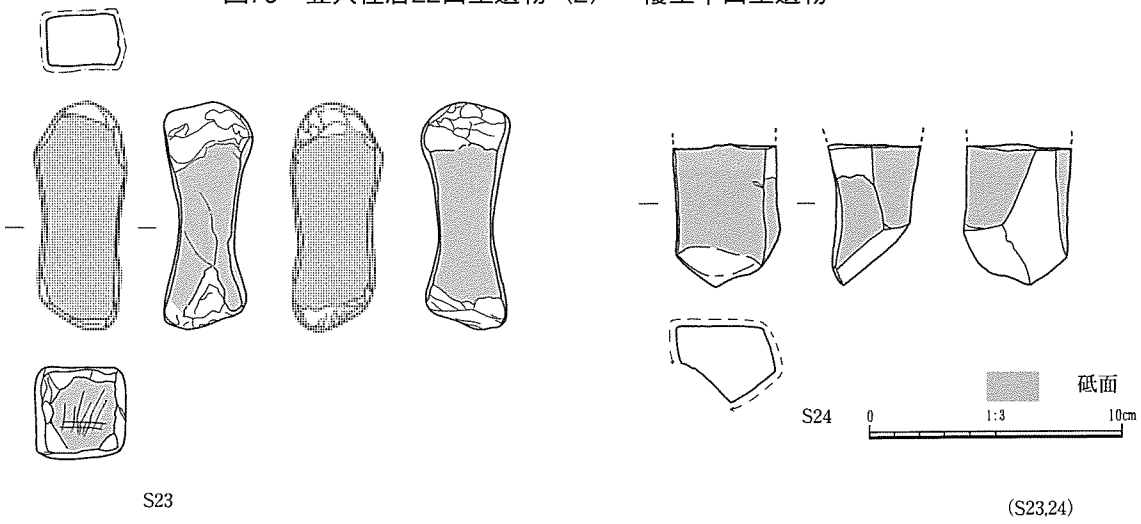


図80　竪穴住居22出土遺物（2）　覆土中出土遺物

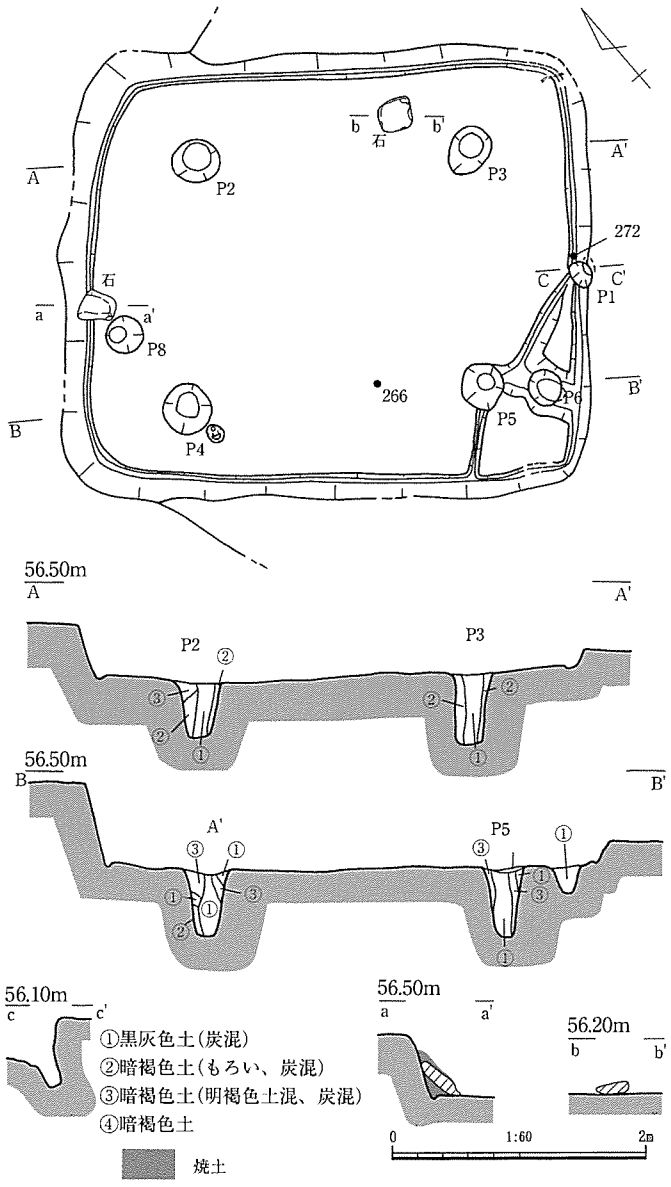


図81　竪穴住居23

のＡ～Ｃに分けられる。Ａ：⑦層に含まれ床面直上から出土したもの、Ｂ：⑦層または⑧層に含まれ、床面から５～８cm前後の土を介して出土したもの、Ｃ：覆土の③層または②層に含まれるもの、である。Ａ、Ｂ、Ｃの順に出土状況を記載する。

Ａは床面ほぼ全面に分布する。分解・土壌化しており材としての形状をとどめないものが大半であるが、丸太材９・12・22・25・33、板材32が該当する。丸太材９・25は垂木の可能性がある。丸太材33はＰ４の埋土に埋没した状態で出土し柱材と思われる。Ｐ２、Ｐ３直上でもわずかであるが垂直方向に立った状態の炭化材を検出した。Ｂは住居北東側をのぞくとほぼ全面に認められる。丸太材10・11・13～15・18・19～21・30・31、板材６・23、である。丸太材20・21・15・17・30・31はほぼ平行して出土しており垂木配列の一部と考えられる。直径が約11cm以上ある丸太材13はＰ４－Ｐ５ライン上に位置することから桁材の可能性がある。Ｃのうち、住居北東隅付近では最下層に炭化材を多量に含む層がなく丸太材１・２～18・28・29が③層相当の高さから出土している。丸太材１は扨看（さす）であろうか。このほかカヤ材34・16・18も直下に褐色土を介することから③層と思われる。このほか、住居南西側壁において板材23・26が出土した。板材23は最大長34cm、最大幅18cm、厚さ約2.5cmである。⑧層から出土しており壁面および床面からは焼土層を介する。板材26は一部が壁面に密着した状態で下端は床面に接する。床面から側壁にかけて３つに折れた状態で出土した。材の下端と側壁、周壁溝の間には焼土が介することから本来的に側壁に貼り付けていたものとは考え難い。こうした出土状況から板材23・26は本来床面から離れた位置にあったものが住居が崩壊する過程で落下したものと考えられる。住居南西側壁のほぼ中央に位置することから住居の入口施設の一部とも考えられる。

炭化材の出土状況をまとめると、Ａ（床面直上）は細片化した多量の炭片に少数の丸太材が混じる程度であり、Ｂ（⑦・⑧層）には垂木とみられる丸太材や板材、カヤ材など小屋組を形成する主要構造材をはじめ多様な材が焼土とともに出土する。Ｃ（③層）の部材は少ないが垂木・小屋組の一部とみられる部材がある。総じて炭化材は住居北西側の残存状況が良好であり、南東側は比較的細片化も

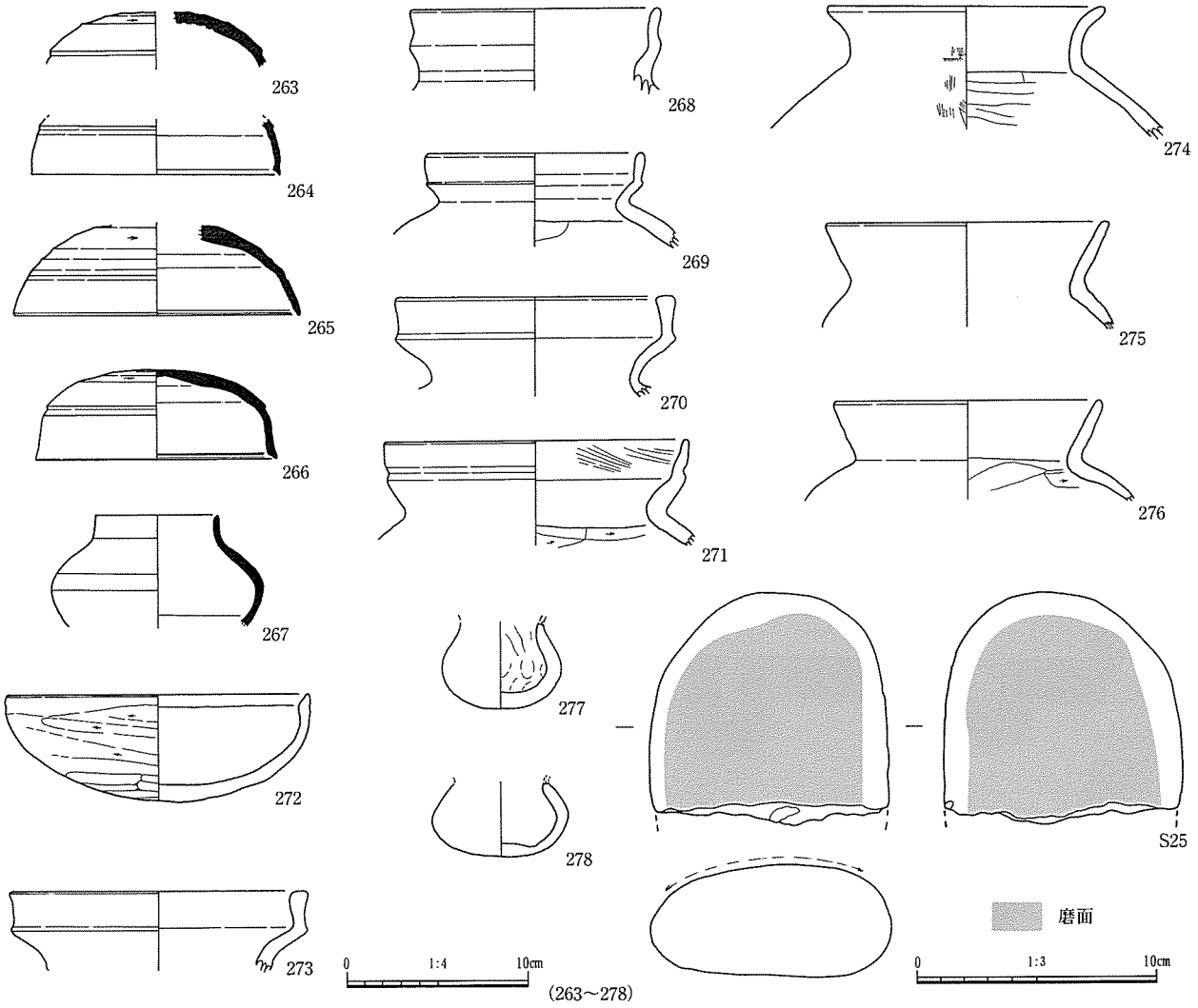


図82　竪穴住居23出土遺物

表5　竪穴住居23出土炭化材の樹種

（古川郁夫・管野仁美鑑定、特論参照）

試料番号	形状・部材	樹　種	試料番号	形状・部材	樹　種
1	丸太	ハンノキ	21	丸太	モクレン科
2	茅・屋根	ヨシ（アシ）	22	丸太	ハンノキ
3	茅・屋根	ヨシ（アシ）	23	板	ケヤキ
4	丸太	ハンノキ	24	丸太	ハンノキ
5	丸太	ハンノキ	25	丸太	アカメガシワ
6	板	スダジイ	26	板	ケヤキ
7	丸太	ハンノキ	27	丸太	アカメガシワ
8	茅・屋根	ヨシ（アシ）	28	丸太	ヤブニッケイ
9	茅・屋根	カシ類	29	丸太	ハンノキ
10	丸太	ハンノキ	30	丸太	ハンノキ
11	丸太	ハンノキ	31	丸太	ホオノキ
12	丸太	スダジイ	32	丸太	ケヤキ
13	丸太	スダジイ	33	板	ケヤキ
14	丸太	スダジイ	34	茅・屋根	ヨシ（アシ）
15	丸太	ハンノキ	35	茅・屋根	ヨシ（アシ）
16	茅・屋根	ヨシ（アシ）	36	P5主柱	ハンノキ
17	丸太	ハンノキ	37	P2主柱	ハンノキ
18	丸太	スダジイ	38	P3主柱	ホオノキ
19	丸太	スダジイ	39	P4主柱	ケヤキ
20	丸太	ホオノキ	40	P7主柱	ケヤキ

図83　竪穴住居23炭化材出土状況図および土層断面図

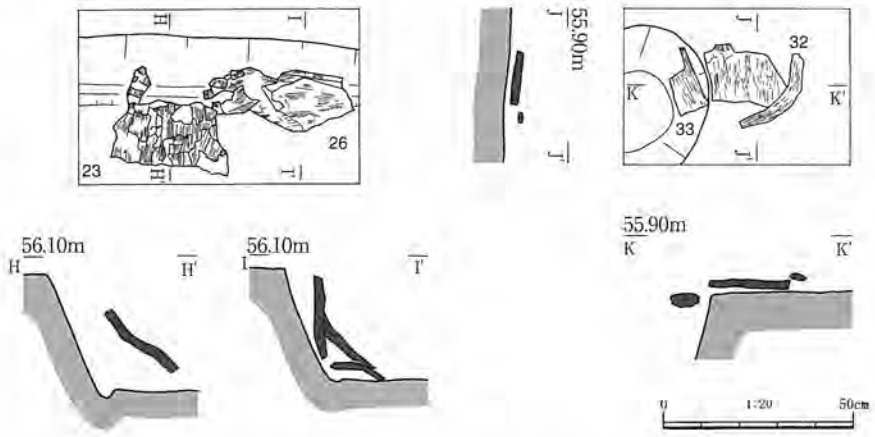


図84　竪穴住居23炭化材出土状況図

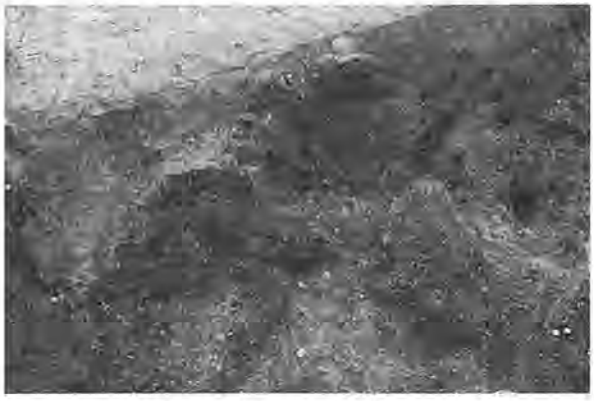
しくは土壌化している。炭化材の樹種同定の結果、クヌギ類、カシ類、ヤマザクラ、モクレン科、ツバキ科など多種の木材を使用していたことが明らかになった（第６章特論参照）。

一般的に、木材やカヤのみにより上屋構造が構築された竪穴住居が炎上・崩壊した場合、覆土中に顕著な焼土層が形成されることは考えにくい。消火用の土が被熱した結果と考えることもできるが、住居内の縁辺部を中心に比較的均一に堆積する状況からみて上屋構造のどこかに使用されていた土が崩壊したものと考えるのが適当であろう。壁を形成した壁土、もしくは屋根に葺かれた屋根土が想定できるが、出土状況からいずれかを特定することは困難である。ただ、住居中心部にも焼土層が形成されていることを重視すれば崩壊した屋根土と理解するのが自然かもしれない。いずれにしても、④･⑦～⑩層にみられる焼土層は家屋が崩壊する過程、もしくは崩壊後に蒸し焼き状態となった炭化材により被熱し焼土化したものと考えられる。

県内の弥生時代後期の焼失住居では、住居中央付近においてドーナツ状に焼土層が確認される例がある。本遺跡で確認された古墳時代中期末から後期の焼失住居のうち焼土が顕著に確認された竪穴住居22･23ではいずれも焼土層は住居周辺部で厚く中央部で薄い。こうした差違は住居構造に由来するものと考えられるが、今後検討すべき課題である。

以上の焼土･炭化材の層位的な出土状況から本竪穴住居の崩壊過程は次のように想定した。まず炎上した家屋の屋根材の一部など、おもに主要構造材以外の部材が床面に落下する。この際屋根土とみられる土の一部が落下したと思われる。次に、垂木材、桁材、梁材など小屋組の大半が屋根土とみられる土とともに一気に崩壊した。

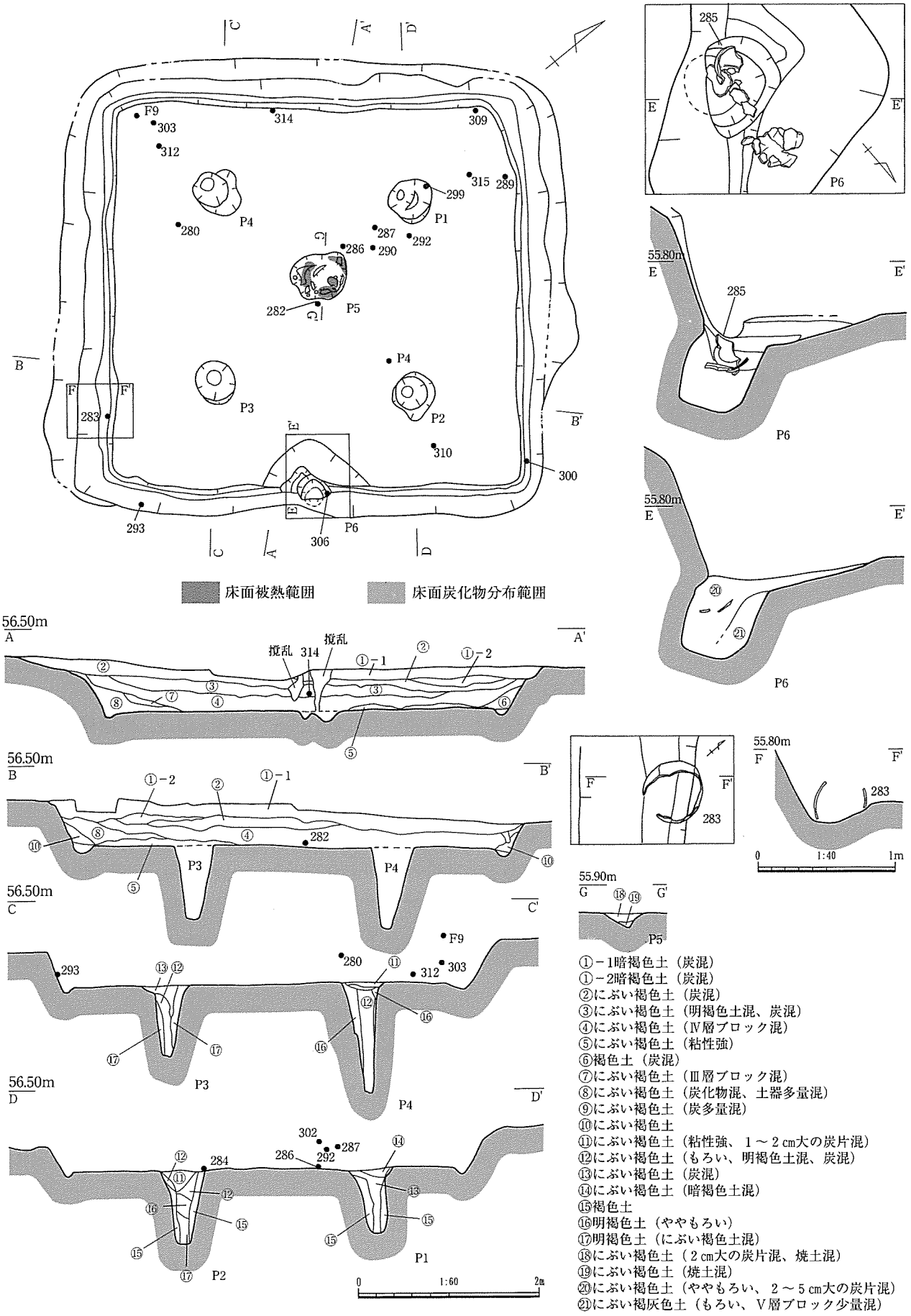
床面出土遺物はわずかである。須恵器の坏蓋265のほか図化していないが西側隅付近で甕の胴部の一部が出土した。北西側の床面では大型の扁平な礫（26cm×23cm×７cm）が出土した。表面に磨面、敲打痕はみられない。最下層⑦層からは須恵器坏蓋266、土師器甕270･271が出土した。これらの遺物はいずれも破片である。北西側の側壁中央付近では④層とみられる位置から大型の扁平な礫（27cm×26.5cm×7.5cm）が出土した。南東側の側壁中央付近、Ｐ１の直上にあたる③層上面から完形の椀272が出土した。



竪穴住居23　板材23・26出土状況

これらの出土遺物から、本住居跡は古墳時代後期前葉に炎上･崩壊したものと考えられる。

（岡野）



①－1暗褐色土（炭混）
①－2暗褐色土（炭混）
②にぶい褐色土（炭混）
③にぶい褐色土（明褐色土混、炭混）
④にぶい褐色土（Ⅳ層ブロック混）
⑤にぶい褐色土（粘性強）
⑥褐色土（炭混）
⑦にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック混）
⑧にぶい褐色土（炭化物混、土器多量混）
⑨にぶい褐色土（炭多量混）
⑩にぶい褐色土
⑪にぶい褐色土（粘性強、１～２cm大の炭片混）
⑫にぶい褐色土（もろい、明褐色土混、炭混）
⑬にぶい褐色土（炭混）
⑭にぶい褐色土（暗褐色土混）
⑮褐色土
⑯明褐色土（ややもろい）
⑰明褐色土（にぶい褐色土混）
⑱にぶい褐色土（２cm大の炭片混、焼土混）
⑲にぶい褐色土（焼土混）
⑳にぶい褐色土（ややもろい、２～５cm大の炭片混）
㉑にぶい褐灰色土（もろい、Ⅴ層ブロック少量混）

図85　竪穴住居24

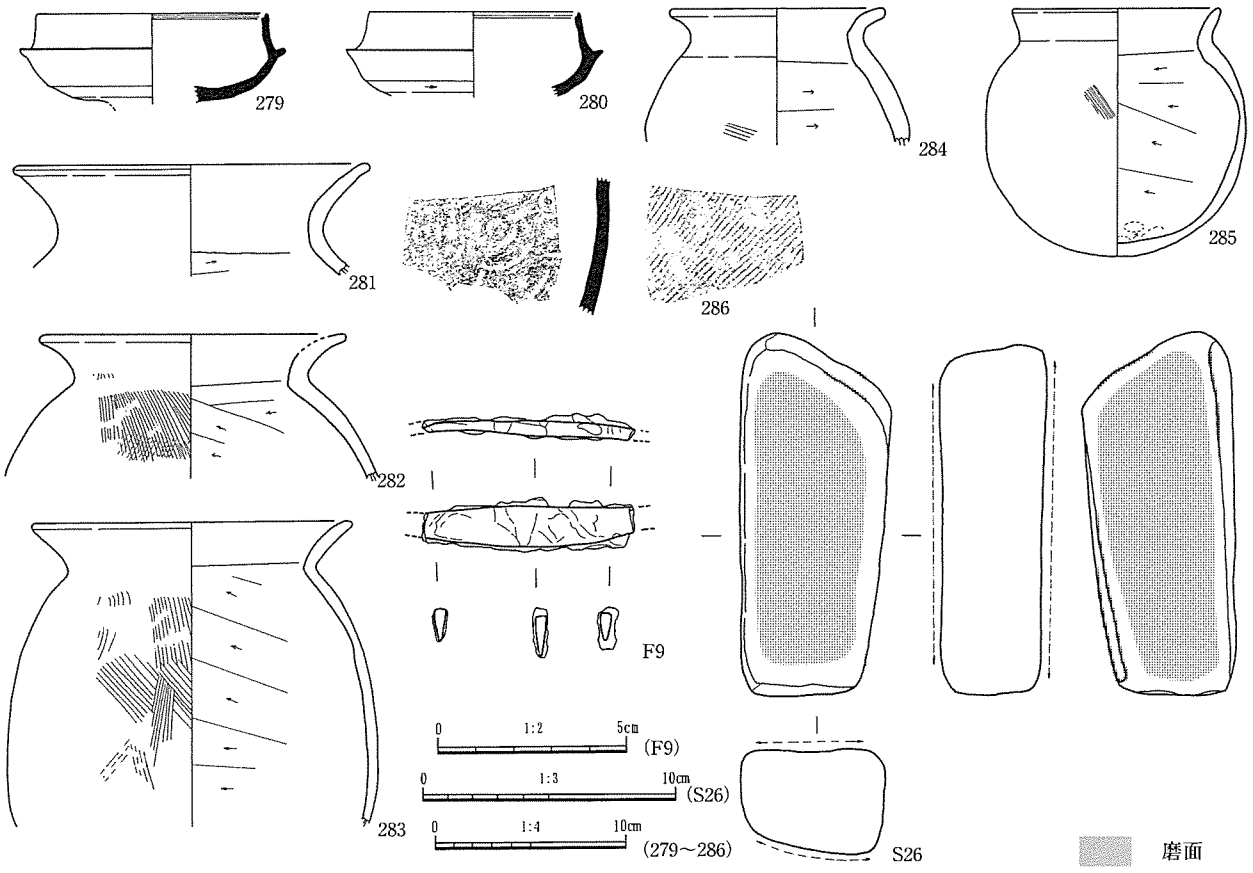


図86　竪穴住居24出土遺物（1）　床面直上

竪穴住居24（図85～88、図版32・54・55）

調査地中央部に位置する。平面形は方形を呈し、床面での長軸4.66m、短軸4.40m、床面積は約18.4㎡である。側壁の高さは最も残存する南東側で約60cmである。床面は幅12cm、深さ６cm前後の周壁溝が全周する。主柱と考えられるのはＰ１～４で、柱間距離は2.20m（Ｐ１－２）、2.10m（Ｐ２－３）、2.14m（Ｐ３－４）、2.10m（Ｐ４－１）である。南東壁際ほぼ中央の床面にＰ６を検出した。住居壁面に向かい斜坑状に掘り込まれるピットである。底部は床面より74cm低い位置にある。周囲の床面はテラス状に浅く窪む。Ｐ６埋土⑳・㉑層はもろく、微細な炭化物が混入する。住居中央部で検出したＰ５は、長軸60cm、短軸48cmの範囲にわたり床面が被熱により硬化し、中央は約８cm窪む。この窪みには焼土ブロック、炭化物が多量に混入する。

住居覆土の最上層（①層）は暗褐色土を呈し、②層から下層はにぶい褐色土と褐色土である。覆土中には遺物を多数包含する。埋没過程の窪みに土器を投棄したものであろう。

床面出土遺物は、Ｐ６⑳層から出土した完形の甕285のほか、甕282～284、須恵器高坏279、甕胴部片286、磨石Ｓ26である。住居覆土④層からは碧300、坏310、①層からは壺287・292、竈290・291、土錘293、覆土中からは坏297出土している。高坏279が陶邑編年のＴＫ47型式に併行するとみられ、古墳時代後期前葉に廃絶した遺構と考えられる。（森本）

竪穴住居25（図89・90、図版33）

調査地北西側に位置する。遺構の北西側は調査地外で、南西側は竪穴住居26を切る。平面形は方形を呈すと思われる。側壁の高さは最も残存する北西側で54cmである。柱穴の可能性があるのはＰ３（長径63cm×短径61cm－深さ23cm）である。Ｐ４の深さは17cmである。南東壁の床面にＰ１を検出し

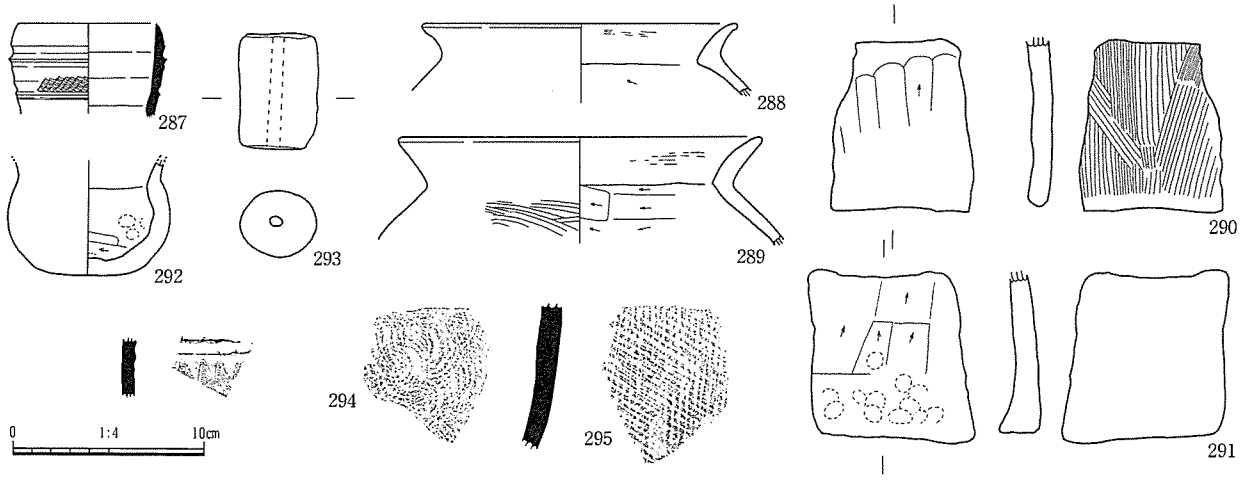


図87　竪穴住居24出土遺物（2）　①層出土遺物

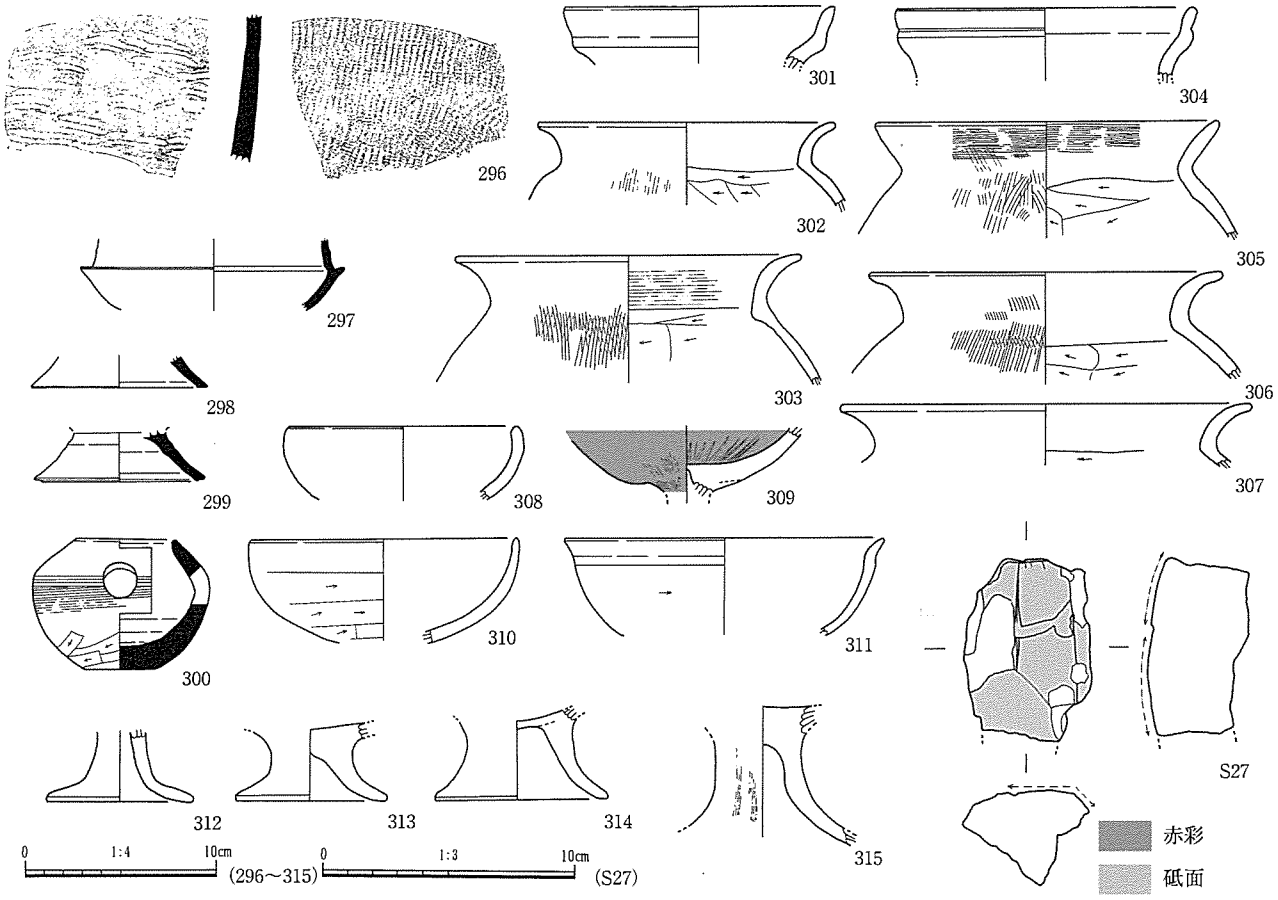


図88　竪穴住居24出土遺物（3）　覆土中出土遺物

た。住居壁面に向かい斜坑状に掘り込まれるもので、底部は床面より48cm低い。埋土には若干の炭化物を含む。周囲の床面はスロープ状に浅く窪む。側壁直下には幅10cm、深さ10cm前後の周壁溝を検出したがＰ１には直結せず北西側へ屈曲する。住居覆土のうち①層は暗褐色土であり自然堆積とみられる。②層から下層にはⅣ・Ⅴ層ブロックを含む。

床面出土遺物は、Ｐ１検出面より出土した坏317である。④層から出土した敲石Ｓ28のほか、覆土中からは甕316が出土した。竪穴住居26を切ることや出土遺物からみて、古墳時代時代後期中葉に廃

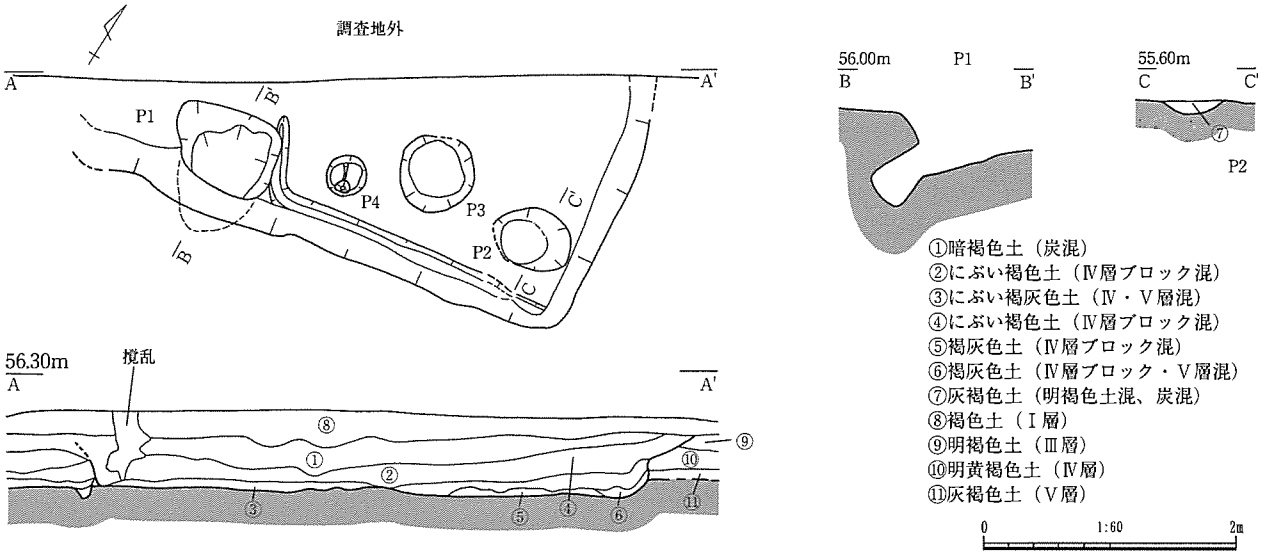


図89　竪穴住居25

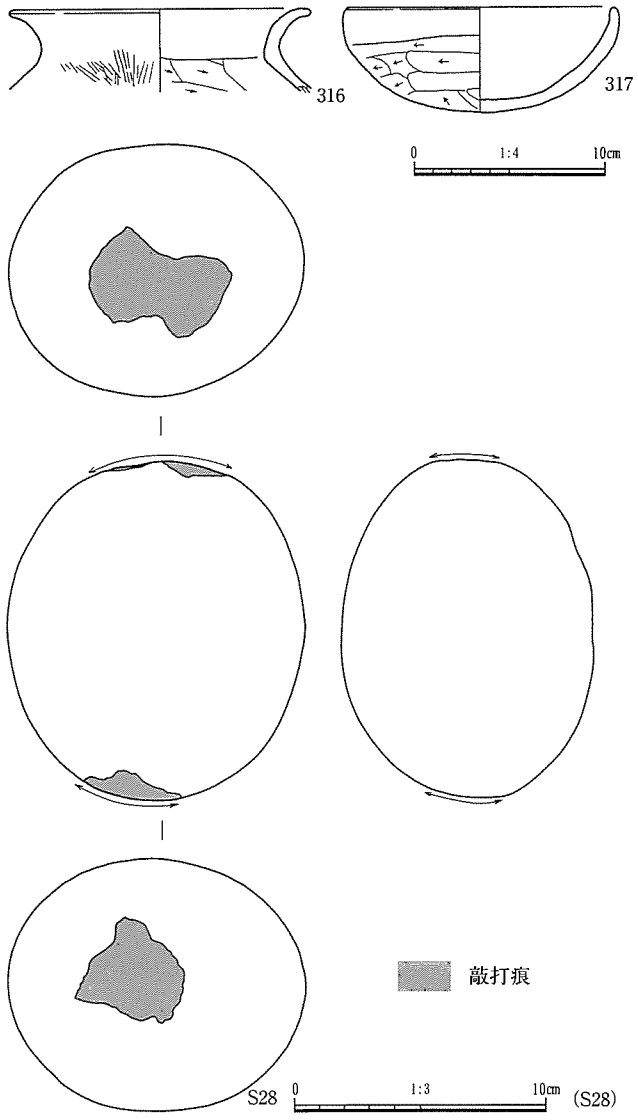


図90　竪穴住居25出土遺物

絶した住居と考えられる。　　（森本）

竪穴住居26（図91・92、図版33）

調査地北西側に位置する。遺構の北東側は調査地外で、東側は竪穴住居25に切られる。平面形は方形を呈すと思われる。確認できた床面での一辺は約5.7m前後、側壁の高さは最も残存する南西側で62cmである。床面には幅10cm、深さ8cm前後の周壁溝を検出した。南側コーナー部分では２本の周壁溝が重なるように検出された。内側の周壁溝は幅約10cm、深さ約６cmである。遺構の大部分は調査地外であるが、建替えまたは拡張が行われた可能性がある。南東側の周壁溝から北西側の調査地際にかけて溝１が掘削されている。埋土はにぶい褐色土で、溝底面で標高はおおむね55.3mである。主柱穴と考えられるピットは検出していない。南東壁ほぼ中央部分の床面にＰ１を検出した。北西側はテラス状に浅く窪む。Ｐ１北側の床面直上には、若干の炭化物の広がりを検出した。住居覆土は、主ににぶい褐色土である。

床面出土遺物は、高坏坏部319、Ｐ１検出面から出土した甕318、溝１から出土した敲石Ｓ29である。①層から高坏320～322、②層か

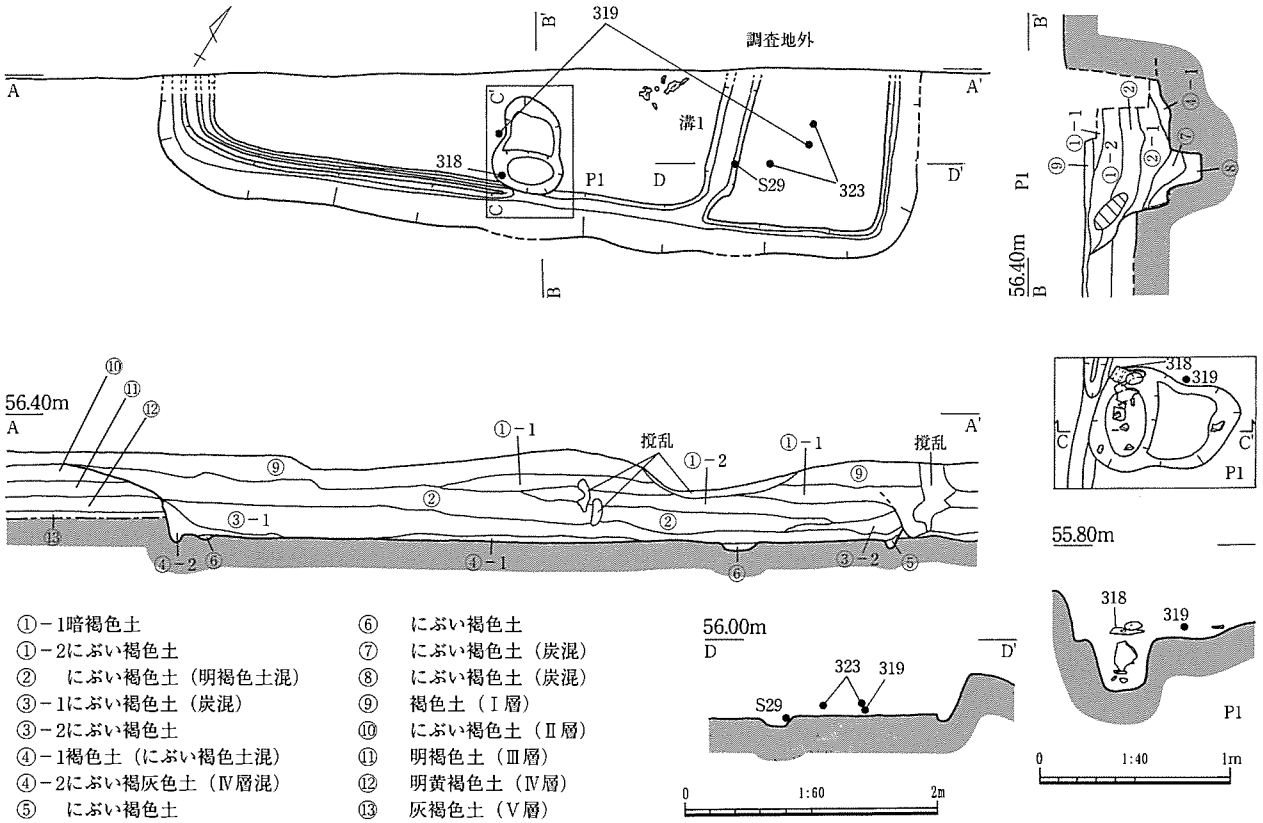


図91　竪穴住居26

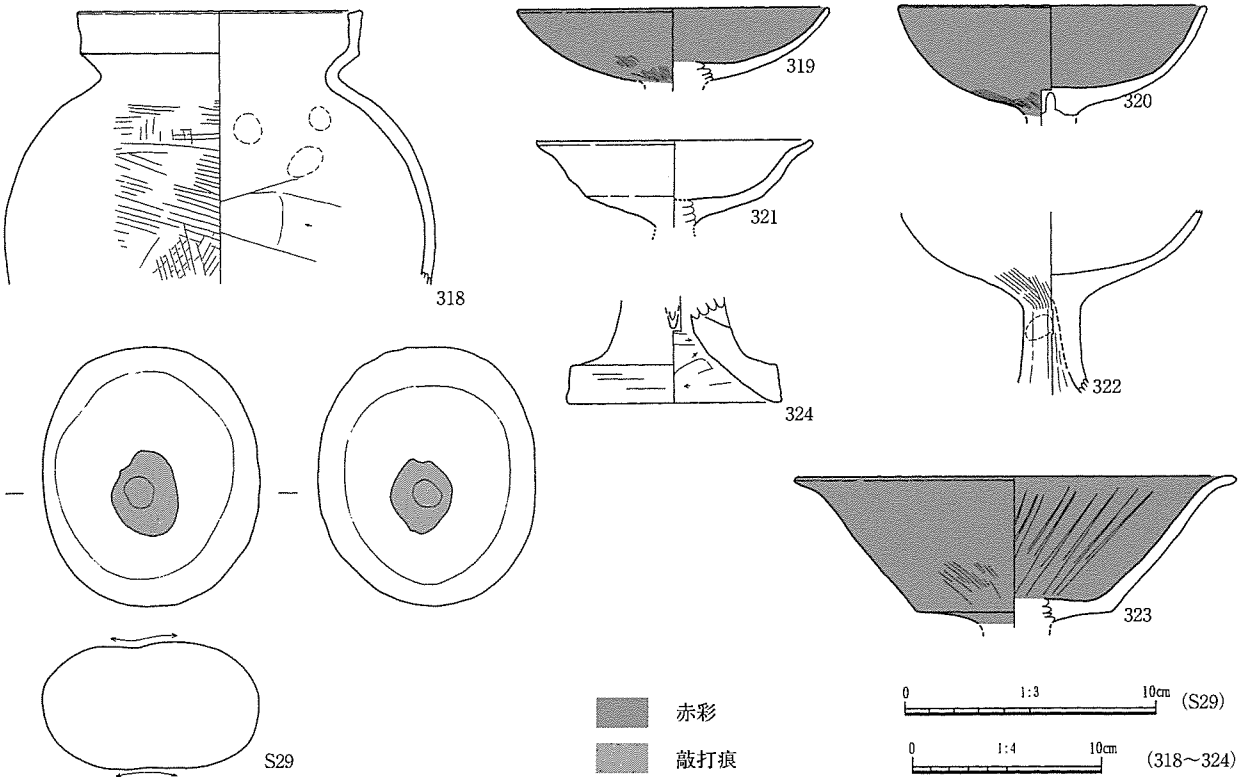


図92　竪穴住居26出土遺物

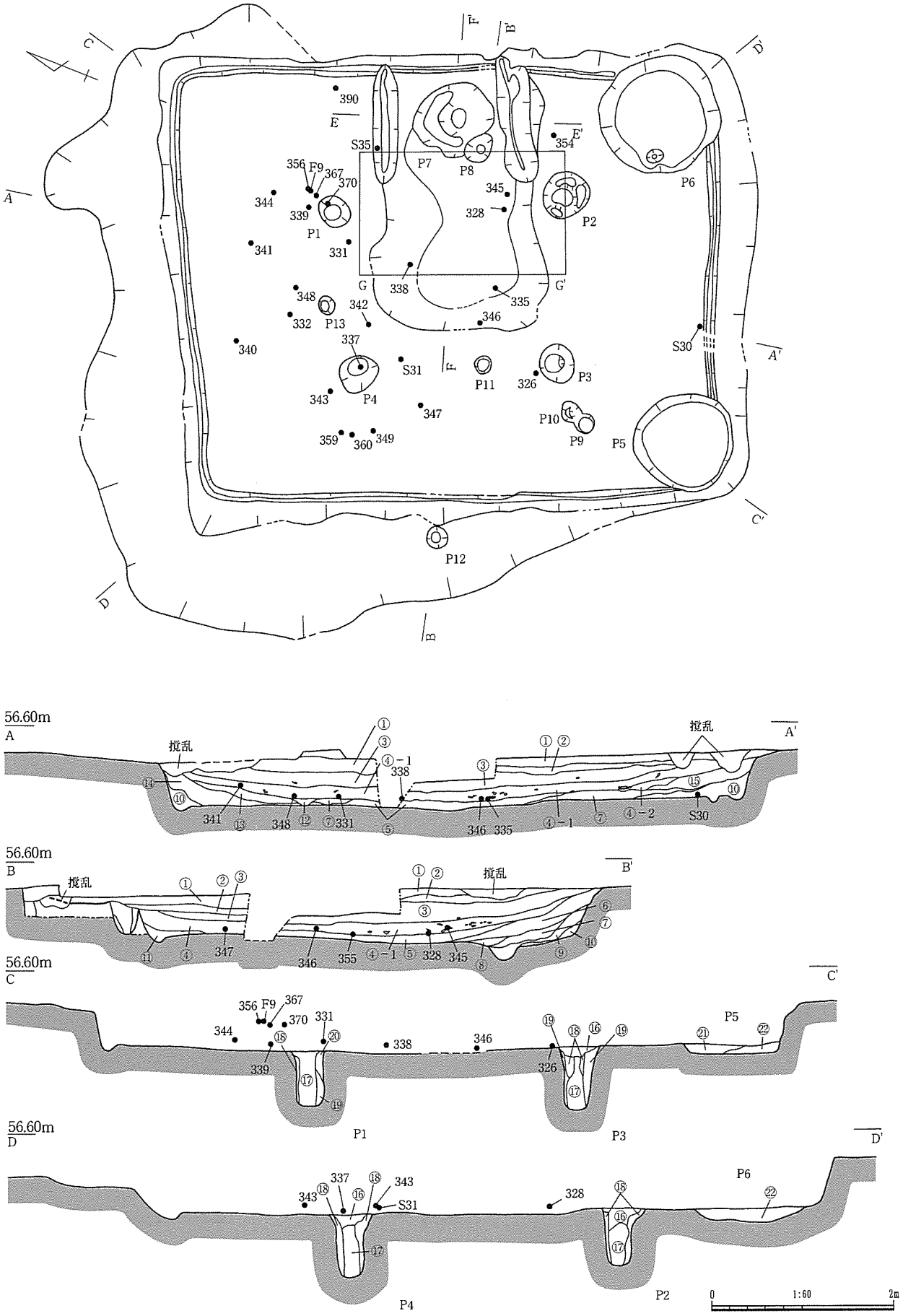
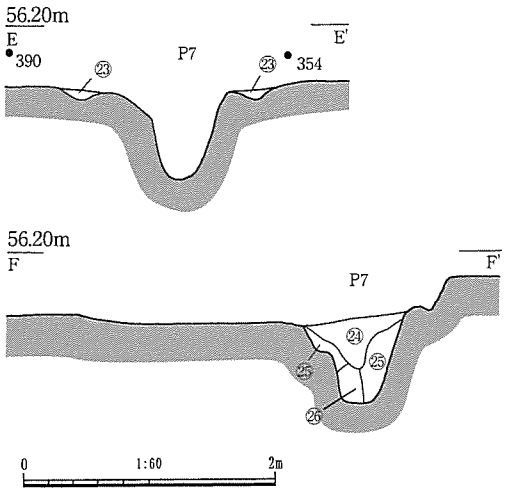
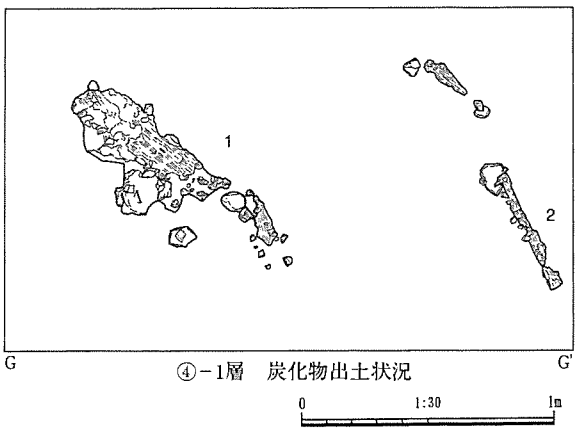

56.60m
A
A'
撹乱
56.60m
B
B'
56.60m
C
C'
56.60m
D
D'
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
F9
S30
S31
S35
0
1:60
2m

図93　竪穴住居27（1）





① 暗褐色土
② 暗褐色土（①より明るい）
③ にぶい褐色土（明褐色土やや多く混、炭混）
④－1にぶい褐色土（炭多量混、炭化板材混、土器多量混）
④－2にぶい褐色土（炭混）
⑤ にぶい褐色土（明褐色土混、炭混）
⑥ にぶい褐色土（しまる）
⑦ にぶい褐色土（褐色土混）
⑧ にぶい褐色土（明褐色土混、炭多量混）
⑨ にぶい褐色土
⑩ にぶい褐色土（明褐色土やや多く混）
⑪ にぶい褐色土（Ⅲ層多量混、炭多量混）
⑫ にぶい褐色土（炭混）
⑬ にぶい褐色土（明褐色土混）
⑭ にぶい褐色土（明褐色土やや多く混）
⑮ にぶい褐色土（Ⅲ・Ⅳ層ブロック多量混）
⑯ にぶい褐灰色土（明褐色土混）
⑰ にぶい褐灰色土（もろい）
⑱ にぶい褐灰色土（明褐色土やや多く混、炭混）
⑲ 明褐色土（にぶい褐灰色土混）
⑳ 明褐色土（にぶい褐色土混、炭混）
㉑ にぶい褐色土（炭混）
㉒ にぶい褐色土（Ⅳ・Ⅴ層混、炭混）
㉓ にぶい褐灰色土
㉔ にぶい褐色土（明褐色土やや多く混）
㉕ にぶい褐灰色土（明褐色土混）
㉖ 暗褐灰色土（もろい、明褐色土混）

図94　竪穴住居27（2）

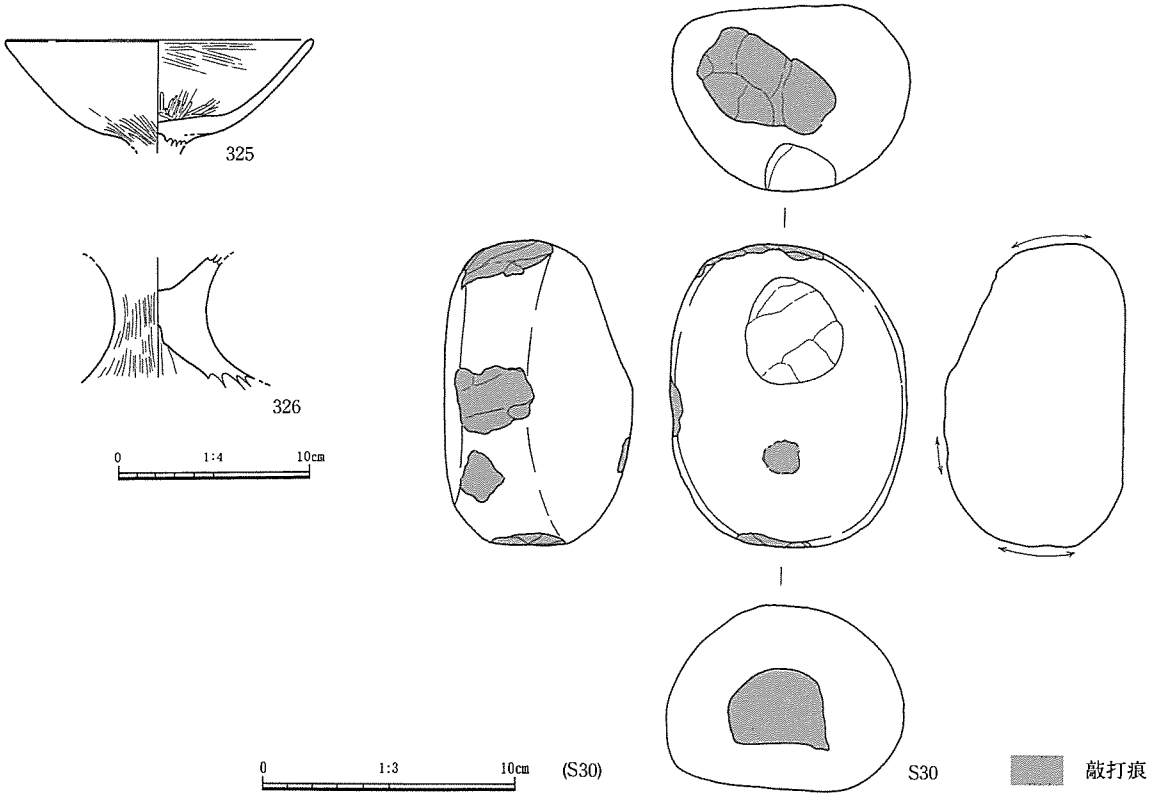


図95　竪穴住居27出土遺物（1）　床面直上出土遺物

ら高坏323が出土した。床面出土遺物より、古墳時代時代後期に廃絶した住居と考えられる。（森本）

竪穴住居27（図93～98、図版34･35･52･55･56）

調査地南西側に位置する。竪穴住居５を切る。床面では長軸約6.0ｍ、短軸約4.7ｍの平面方形を呈する。床面での標高は55.74ｍ、床面積は26.0㎡である。側壁の高さは最大60㎝である。床面には周壁溝を検出した。南側側壁直下では二本の周壁溝が検出されたことから、掘り直しまたは拡張が行われた可能性がある。主柱穴とみられるのはＰ１～Ｐ４である。柱痕部分はもろく幅は16～19㎝である。床面南西隅および南東隅部において直径1.0～1.3ｍ、深さ９～14㎝のＰ５、Ｐ６を検出した。周壁溝が埋土を切らないことや、周壁溝の一部がピット直前で掘削を停止していることからＰ５、Ｐ６ともに住居の最終段階に機能したピットと考えられる。埋土には若干の炭を含む。床面中央付近から東側にかけて長軸2.8ｍ、短軸1.6ｍ、深さ４～７㎝の緩やかに低くなる部分がある。この東端側壁直下でＰ７とその両端に伸びる短い溝を検出した。Ｐ７は床面からの深さ76㎝、埋土にはⅢ層ブロックを多く含むが炭化物は極めて少ない。覆土上層（①･②層）は暗褐色土を呈し、西側から北側にかけては住居外方に向けて大きく広がる堆積である。下層にはⅣ層･Ｖ層ブロックを含む。

床面直上から高坏325･326、礫石器Ｓ30が出土した。覆土④層からは多量の土器、炭化材が出土した。これらの遺物は薄い単一の層に含まれることからみて短期間に投棄されたと考えられ、一括性の高い一群と評価できる。住居跡中央付近の④層からは炭化材が出土した（図94）。板材１、丸太材２のほか、周辺から分解・土壌化した炭化物が検出された。板材１は、幅25㎝以上、長さ54㎝、厚さ1.5㎝以上であり、樹種同定の結果クリと鑑定された。他の覆土や床面に炭化材･焼土はみられないため、これらの炭化材は住居が廃絶した後に多量の土器とともに窪地に廃棄されたものと考えられる。覆土②層もしくは③層からの管玉未製品もしくは残滓とみられる碧玉Ｓ33が出土した。床面出土遺物および④層出土遺物からみて、古墳時代後期前葉に廃絶した遺構と考えられる。（岡野）

竪穴住居28（図99･100、図版35・58・64・65）

調査地東端に位置する。竪穴住居４（弥生時代後期）の東端を切り掘削されている。調査したのは住居の西側約１/２である。平面形は方形を呈し、残存する床面の長軸は約6.5ｍである。側壁の高さは北東側で70㎝である。Ｖ層（灰褐色土）を床面とし、幅８㎝、深さ６㎝の周壁溝が巡る。床面にも側壁と平行した溝が２本掘削されており、建替えもしくは拡張が考えられる。

主柱穴はＰ１～Ｐ４と考えられ、柱間距離は約1.8ｍ（Ｐ１-Ｐ２）、約1.7ｍ（Ｐ２-Ｐ３）、約1.8ｍ（Ｐ３-Ｐ４）、約2.8ｍ（Ｐ４-Ｐ１）である。Ｐ２で柱痕が確認されており、Ｐ２・Ｐ３は、建替え後も継続して使われていた可能性が考えられる。

住居覆土は②層から下は黄褐色土ブロックを多く含み、住居廃絶後にある程度は人為的に埋め戻された可能性が考えられる。

床面直上からは鋸に転用したと思われる鎌Ｆ11が刃先を南東に向けた状態で出土した。そのほか甕口縁373、高坏の脚部379など数点出土した。覆土中からは土器375～378のほか砥石Ｓ36が出土した。床面直上から出土した土器から、この遺構は古墳時代後期に廃絶した住居と考えられる。（小林）

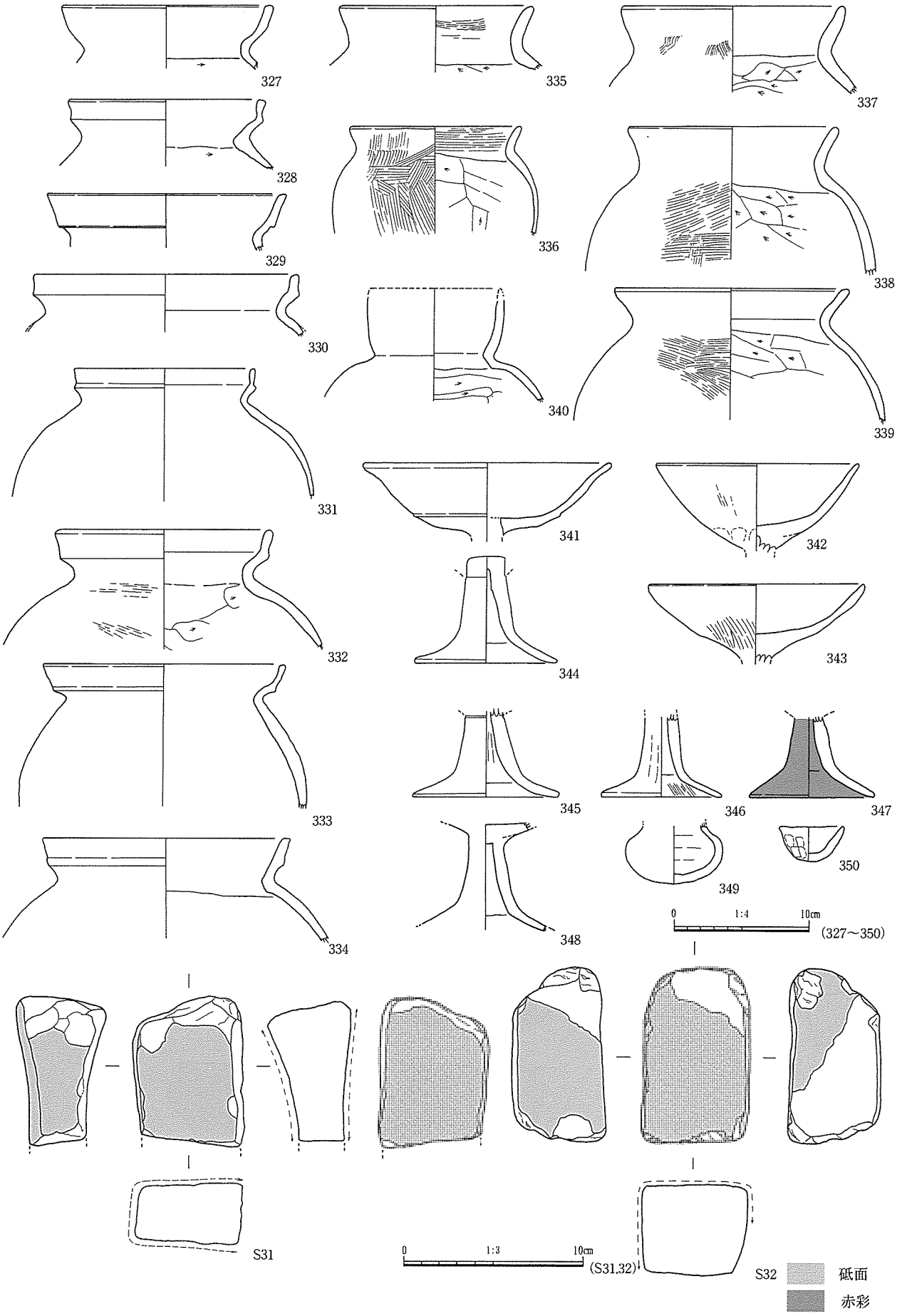


図96　竪穴住居27出土遺物（2）　④層出土遺物

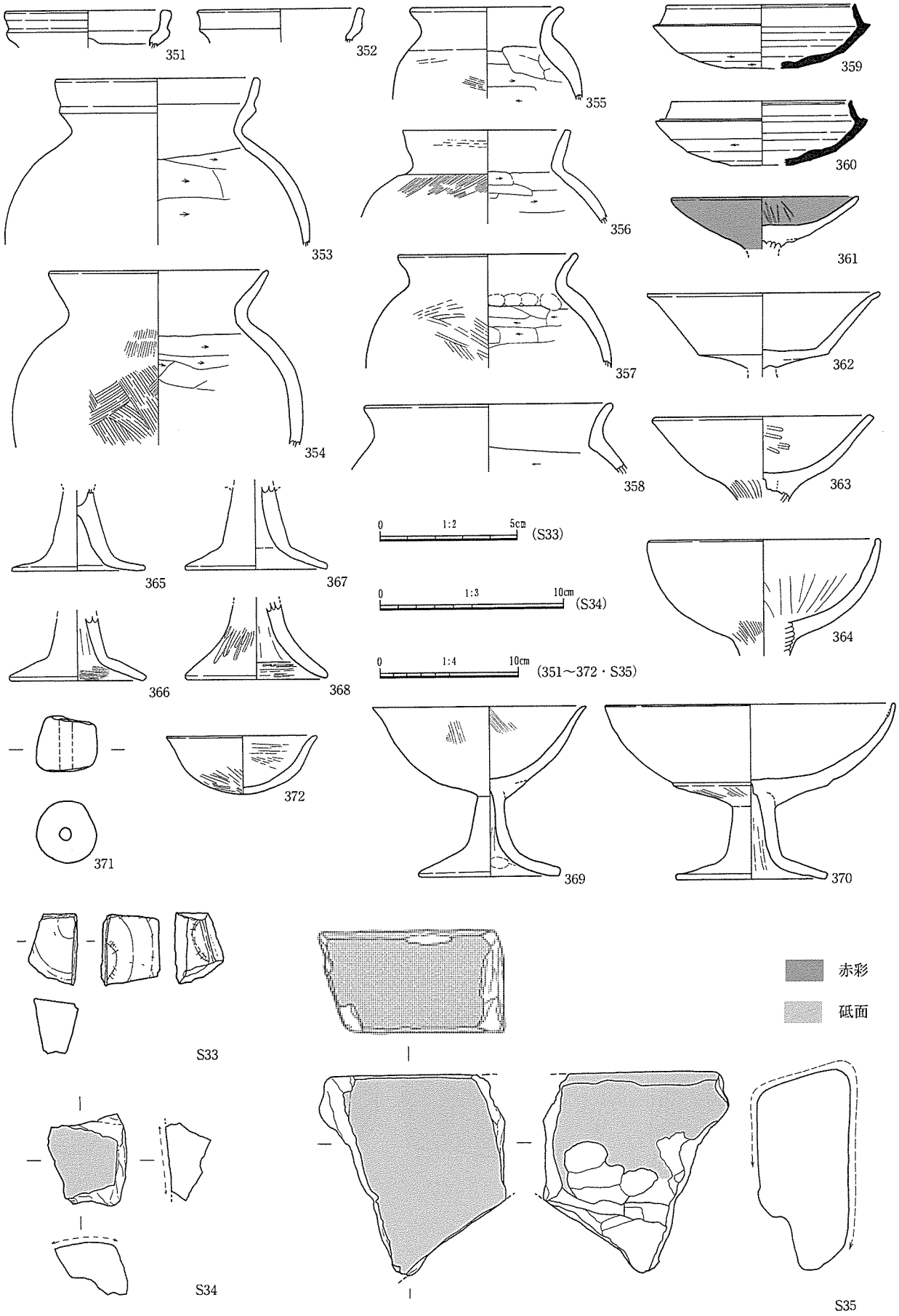


図97　竪穴住居27出土遺物（3）　①～③層出土遺物

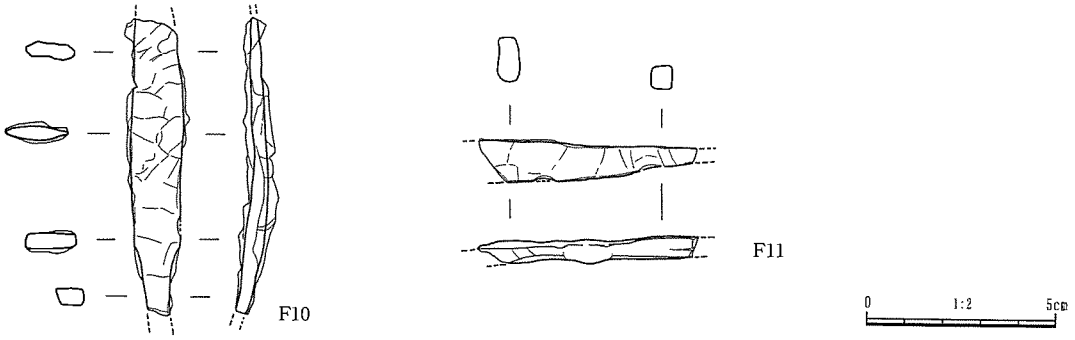
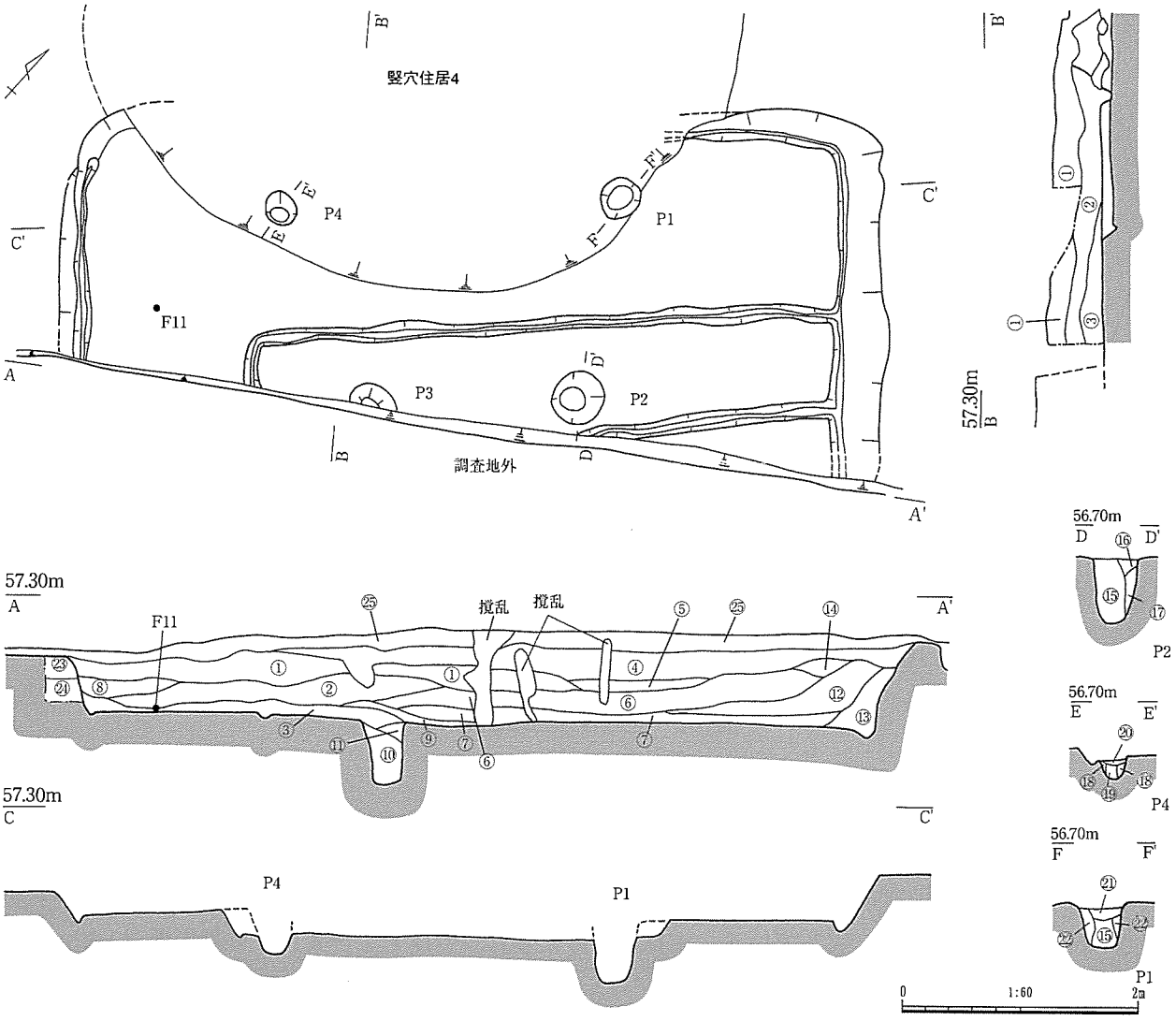


図98　竪穴住居27出土遺物（4）



①にぶい褐色土（暗褐色土混）
②やや暗い褐色土（炭混）
③褐灰色土（炭混、赤黄褐色土混）
④暗褐色土（炭・土器混）
⑤にぶい褐色土（２～３cm大のⅣ層ブロック混）
⑥やや暗い灰褐色土（２～３cm大のⅣ層ブロック混）
⑦にぶい褐灰色土（粘質強、炭混）
⑧にぶい褐色土（Ⅳ層ブロック混）
⑨暗褐灰色土（炭混）
⑩やや暗い褐灰色土（炭混）
⑪やや暗い褐灰色土（Ⅳ層・Ⅴ層混）
⑫やや暗い褐灰色土（２cm程度のⅣ層ブロック混、炭混）
⑬やや暗い褐灰色土（１cm以下のⅣ層ブロック混、炭混）
⑭暗褐色土（にぶい褐色土混）
⑮暗褐色土（褐色土ブロック・暗褐色土ブロック混、炭少量混）
⑯暗褐色土（Ⅲ層少量混、Ⅲ層ブロック少量混）
⑰明暗褐色土（しまる、Ⅲ層ブロック混）
⑱明褐色土（炭少量混）
⑲にぶい褐色土（しまる、炭混）
⑳にぶい褐色土（しまる、Ⅲ層ブロック混、暗褐色土少量混、炭混）
㉑にぶい褐色土（褐色土混、炭少量混）
㉒にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック多少混、炭少量混）
㉓明黄褐色土（Ⅳ層）
㉔灰褐色土（Ⅴ層）
㉕褐色土（Ⅰ層）

図99　竪穴住居28

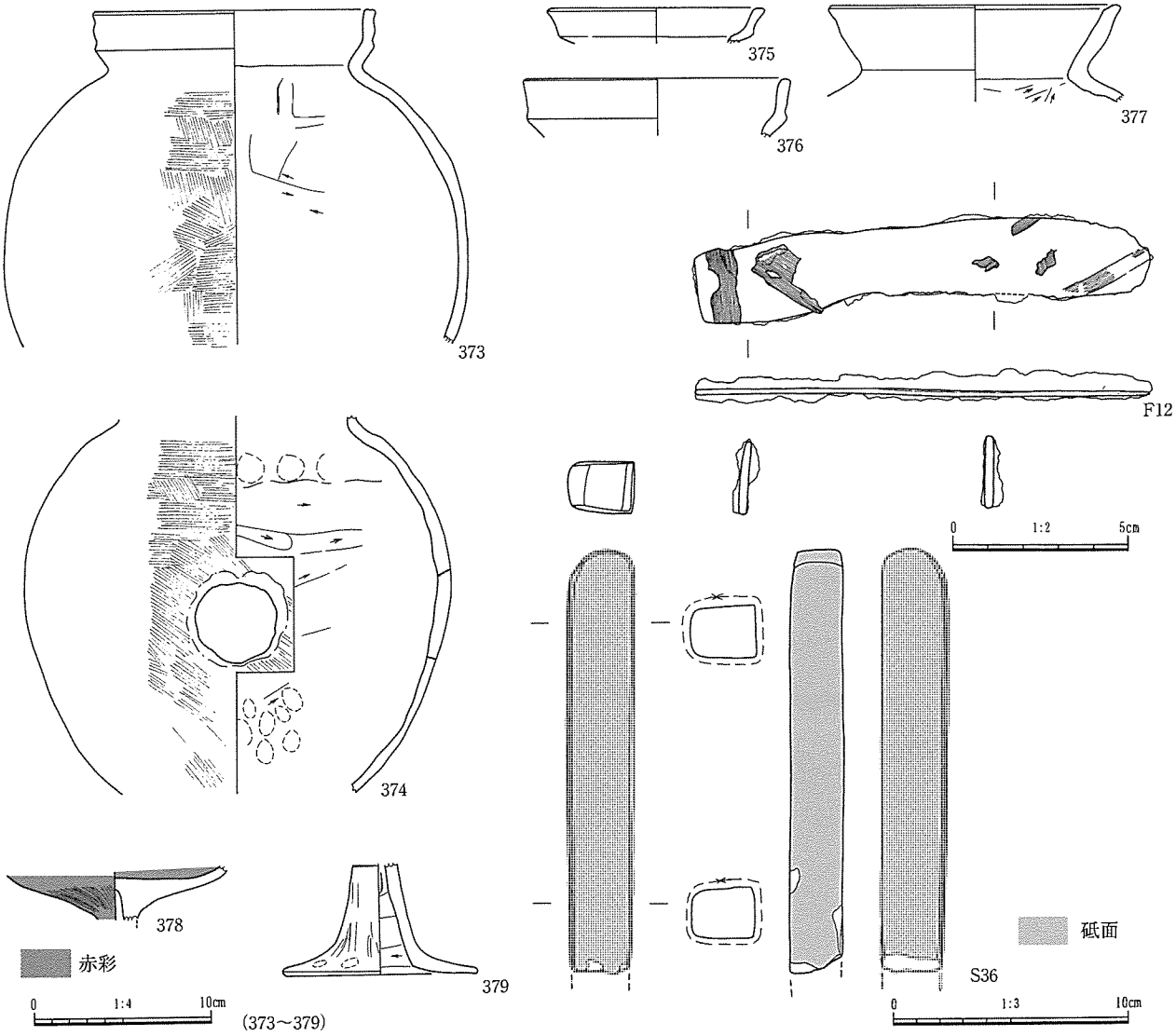


図100　竪穴住居28出土遺物

竪穴住居29（図101・102、図版35）

調査地南西側に位置する。平面形は方形を呈し、床面での長軸は6.30m、短軸は3.96m、床面積は約15.7㎡である。検出面から床面までの深さは最も残存する南東側で54cmである。床面には幅12cm、深さ10cm前後の周壁溝が全周している。主柱穴と考えられるのはＰ１～４で、柱間距離は1.82m（Ｐ１－２）、2.08m（Ｐ２－３）、1.60m（Ｐ３－４）、1.92m（Ｐ４－１）である。北東壁ほぼ中央の床面にＰ６を検出した。Ｐ６の北西側と南東側は、床面がテラス状に浅く窪む。埋土の⑧層には炭化物が多く含まれる。住居中央部で検出したＰ５は、底面が被熱して硬化している。埋土には多量の炭化物が含まれており、板状を呈するものもわずかに含まれていた。

住居覆土の最上層（①層）は暗褐色土を呈し、②層以下はにぶい褐色土である。③層以下にはⅢ・Ⅳ層ブロックを含む。

床面出土遺物は、Ｐ６北側のテラス状の窪み際で出土した甕380のほか、甕382、坏384、須恵器脚部387である。覆土中からは須恵器坏385・386、鎌の基部Ｆ12などが出土している。

床面出土遺物より古墳時代後期中葉に廃絶した住居と考えられる。（森本）

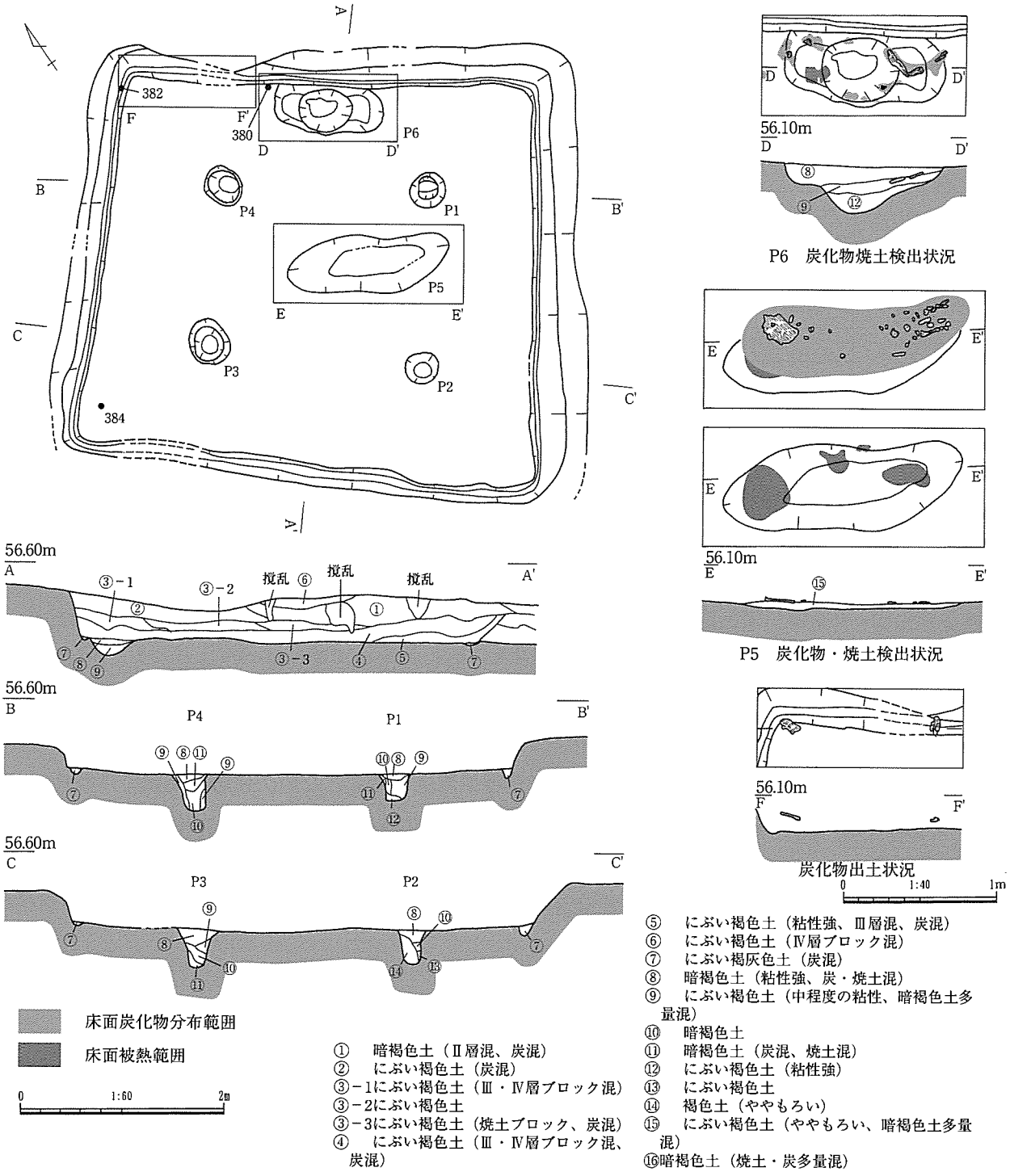


図101　竪穴住居29

竪穴住居30・31（図103、図版36）

調査地北東端付近、台地北東端縁辺部の緩斜面で検出した。２棟が切り合っており、竪穴住居31が新しい。竪穴住居30は、平面隅丸方形のテラス状を呈する。床面の標高は54.6mである。配列からみてＰ１、Ｐ２が主柱穴と思われる。覆土は土層断面Ａ－Ａ´と同様の色調であり最上層に黒褐色土が堆積する。床面直上出土遺物はない。覆土中下層から甕389、高坏393が出土した。

竪穴住居31は平面方形のテラス状を呈する。床面の標高は54.4mである。側壁直下では周壁溝を検出した。ピットの配列からみてＰ３～Ｐ５のいずれかが主柱となるものと思われる。覆土は最上層に

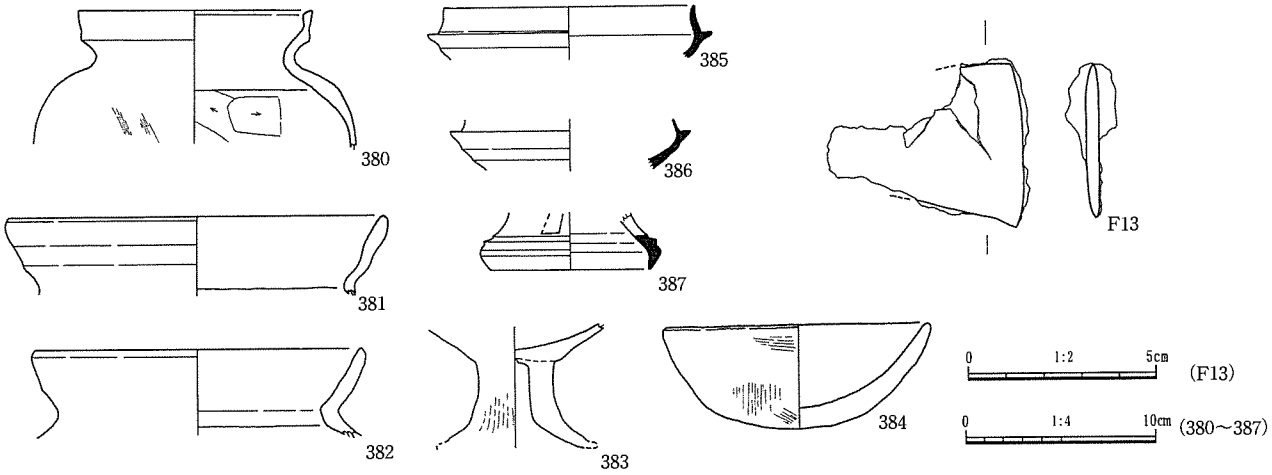


図102　竪穴住居29出土遺物

黒褐色土が堆積する。床面直上の出土遺物はないが、30cm×24cm×10cmの礫が出土した。覆土中②層から土器388･390･391･392が出土した。古墳時代後期中葉に廃絶した遺構であろう。　（岡野）

竪穴住居32（図104・105、図版37・58）

調査地南側、台地平坦面の縁辺部の緩斜面に位置する。平面形は方形を呈す。床面での長軸は3.9m、短軸は3.5m、床面積は約13.2㎡である。側壁の高さは最も残存する南東側で78cmである。床面では北東側側壁直下のみ周壁溝を検出した。主柱とみられるのはＰ１・２・４・５で、柱間距離は約1.5m（Ｐ１－２）、約1.3m（Ｐ２－５）、約1.6m（Ｐ４－５）、約1.2m（Ｐ４－１）である。南東側側壁のほぼ中央付近の床面でＰ３を検出した。埋土には炭化物や焼土は混入しない。住居北東側では幅約22cm、深さ約10cmの弧状を呈する溝を検出した。周堤溝とみられ、住居側壁上端から約40cm～70cmの位置にある。住居覆土およびピットの埋土は下層の一部を除いて暗褐色を呈する。④層下方からは甕の口縁部394、覆土中からは壺の口縁部395、鋳造鉄斧Ｆ13が出土している。出土遺物から古墳時代中期後葉から後期前葉に廃絶した遺構と考えられる。　（森本）

竪穴１（図103・104、図版37・58）

調査地には平面方形を呈し上屋構造を支える主柱穴を持たない遺構が８棟検出された。焼失したとみられる竪穴４からは炭化材が出土しており簡易な上屋構造は存在したとみられるが、主柱穴をもつ竪穴住居とは構造的な差違が想定される。適当な名称がみあたらないため本報告書では竪穴と称した。

竪穴１は、調査地南側、台地平坦面の縁辺部の緩斜面に位置する。南東側は竪穴住居32に切られる。北側の一部が残存するのみである。底面に幅約４cm、深さ約２cmの周壁溝を検出した。主柱と考えられるピットは検出していない。覆土はにぶい褐色土が堆積していた。覆土最下層より、底部片396が出土した。　（岡野・森本）

竪穴住居33・34（図106・107、図版37・38）

調査地北東側、台地平坦面縁辺部付近に位置する。竪穴住居33は竪穴住居34に切られており一部が残存するのみである。床面の一辺が約3.2m前後の平面方形の住居跡と推察される。側壁の高さは残存する南端では56.4cmである。側壁直下に周壁溝を検出した。住居覆土はにぶい褐色土である。遺物は小片が数点出土したが、図化できない。

竪穴住居34は平面方形を呈し、床面での長軸は3.3m、短軸は3.0m、床面積は約9.0㎡である。側壁

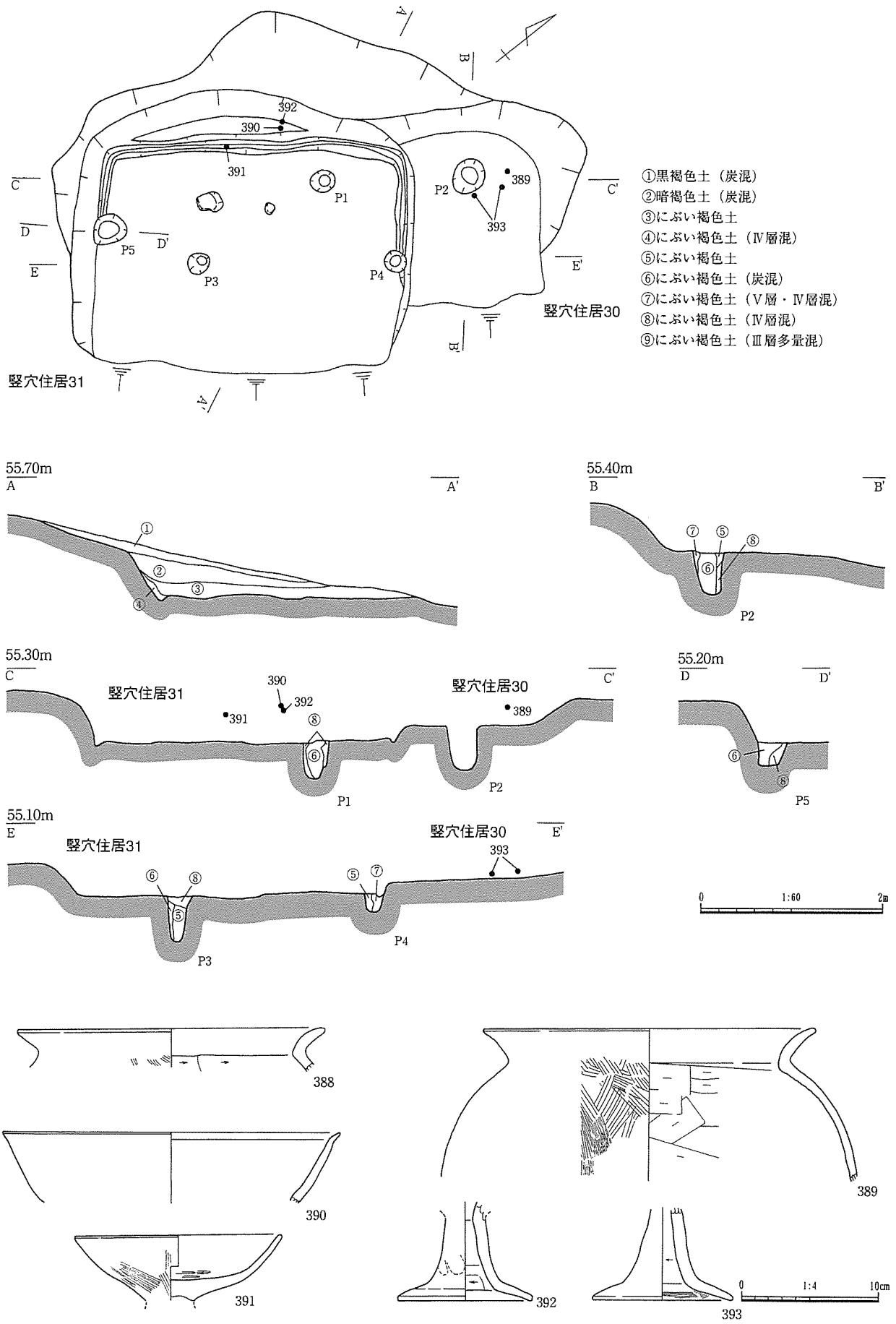


図103　竪穴住居30・31および出土遺物

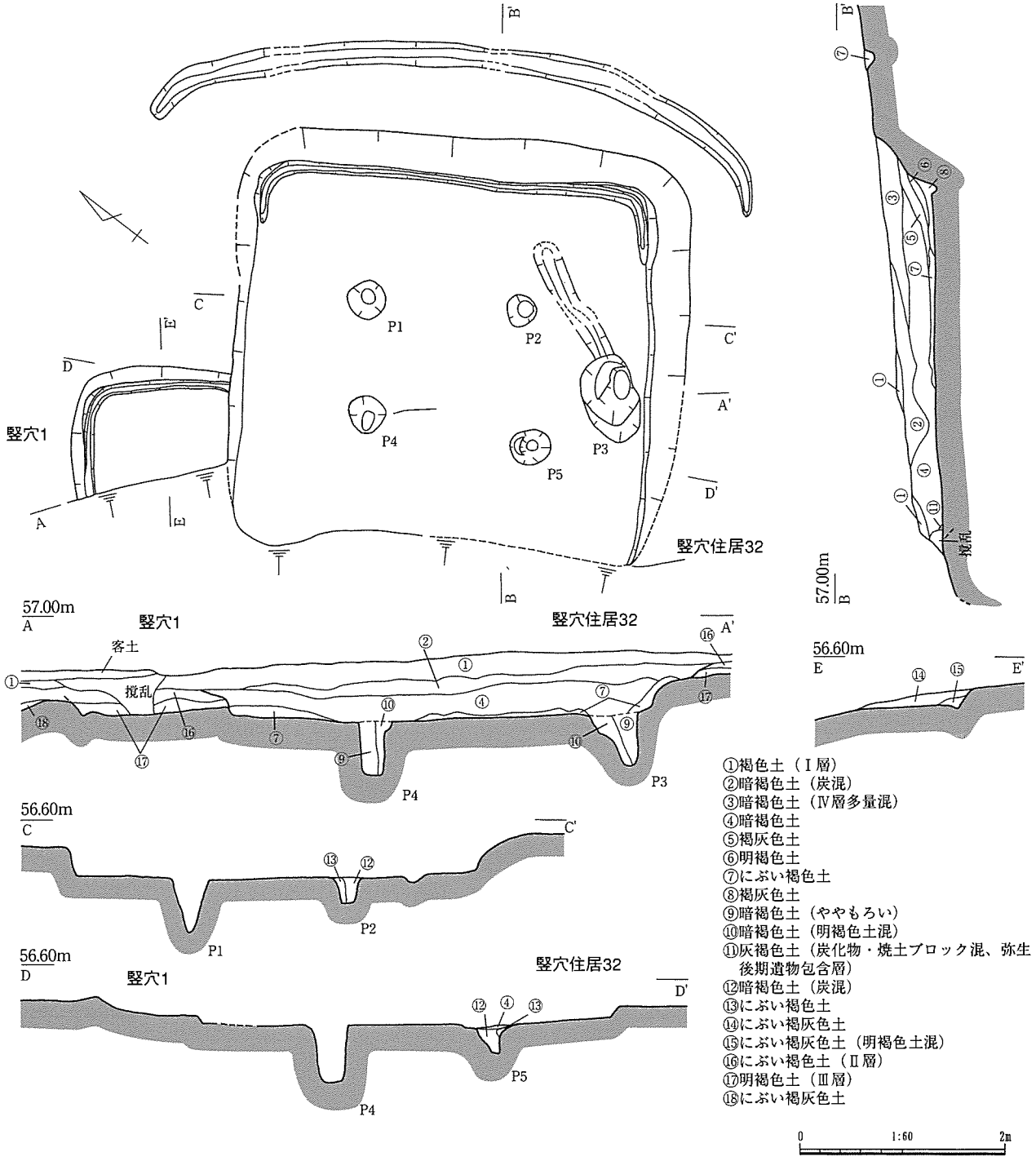


図104　竪穴住居32・竪穴１

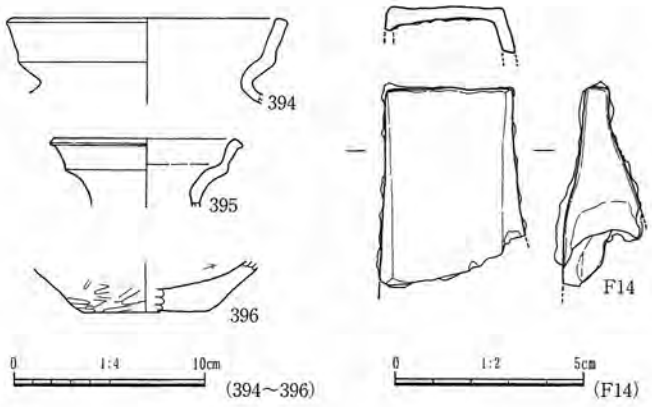


図105　竪穴住居32・竪穴１出土遺物

竪穴住居32

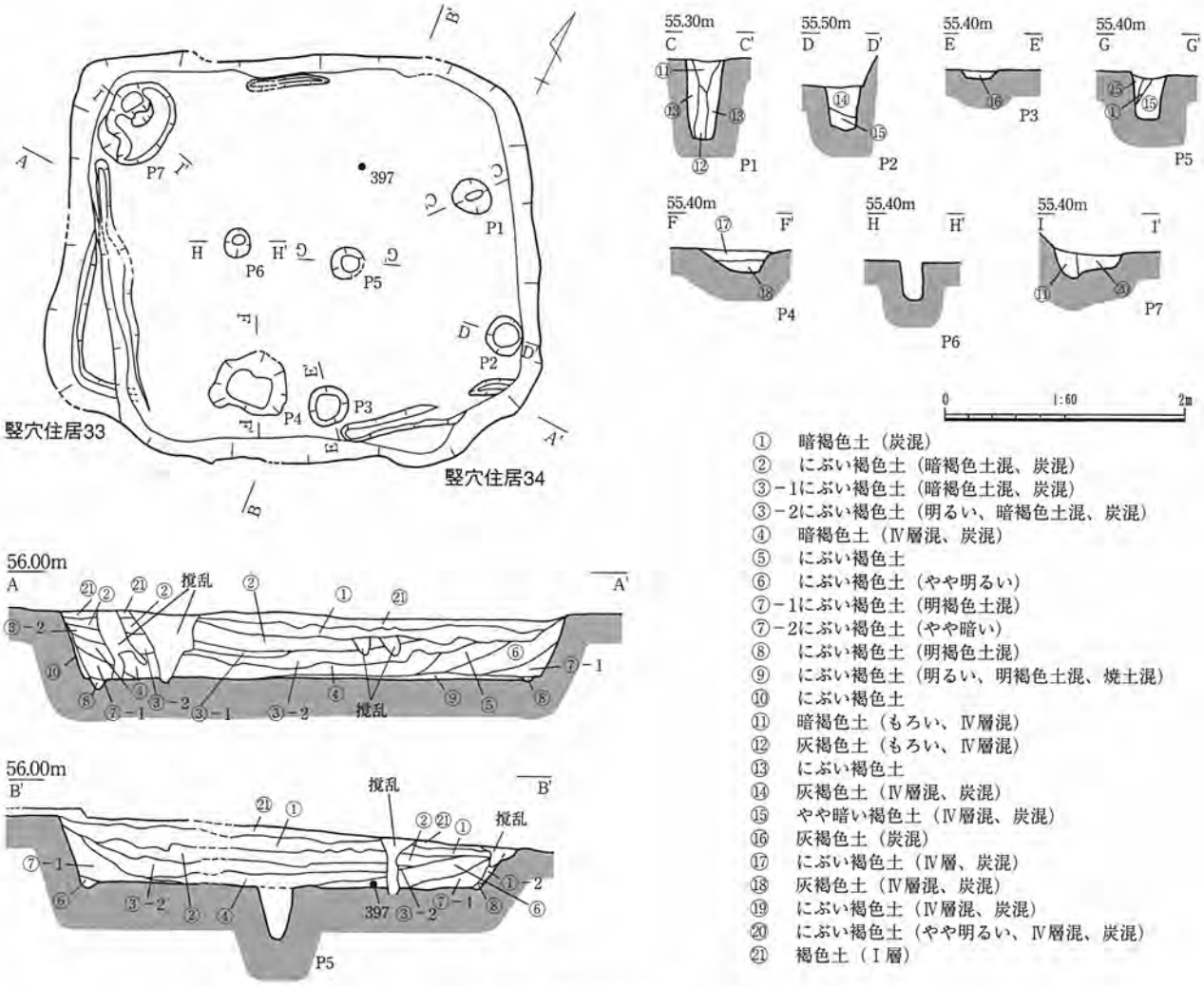


図106　竪穴住居33・34

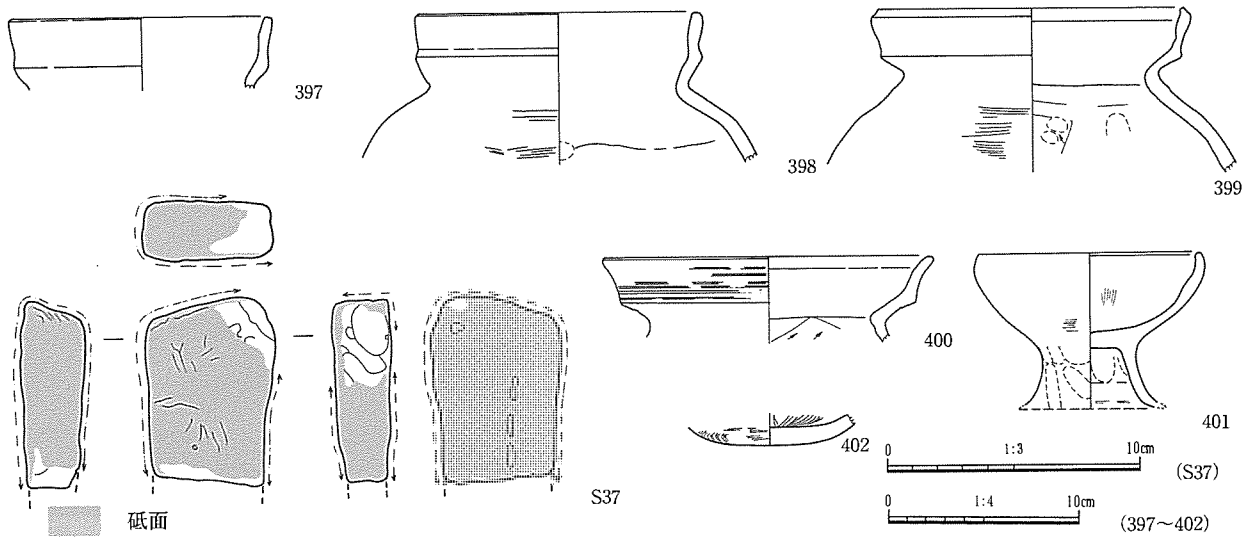


図107　竪穴住居33・34出土遺物

の高さは南側で63cmである。周壁溝は部分的に検出された。住居覆土は、上層と下層に暗褐色土を含む。床面出土遺物は甕397である。②層より甕398、覆土中より甕399、高坏401、砥石Ｓ37などが出土した。床面出土遺物から判断して、古墳時代時代後期前葉から中葉に廃絶した住居と考えられる。

（森本）

竪穴２（図108、図版36）

調査地北側、台地平坦面の縁辺部に位置する。平面形は長方形を呈すと思われる。床面では長軸４ｍ前後、短軸は約2.6ｍの規模である。底面に幅10cm、深さ２cm前後の周壁溝を検出した。柱穴とみられるピットは検出していない。覆土は黒褐色土、暗褐色土である。土器小片が数点出土した。覆土の色調からみて古墳時代中期後葉から後期の遺構と考えられる。（森本）

竪穴３（図109・110、図版37）

調査地南側、台地の縁辺部に位置する。平面形は方形を呈すと思われる。検出した長軸は2.3ｍである。北東壁際に幅12cm、深さ６cm前後の周壁溝を検出した。柱穴とみられるピットはＰ１のみである。③層は暗褐色土を呈し、②・④層はにぶい褐色土を呈す。遺物は③層より、甕の口縁部403、壺404が出土している。出土遺物や覆土の色調からみて、古墳時代中期後葉から後期に廃絶された遺構であろう。（森本）

竪穴４（図111～117、図版38･39）

調査区中央付近に位置する。平面形は方形を呈する。床面から炭化材が出土しており焼失したものと考えられる。床面では長軸3.3ｍ、短軸2.8ｍである。検出面から床面までは20～44cmである。床面での標高は約55.7ｍ、床面積は8.6㎡である。床面では、Ｐ１、Ｐ２および周壁溝を検出した。ピットは浅く、配置からも上屋構造を支持する主柱の存在は窺えないが、Ｐ１の埋土⑤･⑥･⑦層は柱痕の可能性がある。遺構周辺も精査したが本遺構に伴うとみられるピットは確認出来ない。ただ炭化材が出土しており、簡易な上屋が存在した可能性がある。覆土下層に顕著な焼土層は確認できなかったが、②～④層および床面直上から炭化材が出土した。かなり分解・土壌化しており材の形状をとどめるものは少ない。床面直上出土の炭化材は６・７とその南側の炭化材８とその北側の炭化材である。７・８ともに丸太材とみられるが粉化している。丸太材６とその南側に広がる炭化材は床面から壁面に貼

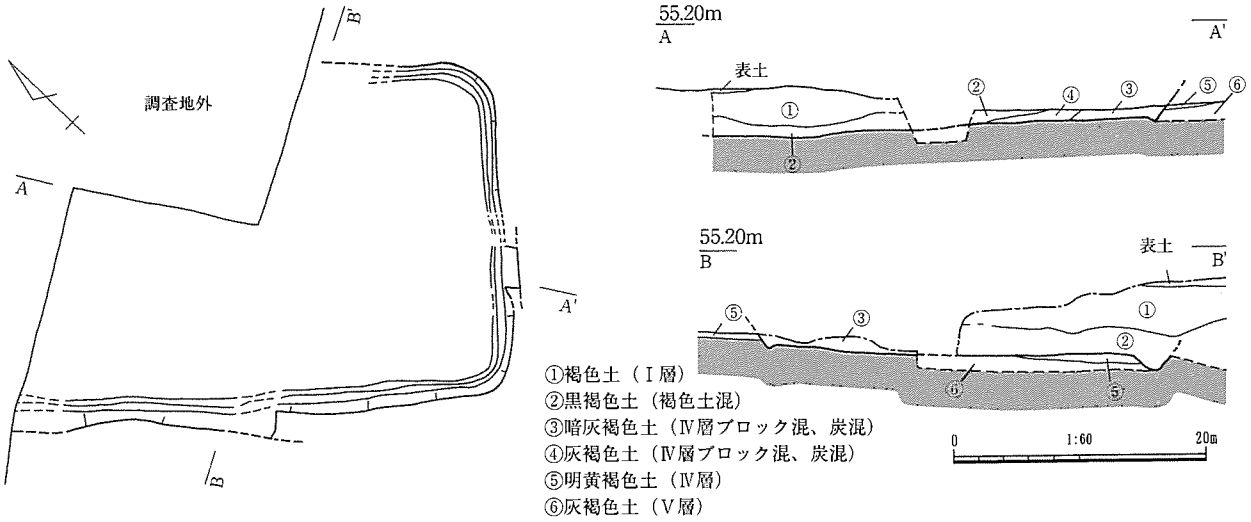


図108　竪穴２

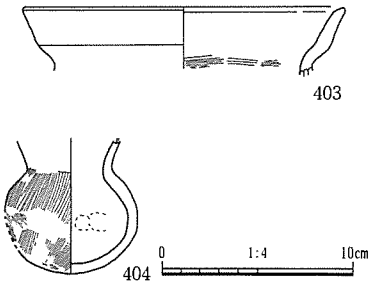


図110　竪穴３出土遺物

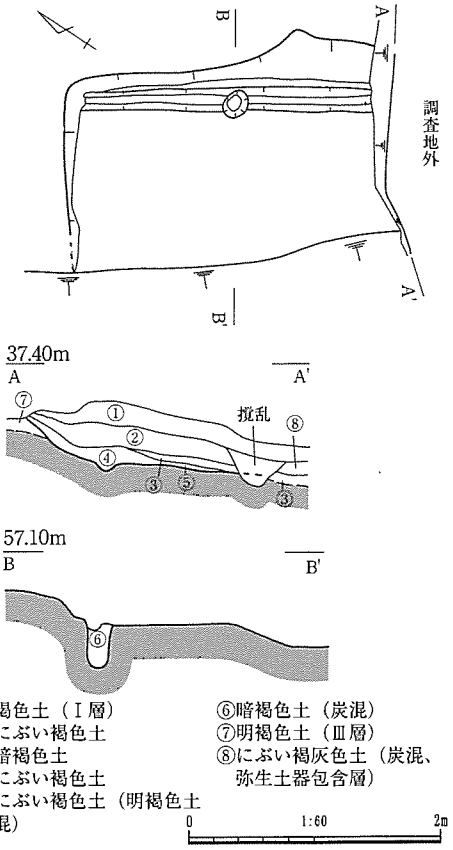


図109　竪穴３

りついて出土した。他の炭化材は④層上面にあたる位置から出土した。覆土は②･③層が周辺部で厚く堆積し、中央付近では暗褐色の①層が床面近くに達する。

床面直上出土遺物は、図114に示す。住居北隅付近では、上面に若干の砥面を残す礫のほか、敲石Ｓ38、甕405、器面が被熱した椀408、高坏411～413が出土した。甕405は逆位の状態である。Ｐ１直上では甕406･415がつぶれた状態で出土した。覆土最下層からＰ１埋土に破片が流入するように出土しており、竪穴廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

覆土①層から多量の遺物が出土した（図116･117）。器形を復元しうる個体に乏しいが、ほぼ完形に接合できる甕446、器形の２／３が残存する樽形瑕461など器形の大部分が接合した個体もある。大型の甕69は口縁部の大半が接合しており474とは別個体とみられる。また、69は本遺構から出土した胴部と、竪穴住居６の②層から出土した口縁部が頸部を境に接合した。これらの土器には風化の痕跡が顕著でないことや層位・平面ともに密集して出土したことから、竪穴が廃絶し埋没する過程で比較的短期間に投棄されたものと考えられる。

床面出土遺物から判断して、古墳時代中期後葉に廃絶した遺構と考えられる。　（岡野）

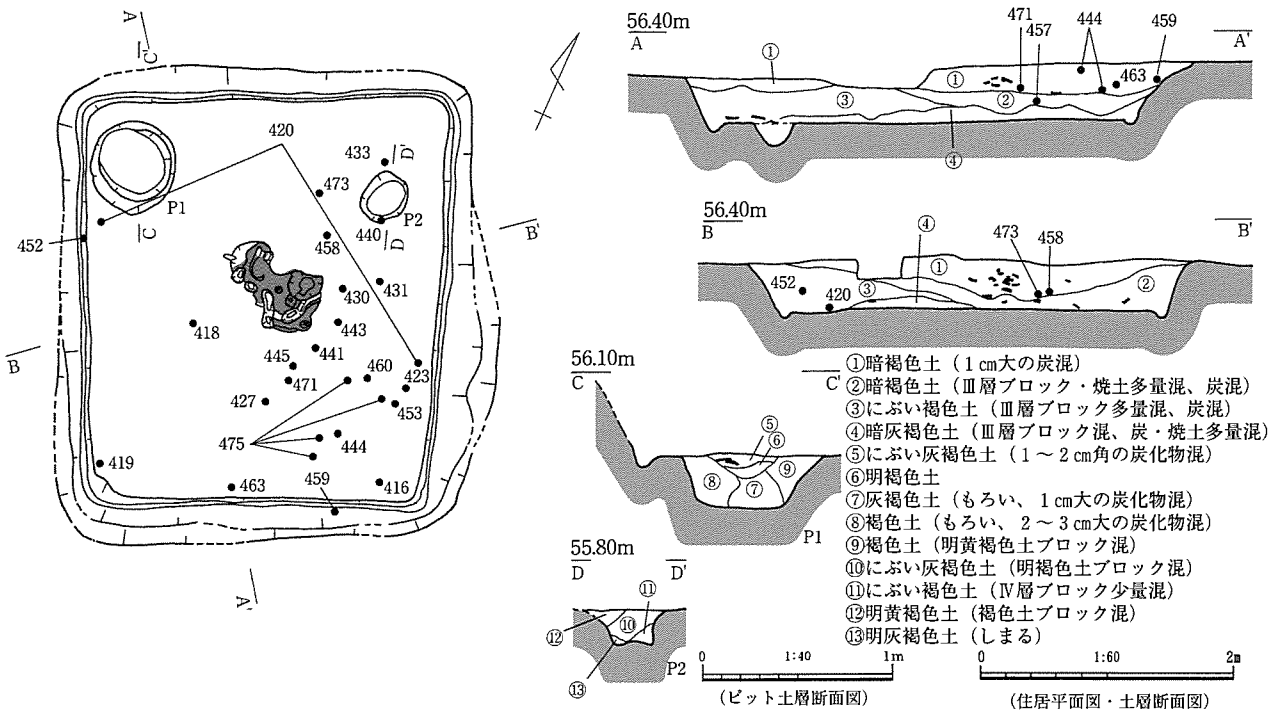


図111　竪穴４

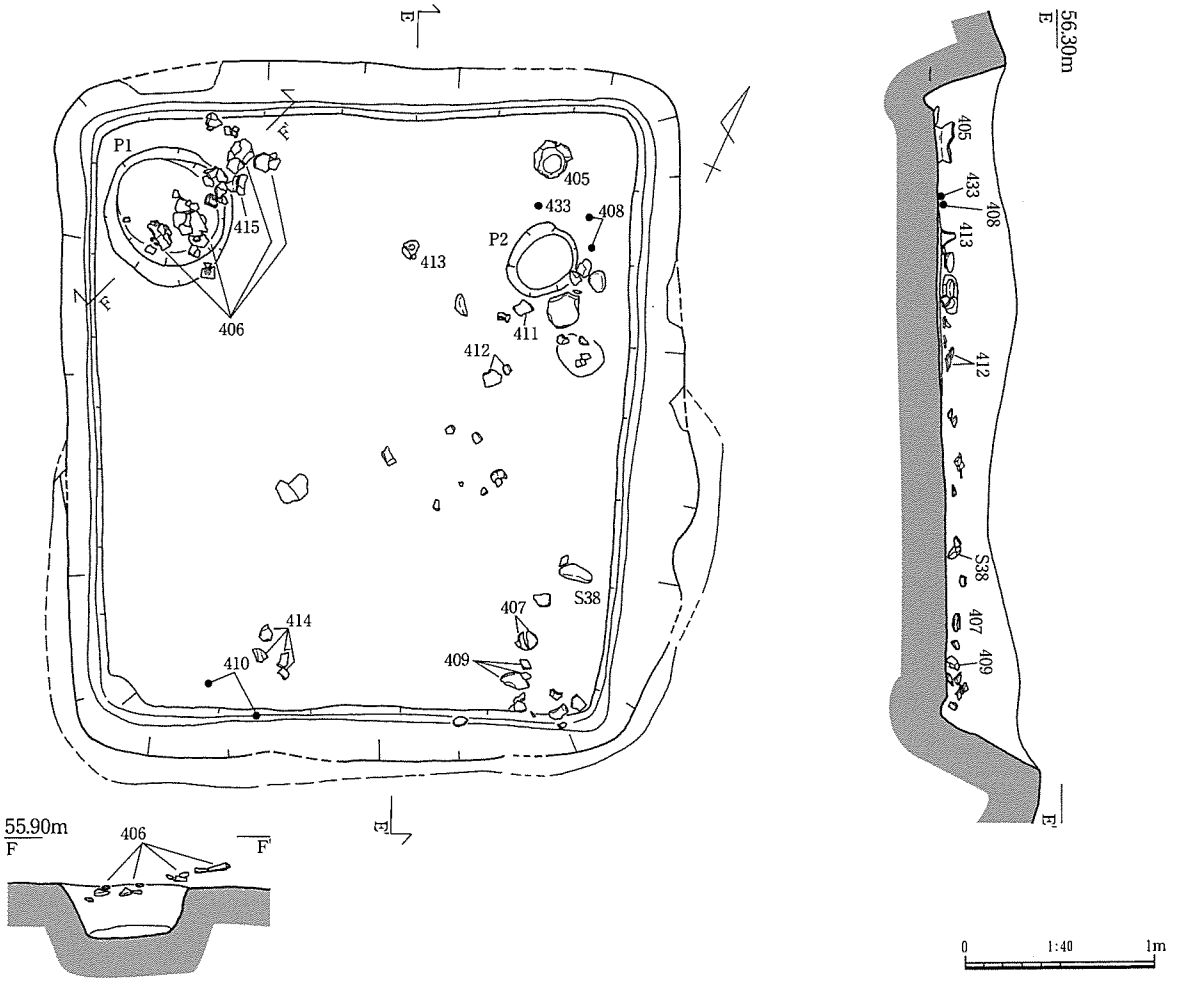


図112　竪穴４遺物出土状況図

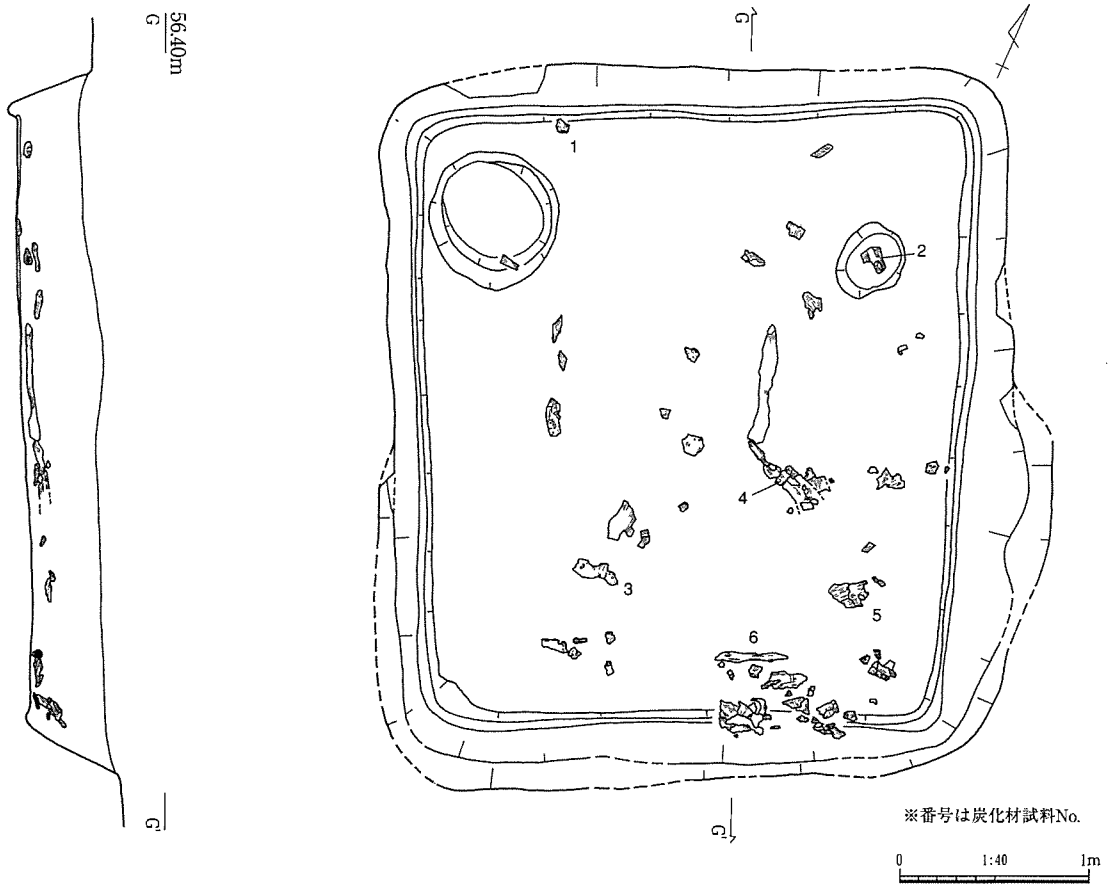


図113　竪穴４炭化材出土状況図

竪穴５（図118・119、図版38）

調査地ほぼ中央部に位置する。遺構の南側は竪穴住居22を切る。平面形は方形を呈し、床面での長軸は3.52m、短軸は3.46m、床面積は約10.7㎡である。側壁の高さは最も残存する南西側で62cmである。底面は幅８cm、深さ４cm前後の周壁溝が全周している。底面には主柱と考えられるピットは検出していない。遺構の周囲には多くのピットを検出したが、規模、埋土の色調とも一定しない。南東壁際ほぼ中央の床面にＰ１を検出した。遺構の外側に向かって斜め下方向に掘り込まれるピットである。床面からの深さは66cmである。Ｐ１埋土はにぶい褐色土で、もろい。若干炭化物が混入するが、遺物は皆無である。住居覆土のうち、①・②層は暗褐色土、③～⑥層は地山ブロックを含むにぶい褐色土である。

表６　竪穴４出土炭化材の樹種
（古川郁夫・菅野仁美鑑定、特論参照）

試料番号	形状・部材	樹　種
1	丸太	スダジイ
2	茅？	ヨシ（アシ）
3	丸太	クリ
4	丸太	スダジイ
5	板？	ホオノキ
6	茅	ヤマザクラ

床面出土遺物は、甕の口縁部476である。住居覆土③層からは竈480が出土している。土器476から、古墳時代後期に廃絶した遺構と考えられる。（森本）

竪穴６（図120・123、図版39）

調査区西側に位置する。平面はいびつな方形を呈する。床面では長軸3.0m、短軸2.9m、側壁の高さは約18cmである。床面での標高は約55.9mで床面積は約7.5㎡ある。周壁の立ち上がりは緩慢で周壁溝も検出されない。床面東側で長軸約43cm、短軸約22cmの範囲で床面が被熱し赤化していた。Ｐ１の埋土は暗褐色であるため本遺構に伴う可能性がある。覆土は下層がにぶい褐色、上層が暗褐色を呈す

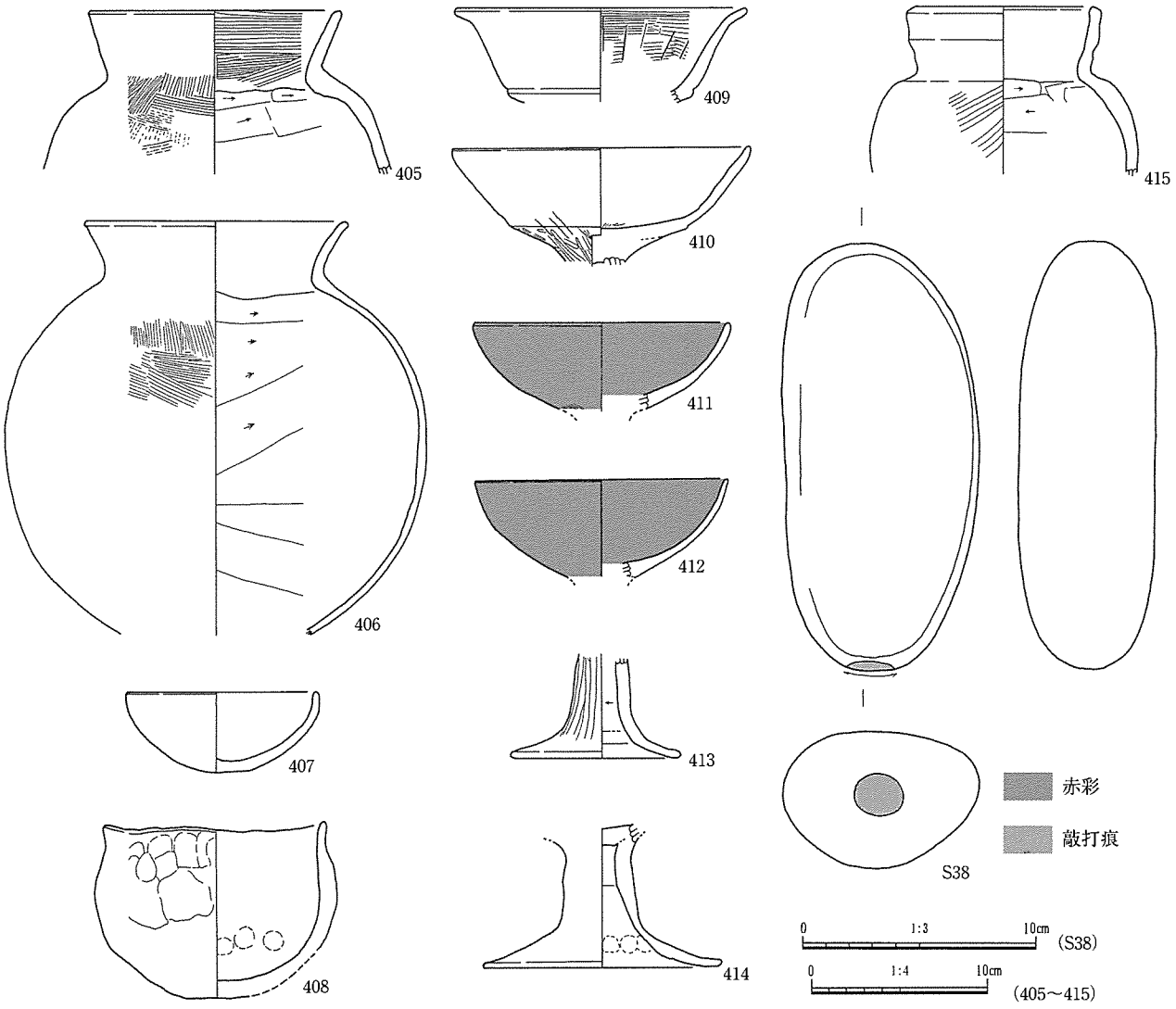


図114　竪穴４出土遺物（1）　床面直上出土遺物

る。床面直上出土遺物は、甕482、須恵器坏蓋486、把手490である。Ｐ１からは低脚坏484が出土した。出土遺物から古墳時代後期中葉に廃絶した遺構と考えられる。（岡野）

竪穴７（図121･124、図版40）

調査地西側で検出した。平面形は方形を呈し、床面での規模は長軸3.7m、短軸3.5m、検出面から床面までは約20～26cmで床面積は約11.4m²である。床面では周壁溝を検出した。壁面の立ち上がりは比較的緩慢である。床面中央付近で長軸約122cm、短軸約70cmの範囲にわたり床面が被熱し赤化した部分が検出された。被熱面の直上で錆化した鉄片が３片検出された。錆化によりメタルは残存しない。周辺に微細な鉄片はみられなかった。床面南東側隅部でＰ１を検出した。Ｐ１直上の床面に相当する高さから高坏の杯部、土器片が出土した。Ｐ２（長軸26cm×短軸22cm×深さ23cm）の埋土は暗褐色を呈することから本遺構に伴う可能性がある。覆土は中央付近は床面まで暗褐色であるが、縁辺部はにぶい褐色土である。床面直上出土の遺物はない。検出面付近の①層から水晶製の勾玉Ｓ42が出土した。（岡野）

竪穴８（図122･125、図版40）

調査地南西端部、台地東側の縁辺部に位置する。平面形はいびつな方形を呈し、床面での規模は長

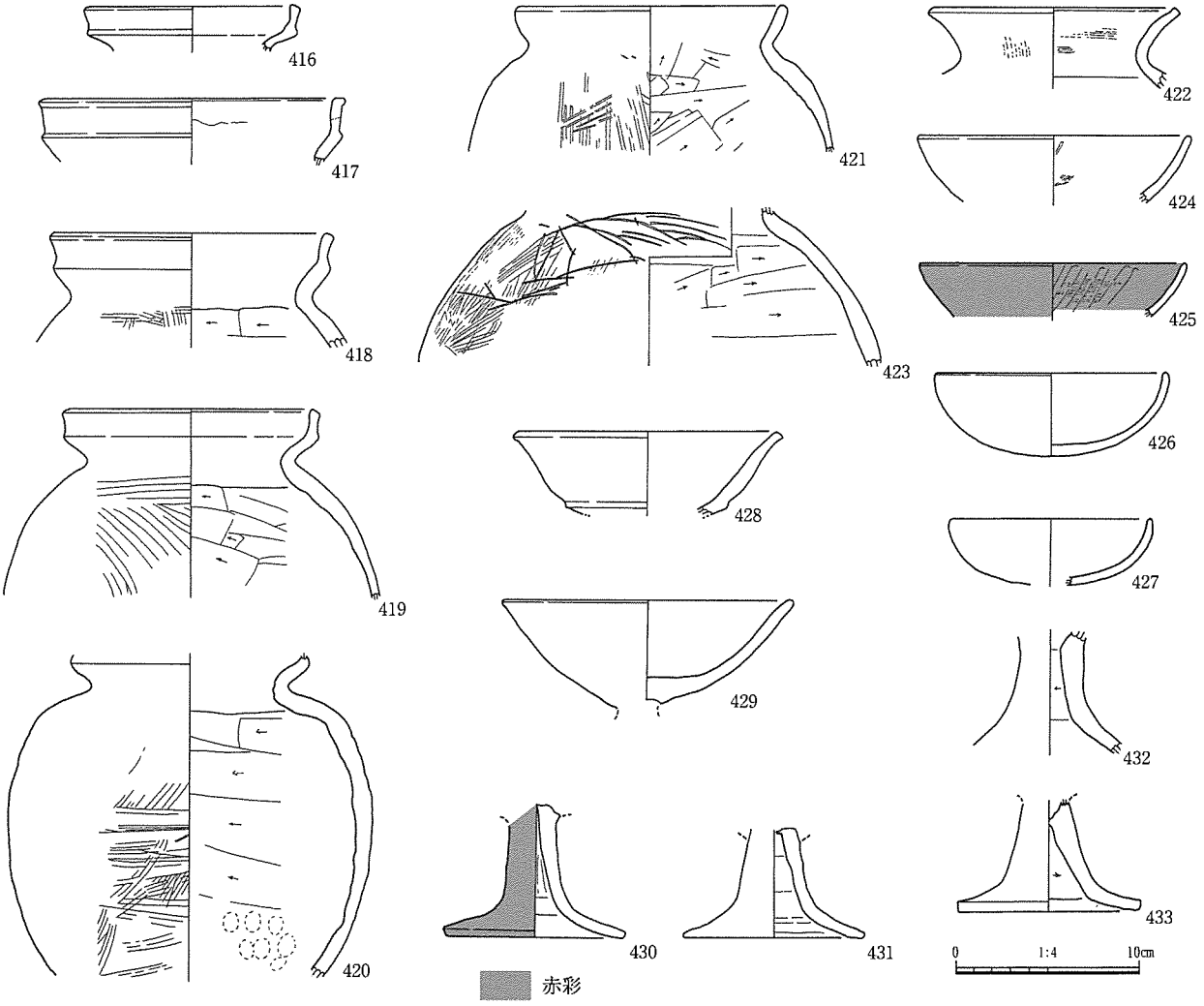


図115　竪穴４出土遺物（2）　②・③層出土遺物

軸3.3m、短軸2.7m、床面積は約8.1㎡である。床面は中央付近がやや低く縁辺部が高い。検出面から床面までは６cm～28cmである。床面中央付近に約48cm×30cmの範囲で床面が被熱し赤化した部分を検出した。床面中央付近で２つのピットを検出した。埋土は暗褐色土であり本遺構に伴う可能性がある。覆土は暗褐色を呈する。床面直上出土遺物は土錘501である。覆土中から甕494～498、土錘502、高坏脚部499･500、須恵器坏蓋497･498が出土した。古墳時代後期中葉に廃絶した遺構と考えられる。

（岡野）

掘立柱建物９（図126）

調査地南側、台地平坦面上に位置する。梁行１間（2.0m）×桁行２間（3.2m）の建物跡である。主軸はＮ－34°－Ｅ、梁桁に囲まれる面積は約6.4㎡である。柱間距離は梁行方向が1.9m～2.0m、桁行方向が3.1m～3.2mである。Ｐ２・３・６掘方底面には径９cm～12cm前後、底面からの深さ約６cm～11cmの柱当たりがみられる。柱当たり底面での標高は55.38m～55.60mである。遺物は出土していない。暗い埋土の色調から、古墳時代中期末から後期の時間幅に収まる遺構であろう。（森本）

掘立柱建物10（図127）

調査地南側、台地平坦面上に位置する。梁行１間（2.56m）×桁行２間（2.60m）の建物跡である。主軸はＮ－41°－Ｗ、梁桁に囲まれる面積は約6.66㎡である。柱間距離は梁行方向が2.48m～2.56m、

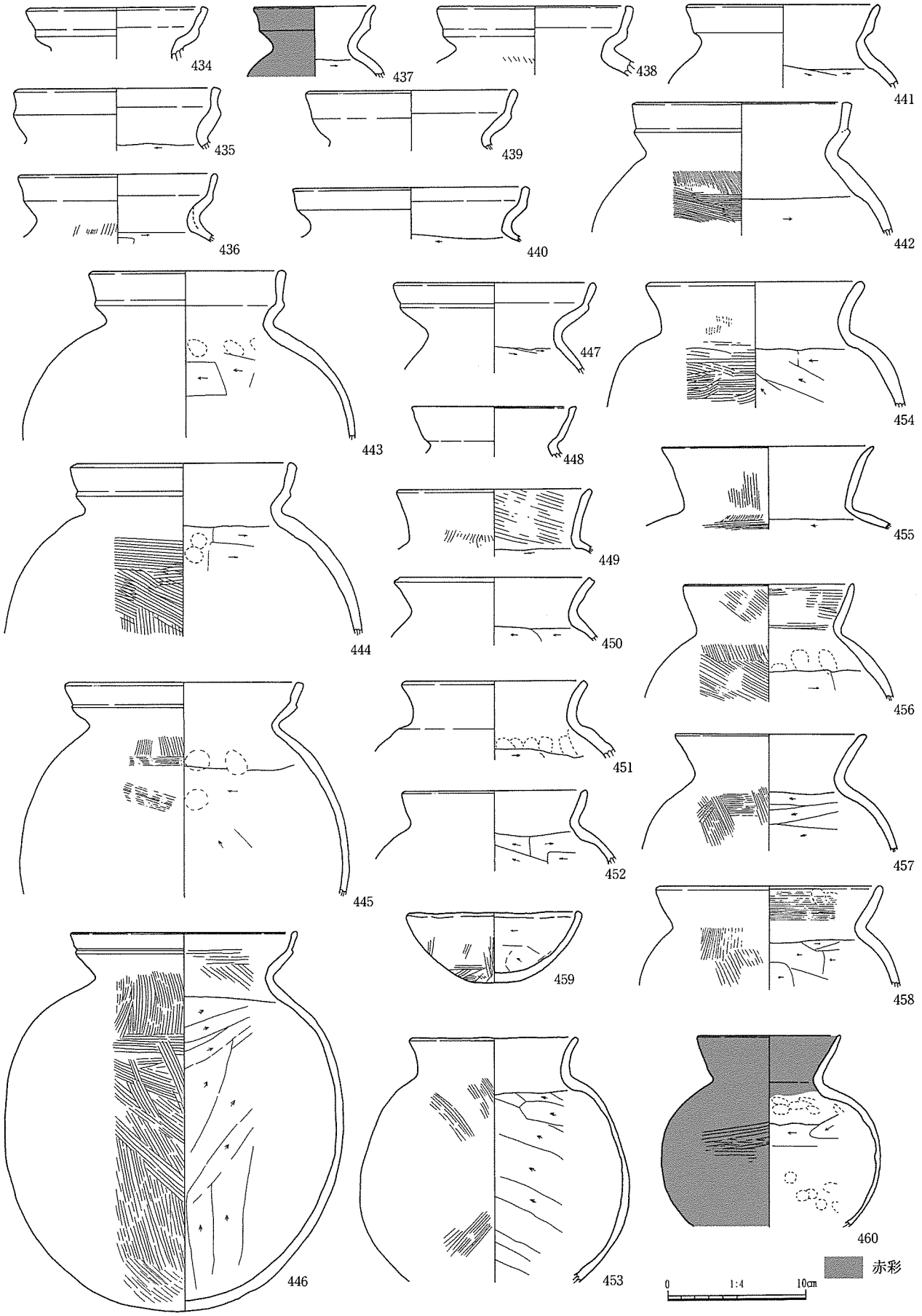


図116　竪穴４出土遺物（3）　①層出土遺物

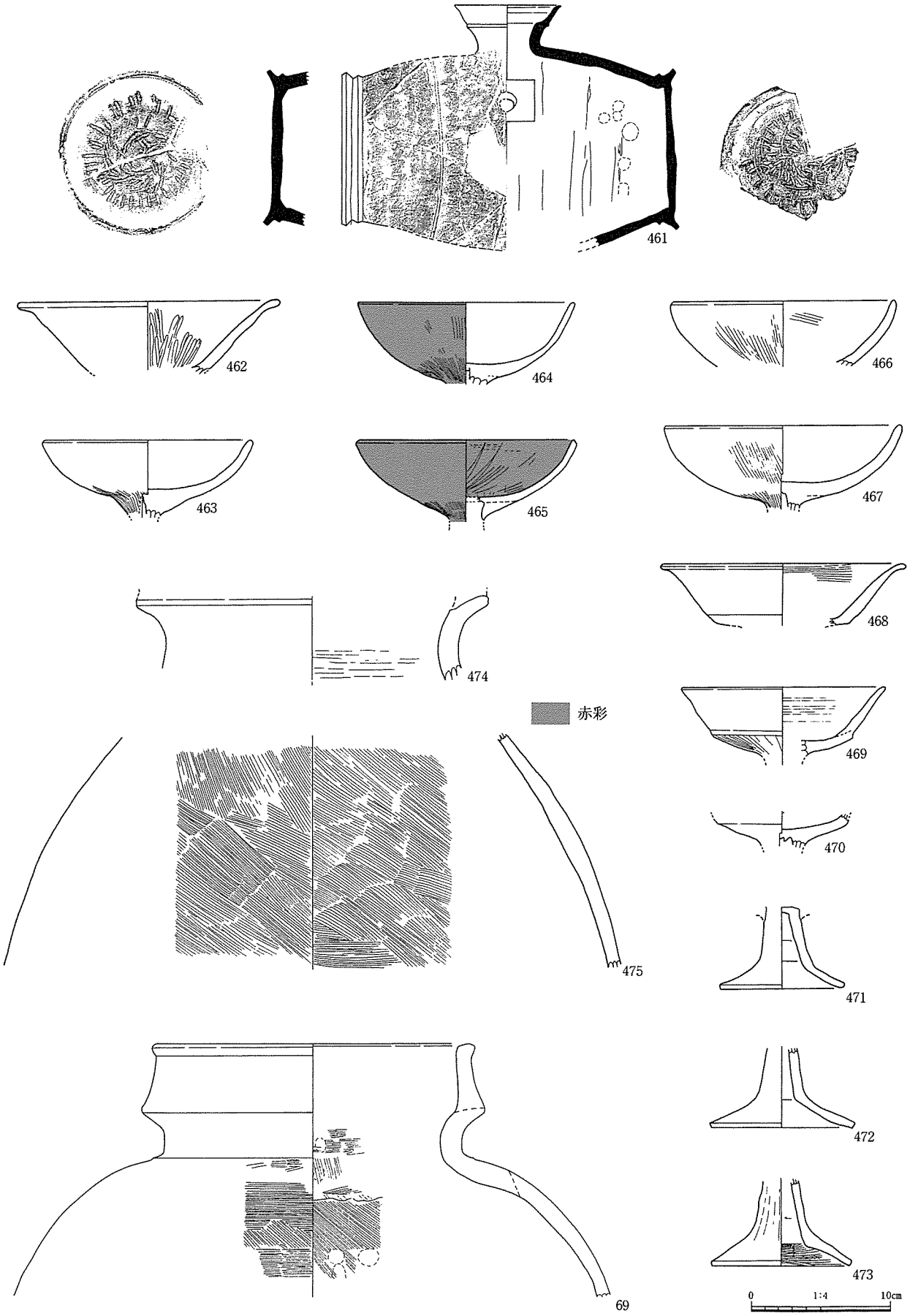
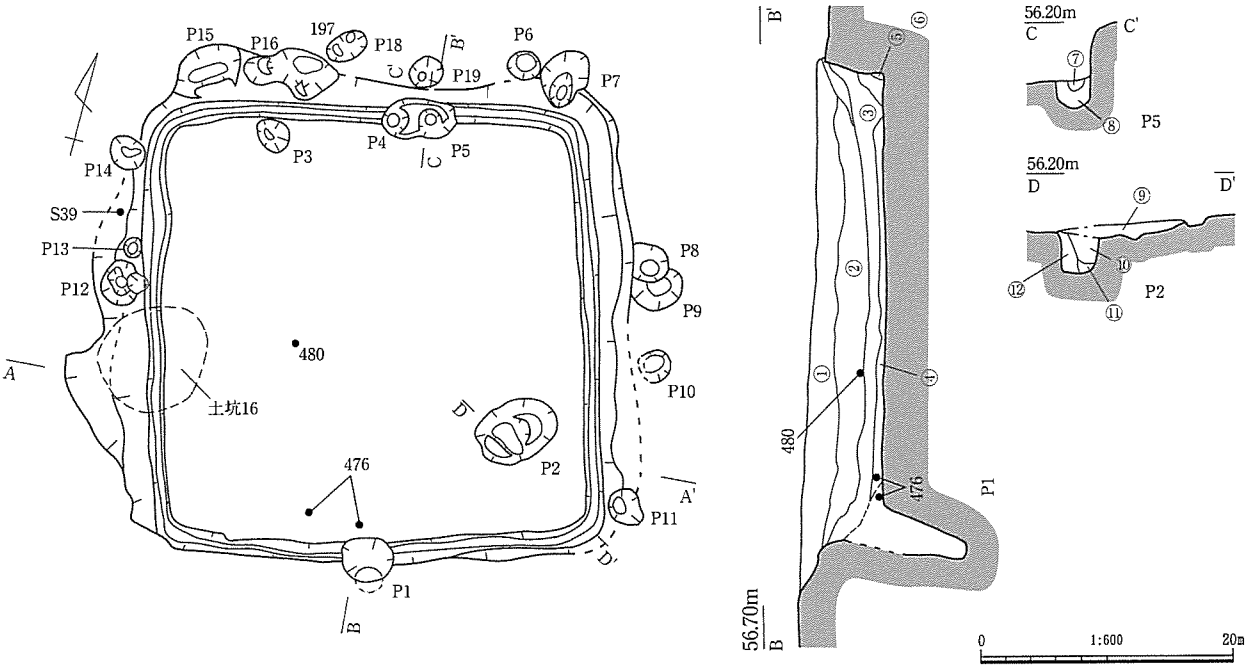
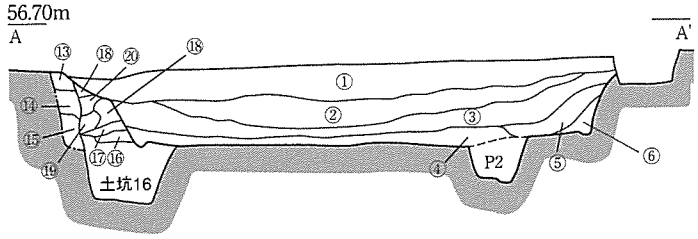


図117　竪穴４出土遺物（4）　①層出土遺物





①暗褐色土（明褐色土ブロック少量混、炭混）
②暗褐色土（にぶい褐色土混、炭混）
③にぶい褐色土（明褐色土ブロック混、炭混、焼土少量混）
④暗褐粘質色土（しまる、炭混）
⑤にぶい褐色土（炭混）
⑥明褐色土（明黄褐色土混）
⑦にぶい褐色土（2.0～5.9cmの黄色土ブロック混、炭混）
⑧にぶい褐色土（褐色土ブロック混）
⑨明褐色粘質土（黄色土ブロック混・炭混）→貼床
⑩にぶい褐色度（明褐色土ブロック少量混・焼土・炭混）
⑪やや明るい褐灰色粘質土
⑫やや明るい褐色土（明黄色土ブロック混）
⑬明褐色土（Ⅲ層）
⑭明黄褐色土（Ⅳ層）
⑮灰褐色土（Ⅴ層）
⑯にぶい褐色土（明褐色土混、炭混）
⑰にぶい褐色土（炭混）
⑱にぶい褐色土（炭混）
⑲にぶい茶色土
⑳にぶい褐色土（にぶい茶色土混）
㉑にぶい褐色土（1.0～2.0cmの炭混・焼土ブロック混）

図118　竪穴５

竪穴５　ピット計測表

P No.	長径－短径（cm）	深さ（cm）	土色・備考
1	41－36	60	－
2	50－65	34	－
3	27－23	13	やや暗い褐色土
4	29－22	19	やや暗い褐色土
5	25－19	21	やや暗い褐色土
6	26－22	29	－
7	47－38	54	褐灰色土
8	29－29	37	暗褐色土
9	42－40	20	暗褐色土
10	25－20	10	－
11	28－25	58	褐灰色土
12	36－30	32	暗褐色土
13	14－17	9	暗褐色土
14	30－25	8	暗褐色土
15	62－30	41	やや暗い灰褐色土
16	26－23	39	褐灰色土
17	41－39	80	灰褐色土
18	34－20	39	－
19	26－25	11	－

桁行方向が2.56m～2.60mである。掘方底面の標高は55.54m～56.83mである。遺物は出土していない。暗い埋土の色調から判断して、古墳時代中期末から後期の時間幅に収まる遺構と想定される。（森本）

ピット（図51･127、表７・８）

調査地内から古墳時代中期から後期とみられ、掘立柱建物跡としては認識できないピットを約200個検出した。調査地中央付近に比較的多く、東側には少ない。調査地内からは約450個のピットが検出されているが、埋土はにぶい褐色土、淡い褐色土、暗褐色土に大別された。出土遺物や住居覆土上層の色調からみて、にぶい褐色土、淡い褐色土は弥生時代後期から古墳時代前期、暗褐色土は古墳時代中期から後期に比定して大過ないと判断した。埋土の色調の判断は調査員の合議で決定したが、全てを同一の調査員が行っているわけではなく、判断に躊躇するものもあることから、数パーセントの誤差は生じるとみられる。

ピット322～326は柵列かもしれない。またピット258～261は竪穴住居21の南東側に並んで検出されたが、竪穴住居21の軸とはわずかに異なる。（岡野）

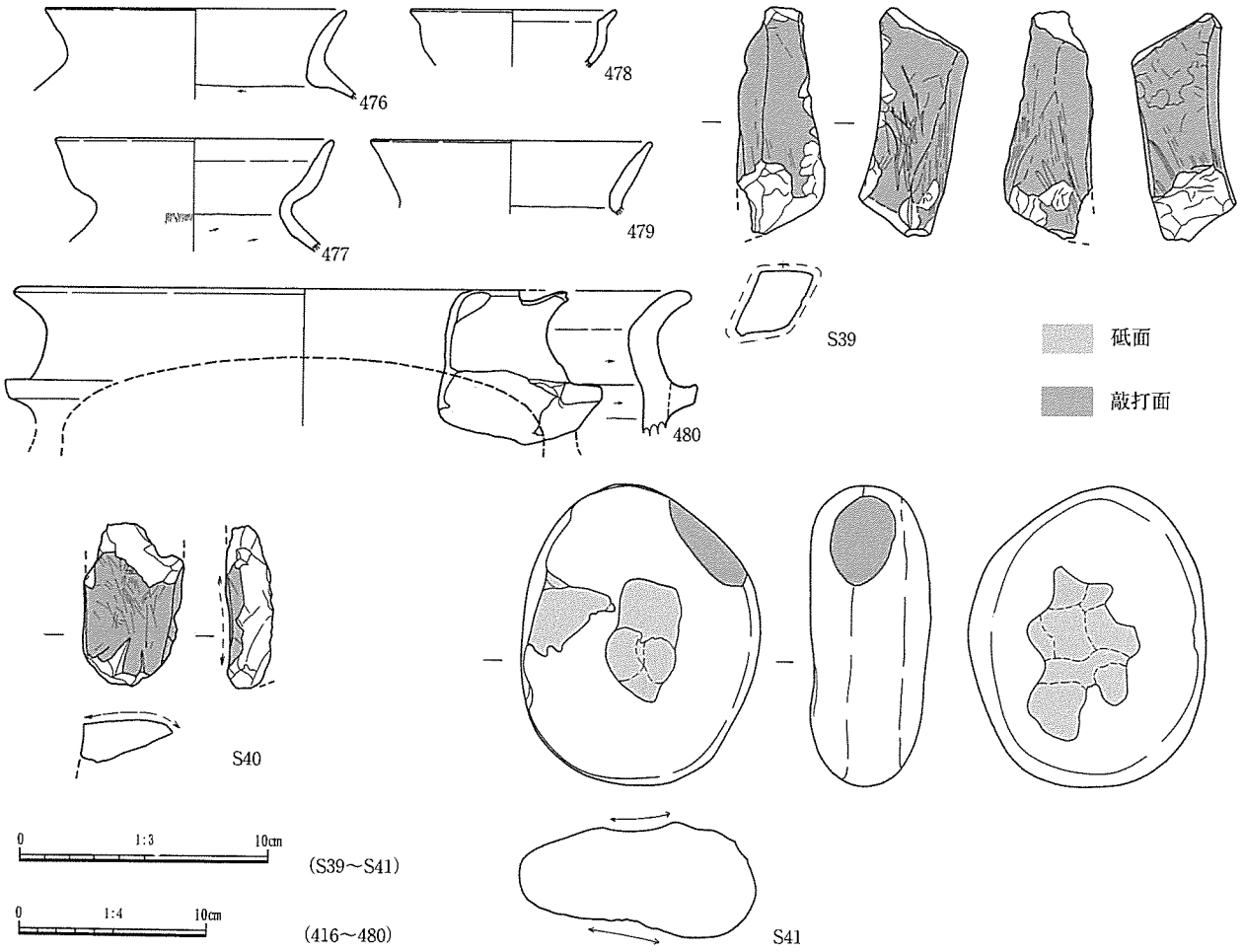


図119　竪穴５出土遺物

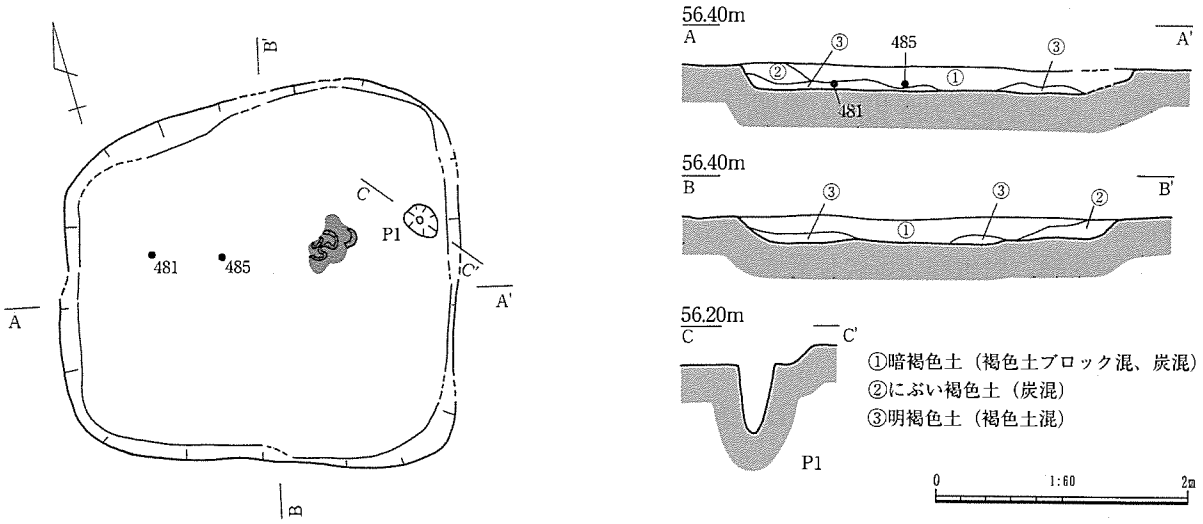


図120　竪穴６

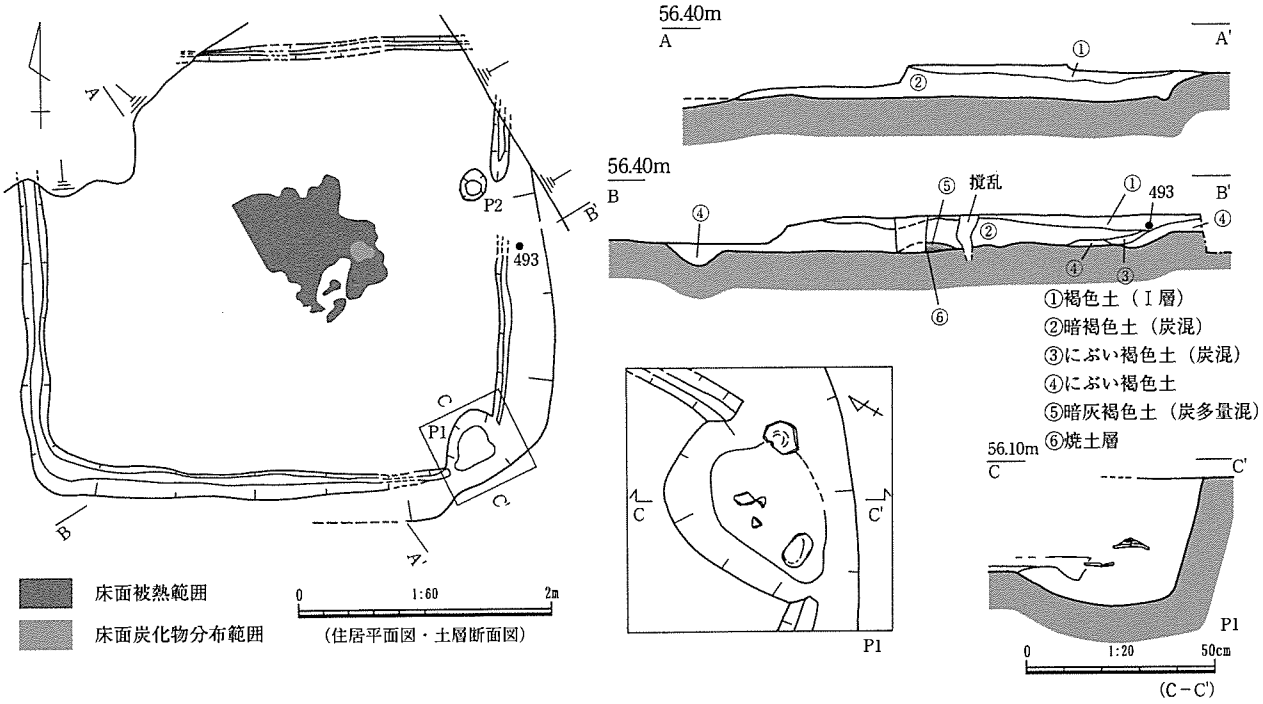


図121　竪穴７

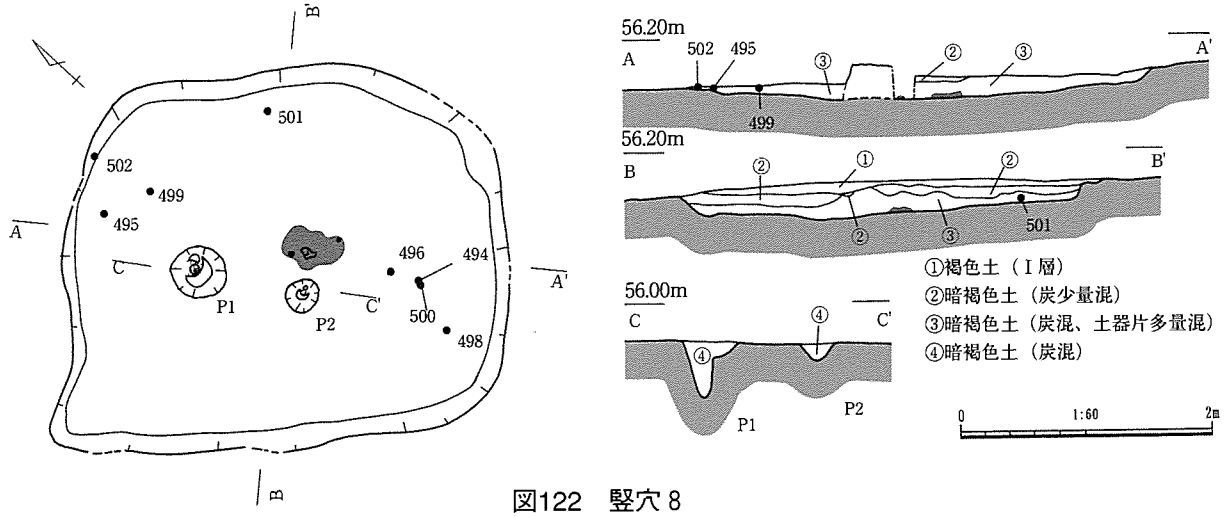


図122　竪穴８

第４節　その他の時期の遺構と遺物

土坑１（図45、図版14）

調査地南西端、台地縁辺部に位置する。長軸120cmで、ややいびつな隅丸方形と思われる。深さは最大で24cm、断面形は逆台形を呈する。遺物の出土はない。（小林）

土坑２（図130、図版41）

調査地南西部に位置する。平面形は長軸97cm、短軸84cmのややいびつな円形を呈する。深さは最大87cmである。底面に径21cm～22cm、深さ26cmの底面ピットをもつ落し穴状土坑である。埋土はにぶい褐色土である。遺物は出土していない。（小林）

土坑３（図130、図版41）

調査地南西部に位置する。平面形は長軸86cm、短軸89cmのいびつな円形を呈する。深さは最大76cmである。埋土は褐色土である。遺物は出土していない。（小林）

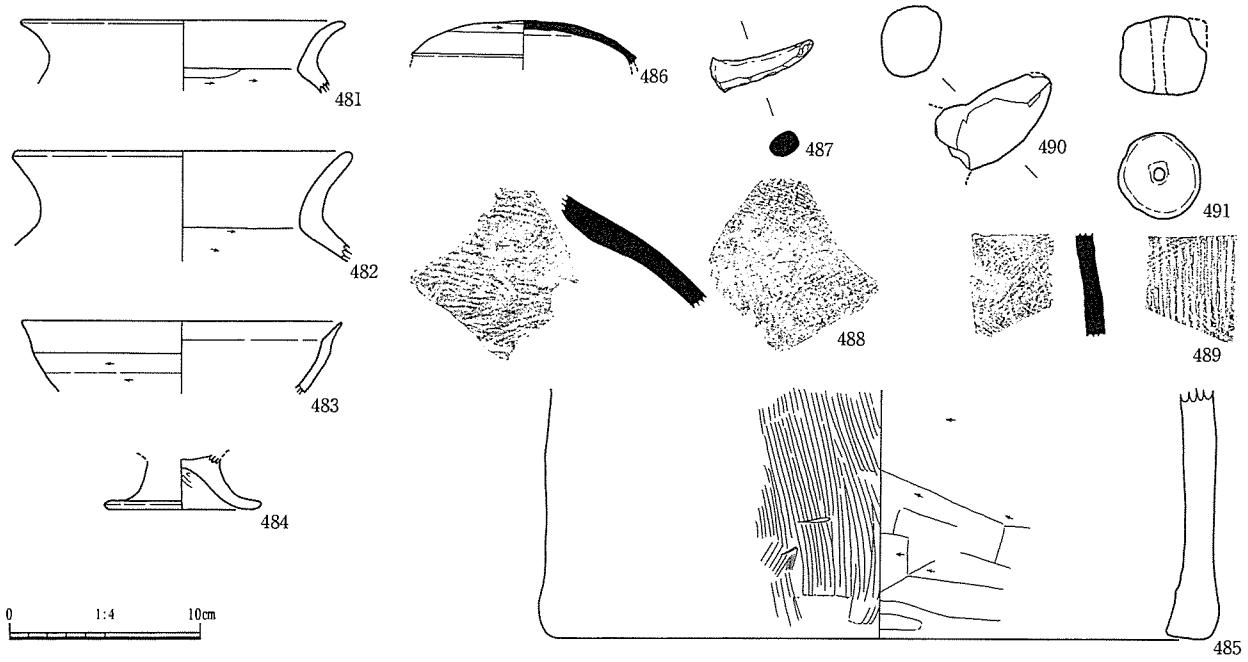


図123　竪穴６出土遺物

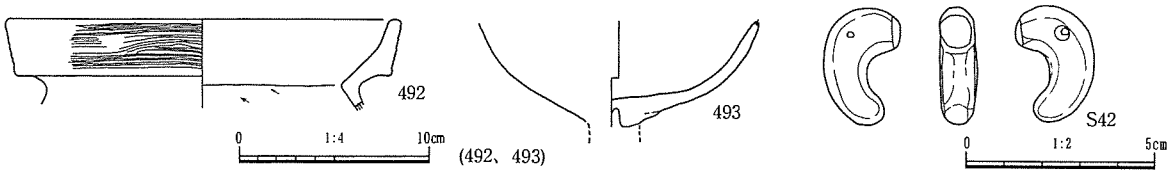


図124　竪穴７出土遺物

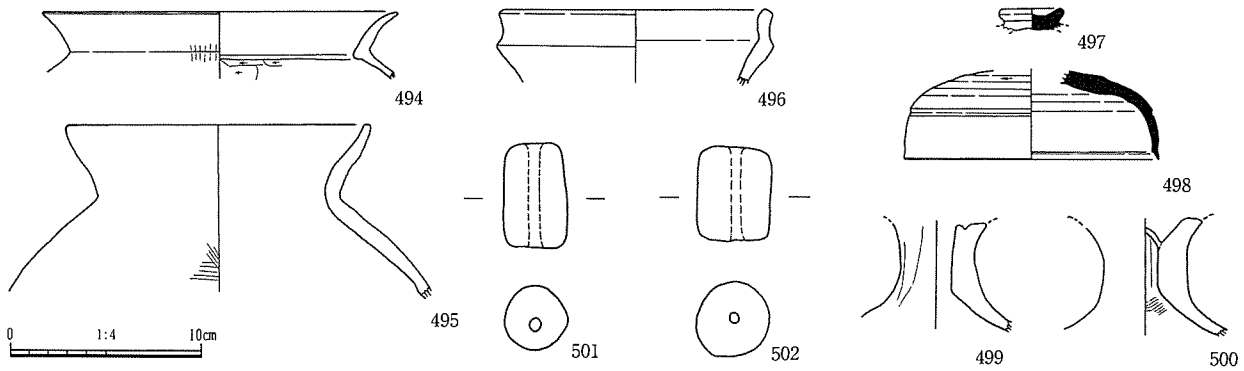


図125　竪穴８出土遺物

土坑４（図130、図版41）

調査地南西部の台地縁辺部に位置する。平面形は長軸106cm、短軸90cmの円形を呈する。検出面からの深さは最大で27cmである。埋土はにぶい褐色土・明褐色土である。レンズ状に堆積している。埋土中からは遺物は出土していない。（小林）

土坑６（図130、図版41）

調査地南西部、台地の縁辺部に位置している。平面形は長軸132cm、短軸109cmの円形を呈する。検出面からの深さは最大で55cmである。断面形は逆台形を呈し、底面にはわずかに窪みがある。埋土はにぶい褐色土で、炭粒を含む。埋土中からは土器と礫が出土したが時期は判断できない。（小林）

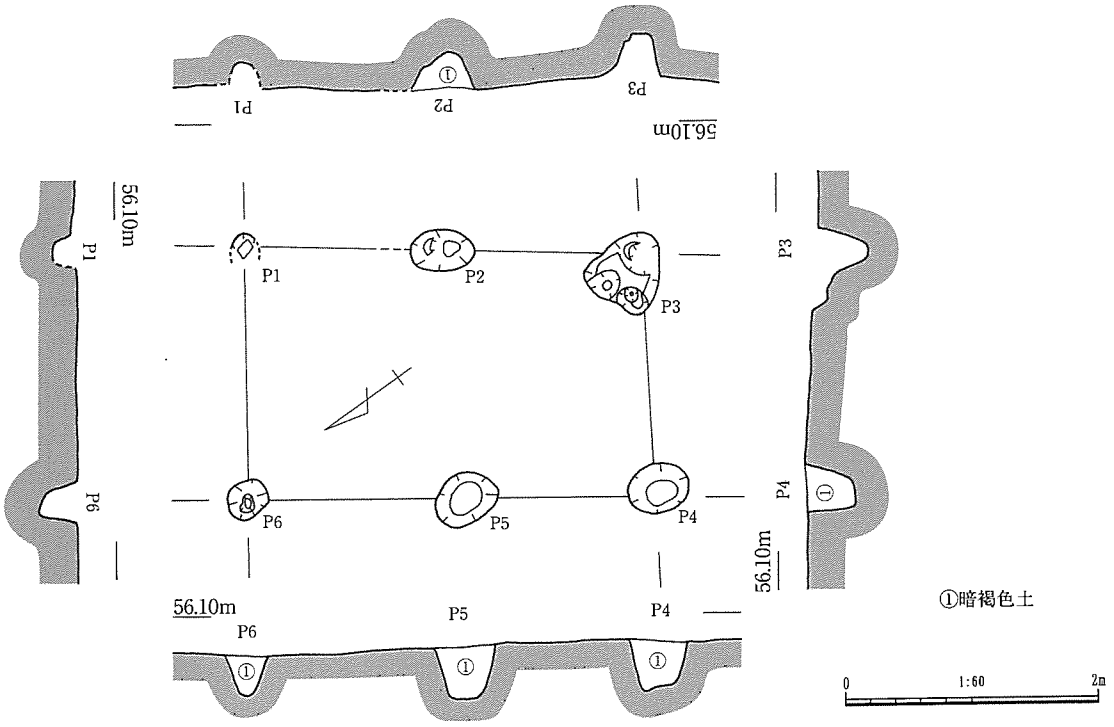


図126　掘立柱建物９

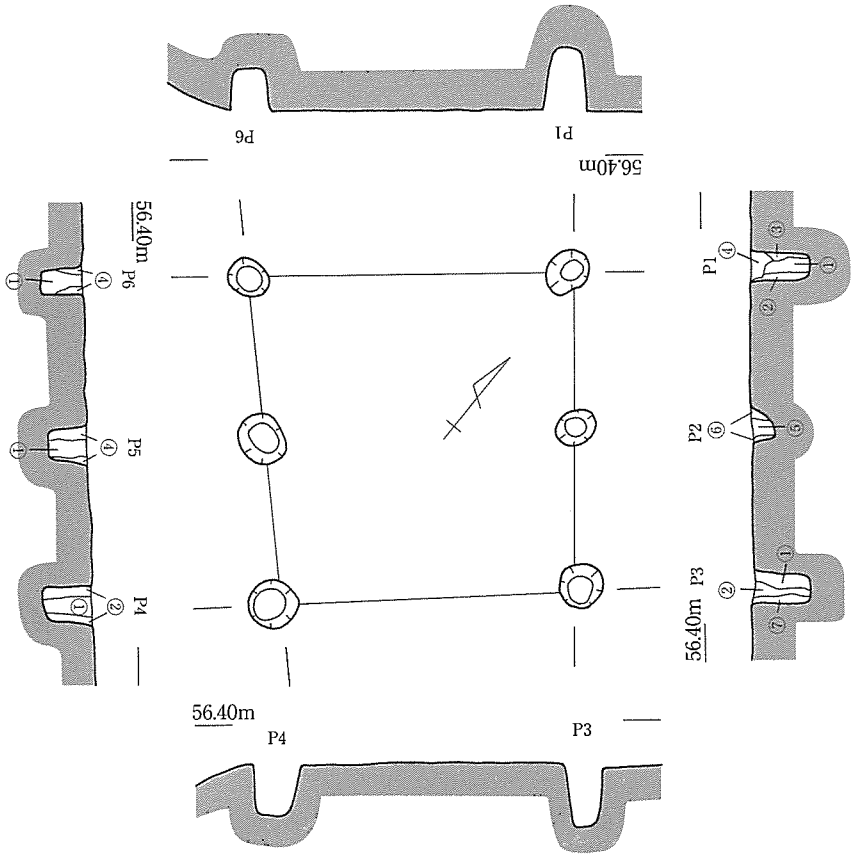


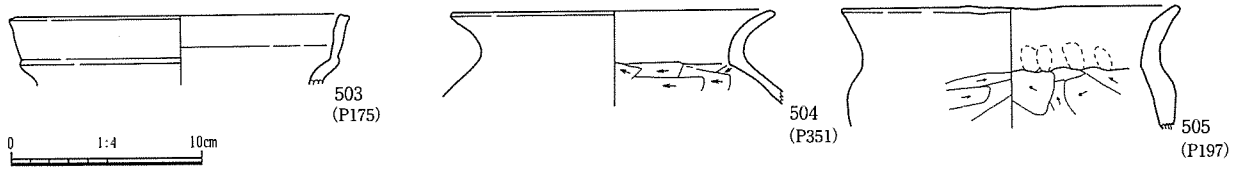
図127　掘立柱建物10

表７　ピット計測表

P No.	長径×短径	深さ(cm)	底面の標高(m)	土色・備考
P221	36×33	20	54.52	暗褐色土(炭混)
P222	34×32	20	54.86	暗褐色土(炭混)
P223	29×26	32	54.76	暗褐色土(炭混)
P224	32×29	17	54.81	暗褐色土(炭混)
P225	37×32	19	55.03	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P226	23×21	54	54.65	暗褐色土(炭混)
P227	30×27	59	54.71	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P228	19×15	28	55.20	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P229	23×22	52	54.97	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P230	34×30	29	55.26	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P231	36×31	30	55.25	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P232	37×32	42	55.16	暗褐色土(炭混)
P234	28×24	41	55.30	暗褐色土(炭混)
P235	35×26	31	55.15	暗褐色土(炭混)
P236	69×46	75	54.74	暗褐色土
P237	31×24	25	55.35	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P238	33×31	28	55.33	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P239	40×35	49	55.13	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P240	54×50	92	54.68	暗褐色土
P241	42×37	47	55.16	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P242	40×35	66	54.97	暗褐色土
P243	48×36	31	55.32	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P245	47×37	39	55.24	暗褐色土
P246	36×33	－	－	暗褐色土
P247	18×17	21	55.59	暗褐色土(炭混)
P248	24×21	18	55.65	暗褐色土(炭混)
P249	31×21	33	55.51	暗褐色土(炭混)
P250	36×32	53	55.37	暗褐色土(明黄褐色土混、炭混)
P251	34×29	35	55.54	暗褐色土(炭混)
P252	30×29	53	55.43	暗褐色土(炭混)
P253	39×34	51	55.58	暗褐色土(炭混)
P254	27×21	24	56.00	暗褐色土(炭混)
P255	25×22	20	56.10	暗褐色土(炭混)
P256	26×23	63	56.02	暗褐色土(炭混)
P257	34×29	23	56.18	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P258	25×22	31	56.10	暗褐色土
P259	19×18	46	55.93	暗褐色土
P260	22×20	47	55.86	暗褐色土
P261	23×21	39	55.96	暗褐色土
P262	33×28	24	56.02	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P263	25×22	28	56.00	暗褐色土
P264	45×34	68	55.44	暗褐色土
P265	20×17	20	55.90	暗褐色土
P266	31×26	37	55.66	暗褐色土
P267	25×23	15	55.96	暗褐色土(明褐色土ブロック混)
P268	19×18	18	55.96	暗褐色土
P269	39×38	29	55.76	暗褐色土(明褐色土ブロック混)
P270	41×37	61	55.44	暗褐色土
P271	24×20	23	55.80	暗褐色土
P272	25×23	37	55.61	暗褐色土(炭混)
P273	32×27	27	55.70	暗褐色土(炭混)
P274	26×24	44	55.64	暗褐色土(炭混)
P275	23×21	13	55.93	暗褐色土(明褐色土ブロック混)
P276	31×28	16	55.89	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P277	23×20	28	55.74	暗褐色土(炭混)
P278	31×29	31	55.57	暗褐色土
P279	24×21	19	55.79	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P280	32×28	29	55.66	暗褐色土
P281	63×53	21	55.82	暗褐色土
P282	49×42	58	55.47	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P283	35×32	39	55.65	暗褐色土(炭混)
P284	39×35	25	55.80	暗褐色土
P285	28×24	20	55.87	暗褐色土(明褐色土ブロック混)
P286	27×19	19	55.89	暗褐色土(明褐色土ブロック混)
P287	49×40	59	55.51	暗褐色土
P288	33×30	41	55.69	暗褐色土
P289	26×23	19	55.88	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P291	36×28	62	55.44	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P292	32×29	45	55.60	暗褐色土(炭混)
P293	28×18	35	55.71	暗褐色土(炭混)
P294	32×24	45	55.60	暗褐色土(炭混)
P295	35×22	19	55.81	暗褐色土(炭混)
P296	25×22	19	55.79	暗褐色土(炭混)
P297	24×18	16	55.71	暗褐色土
P298	27×24	24	55.66	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P299	33×31	58	55.29	暗褐色土
P300	30×23	23	55.56	暗褐色土
P301	33×24	19	55.63	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P302	25×22	23	55.52	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P303	33×29	27	55.50	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P304	35×28	25	55.49	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P305	27×24	24	55.44	暗褐色土(かなり暗い)
P306	22×21	20	55.44	暗褐色土
P307	24×21	28	55.27	暗褐色土(炭混)
P308	48×44	62	54.94	暗褐色土(炭混)
P309	32×29	29	55.24	暗褐色土(炭混)
P310	22×18	13	55.34	暗褐色土(炭混)
P311	47×38	30	55.19	暗褐色土(炭混)
P312	28×24	34	55.18	暗褐色土(炭混)
P313	20×16	13	55.43	暗褐色土(炭混)
P314	30×28	18	55.41	暗褐色土(明褐色土ブロック混)
P315	31×27	19	55.51	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P316	23×17	15	55.55	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P317	27×24	31	55.41	暗褐色土
P318	43×38	17	55.58	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P319	23×20	35	55.39	暗褐色土(炭混)
P320	31×27	35	55.39	暗褐色土(炭混)
P321	20×18	19	55.55	暗褐色土(炭混)
P322	31×28	27	55.47	暗褐色土
P323	24×19	20	55.52	暗褐色土
P324	22×19	21	55.56	暗褐色土
P325	19×18	63	55.17	暗褐色土
P326	26×23	54	55.27	暗褐色土
P327	30×24	24	55.59	暗褐色土
P328	28×23	20	55.71	暗褐色土
P329	51×45	35	55.54	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)

表８　ピット計測表

P No.	長径×短径	深さ(cm)	底面の標高(m)	土色・備考
P330	39×32	28	55.61	暗褐色土(明褐色土ブロック混、炭混)
P331	25×21	48	55.33	暗褐色土
P332	40×34	21	55.75	暗褐色土(炭・焼土ブロック混)
P333	25×24	82	55.15	暗褐色土(炭混)
P334	22×18	20	55.75	暗褐色土(炭混)
P335	28×24	49	55.47	暗褐色土
P336	33×25	19	55.97	暗褐色土
P337	40×34	41	55.67	暗褐色土
P338	35×30	44	55.65	暗褐色土(炭混)
P339	27×24	60	55.50	暗褐色土
P340	72×67	21	55.90	暗褐色土(炭混)
P341	24×21	44	55.71	暗褐色土(炭混)
P342	54×48	83	55.33	暗褐色土(明褐色土ブロック混)
P343	26×24	36	55.77	暗褐色土
P344	24×22	20	55.92	暗褐色土
P345	27×25	42	55.71	暗褐色土
P346	23×19	20	55.92	暗褐色土(炭混)
P347	30×26	34	55.78	暗褐色土
P348	31×29	55	55.57	暗褐色土
P349	24×19	16	55.99	暗褐色土
P350	19×18	20	55.95	暗褐色土
P351	76×62	23	55.93	暗褐色土(明褐色土ブロック混)
P352	32×28	39	55.78	暗褐色土(炭混)
P353	35×31	43	55.76	暗褐色土(炭混)
P354	25×22	51	55.67	暗褐色土(炭混)
P355	24×21	46	55.75	暗褐色土
P356	56×45	25	55.88	暗褐色土
P357	24×22	22	55.89	暗褐色土
P358	44×38	32	55.79	暗褐色土(炭混)
P359	28×21	39	55.75	暗褐色土
P360	40×34	37	55.57	暗褐色土
P361	26×18	34	55.47	暗褐色土
P362	25×21	28	55.50	暗褐色土
P363	23×19	48	55.33	暗褐色土
P364	39×25	21	55.57	暗褐色土
P365	25×24	42	55.38	暗褐色土
P366	60×58	28	55.56	暗褐色土
P367	32×26	27	55.56	暗褐色土
P368	19×16	31	55.55	暗褐色土
P369	32×25	36	55.47	暗褐色土
P370	24×23	32	55.52	暗褐色土
P371	38×29	45	55.45	暗褐色土
P372	26×24	48	55.42	暗灰褐色土
P373	34×32	26	55.47	暗褐色土
P374	31×28	41	55.29	暗褐色土
P375	41×31	21	55.52	暗褐色土
P376	34×27	20	55.56	暗褐色土
P377	33×27	47	55.57	暗褐色土
P378	38×33	58	55.42	暗褐色土
P379	34×28	57	55.42	暗褐色土
P380	28×26	36	55.63	暗褐色土
P381	52×42	18	55.81	暗褐色土
P382	30×24	43	55.58	暗褐色土
P383	37×35	57	55.44	暗褐色土
P384	32×29	45	55.60	暗褐色土
P385	40×31	35	55.67	暗褐色土
P386	32×27	29	55.71	暗褐色土
P387	26×25	18	55.81	暗褐色土
P388	36×33	20	55.75	暗褐色土
P389	20×19	34	55.60	暗褐色土
P390	28×24	25	55.64	暗褐色土
P391	27×23	48	55.46	暗褐色土
P392	34×22	36	55.58	暗褐色土
P393	26×24	15	55.83	暗褐色土
P394	29×28	17	55.78	暗褐色土
P395	38×31	47	55.49	暗褐色土
P396	32×29	29	55.97	暗褐色土(炭混)
P397	55×46	46	55.78	暗褐色土(炭混)
P398	20×16	11	55.15	暗褐色土
P399	41×39	55	55.83	暗褐色土
P402	30×22	9	56.22	暗褐色土
P403	21×18	22	55.96	暗褐色土
P404	21×20	10	56.08	暗褐色土
P405	21×19	22	56.01	暗褐色土
P406	21×18	19	55.98	暗褐色土
P407	30×22	52	55.66	暗褐色土
P408	23×19	21	55.97	暗褐色土
P409	24×20	35	55.84	暗褐色土
P410	24×21	29	55.73	暗褐色土
P411	35×30	20	55.79	暗褐色土
P412	34×33	52	55.51	暗褐色土
P413	33×30	20	55.89	暗褐色土
P414	37×30	22	55.88	暗褐色土
P415	21×20	35	55.66	暗褐色土
P416	35×32	26	55.81	暗褐色土
P417	34×30	25	55.85	暗褐色土
P418	22×19	32	55.78	暗褐色土
P419	27×23	58	55.50	暗褐色土
P420	34	40	55.74	暗褐色土
P421	25×21	30	55.72	暗褐色土
P422	29×26	36	55.61	暗褐色土
P423	36×33	30	55.58	暗褐色土
P424	24×23	54	55.57	暗褐色土
P425	23×20	22	54.88	暗褐色土
P426	34×28	30	55.20	暗褐色土
P427	27×22	28	55.14	暗褐色土
P428	33×30	36	55.25	暗褐色土



※括弧内は出土ピット番号

図128　ピット出土遺物（2）

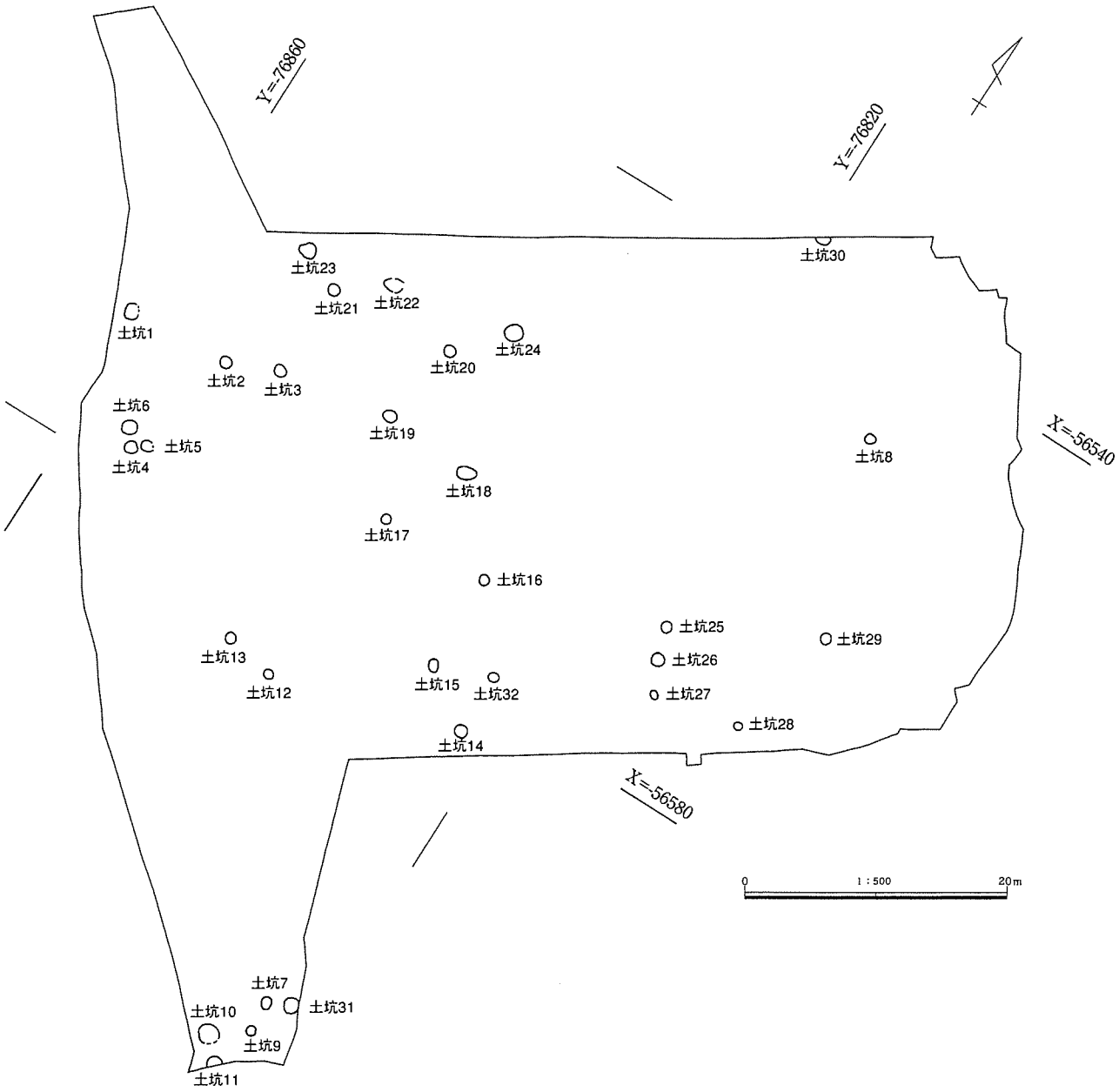


図129　土坑分布図

土坑７（図130、図版41）

調査地南端部、台地平坦面に位置する。平面形は長軸100cm、短軸85cmのいびつな楕円形を呈する。深さは最大41cm、断面形は逆台形を呈する。遺物の出土はない。（小林）

土坑８（図47、図版14）

調査地東側、台地平坦面に位置する。平面形は長軸89cm、短軸76cmの円形を呈する。深さは最大で82cmである。断面形はやや袋状を呈する。埋土はにぶい褐色土･暗褐色土で炭を少量含む。遺物は出土していない。（小林）

土坑９（図48）

調査地南東端、台地平坦面に位置する。竪穴３により北側を切られる。平面形は長軸65cmの隅丸方形が想定される。検出面からの深さは最大で17cm、断面形は逆台形を呈する。埋土はにぶい褐色土で炭を含む。埋土中からは高坏の杯部片147が出土した。（小林）

土坑10（図130）

調査地南東端、台地平坦面に位置する。平面形は長軸103cm、短軸102cmのいびつな円形を呈する。深さは最大で137cmである。底面に径25cm～28cm、深さ33cmの底面ピットをもついわゆる落し穴状土坑である。埋土は灰褐色を呈し、微細な炭を含む。埋土中からは遺物は出土していない。（小林）

土坑11（図131）

調査地南側に位置する。南東側は調査地外である。平面形は円形と思われる。検出面での規模は長軸124cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約105cm、埋土はにぶい褐色土と褐灰色土である。遺物は出土していない。（森本）

土坑12（図131）

調査地南側に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸87cm、短軸約70cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約71cmであり、にぶい褐色土と褐灰色系の埋土である。底面には径９～11cm、深さ11cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑13（図131、図版41）

調査地南側に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸85cm、短軸84cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約114cm、埋土はにぶい褐色土である。底面には径８cm～９cm、深さ14cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑14（図131、図版41・48）

調査地南東側に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸101cm、短軸97cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約119cmであり、明るい褐色系色の埋土である。底面には深さ32cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑15（図131、図版42）

調査地南東側に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸86cm、短軸75cmである。断面形は逆台形を呈し、深さは約31cmである。底面には径18～21cm、深さ15cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑16（図131、図版42）

調査地ほぼ中央に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸88cm、短軸約80cmである。断面形は逆台形を呈す。検出面からの深さは約109cmであり、明るい褐色系色の埋土である。底面には長軸24cm、短軸19cm、深さ37cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑17（図132、図版42）

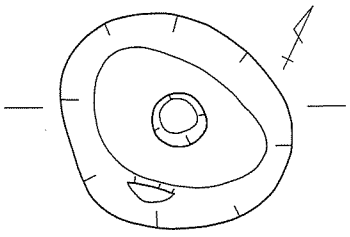
調査地ほぼ中央に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸81cm、短軸76cmである。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは約91cmである。底面には長径21cm、短径19cm、深さ90cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑18（図132、図版42）

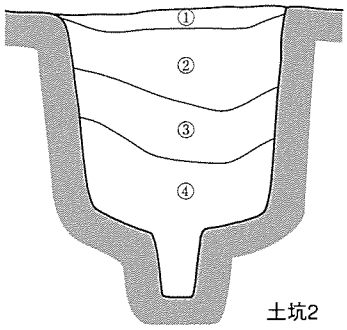
調査地の中央部に位置する。平面形はやや歪な円形を呈し、検出面での規模は長軸146cm、短軸102cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約123cmである。底面には径27cm～29cm、深さ55cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑19（図132、図版42）

調査地ほぼ中央に位置する。平面形はいびつな円形を呈し、検出面での規模は長軸109cm、短軸約

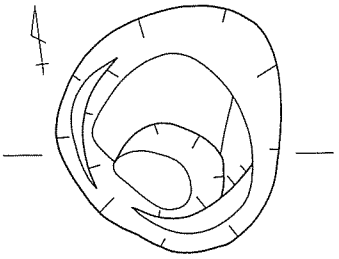


56.00m

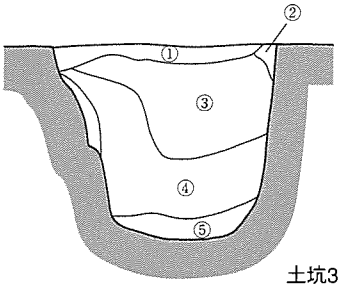


土坑2

①にぶい褐色土（暗褐色土少量混）
②褐色土（しまる、暗褐色土少量混、炭少量混）
③にぶい褐色土（ゆるい、Ⅲ層ブロック少量混）
④にぶい褐色土（ゆるい）

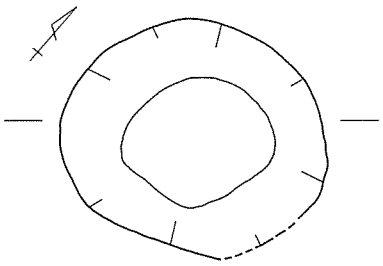


56.20m

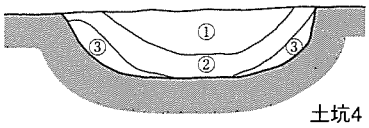


土坑3

①褐色土（暗褐色土混、炭少量混）
②褐色土（明褐色土ブロック混）
③褐色土（暗褐色土少量混、炭少量混）
④にぶい褐色土（炭少量混）
⑤明褐色土（褐色土多量混）

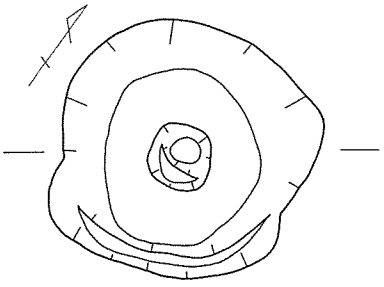


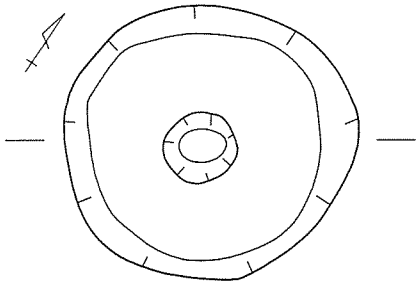
55.90m



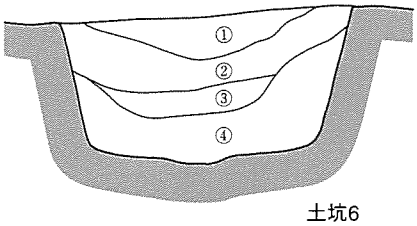
土坑4

①にぶい褐色土（ゆるい、炭混）
②明褐色土（ゆるい、にぶい褐色土混）
③明灰褐色土（しまりあり）



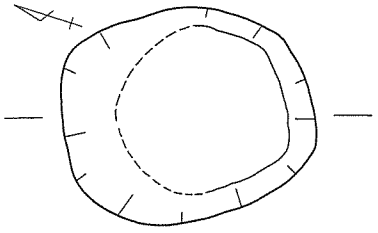


55.90m

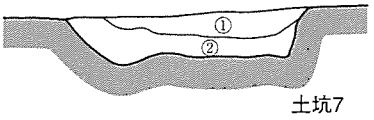


土坑6

①にぶい褐色土（Ⅲ層混、炭混）
②にぶい褐色土（Ⅲ層ブロック混、炭混）
③灰褐色土（Ⅲ層ブロック混、炭混）
④にぶい褐色土（炭混）

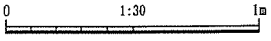


60.00m

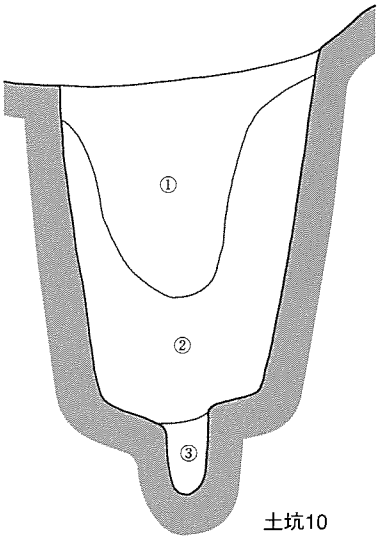


土坑7

①にぶい褐灰色土（明黄褐色土混）
②にぶい褐色土（炭混）



55.90m



土坑10

①灰褐色土（微細炭化物混）
②灰褐色土（微細炭化物混、①より明るい）
③灰褐色土（ややゆるい、微細炭化物混、①より明るい）

図130　土坑２・３・４・６・７・10

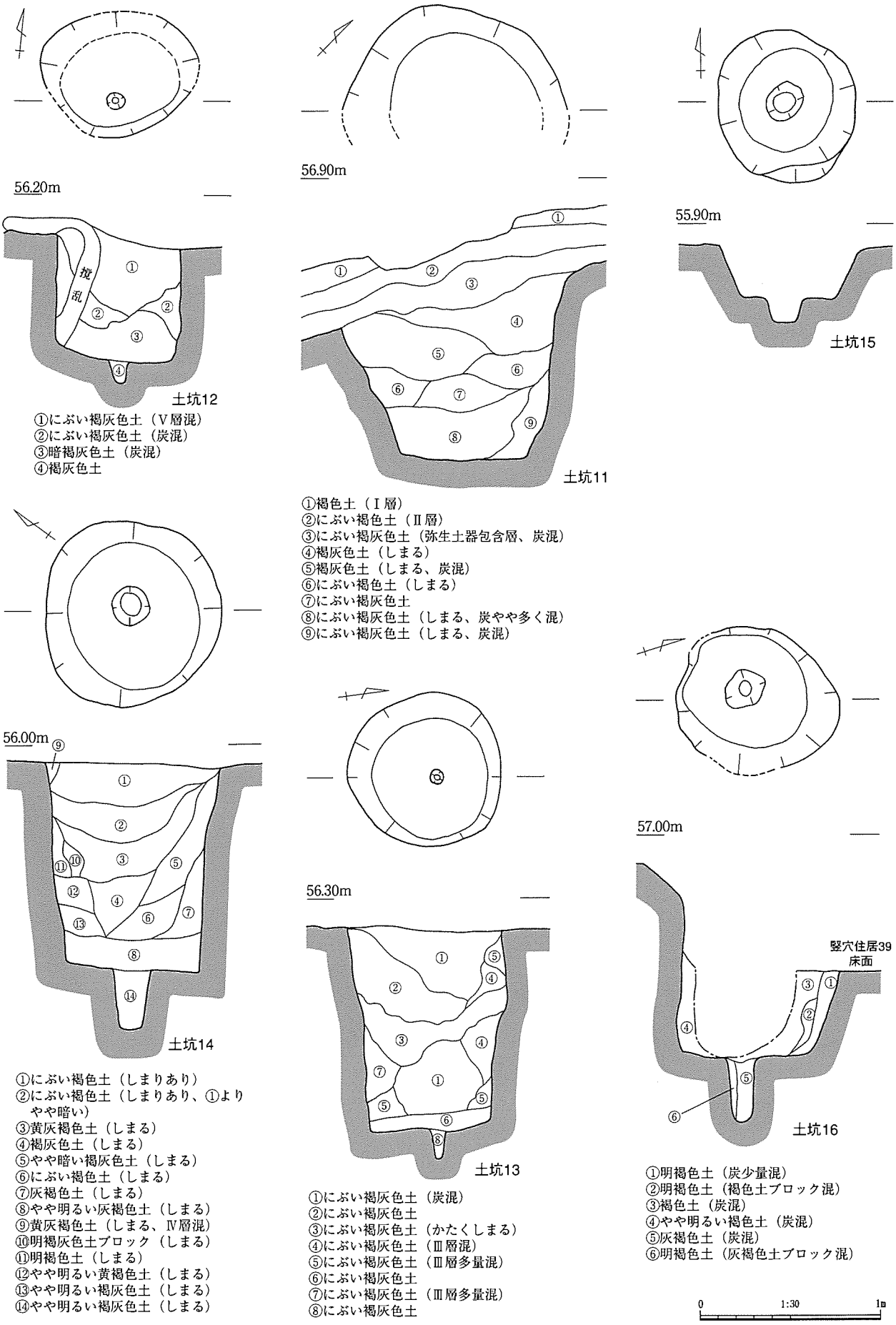

56.20m
撹乱
土坑12
①にぶい褐灰色土（Ⅴ層混）
②にぶい褐灰色土（炭混）
③暗褐灰色土（炭混）
④褐灰色土
56.90m
土坑11
①褐色土（Ⅰ層）
②にぶい褐色土（Ⅱ層）
③にぶい褐灰色土（弥生土器包含層、炭混）
④褐灰色土（しまる）
⑤褐灰色土（しまる、炭混）
⑥にぶい褐色土（しまる）
⑦にぶい褐灰色土
⑧にぶい褐灰色土（しまる、炭やや多く混）
⑨にぶい褐灰色土（しまる、炭混）
55.90m
土坑15
56.00m
土坑14
①にぶい褐色土（しまりあり）
②にぶい褐色土（しまりあり、①よりやや暗い）
③黄灰褐色土（しまる）
④褐灰色土（しまる）
⑤やや暗い褐灰色土（しまる）
⑥にぶい褐色土（しまる）
⑦灰褐色土（しまる）
⑧やや明るい灰褐色土（しまる）
⑨黄灰褐色土（しまる、Ⅳ層混）
⑩明褐灰色土ブロック（しまる）
⑪明褐色土（しまる）
⑫やや明るい黄褐色土（しまる）
⑬やや明るい褐灰色土（しまる）
⑭やや明るい褐灰色土（しまる）
56.30m
土坑13
①にぶい褐灰色土（炭混）
②にぶい褐灰色土
③にぶい褐灰色土（かたくしまる）
④にぶい褐灰色土（Ⅲ層混）
⑤にぶい褐灰色土（Ⅲ層多量混）
⑥にぶい褐灰色土
⑦にぶい褐灰色土（Ⅲ層多量混）
⑧にぶい褐灰色土
57.00m
竪穴住居39
床面
土坑16
①明褐色土（炭少量混）
②明褐色土（褐色土ブロック混）
③褐色土（炭混）
④やや明るい褐色土（炭混）
⑤灰褐色土（炭混）
⑥明褐色土（灰褐色土ブロック混）
0
1:30
1m

図131　土坑11～16

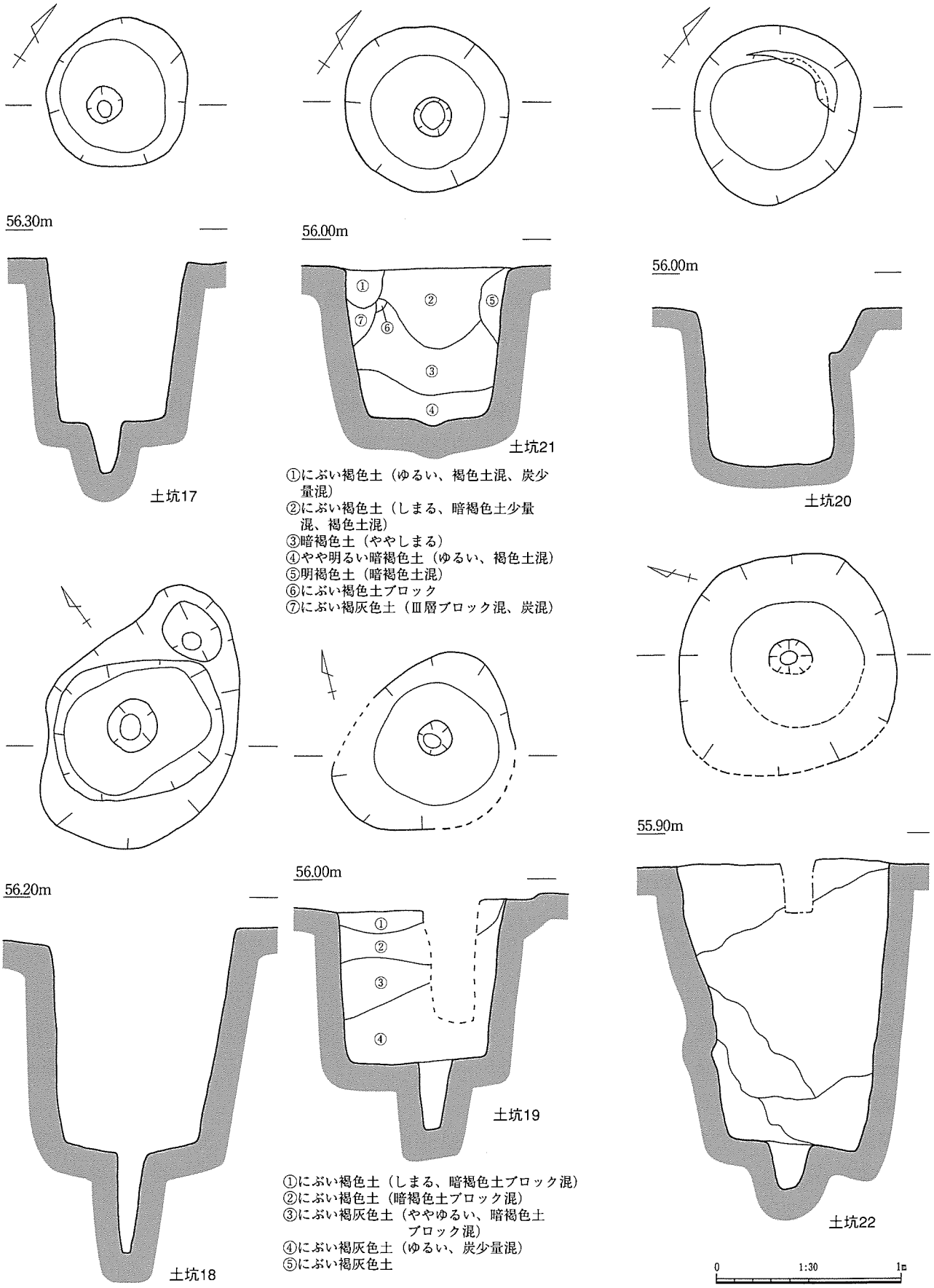

56.30m
土坑17
56.00m
①
②
⑤
⑦
⑥
③
④
土坑21
①にぶい褐色土（ゆるい、褐色土混、炭少量混）
②にぶい褐色土（しまる、暗褐色土少量混、褐色土混）
③暗褐色土（ややしまる）
④やや明るい暗褐色土（ゆるい、褐色土混）
⑤明褐色土（暗褐色土混）
⑥にぶい褐色土ブロック
⑦にぶい褐灰色土（Ⅲ層ブロック混、炭混）
56.00m
土坑20
56.20m
土坑18
56.00m
①
②
③
④
土坑19
①にぶい褐色土（しまる、暗褐色土ブロック混）
②にぶい褐色土（暗褐色土ブロック混）
③にぶい褐灰色土（ややゆるい、暗褐色土ブロック混）
④にぶい褐灰色土（ゆるい、炭少量混）
⑤にぶい褐灰色土
55.90m
土坑22
0
1:30
1m

図132　土坑17～22

88cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約96cmであり、埋土はにぶい褐色土である。底面には径18cm～19cm、深さ37cmの底面ピットをもつ。遺物は出土はない。（森本）

土坑20（図132、図版42）

調査地中央やや北西側、台地平坦面上に位置する。平面形は円形を呈し、北側には段をもつ。検出面での規模は長軸98cm、短軸90cmである。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは約86cmである。遺物は出土していない。（森本）

土坑21（図132、図版42）

調査地北西側に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸90cm、短軸89cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約83cm、埋土はにぶい褐色土と暗褐色土である。底面には径21cm～22cm、深さ6cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑22（図132、図版42）

調査地北西側、台地平坦面上に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸104cm、短軸約91cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約133cm、埋土は褐灰色土である。底面には径19cm～23cm、深さ31cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑23（図133、図版43）

調査地北西側に位置する。平面形は円形を呈し、南側はテラス状の段をもつ。検出面での規模は長軸113cm、短軸110cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約109cmであり、埋土は褐灰色土である。遺物は出土していない。（森本）

土坑24（図133、図版43）

調査地中央北西側に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸133cm、短軸132cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約162cm、埋土は褐灰色土である。底面には径14cm～17cm、深さ18cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑25（図133、図版43）

調査地東側に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸88cm、短軸84cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約122cmであり、埋土は褐灰色土である。底面には径17cm～21cm、深さ36cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑26（図133、図版43）

調査地東側に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸114cm、短軸99cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約109cmであり、埋土は褐灰色土である。底面には径22cm～24cm、深さ36cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑27（図133、図版44）

調査地東側に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸71cm、短軸67cmである。断面形は逆台形を呈し、深さは約95cmである。底面には径22cm～25cm、深さ34cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

土坑28（図133、図版44）

調査地東側、台地平坦面上に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸71cm、短軸67cm、断面形は逆台形を呈す。深さは約107cm、埋土は暗褐色土である。底面には径14cm～18cm、深さ18cmの底面ピットをもつ。遺物は出土していない。（森本）

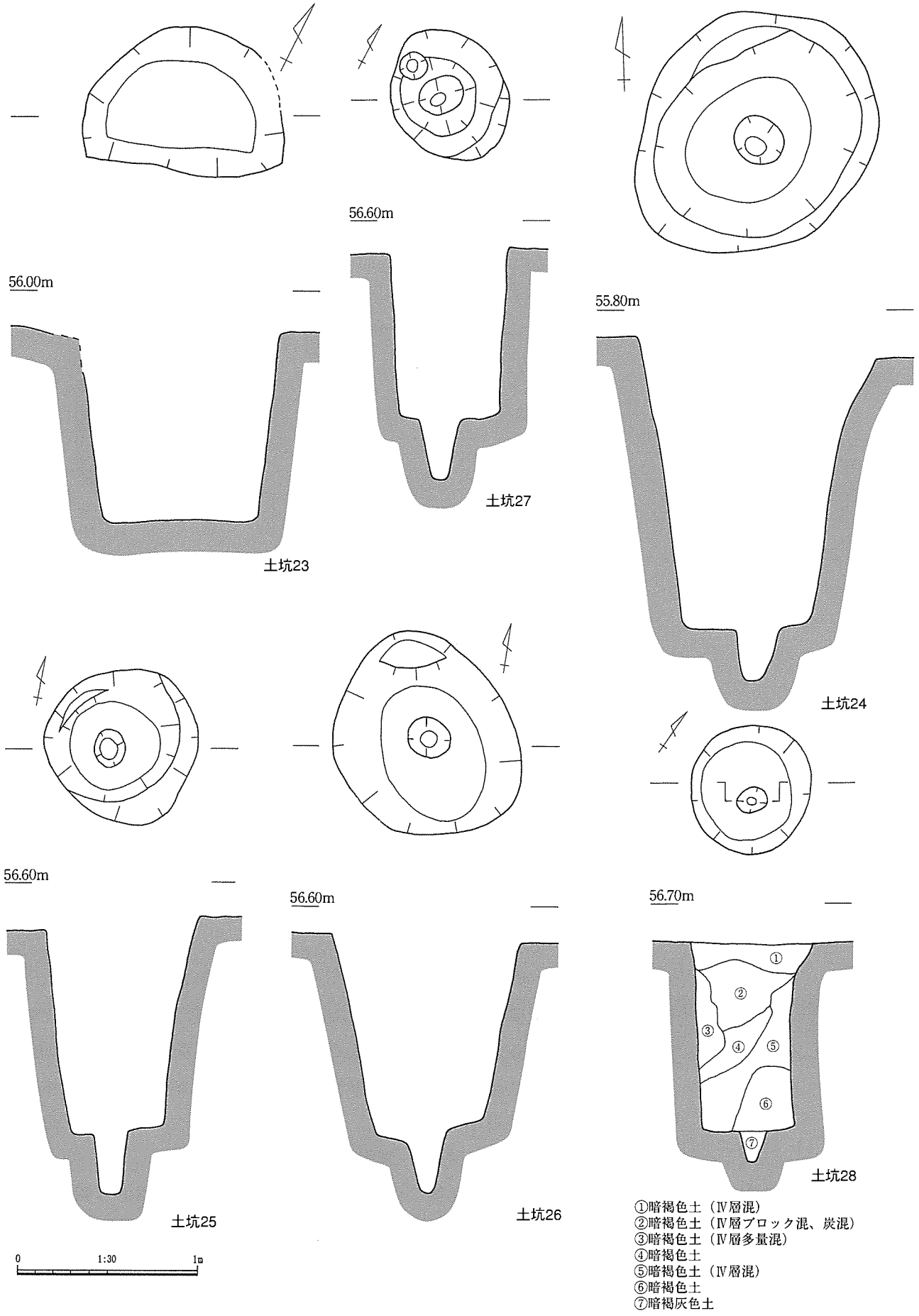

56.00m
土坑23
56.60m
土坑27
55.80m
土坑24
56.60m
土坑25
56.60m
土坑26
56.70m
土坑28
①暗褐色土（Ⅳ層混）
②暗褐色土（Ⅳ層ブロック混、炭混）
③暗褐色土（Ⅳ層多量混）
④暗褐色土
⑤暗褐色土（Ⅳ層混）
⑥暗褐色土
⑦暗褐灰色土
0
1:30
1m

図133　土坑23～28

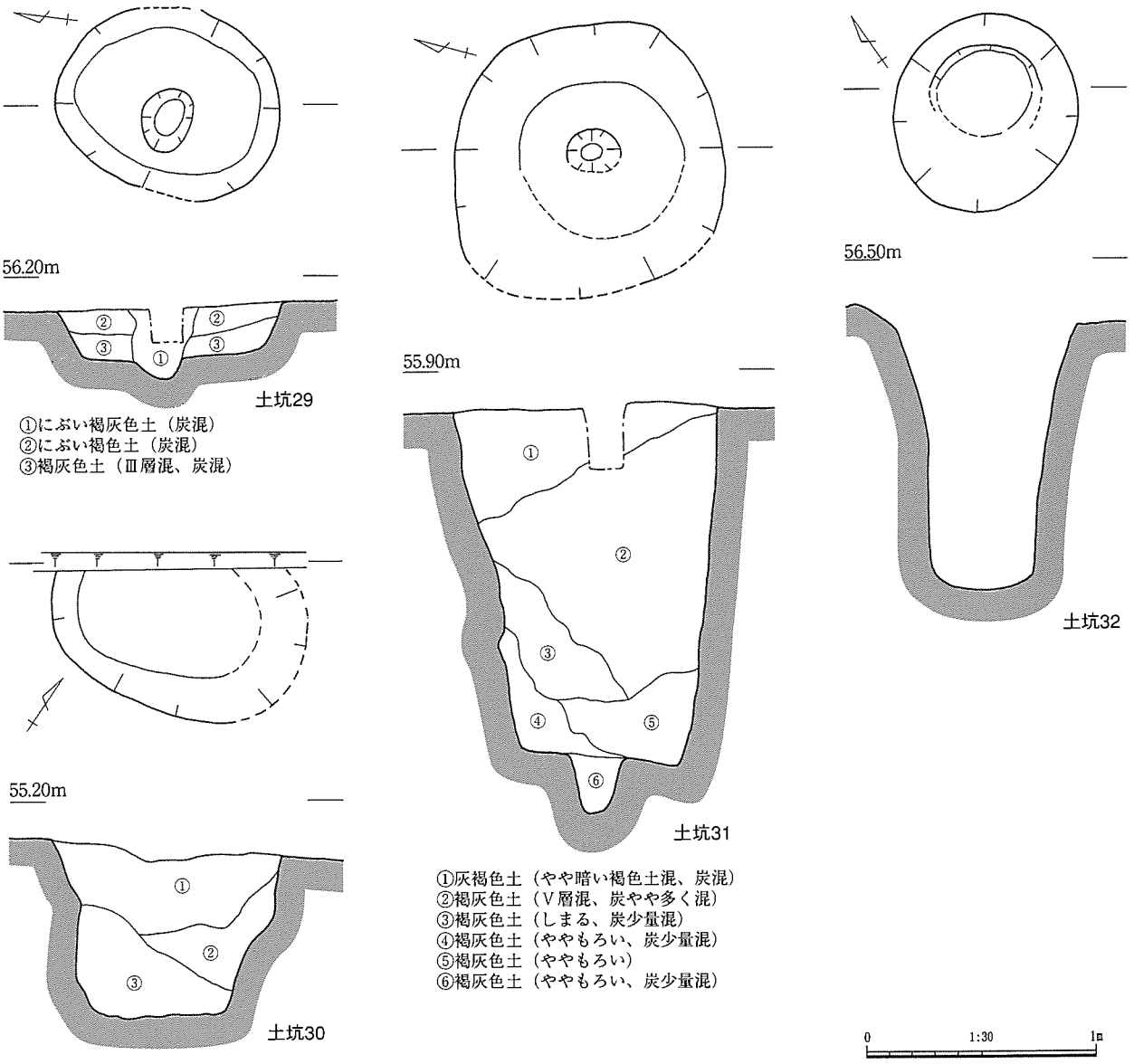


図134　土坑29～32

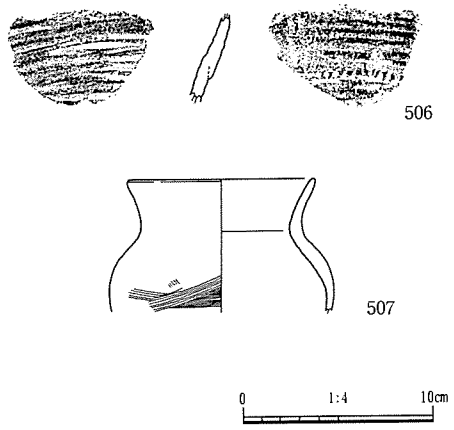


図135　土坑14・29出土遺物

土坑29（図133、図版44）

調査地東側に位置する。平面形は円形を呈し、検出面での規模は長軸98cm、短軸82cmである。断面形は逆台形を呈す。深さは約27cm、埋土はにぶい褐色土と褐灰色土である。底面には径22cm～29cm、深さ９cmの底面ピットをもつ。埋土中より壺507が出土した。（森本）

土坑30（図133、図版44）

調査地北側に位置する。径115cm前後の楕円形と想定される。断面形は逆台形を呈し、深さは約79cmである。埋土はにぶい褐色土である。遺物の出土はない。（森本）

土坑31（図134、図版44）

調査地南側に位置する。平面形は径115cm前後の円形と想

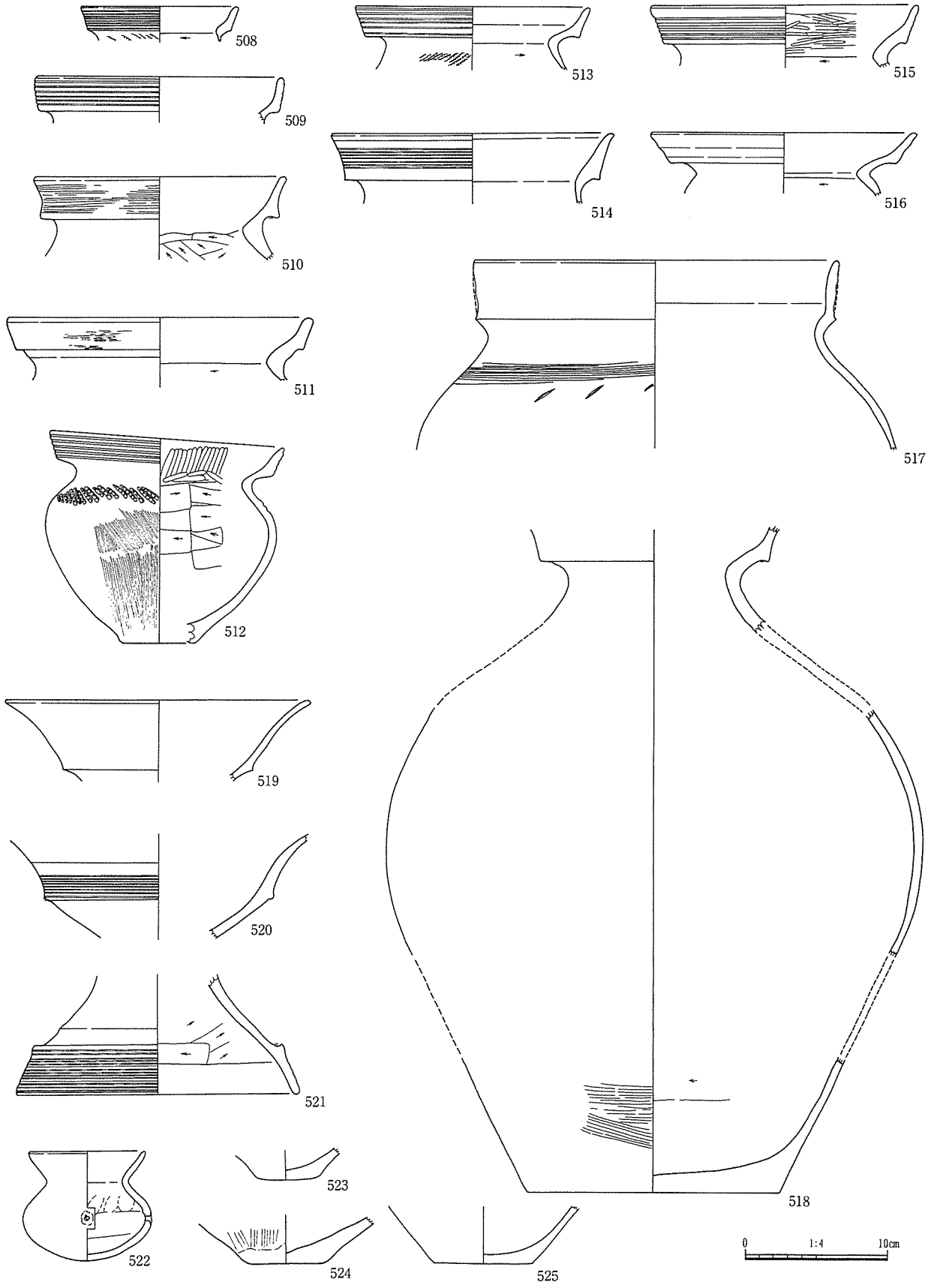


図136　包含層出土遺物（１）調査地南側斜面部灰褐色土出土遺物

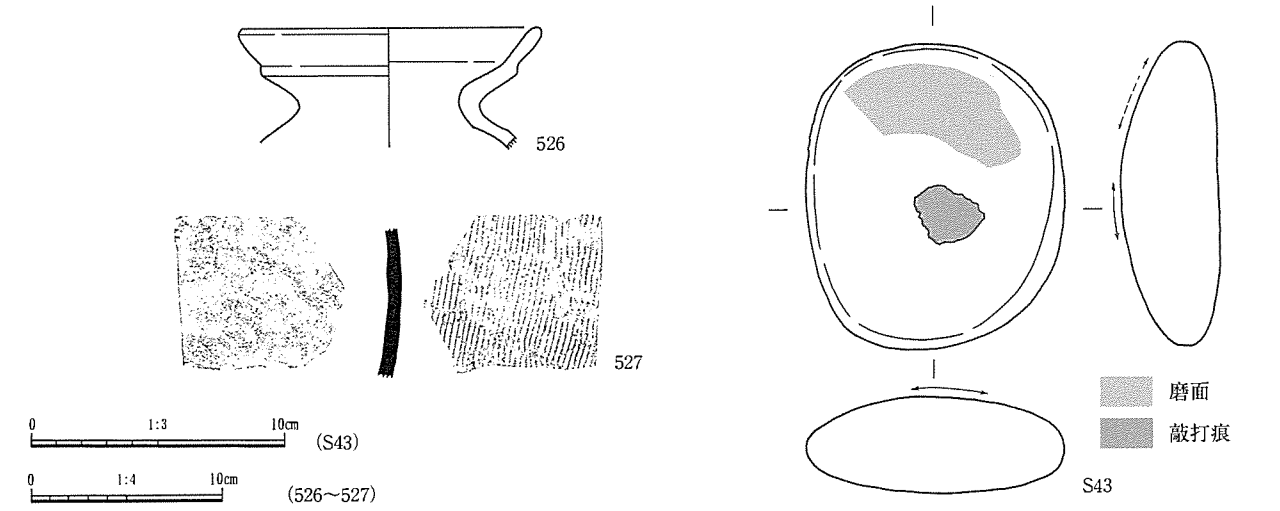


図137　包含層出土遺物（2）　調査地北側斜面部黒色土（⑧層）出土遺物

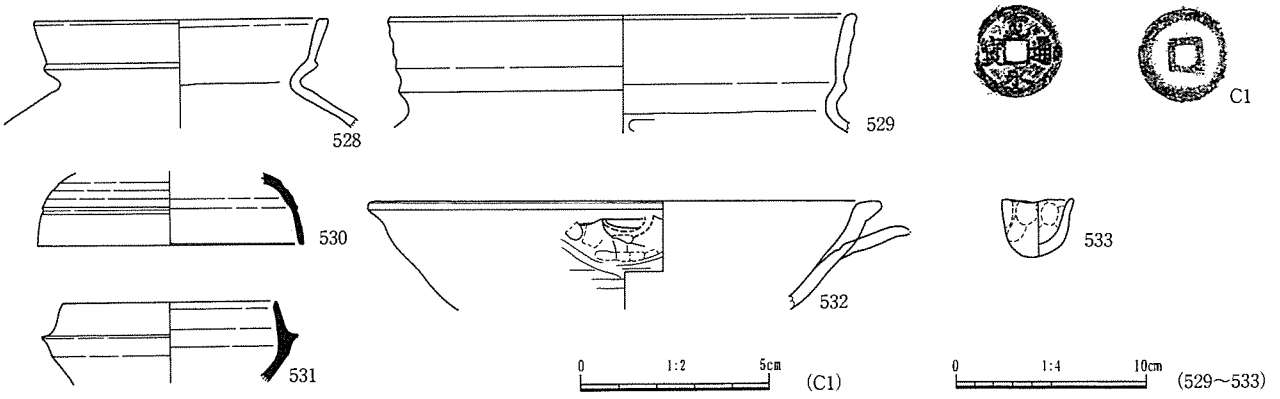


図138　包含層出土遺物（3）Ⅰ層出土遺物

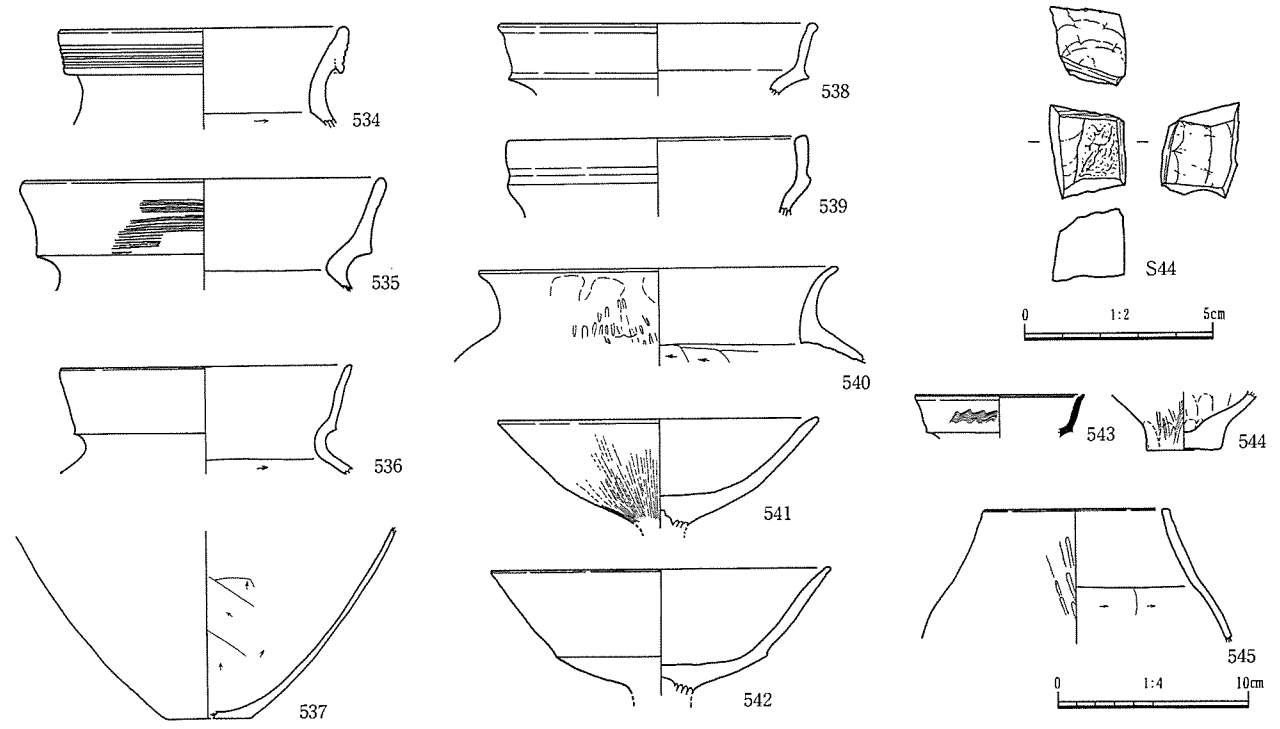


図139　調査地内撹乱層等出土遺物

定される。断面形は逆台形を呈す。深さは約159cmであり、埋土はおもに褐灰色土である。底面には径約23cm、深さ27cmの底面ピットをもつ。遺物の出土はない。（森本）

土坑32（図134）

調査地南東側に位置する。平面形は長径88cm、短径79cmのほぼ円形と思われる。断面形は逆台形を呈する。深さは約128cm、埋土は暗褐色土である。遺物の出土はない。（森本）

第５節　古御堂笹尾山遺跡の集落変遷

本項では古御堂笹尾山遺跡の集落遺構の変遷を整理する。

弥生時代後期後葉　ほぼ同時期の所産とみられる４棟の住居跡が10m～15mの距離で弧状に分布する。平面形には多角形、隅丸方形、方形などバリエーションがある。

弥生時代終末期　竪穴住居跡５棟のほか掘立柱建物跡を検出した。掘立柱建物６のみが確実であるが、埋土や断片的な出土遺物からみて他の掘立柱建物跡も当該期に属する可能性が高い。住居跡はおもに台地の北東側に分布し台地中央付近にはみられない。土器型式上で認めうる併存住居は、終末期前葉が竪穴住居３の１棟、終末期後葉が竪穴住居９･10･11の３棟である。それぞれの住居跡は12m～15mの距離で分布する。竪穴住居10は平面六角形、床面積33.4m²の比較的大型の住居跡である。

古墳時代前期後葉　竪穴住居12のみである。同時期の遺物は竪穴住居10の覆土①層で散見される程度である。この後中期後葉まで集落は断絶するが、一方北西側に隣接する押平尾無遺跡ではわずかながら中期後葉まで集落の継続が認められる。住居の平面形はこれ以後すべて方形に統一される。

古墳時代中期後葉　再び集落が形成される。検出したのは１棟のみであるが、北西側に広がるものとみられる。

古墳時代中期末　台地の南西側を中心に６棟の住居跡を検出した。すべてが併存か分からないが、それぞれの住居は比較的近接し2.5m～９m程度の間隔で分布する。竪穴住居22、竪穴４は上屋が焼失している。

古墳時代後期前葉　６棟の住居跡が検出され後期中葉にかけて集落の最盛期となる。全てが併存かは分からないが、各住居は４m～18mの間隔で分布する。住居の主軸は北東－南西方向を一辺とするものが多い。竪穴住居23･18は焼失住居である。当該期の住居の大半には南東側一辺の床面に住居外方に向かい掘削された斜坑状のピットがみられる。

古墳時代後期中葉　６棟の住居跡、３棟の竪穴が検出された。竪穴住居19･30･31は比較的新しい段階の土器が出土しており二時期に分かれる可能性がある。一時期当たりの併存住居数は３棟前後であろう。比較的台地中央付近に分布する。一辺が３m前後で柱穴をもたない竪穴はこの時期の所産とみられる。

古墳時代後期後葉　台地北東側縁辺部の１棟のみである。茶畑遺跡群の古墳時代集落としては最終段階の集落遺構である。他の住居の覆土中から当該期の土器が若干出土しており、調査地外に遺構が存在するかもしれない。

表９　遺構一覧表

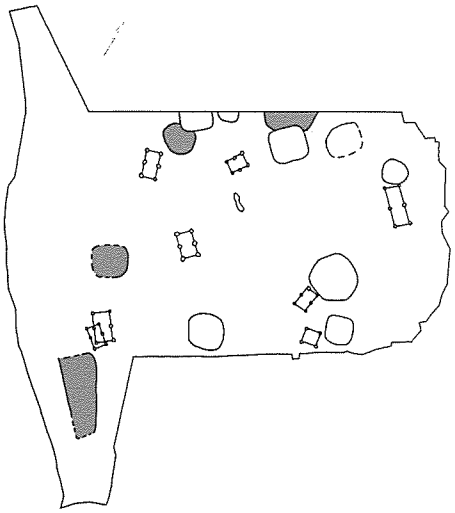
竪穴住居・竪穴

遺構名	平面形	規模（m）	床・底面積（㎡）	時期	備考
竪穴住居１a	隅丸方形	－	－	弥生時代後期後葉	－
竪穴住居１b	隅丸多角形	－	－	弥生時代後期後葉	－
竪穴住居２a	隅丸方形	3.5×3.4	8.7	弥生時代後期後葉	－
竪穴住居２b	不整な円形	4.5×4.4	14.2		－
竪穴住居３	隅丸方形	4.1×3.8	13.4	弥生時代終末期	－
竪穴住居４	隅丸方形	5.1×5.05	20.9	弥生時代後期後葉～終末期	－
竪穴住居５	隅丸方形	4.3×4.3	－	弥生時代後期後葉	－
竪穴住居６	テラス状	9.2	53.0	弥生時代後期後葉	板状鉄斧、袋状鉄斧
竪穴住居７	方形	1.4	－	弥生時代後期後葉	－
竪穴住居８	隅丸方形	5.2×4.1	－	弥生時代後期後葉～古墳時代前期	－
竪穴住居９	隅丸三角形	3.6×3.5	9.3	弥生時代終末期	－
竪穴住居10a	五角形	6.4×6.2	24.7	弥生時代終末期	－
竪穴住居10b	六角形	6.7×6.6	33.4		－
竪穴住居11	隅丸方形	5.6×5.5	27.0	弥生時代終末期	－
竪穴住居12	隅丸方形	一辺4.5前後	－	古墳時代前期後葉	－
竪穴住居13	方形	5.7×5.2	14.6	古墳時代中期末（２期）	－
竪穴住居14	方形	6.5×6.3	38.3	古墳時代後期前葉（３期）	斜坑状ピット
竪穴住居15	長方形	6.1×5.3	30.2	古墳時代後期後葉（５期）	－
竪穴住居16	隅丸方形	4.7×4.4	18.9	古墳時代後期中葉（４期）	斜坑状ピット
竪穴住居17	方形	5.7	－	－	－
竪穴住居18	方形	4.9×4.8	21.3	古墳時代後期前葉（３期）	焼失住居
竪穴住居19a	方形	5.6×5.7	28.3	古墳時代後期中葉（４期）	斜坑状ピット
竪穴住居19b	方形	7.2×7.1	40.5		斜坑状ピット
竪穴住居20	方形	5.5×5.5	－	古墳時代後期前葉（３期）	－
竪穴住居21	方形	4.2×4.0	14.5	古墳時代後期前葉（３期）	斜坑状ピット
竪穴住居22a	方形	4.9×4.4	18.9	古墳時代中期末（２期）	－
竪穴住居22b	方形	5.2×6.5	31.7		焼失住居
竪穴住居23	方形	3.9×3.2	11.2	古墳時代後期前葉（３期）	焼失住居、斜坑状ピット
竪穴住居24	方形	4.7×4.4	18.4	古墳時代後期中葉（４期）	斜坑状ピット
竪穴住居25	方形	－	－	古墳時代後期中葉（４期)?	－
竪穴住居26	方形	一辺約5.7	－	古墳時代中期後葉（１期）	－
竪穴住居27	方形	6.0×4.7	26.0	古墳時代中期末（２期）	－
竪穴住居28	方形	6.5	－	古墳時代中期末（２期）	－
竪穴住居29	方形	6.3×4.0	15.7	古墳時代後期中葉（４期）	－
竪穴住居30	方形	－	－	古墳時代後期中葉（４期）	－
竪穴住居31	方形	－	7.6	古墳時代後期中葉（４期）	－
竪穴住居32	方形	3.9×3.5	13.2	古墳時代中期末（２期）	周堤溝
竪穴住居33	方形	一辺約3.2	－	－	－
竪穴住居34	方形	3.3×3.0	9.0	古墳時代後期前葉（３期）	－
竪穴1	方形	－	－	－	－
竪穴２	長方形	(3.9)×2.6	－	古墳時代中期～後期	－
竪穴３	方形	一辺約2.3	－	古墳時代中期～後期	－
竪穴４	方形	3.3×2.8	8.6	古墳時代中期末（２期）	焼失遺構、須恵器樽形瑞
竪穴５	方形	3.5×3.5	10.7	古墳時代後期中葉（４期）	斜坑状ピット
竪穴６	方形	3.0×2.9	7.5	古墳時代後期中葉（４期）	－
竪穴７	方形	3.7×3.5	11.4	古墳時代後期前葉または中葉（３・４期）	－
竪穴８	方形	3.3×2.7	8.1	古墳時代後期中葉（４期）	－

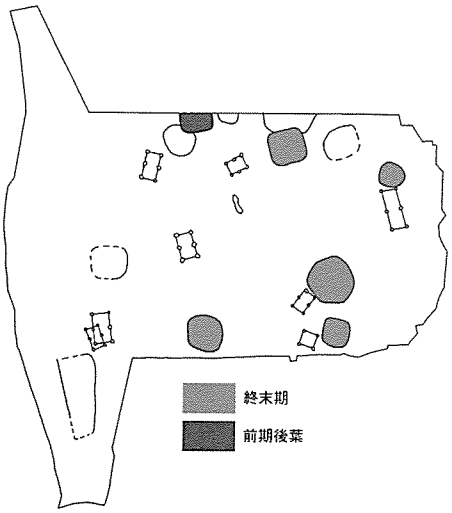
掘立柱建物

遺構名	平面形	規模（m）	主軸	時期	梁桁範囲の面積（㎡）	備考
掘立柱建物１	１間×２間	2.5×6.4	N－49°　－W	弥生時代後期～古墳時代前期	16.0	－
掘立柱建物２	１間×２間	2.4×4.2	N－20°　－W	弥生時代後期～古墳時代前期	10.1	－
掘立柱建物３	１間×２間	3.0×2.0	N－32°　－W	弥生時代末葉～古墳時代前期	6.4	P2･P3より桃核
掘立柱建物４	１間×２間	2.8×4.1	N－47°　－W	弥生時代後期～古墳時代前期	11.5	－
掘立柱建物５	１間×１間	2.4×2.4	－	弥生時代後期～古墳時代前期	5.7	－
掘立柱建物６	１間×２間	2.9×4.8	N－39°　－W	弥生時代終末期	13.9	－
掘立柱建物７	１間×２間	2.2×3.5	N－53°　－W	弥生時代後期～古墳時代前期	7.7	－
掘立柱建物８	１間×２間	2.1×3.3	N－７°　－E	弥生時代後期～古墳時代前期	6.9	－
掘立柱建物９	１間×２間	2.1×3.2	N－34°　－E	古墳時代中期～後期	6.7	－
掘立柱建物10	１間×２間	2.6×2.6	N－41°　－W	古墳時代中期～後期	6.8	－

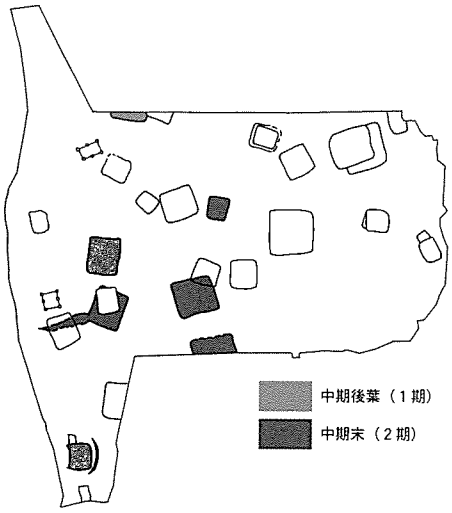
※（　）内は残存値



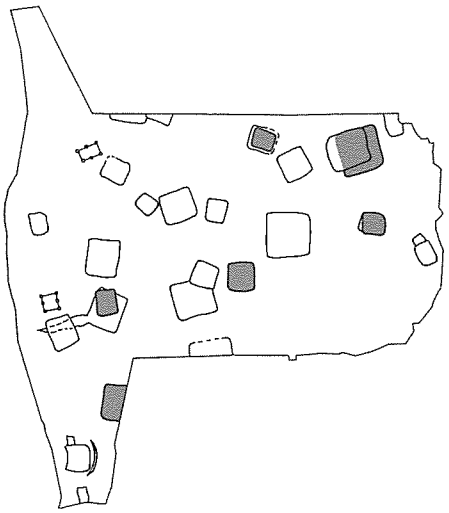
弥生時代後期後葉



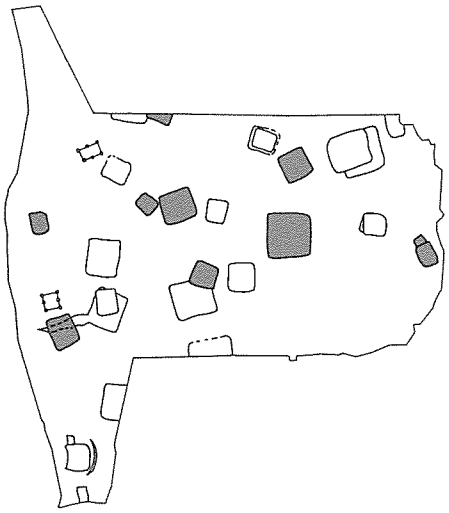
弥生時代終末期～古墳時代前期



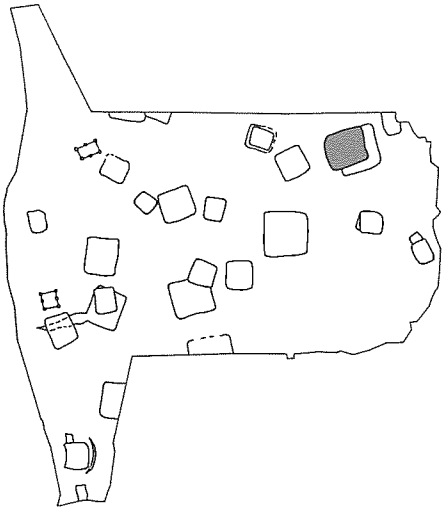
古墳時代中期後葉～中期末（１・２期）



古墳時代後期前葉（３期）



古墳時代後期中葉（４期）



古墳時代後期中葉（５期）

0m　1:1200　40m

図140　古御堂笹尾山遺跡集落変遷図

古御堂笹尾山遺跡出土遺物観察表

土器・土製品

（ ）は復元推定値を示す、→は器面調整の順序を示す。

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	色調	調整 内	調整 外	残存率	備考
1	竪穴住居1-2	周壁溝	9	45	甕	(16.0)	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
2	竪穴住居1	床面直上	9	—	甕	(18.0)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、胴部上端に貝殻復縁による連続刺突文。
3	竪穴住居1	上層	9	45	甕	(16.4)	—	—	浅黄橙色	不明	ナデ	口縁1/8	口縁部に７条の平行沈線文。
4	竪穴住居1	上層	9	—	甕	(12.3)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/6	口縁部に７条の平行沈線文。
5	竪穴住居1	⑤層⑥層	9	48	壺	(12.7)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	—
6	竪穴住居1	上層	9	48	甕	(18.0)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/10	—
7	竪穴住居1	上層	9	—	器台	—	(18.5)	—	浅黄橙色	ケズリ	ナデ	脚部1/8	—
8	竪穴住居1	上層	9	45	器台	(30.4)	—	—	にぶい赤褐色	ナデ→ミガキ	ナデ	口縁1/10	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
9	竪穴住居1	上層	9	45	器台	—	—	—	にぶい褐色	ハケ	ハケ→ナデ	受部1/6	内外面赤彩、口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
10	竪穴住居1-1	Ｐ１	9	—	底部	—	(7.8)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	底部1/8	—
11	竪穴住居1	上層	9	45	底部	—	(8.2)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	底部1/2	—
12	竪穴住居1	—	9	45	高坏	—	—	—	黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/3	—
13	竪穴住居2	床面直上	12	46	甕	(13.4)	—	—	浅黄橙色	ケズリ→ナデ	ナデ	口縁1/6	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
14	竪穴住居2	床面直上	12	46	甕	(15.8)	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
15	竪穴住居2	床面直上	12	—	甕	(16.6)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/2	口縁部外面および胴部に貝殻腹縁による条痕文。
16	竪穴住居2	最下層	12	47	甕	(19.1)	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/3	口縁端部に数状の沈線文。
17	竪穴住居2	最下層	12	46	甕	(12.0)	—	—	浅黄橙色	ケズリ→ナデ	ナデ	口縁1/4	口縁部外面に貝殻復縁による浅い条痕文。
18	竪穴住居2	最下層	12	46	甕	(18.3)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
19	竪穴住居2	床面直上	12	46	甕	(19.2)	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ→ミガキ	ナデ	口縁1/6	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
20	竪穴住居2	最下層	12	46	甕	(20.3)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ→ミガキ	ナデ	頸部1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
21	竪穴住居2	最下層	12	46	甕	(22.6)	—	—	浅黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に７条の平行沈線文。
22	竪穴住居2	最下層壁際	12	47	甕	11.8	3.6	12.6	明黄褐色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ→ヘラナデ	器形の2/3	口縁部に５条の平行沈線文、胴部に板状工具による連続刺突文。
23	竪穴住居2	上層最下層	12	—	甕	14.9	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁完存	口縁部外面に貝殻腹縁による条痕文、胴部に刺突文。
24	竪穴住居2	最上層	12	46	甕	(13.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	頸部1/3	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、頸部に径約３㎜の焼成後穿孔。
25	竪穴住居2	上層	12	46	甕	(19.5)	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
26	竪穴住居2	最上層	12	46	甕	(23.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
27	竪穴住居2	最上層	12	46	甕	(15.3)	—	—	浅黄色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	頸部1/2	口縁部外面に貝殻腹縁による条痕文、胴部上端に貝殻による連続刺突文。
28	竪穴住居2	①層	12	46	台付壺	—	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ	肩部1/4	同心円状スタンプ文、４条の平行沈線文→貝殻復縁による連続刺突文。
29	竪穴住居2	中層	12	46	脚部	—	(14.1)	—	浅黄橙色	ケズリ	ナデ	脚部1/8	外面赤彩、脚部外面に貝殻復縁による条痕文。
30	竪穴住居2	最下層	12	46	器台	(21.2)	—	—	浅黄橙色	ミガキ	ミガキ	口縁1/5	内外面赤彩、口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
31	竪穴住居2	最下層	12	47	高坏	(23.7)	—	—	明黄褐色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/2	—
32	竪穴住居2	最下層	12	46	底部	—	5.3	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	底部3/4	—
33	竪穴住居2	最下層	12	46	底部	—	(7.7)	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	底部1/2	—
34	竪穴住居2	②～③層最下層	12	46	底部	—	3.6	—	浅黄橙色	ケズリ→ナデ	ナデ	底部3/4	—
35	竪穴住居2	最上層	12	46	底部	—	(6.0)	—	にぶい黄橙色	ケズリ→ナデ	ハケ→ナデ	底部1/2	—
36	竪穴住居2	最上層	12	—	底部	—	(13.7)	—	橙色	ナデ	ナデ	底部1/5	—
37	竪穴住居2	①層	12	—	底部	—	3.2	—	淡黄橙色	ナデ	ナデ	底部完存	—
38	竪穴住居3	最下層	15	45	甕	(14.4)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/5	—

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	色調	調整 内	外	残存率	備考
39	竪穴住居3	最上層	15	45	甕	(13.4)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/6	—
40	竪穴住居3	P5 ①層	15	45	甕	(16.0)	—	—	黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/16	内外面赤彩
41	竪穴住居3	P4	15	45	甕	(5.5)	—	—	にぶい黄橙色	不明	不明	口縁1/10	—
42	竪穴住居3	最下層	15	45	甕	(20.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
43	竪穴住居3	②～③層	15	45	甕	(14.8)	—	—	明赤褐色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/6	内外面赤彩、口縁部外面にハケ状工具による沈線文。
44	竪穴住居3	②～③層	15	45	壺	(15.4)	—	—	橙色	ケズリ→ナデ	ナデ	口縁1/6	頸部上半から、口縁部に貝殻復縁による条痕文、頸部に連続刺突文。
45	竪穴住居3	②～③層	15	45	甕	(16.4)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/5	口縁部外面に波状文。
46	竪穴住居3	③層	15	45	甕	(17.3)	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ→ナデ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、胴部上端付近に貝殻復縁による波状文。
47	竪穴住居3	—	15	45	甕	(18.0)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/2	—
48	竪穴住居3	②～③層	15	45	高坏	—	(14.2)	—	橙色	ケズリ	ナデ	脚部1/8	脚部端面に2条の凹線文
49	竪穴住居3	—	15	45	底部	—	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ	ハケ→ナデ	底部2/3	—
50	竪穴住居3	②～③層	15	45	底部	—	(6.2)	—	にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ	底部1/2	—
51	竪穴住居5	上層	18	47	甕	(15.6)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面にハケ目状の平行沈線文。
52	竪穴住居5	上層	18	47	甕	(17.0)	—	—	にぶい褐色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/4	口縁部に貝殻復縁による条痕文。
53	竪穴住居5	上層	18	47	器台	—	—	—	にぶい橙色	ナデ	ハケ→ミガキ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
54	竪穴住居5	上層	18	47	底部	—	(4.0)	—	にぶい褐色	ケズリ	ハケ→ナデ	底部1/2	—
55	竪穴住居6	床面直上	20	47	甕	18.8	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ・ナデ→ミガキ	ナデ	口縁3/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
56	竪穴住居6	下層	20	47	甕	(26.1)	—	—	浅黄橙色	不明	不明	口縁1/4	口縁部に貝殻復縁による条痕文か。
57	竪穴住居6	上層	20	47	甕	(18.9)	—	—	橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/8	口縁部に貝殻復縁による条痕文。
58	竪穴住居6	上層	20	—	甕	(18.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/5	口縁部に貝殻復縁による条痕文。
59	竪穴住居6	①層	20	47	甕	(15.4)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/8	—
60	竪穴住居6	下層	20	47	甕	(23.7)	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/4	—
61	竪穴住居6	上層	20	47	甕	(20.8)	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/6	—
62	竪穴住居6	上層	20	—	甕	(14.8)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/5	—
63	竪穴住居6	上層	20	—	甕	(14.8)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ→ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	—
64	竪穴住居6	床面直上	20	47	底部	—	5.4	—	浅黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	底部完存	—
65	竪穴住居6	上層	20	47	低脚坏	—	4.6	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	脚部完存	—
66	竪穴住居6	上層	20	47	壺	(14.4)	—	—	浅黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	—
67	竪穴住居6	上層	20	—	甕	(15.4)	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/4	—
68	竪穴住居6	上層	20	—	甕	(15.3)	—	—	橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/8	—
69	竪穴住居6 竪穴4	②層 ①層	20 117	59	壺	22.5	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁3/4 胴部一部残	内面ほぼ全面に黒色の付着物。
70	竪穴住居6	上層	20	—	高坏	—	10.8	—	浅黄橙色	不明	ナデ	脚部3/4	—
71	竪穴住居8	—	23	—	底部	—	(2.4)	—	橙色	不明	不明	底部1/2	—
72	竪穴住居9	床面直上	25	59	甕	20.4	—	—	浅黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁完存	—
73	竪穴住居9	P4	25	47	甕	(20.0)	—	—	橙色	ナデ→ケズリ	ナデ	口縁1/8	—
74	竪穴住居9	—	25	—	甕	(11.2)	—	—	にぶい橙色	ナデ	ナデ	口縁1/6	—
75	竪穴住居9	下層	25	47	底部	—	(4.6)	—	浅黄橙色	ケズリ→ナデ	ハケ	底部1/3	—
76	竪穴住居10	床面直上	28	—	甕	—	—	—	灰黄褐色	ナデ	ナデ	口縁1/10	—
77	竪穴住居10	床面直上	28	—	甕	(13.7)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	—
78	竪穴住居10	中央焼土面直上	28	—	甕	(15.4)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/10	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
79	竪穴住居10	床面直上	28	—	甕	(18.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
80	竪穴住居10	最下層	28	—	低脚坏	—	10.0	—	にぶい橙色	ナデ	ハケ	脚部完存	—

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	色調	調整 内	外	残存率	備考
81	竪穴住居10	上層	28	－	甕	(16.8)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/9	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
82	竪穴住居10	下層	28	－	甕	(17.1)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
83	竪穴住居10	床面直上	28	－	甕	(18.3)	－	－	橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
84	竪穴住居10	下層	28	－	甕	(20.0)	－	－	浅黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/7	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
85	竪穴住居10	上層	28	－	甕	(13.4)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/10	－
86	竪穴住居10	上層	28	－	甕	(13.3)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/6	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、のちナデ消し。
87	竪穴住居10	下層	28	－	甕	(14.4)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	－
88	竪穴住居10	上層	28	－	甕	(15.7)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	－
89	竪穴住居10	上層	28	－	甕	(16.0)	－	－	浅黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	－
90	竪穴住居10	上層	28	－	壺	(18.0)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ→ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/2	－
91	竪穴住居10	中層	28	－	甕	(15.8)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ→ケズリ	ハケ→ナデ	頸部1/10	－
92	竪穴住居10	下層	28	－	甕	(13.6)	－	－	にぶい橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/5	－
93	竪穴住居10	２層	28	－	甕	(14.6)	－	－	浅黄色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	頸部1/2	－
94	竪穴住居10	上層	28	－	坏	(15.4)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	器形の1/4	－
95	竪穴住居10	下層	28	－	壺	(8.4)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	頸部1/3	－
96	竪穴住居10	上層	28	－	高坏	－	10.0	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ヘラナデ	脚部ほぼ完存	－
97	竪穴住居10	上層	28	－	高坏	－	－	－	浅黄橙色	不明	ハケ→ナデ	脚部2/3	－
98	竪穴住居10	上層	28	－	高坏	17.0	11.2	10.9	にぶい黄橙色	不明	ハケ→ナデ・脚部ヘラナデ	器形の2/3	－
99	竪穴住居10	上層	28	－	把手	－	－	－	浅黄橙色	－	ナデ	把手部完存	－
100	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(14.2)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ	頸部1/6	－
101	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(14.8)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/7	－
102	竪穴住居10	①層	29	－	壺	(14.7)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/4	－
103	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(16.6)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/9	－
104	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(12.7)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/6	－
105	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(13.8)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/10	－
106	竪穴住居10	①層	29	－	壺	(14.2)	－	－	にぶい黄橙色	不明	ナデ	口縁1/9	－
107	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(15.6)	－	－	にぶい黄橙色	不明	不明	頸部1/4	－
108	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(18.0)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	頸部1/9	－
109	竪穴住居10	①層	29	－	壺	(9.4)	－	－	明赤褐色	ケズリ・ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/5	－
110	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(14.4)	－	－	にぶい褐色	ハケ→ナデ→ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/7	－
111	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(10.6)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	胴部にヘラ描鋸歯文。
112	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(13.2)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ→ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	－
113	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(17.4)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	頚部1/8	－
114	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(18.9)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	頚部1/7	－
115	竪穴住居10	①層	29	－	甕	(18.5)	－	－	にぶい黄橙色	不明	ハケ→ナデ	口縁1/8	－
116	竪穴住居10	①層	29	－	高坏	(18.5)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/8	－
117	竪穴住居10	①層	29	－	甕	－	－	－	褐灰色	ナデ	ナデ	口縁1/12	－
118	竪穴住居10	①層上層	29	－	高坏	－	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	脚部2/3	－
119	竪穴住居10	①層	29	－	高坏	－	9.2	－	にぶい黄橙色	不明	ヘラナデ	脚部ほぼ完存	－
120	竪穴住居10	①層	29	－	高坏	－	9.8	－	橙色	ハケ	ハケ	脚部3/4	－
121	竪穴住居10	①層	29	－	高坏	－	10.1	－	にぶい黄橙色	不明	ヘラナデ	脚部2/3	－
122	竪穴住居10	①層	29	－	高坏	－	(9.3)	－	暗灰色	ハケ→ナデ	ハケ→ヘラナデ	脚部1/3	－

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
						口径	底径	器高		内	外		
123	竪穴住居10	①層	29	—	須恵器坏身	(10.7)	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	受部1/6	—
124	竪穴住居11	床面直上	32	—		(19.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/2	—
125	竪穴住居11	床面直上	32	48	甕	(17.6)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/12	—
126	竪穴住居11	床面直上	32	—	壺	(16.2)	—	—	明黄褐色	ナデ	不明	口縁完存	—
127	竪穴住居11	床面直上	32	48	壺	(17.6)	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ・ナデ	ナデ	口縁1/2	—
128	竪穴住居11	床面直上	32	—	底部	—	(2.7)	—	灰黄褐色	ナデ	ナデ	底部1/2	—
129	竪穴住居11	床面直上	32	48	底部	—	4.5	—	にぶい橙色	ナデ	ハケ	底部3/4	—
130	竪穴住居11	下層	33	48	甕	(15.7)	—	—	浅黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	—
131	竪穴住居11	②～③層	33	48	壺	(15.1)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	—
132	竪穴住居11	床面直上	33	48	器台	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	受部1/5	—
133	竪穴住居11	②～③層	33	48	壺	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	胴部1/3	上下三段にわたる貝殻腹縁による連続刺突文。
134	竪穴住居11	①層	33	48	器台	—	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	受部下半3/4	—
135	竪穴住居11	②～③層	33	—	甕	(11.4)	—	—	橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/5	口縁部に３条の平行沈線文、胴部に板状工具による連続刺突文。
136	竪穴住居11	②～③層	33	—	低脚坏	14.7	—	—	明黄褐色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部完存	—
137	竪穴住居11	上層	33	—	甕	(14.3)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/6	—
138	竪穴住居11	①層	33	—	甕	(18.2)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/5	—
139	竪穴住居12	上層	35	48	高坏	(21.2)	—	—	浅黄橙色	ナデ	ハケ→ミガキ	口縁1/6	—
140	竪穴住居12	上層	35	47	器台	(13.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	筒部1/5	—
141	掘立柱建物6	Ｐ３	42	48	甕	(13.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ	口縁1/3	—
142	掘立柱建物8	Ｐ５	44	—	甕	(16.6)	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ・ナデ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に３条の浅い平行沈線。
143	土坑５	床面直上	46	48	脚部	(15.6)	—	—	橙色	不明	不明	脚部1/6	—
144	土坑９	①層	48	—	高坏	—	—	—	浅黄橙色	ナデ	不明	杯部下半のみ残	—
145	溝１	床面直上	49	—	低脚坏	(10.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	脚部1/2	—
146	Ｐ110	—	50	48	甕	(15.2)	—	—	橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/8	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
147	Ｐ231	—	50	48	器台	(17.4)	—	—	明黄褐色	ナデ	ナデ	口縁1/16	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
148	Ｐ36	—	50	48	甕	(19.0)	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ→ナデ	ナデ	口縁1/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、胴部上端に貝殻復縁による連続刺突文。
149	Ｐ233	—	50	48	壺	(17.6)	—	—	橙色	ハケ→ナデ	不明	頸部1/5	—
150	Ｐ197	—	50	—	高坏	(14.0)	—	—	浅黄橙色	不明	ナデ	口縁1/6	内外面赤彩
151	竪穴住居13	上層	53	47	甕	(19.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/4	口縁部に貝殻復縁による条痕文。
152	竪穴住居13	上層	53	—	甕	(15.5)	—	—	にぶい褐色	ナデ	ナデ	口縁1/6	—
153	竪穴住居13	上層	53	—	高坏	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ヘラナデ	筒部杯部一部残	—
154	竪穴住居14	床面直上	55	49	甕	14.0	—	20.5	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	器形の3/4	—
155	竪穴住居14	床面直上	55	53	甕	(11.6)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	—
156	竪穴住居14	床面直上	55	53	甕	(20.0)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ・ナデ	口縁1/8	—
157	竪穴住居14	床面直上	55	—	高坏	14.6	—	6.3	橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部2/3	—
158	竪穴住居14	床面直上	55	53	椀	(12.0)	—	4.7	橙色	不明	不明	器形の1/3	—
159	竪穴住居14	上層	55	53	甕	(18.4)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	頸部1/5	—
160	竪穴住居15	⑥～⑧層	58	50	須恵器坏蓋	—	—	—	明青灰色	回転ナデ	ケズリ	天井部完存	—
161	竪穴住居15	①～③層	58	50	須恵器坏身	(12.0)	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	口縁1/8	—
162	竪穴住居15	①～③層	58	50	須恵器脚部	—	(8.0)	—	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	脚部1/5	１カ所に円形の透穴。
163	竪穴住居15	①～③層	58	50	須恵器高坏	—	(9.6)	—	灰色	回転ナデ	回転ナデ	脚部下端1/8	脚部に三角形の透穴。
164	竪穴住居15	床面直上	59	50	須恵器坏蓋	(11.9)	—	—	灰色	回転ナデ	回転ナデ	口縁1/10	—

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	色調	調整 内	外	残存率	備考
165	竪穴住居15	床面直上	59	50	甕	(18.2)	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ・ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/4	—
166	竪穴住居15	床面直上	59	50	甕	(17.3)	—	—	明黄褐色	ナデ→ケズリ	ハケ	口縁1/10	—
167	竪穴住居15	床面直上	59	49	甕	15.9	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	胴部・口縁2/3	—
168	竪穴住居15	床面直上	59	49	高坏	16.8	—	—	浅黄橙色	ナデ	ケズリ→ハケ→ナデ	杯部ほぼ完存	—
169	竪穴住居15	床面直上	59	49	椀	—	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ→ナデ	ハケ→ナデ	器形の2/3	—
170	竪穴住居15	床面直上	59	50	甕	(11.8)	—	—	にぶい橙色	ケズリ・ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/4	—
171	竪穴住居15	床面直上	59	50	甕	(11.9)	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ・ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/2	—
172	竪穴住居15	床面直上	59	50	甑	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ	底部1/12	—
173	竪穴住居15	床面直上	59	50	高坏脚部	—	(9.0)	—	黄橙色	不明	ハケ	筒部完存	—
174	竪穴住居16	Ｐ４	61	—	甕	(15.7)	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ	ハケ	頚部1/4	—
175	竪穴住居16	Ｐ６①層	61	—	甕	(14.5)	—	—	橙色	ケズリ	ハケ	口縁1/5	—
176	竪穴住居16	床面直上	61	—	甕	(15.5)	—	—	明橙色	ナデ	ナデ	口縁1/4	—
177	竪穴住居16	Ｐ６①層	61	—	椀・高坏	(19.1)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ	ケズリ→ハケ	口縁1/6	—
178	竪穴住居16	Ｐ６①層	61	—	甕	(16.7)	—	—	橙色	ケズリ	ナデ	口縁1/8	—
179	竪穴住居16	Ｐ６①層	61	49	椀	13.3	—	6.2	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ケズリ→ハケ	ほぼ完存	—
180	竪穴住居16	床面直上	61	49	低脚坏	—	8.5	—	浅黄色	不明	ナデ	底部完存	—
181	竪穴住居16	床面直上	61	50	甕	—	—	—	灰色	タタキ→ナデ	タタキ	胴部片	—
182	竪穴住居16	床面直上	61	50	甕	—	—	—	灰色	タタキ→ナデ	タタキ	胴部片	—
183	竪穴住居16	床面直上	62	49	須恵器坏蓋	(13.2)	—	4.4	青灰色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	器形の1/2	—
184	竪穴住居16	中層	62	49	須恵器坏身	(9.4)	—	4.8	青灰色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	器形の1/3	—
185	竪穴住居16	①～③層	62	50	須恵器高坏	—	(8.1)	—	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	脚部1/4	３カ所に透穴
186	竪穴住居16	—	62	50	須恵器𤭯	—	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	胴部1/8	胴部最大径付近に波状文、円形の透穴。
187	竪穴住居16	下層	62	50	須恵器高坏	—	(9.3)	—	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	脚部1/3	３カ所に透穴
188	竪穴住居16	下層	62	—	低脚坏	—	(8.0)	—	橙色	ナデ	ナデ	脚部1/2	—
189	竪穴住居16	②～⑤層	62	—	甕	—	—	—	橙色	ケズリ	ハケ→ナデ	頚部1/4	—
190	竪穴住居16	下層	62	49	甕	18.0	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁2/3	—
191	竪穴住居16	上層	62	—	甕	(15.7)	—	—	橙色	ナデ→ケズリ	ナデ	口縁1/4	—
192	竪穴住居16	下層	62	—	甕	(13.8)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/5	—
193	竪穴住居16	下層	62	—	甕	(13.8)	—	—	にぶい褐色	ナデ	ナデ	口縁1/7	—
194	竪穴住居16	②～⑤層	62	—	甕	(15.5)	—	—	にぶい橙色	ナデ	ナデ	口縁1/4	—
195	竪穴住居16	下層	62	—	甕	(16.5)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ	口縁1/8	—
196	竪穴住居16	下層	62	—	甕	(15.0)	—	—	明橙色	ナデ→ケズリ	ハケ	頚部1/4	—
197	竪穴住居16	—	62	—	甕	(15.8)	—	—	にぶい橙色	ナデ	ナデ	口縁1/20	—
198	竪穴住居16	⑯層	62	—	甕	(15.2)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ	口縁1/8	—
199	竪穴住居16	—	62	—	高坏・椀	(15.0)	—	—	明橙色	ナデ	ナデ	口縁1/6	—
200	竪穴住居16	下層	62	—	高坏	(17.0)	—	—	にぶい黄橙色	ヘラナデ	ケズリ→ナデ	口縁1/4	—
201	竪穴住居16	—	62	—	椀	(15.9)	—	—	にぶい橙色	ナデ	ケズリ→ナデ	口縁1/8	—
202	竪穴住居16	②～⑤層	62	49	高坏	17.2)	(9.0)	12.7	橙色	ナデ	ハケ→ナデ	器形の2/3	—
203	竪穴住居16	①層	63	—	甕	(16.0)	—	—	橙色	ナデ	ハケ	口縁1/10	—
204	竪穴住居16	①層	63	—	壺	—	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ	頚部1/4	—
205	竪穴住居16	①層	63	—	甕	(15.6)	—	—	にぶい橙色	ナデ	ナデ	口縁1/20	—
206	竪穴住居16	①層	63	—	高坏	—	—	—	にぶい橙色	ケズリ	ヘラナデ	筒部完存	—

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
						口径	底径	器高		内	外		
207	竪穴住居16	①層	63	49	高坏	—	9.2	—	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	脚部2/3	—
208	竪穴住居18	—	65	51	甕	(17.5)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/12	—
209	竪穴住居18	①層	65	51	甕	(14.2)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/8	—
210	竪穴住居18	上層	65	51	甕	(17.2)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	—
211	竪穴住居18	上層	65	51	甕	(19.1)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	不明	口縁1/10	—
212	竪穴住居18	上層	65	51	高坏	(14.6)	—	—	橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/3	—
213	竪穴住居18	上層	65	51	高坏	(18.2)	—	—	橙色	不明	不明	杯部1/4	—
214	竪穴住居18	床面直上	65	—	高坏	—	8.4	—	橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	脚部2/3	—
215	竪穴住居18	上層	65	—	低脚坏脚部	—	7.8	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	脚部完存	—
216	竪穴住居19a	床面直上	69	53	甕	(17.4)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/10	—
217	竪穴住居19a	下層	69	53	甕	(16.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/10	—
218	竪穴住居19a	床面直上	69	53	甕	(16.6)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	—
219	竪穴住居19a	最下層	69	—	甕	16.0	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁ほぼ完存	—
220	竪穴住居19a	最下層	69	52	壺	7.4	—	11.5	にぶい黄橙色	ケズリ→ナデ	ハケ→ナデ	完存	—
221	竪穴住居19b	P12最下層	69	52	高坏	17.9	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ケズリ→ハケ→ナデ	杯部3/4	—
222	竪穴住居19a	床面直上	69	52	高坏	—	—	—	にぶい黄橙色	不明	ハケ→ナデ	筒部完存	—
223	竪穴住居19a	周壁溝	69	52	高坏脚部	—	(9.1)	—	橙色	不明	ハケ→ナデ	筒部完存	—
224	竪穴住居19a	床面直上	69	52	高坏	—	—	—	橙色	ナデ	ハケ→ナデ	筒部完存	—
225	竪穴住居19a	—	69	52	高坏	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	筒部完存	—
226	竪穴住居19a	床面直上	69	52	高坏	—	—	—	橙色	不明	ハケ→ナデ	筒部完存	—
227	竪穴住居20	下層	70	—	甕	(14.0)	—	—	褐灰色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/8	—
228	竪穴住居20	下層	70	47	高坏	—	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/6	—
229	竪穴住居20	上層	70	—	須恵器坏蓋	(12.1)	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	口縁1/8	—
230	竪穴住居21	床面直上	72	50	須恵器坏蓋	(12.8)	—	4.5	青灰色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	口縁1/2	—
231	竪穴住居21	床面直上	72	50	須恵器坏蓋	(11.8)	—	5.8	灰色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	口縁1/2	—
232	竪穴住居21	下層	72	53	甕	(18.2)	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/6	—
233	竪穴住居21	①層	72	53	椀	(12.6)	—	—	橙色	ミガキ	ナデ	口縁1/4	—
234	竪穴住居21	P3	72	53	甕	(13.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/16	—
235	竪穴住居22	床面直上	77	—	甕	(12.4)	—	—	にぶい黄橙色	不明	ナデ	口縁1/10	—
236	竪穴住居22	床面直上	77	52	椀	11.0	—	4.5	橙色	ナデ	ハケ→ナデ	完存	—
237	竪穴住居22	床面直上	77	52	甕	19.3)	—	26.1	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	器形の3/5	—
238	竪穴住居22	床面直上	77	—	甕	—	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ	ハケ	胴部1/2	胴部最大径付近に穿孔。
239	竪穴住居22	床面直上	77	52	壺	(4.4)	—	6.4	にぶい橙色	ナデ	ハケ→ナデ	完存	—
240	竪穴住居22	床面直上	77	52	壺	—	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ・ナデ	ハケ→ナデ	器形の2/3	—
241	竪穴住居22	床面直上	77	52	高坏	(11.8)	—	—	橙色	ハケ	ハケ→ナデ	杯部の屈曲部以下完存	破断面に顕著な摩滅、蓋に転用か。
242	竪穴住居22	床面直上	77	52	高坏	(16.2)	(8.4)	10.7	浅黄橙色	ナデ	ナデ	脚部一部欠損	—
243	竪穴住居22	下層	79	—	壺	(13.2)	—	—	橙色	ナデ	ナデ	口縁1/4	—
244	竪穴住居22	焼土層直上	79	—	甕	(14.8)	—	—	浅黄橙色	不明	ナデ	口縁1/12	—
245	竪穴住居22	上層	79	—	甕	(15.2)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/8	—
246	竪穴住居22	焼土層直上	79	52	甕	11.2	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁完存	—
247	竪穴住居22	①層	79	—	壺	(18.6)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/12	—

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
						口径	底径	器高		内	外		
248	竪穴住居22	焼土層直上	79	—	甕	(14.3)	—	—	浅黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/12	—
249	竪穴住居22	床面直上	79	—	甕	(13.5)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/6	—
250	竪穴住居22	下層	79	—	甕	(15.4)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/10	—
251	竪穴住居22	上層	79	—	甕	(16.0)	—	—	にぶい黄橙色	不明	不明	口縁1/5	—
252	竪穴住居22	下層	79	—	甕	(16.8)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/5	—
253	竪穴住居22	上層	79	—	甕	(8.2)	—	—	橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/5	—
254	竪穴住居22	上層	79	—	甕	(13.8)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	—
255	竪穴住居22	上層	79	—	須恵器坏蓋	(12.8)	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	口縁1/6	—
256	竪穴住居22	焼土層直上	79	52	須恵器瑞	—	0.9	—	青灰色	ナデ・ケズリ	回転ナデ	頚部以下ほぼ完存	—
257	竪穴住居22	上層	79	—	甕	(8.8)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/12	—
258	竪穴住居22	焼土層直上	79	—	高坏	(22.6)	—	—	橙色	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ	杯部1/5	—
259	竪穴住居22	下層	79	—	高坏	(17.7)	—	—	橙色	不明	ハケ→ナデ	杯部1/3	—
260	竪穴住居22	⑧-１層直上	79	—	高坏	(17.7)	—	—	橙色	不明	不明	杯部1/6	—
261	竪穴住居22	—	79	52	高坏	—	(9.0)	—	黄橙色	ケズリ→ナデ	ヘラナデ	脚部一部欠損	—
262	竪穴住居22	最下層	79	52	高坏	—	9.3	—	橙色	ナデ	ヘラナデ	脚部完存	—
263	竪穴住居23	①層	81	—	須恵器坏蓋	—	—	—	灰色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	天井部1/5	—
264	竪穴住居23	①層	81	55	須恵器坏蓋	(13.6)	—	—	灰色	回転ナデ	回転ナデ	口縁1/10	—
265	竪穴住居23	床面直上	81	55	須恵器坏蓋	(15.8)	—	5.0	灰色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	口縁1/6	—
266	竪穴住居23	炭化材直上	81	55	須恵器坏蓋	(13.3)	—	5.0	灰白色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	器形の1/6	—
267	竪穴住居23	①層	81	55	須恵器短頚壺	(6.8)	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	胴部1/4	—
268	竪穴住居23	②層	81	55	甕	(12.0)	—	—	灰黄褐色	ナデ	ナデ	口縁1/10	—
269	竪穴住居23	②～③層	81	55	甕	(12.2)	—	—	にぶい橙色	ナデ	ナデ	口縁1/10	—
270	竪穴住居23	最下層	81	—	壺	(15.6)	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/6	—
271	竪穴住居23	最下層	81	—	甕	(17.0)	—	—	橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	—
272	竪穴住居23	③層上面	81	52	椀	16.8	—	5.4	にぶい黄橙色	ナデ	ケズリ→ナデ	口縁部一部欠損	—
273	竪穴住居23	①層	81	55	甕	(16.6)	—	—	にぶい黄褐色	ナデ	ナデ	口縁1/10	—
274	竪穴住居23	①層	81	55	甕	(15.2)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ	口縁1/4	—
275	竪穴住居23	②層	81	55	甕	(15.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ	口縁1/6	—
276	竪穴住居23	上層	81	—	甕	(15.0)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/5	—
277	竪穴住居23	上層	81	—	壺	(4.5)	(1.2)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	胴部1/3	—
278	竪穴住居23	上層	81	—	壷	(5.2)	(2.3)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁部欠損	—
279	竪穴住居24	床面直上	86	54	須恵器坏身	(12.6)	—	4.8	灰白色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	受部1/5	—
280	竪穴住居24	床面直上	86	54	須恵器坏身	(11.1)	—	4.5	青灰色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	受部1/2	—
281	竪穴住居24	床面直上	86	54	甕	(18.2)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/8	—
282	竪穴住居24	床面直上	86	—	甕	(16.0)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	頚部1/5	—
283	竪穴住居24	床面直上	86	54	甕	(16.7)	—	—	橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	—
284	竪穴住居24	床面直上	86	—	甕	(11.2)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/8	—
285	竪穴住居24	Ｐ６①層	86	55	壷	10.9	—	13.2	橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	ほぼ完存	—
286	竪穴住居24	床面直上	86	54	須恵器甕	—	—	—	青灰色	タタキ	タタキ	胴部片	—
287	竪穴住居24	①層	87	54	須恵器瑞	(7.3)	—	—	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	口縁1/5	頚部に波状文
288	竪穴住居24	①層	87	—	甕	(16.4)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/8	—
289	竪穴住居24	①層	87	54	甕	(19.0)	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/5	—

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
						口径	底径	器高		内	外		
290	竪穴住居24	①層	87	54	甑	—	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ	ハケ	底部片	—
291	竪穴住居24	①層	87	54	甑	—	—	—	にぶい橙色	ケズリ	不明	底部片	—
292	竪穴住居24	①層	87	55	壺	—	(3.8)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	器形の1/2	—
293	竪穴住居24	①層	87	55	土垂	幅4.1	長さ6.1	—	にぶい黄橙色	—	ナデ	完存	径3mmの穿孔、重量110g
294	竪穴住居24	①層	87	54	須恵器甕	—	—	—	灰色	回転ナデ	回転ナデ	頸部片	波状文
295	竪穴住居24	①層	87	54	須恵器甕	—	—	—	浅黄色・灰色	タタキ	タタキ	胴部片	表側焼成不良
296	竪穴住居24	②～④層	88	54	須恵器甕	—	—	—	青灰色	タタキ	タタキ	胴部片	—
297	竪穴住居24	下層	88	54	須恵器坏身	—	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	受部1/12	—
298	竪穴住居24	最下層床面直上	88	—	須恵器高坏	—	—	—	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	底部1/4	—
299	竪穴住居24	下層	88	54	須恵器脚部	—	(8.3)	—	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	脚部1/3	—
300	竪穴住居24	最下層	88	55	須恵器壺	(5.2)	(3.5)	7.0	灰白色	回転ナデ	カキメ→ヘラナデ	完存	—
301	竪穴住居24	下層	88	54	甕	(14.1)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	—
302	竪穴住居24	下層	88	54	甕	(15.3)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/8	—
303	竪穴住居24	②～④層	88	—	甕	(18.1)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	頸部1/6	—
304	竪穴住居24	下層	88	54	甕	(15.6)	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/12	—
305	竪穴住居24	下層	88	54	甕	(18.0)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁2/5	—
306	竪穴住居24	最下層	88	54	甕	(18.4)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁2/5	—
307	竪穴住居24	下層	88	54	甕	(21.6)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/8	—
308	竪穴住居24	下層	88	54	椀	(12.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/5	—
309	竪穴住居24	②～④層	88	—	高坏	—	—	—	にぶい橙色	ミガキ	ハケ→ナデ	杯部下半のみ残	内外面赤彩、内面に暗文。
310	竪穴住居24	下層	88	—	椀	(14.0)	—	—	橙色	ナデ	ケズリ→ナデ	器形の1/6	—
311	竪穴住居24	①～③層	88	—	坏	(17.0)	—	—	橙色	ナデ	ケズリ→ナデ	口縁1/6	—
312	竪穴住居24	最下層	88	55	高坏脚部	—	(7.6)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	脚部完存	—
313	竪穴住居24	下層	88	55	脚部	—	7.8	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	脚部3/4	—
314	竪穴住居24	②～④層	88	55	脚部	—	(9.1)	—	橙色	ナデ	ナデ	筒部完存	—
315	竪穴住居24	②～④層	88	55	高坏脚部	—	—	—	橙色	ナデ	ハケ→ナデ	筒部完存	—
316	竪穴住居25	—	90	51	甕	(15.2)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ケズリ→ナデ	口縁1/8	—
317	竪穴住居25	床面直上	90	52	椀	14.0)	—	5.6	橙色・明赤褐色	ハケ→ナデ	ケズリ→ナデ	器形の2/3	—
318	竪穴住居26	P1	92	51	甕	(13.6)	—	—	橙色	ケズリ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/4	—
319	竪穴住居26	①～②層	92	51	高坏	(16.3)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/8	内外面赤彩
320	竪穴住居26	①層	92	51	高坏	(16.0)	—	—	橙色	不明	ハケ→ナデ	杯部1/2	内外面赤彩
321	竪穴住居26	上層	92	51	高坏	(14.6)	—	—	橙色	不明	ハケ→ナデ	杯部1/4	—
322	竪穴住居26	①層	92	—	高坏	—	—	—	橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	器形の3/5	内外面赤彩
323	竪穴住居26	①～②層	92	—	高坏	22.2	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部2/3	内外面赤彩、内面に暗文。
324	竪穴住居26	①層	92	—	脚部	—	(11.0)	—	にぶい黄橙色	ケズリ	不明	脚部1/4	—
325	竪穴住居27	下層	95	57	高坏坏部	(15.8)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/4	—
326	竪穴住居27	床面直上	95	—	高坏	—	—	—	橙色	不明	ハケ→ナデ	筒部完存	弥生土器か。
327	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(14.5)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	—
328	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(13.4)	—	—	にぶい黄橙色	不明	不明	口縁1/4	—
329	竪穴住居27	④層	96	—	甕	(16.6)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁1/8	—
330	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(19.3)	—	—	橙色	不明	ナデ	口縁1/4	—
331	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(12.6)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	不明	口縁1/8	—

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
						口径	底径	器高		内	外		
332	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(15.6)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/8	—
333	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(17.0)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/10	—
334	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(17.2)	—	—	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/5	—
335	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(13.9)	—	—	にぶい褐色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	—
336	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(12.4)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	—
337	竪穴住居27	④層	96	55	甕	(15.8)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/2	—
338	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(15.2)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/5	—
339	竪穴住居27	④層	96	56	甕	(16.2)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/6	—
340	竪穴住居27	④層	96	56	壷	—	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	—
341	竪穴住居27	④層	96	57	高坏坏部	(18.2)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/4	—
342	竪穴住居27	④層	96	57	高坏坏部	(14.8)	—	—	にぶい橙色	不明	ナデ	杯部1/4	—
343	竪穴住居27	④層	96	57	高坏坏部	(15.8)	—	—	橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/6	—
344	竪穴住居27	④層	96	55	高坏	—	10.3	—	明橙褐色	不明	不明	脚部2/3	—
345	竪穴住居27	④層	96	55	高坏	—	(10.2)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ヘラナデ	脚部1/3	—
346	竪穴住居27	④層	96	55	高坏	—	(8.4)	—	橙色	不明	不明	脚部1/2	—
347	竪穴住居27	④層	96	55	高坏	—	9.2	—	橙色	不明	ヘラナデ	脚部2/3	—
348	竪穴住居27	⑤層	96	55	高坏	—	—	—	橙色	不明	不明	脚部2/3	—
349	竪穴住居27	④層	96	55	壷	—	—	—	橙色	ナデ	ナデ	胴部3/4	—
350	竪穴住居27	④層	96	55	坏	4.8	—	2.6	にぶい橙色	ナデ	ナデ	器形の2/3	—
351	竪穴住居27	①層	97	57	甕	(11.8)	—	—	灰褐色	ナデ	ナデ	口縁1/10	—
352	竪穴住居27	上層	97	56	甕	(11.3)	—	—	にぶい褐色	ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/8	—
353	竪穴住居27	①層	97	56	甕	(14.0)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	—
354	竪穴住居27	②～③層	97	55	甕	(15.8)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	—
355	竪穴住居27	②～③層	97	57	甕	(10.8)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ケズリ→ナデ	口縁1/6	—
356	竪穴住居27	②～③層	97	57	甕	12.2	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁2/3	—
357	竪穴住居27	②～③層	97	57	甕	(13.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	—
358	竪穴住居27	上層	97	—	甕	(17.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/3	—
359	竪穴住居27	①層	97	55	須恵器坏身	(13.6)	—	4.6	青灰色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	器形の1/6	—
360	竪穴住居27	①層	97	55	須恵器坏身	(13.2)	—	4.7	灰色	回転ナデ	回転ヘラケズリ	口縁1/4	—
361	竪穴住居27	②～③層	97	57	高坏坏部	(13.7)	—	—	にぶい橙色	ミガキ	不明	杯部下半のみ残	内外面赤彩、内面に暗文。
362	竪穴住居27	②～③層	97	57	高坏坏部	(16.3)	—	—	にぶい橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/4	—
363	竪穴住居27	①～②層	97	52	高坏	(15.7)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ケズリ→ナデ	杯部1/2	—
364	竪穴住居27	①層	97	—	高坏	(16.6)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/3	—
365	竪穴住居27	上層	97	55	高坏	—	9.6	—	にぶい黄橙色	ナデ	ヘラナデ	脚部2/3	—
366	竪穴住居27	②～③層	97	57	高坏脚部	—	(9.6)	—	にぶい橙色	ハケ	不明	筒部完存	—
367	竪穴住居27	②～③層	97	57	高坏脚部	—	(10.2)	—	にぶい橙色	不明	ヘラナデ	筒部完存	—
368	竪穴住居27	②～③層	97	—	高坏	—	(10.0)	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	脚部1/3	—
369	竪穴住居27	②～③層	97	—	高坏	(15.6)	(10.1)	12.5	浅黄橙色	不明	ハケ→ナデ	器形の1/2	—
370	竪穴住居27	②～③層	97	—	高坏	21.2	10.8	12.8	橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁部一部欠損	—
371	竪穴住居27	①層	97	—	土垂	幅4.5	長さ4.1	—	橙色	—	ナデ	一部欠損	径7mmの穿孔、重量78g
372	竪穴住居27	②～③層	97	57	坏	(21.0)	—	4.3	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/3	—
373	竪穴住居28	床面直上	100	58	甕	(15.6)	—	—	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ハケ	胴部1/5	—

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
						口径	底径	器高		内	外		
374	竪穴住居28	下層	100	—	甕	—	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	胴部1/2	胴部最大径付近に直径5cmの穿孔。
375	竪穴住居28	下層	100	58	甕	(11.8)	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	—
376	竪穴住居28	下層	100	58	甕	(14.6)	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/5	—
377	竪穴住居28	下層	100	58	甕	(16.1)	—	—	浅黄色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/6	—
378	竪穴住居28	最下層	100	58	高坏	—	—	—	橙色	ナデ	ハケ	杯部下半のみ残	内外面赤彩
379	竪穴住居28	床面直上	100	—	高坏	—	(10.8)	—	にぶい橙色	ナデ	ナデ→ヘラナデ	脚部1/2	—
380	竪穴住居29	床面直上	102	58	甕	(12.3)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ・ナデ	口縁1/5	—
381	竪穴住居29	②～④層	102	58	甕	(21.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/7	—
382	竪穴住居29	床面直上	102	58	甕	(17.6)	—	—	にぶい橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/10	—
383	竪穴住居29	②～④層	102	—	高坏	(9.2)	(8.0)	—	浅黄橙色	不明	ハケ→ナデ	筒部完存	—
384	竪穴住居29	床面直上	102	—	底部	—	3.0	5.5	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	底部完存	—
385	竪穴住居29	最下層	102	58	須恵器坏身	(13.1)	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	器形の1/8	—
386	竪穴住居29	③～④層	102	58	須恵器坏身	(12.8)	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	器形の1/8	—
387	竪穴住居29	床面直上	102	58	須恵器高坏	—	(8.5)	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	脚部下端1/5	脚部に三角形の透穴。
388	竪穴住居31	②～③層	103	53	甕	(22.3)	—	—	橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/12	—
389	竪穴住居30	下層	103	53	甕	(24.0)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/2	—
390	竪穴住居31	②～③層	103	53	高坏	(24.6)	—	—	橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/8	—
391	竪穴住居31	②～③層	103	53	高坏	(15.6)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部下半のみ残	—
392	竪穴住居31	②～③層	103	—	高坏	—	(9.8)	—	橙色	ナデ	ナデ	脚部1/2	—
393	竪穴住居30	下層	103	—	高坏	—	10.2	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ヘラナデ	脚部2/3	—
394	竪穴住居32	最下層	105	58	甕	(13.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/12	—
395	竪穴住居32	②～④層	105	58	壺	(9.3)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/6	—
396	竪穴1	最下層	105	58	底部	—	(6.6)	—	にぶい黄橙色	不明	ヘラナデ	底部1/4	—
397	竪穴住居33	床面直上	107	53	甕	(13.4)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	—
398	竪穴住居33	②～③層	107	53	甕	(14.7)	—	—	灰黄褐色	ナデ	ナデ	口縁1/5	—
399	竪穴住居33	P8	107	53	甕	(16.0)	—	—	にぶい橙色	ナデ	ナデ	口縁1/4	—
400	竪穴住居33	②～③層	107	—	甕	(17.3)	—	—	浅黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/4	—
401	竪穴住居33	Ⅰ層①・②層	107	52	高坏	(11.5)	(6.7)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ケズリ→ナデ	杯部1/4	—
402	竪穴住居33	③層以下	107	53	椀	—	(3.9)	—	にぶい黄橙色	ミガキ	ハケ	底部のみ残	—
403	竪穴3	①層	110	58	甕	(16.8)	—	—	灰黄色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/5	—
404	竪穴3	①層	110	—	壺	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	口縁部一部欠損	—
405	竪穴4	床面直上	114	59	甕	14.0	—	—	橙色	ハケ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁完存	—
406	竪穴4	P1直上床面直上	114	49	甕	14.6	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁3/4	—
407	竪穴4	床面直上	114	59	椀	10.8	—	—	橙色	ナデ	ナデ	器形の3/5	—
408	竪穴4	床面直上	114	59	椀	12.4	—	—	にぶい橙色	ナデ	ナデ	器形の3/4	被熱により外面剥落。
409	竪穴4	床面直上	114	61	高坏	(16.4)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/4	—
410	竪穴4	床面直上	114	59	高坏	(17.0)	—	—	橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部1/3	—
411	竪穴4	床面直上	114	61	坏	(14.5)	—	—	橙色	ナデ	ハケ→ナデ	口縁1/6	内面赤彩
412	竪穴4	床面直上	114	61	高坏	(14.4)	—	—	にぶい黄橙色	不明	ハケ→ナデ	口縁1/4	—
413	竪穴4	床面直上	114	59	高坏	—	9.6	—	にぶい黄橙色	ナデ	ヘラナデ	脚部完存	—
414	竪穴4	最下層床面直上	114	59	高坏	—	13.5	—	にぶい橙色	ナデ	ヘラナデ	脚部4/5	—
415	竪穴4	床面直上	114	60	甕	(10.1)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	—

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
						口径	底径	器高		内	外		
416	竪穴４	炭化材直上	115	60	甕	(10.9)	－	－	にぶい褐色	ナデ	ハケ→ナデ	口縁 1/6	－
417	竪穴４	②層	115	－	甕	(15.7)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁 1/5	－
418	竪穴４	③層	115	－	甕	(14.6)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁 1/4	－
419	竪穴４	最下層	115	60	甕	(13.2)	－	－	にぶい褐色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/8	－
420	竪穴４	②層 ③層	115	59	甕	(17.5)	－	－	にぶい橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	頚部 1/2	－
421	竪穴４	②層	115	60	甕	(14.3)	－	－	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/8	－
422	竪穴４	②層	115	－	甕	(13.2)	－	－	にぶい黄褐色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁 1/5	－
423	竪穴４	②層 ③層	115	－	甕	－	－	－	にぶい褐色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	胴部上端 1/5	肩部外面に線刻か、モチーフ不明。
424	竪穴４	②層	115	61	坏	(14.8)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部 1/8	内外面赤彩
425	竪穴４	下層	115	61	坏	(14.5)	－	－	浅黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁 1/8	内外面赤彩
426	竪穴４	②層	115	－	坏	(12.3)	－	4.5	橙色	不明	不明	杯部 1/6	外面被熱
427	竪穴４	②層	115	60	高坏・椀	(10.8)	－	－	浅黄橙色	ナデ	ナデ	杯部の 1/6	－
428	竪穴４	②層	115	61	高坏	(14.0)	－	－	橙色	ナデ	ナデ	口縁 1/8	内外面赤彩
429	竪穴４	②層	115	61	高坏	15.4	－	－	浅黄橙色	ハケ→ナデ	不明	杯部 2/3	－
430	竪穴４	最下層	115	59	高坏	－	9.0	－	明赤褐色	ナデ	ヘラナデ・ナデ	脚部 完存	外面赤彩
431	竪穴４	最下層	115	59	高坏	－	8.6	－	にぶい橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	脚部 4/5	－
432	竪穴４	②層	115	－	高坏	－	－	－	橙色	ナデ	ナデ	筒部 完存	－
433	竪穴４	最下層	115	59	高坏	－	(9.8)	－	橙色	ナデ	ナデ	筒部 完存	－
434	竪穴４	①層	116	－	甕	(12.3)	－	－	にぶい橙色	ナデ	ナデ	口縁 1/5	－
435	竪穴４	①層	116	－	甕	(14.1)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	口縁 1/2	－
436	竪穴４	①層	116	60	甕	(14.0)	－	－	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/8	－
437	竪穴４	①～②層	116	－	壺	(8.7)	－	－	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁 1/2	－
438	竪穴４	①層	116	60	甕	(13.4)	－	－	にぶい橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁 1/6	－
439	竪穴４	①層	116	59	甕	14.8	－	－	浅黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁 4/5	－
440	竪穴４	①層	116	60	甕	(16.5)	－	－	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	口縁 1/10	－
441	竪穴４	①層	116	60	甕	(13.6)	－	－	橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/6	－
442	竪穴４	①層	116	60	甕	(14.8)	－	－	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/3	－
443	竪穴４	①層	116	59	甕	13.8	－	－	浅黄橙色	ケズリ・ナデ	不明	口縁 3/4	－
444	竪穴４	①層	116	59	甕	(15.4)	－	－	にぶい黄橙色	ケズリ・ナデ	ハケ→ナデ	口縁 1/5	－
445	竪穴４	①層	116	60	甕	(16.4)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/5	－
446	竪穴４	①～②層	116	59 62	甕	15.5	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	器形の 2/3	－
447	竪穴４	①層	116	60	甕	(14.2)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/8	－
448	竪穴４	①層	116	60	甕	(11.0)	－	－	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/8	－
449	竪穴４	①層	116	－	甕	(13.8)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/3	－
450	竪穴４	①層	116	61	甕	(13.8)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/4	－
451	竪穴４	①層	116	61	壺	(12.8)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁 1/5	－
452	竪穴４	①層	116	60	甕	(13.1)	－	－	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/4	－
453	竪穴４	①層	116	－	甕	(11.8)	－	－	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/2	－
454	竪穴４	①層	116	61	甕	15.4	－	－	浅黄色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 2/3	－
455	竪穴４	①層	116	61	甕	(15.0)	－	－	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/4	－
456	竪穴４	①層	116	60	甕	(12.2)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/6	－
457	竪穴４	①層	116	59	甕	13.6	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 完存	－

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
						口径	底径	器高		内	外		
458	竪穴４	①層	116	61	甕	(16.2)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/4	—
459	竪穴４	①層	116	—	椀	(12.3)	—	5.1	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	口縁 1/6	—
460	竪穴４	①層	116	59 62	壺	10.3	—	—	浅黄橙色	ケズリ→ナデ	ハケ→ナデ	器形の上半完存	内外面赤彩
461	竪穴４	①～②層	117	59 62	須恵器 樽型瓶	7.6	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	器形の 2/3	胴部に波状文。側面に放射状の刺突文、波状文施文後に口縁部取り付け。
462	竪穴４	①層	117	61	高坏	(18.0)	—	—	にぶい橙色	ナデ→ミガキ	ナデ	杯部 1/6	—
463	竪穴４	①層	117	59	高坏	14.6	—	—	橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部 3/4	—
464	竪穴４	①層	117	59	高坏	(15.6)	—	—	橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部 1/2	外面赤彩
465	竪穴４	①層	117	59	高坏	(15.4)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部 2/5	内外面赤彩、内面に暗文。
466	竪穴４	①層	117	60	高坏	(15.8)	—	—	橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部 1/3	—
467	竪穴４	①層 ②層 ③層	117	59	高坏	(17.0)	—	—	赤褐色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部 1/2	—
468	竪穴４	①層	117	61	高坏	(17.0)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部 1/6	—
469	竪穴４	①層	117	59	高坏	14.8	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	杯部 ほぼ完存	—
470	竪穴４	①層	117	59	高坏	—	—	—	橙色	ナデ	ハケ→ナデ	杯部下半のみ残	—
471	竪穴４	①層	117	59	高坏	—	(8.6)	—	にぶい黄橙色	不明	ヘラナデ	筒部 完存	—
472	竪穴４	①層	117	—	高坏	—	(10.3)	—	橙色	ナデ	ナデ	脚部 1/3	—
473	竪穴４	①層	117	59	高坏	—	10.0	—	にぶい橙色	ハケ	ヘラナデ	脚部 4/5	—
474	竪穴４	①層	117	61	壺	—	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ	頸部 1/7	口縁端部接合面に板状工具による刺突文。
475	竪穴４	①層	117	—	壺	(16.7)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ	ハケ	肩部 1/2	—
476	竪穴５	床面直上	119	—	甕	(16.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	不明	口縁 1/4	—
477	竪穴５	②層	119	—	甕	(14.6)	—	—	浅黄橙色	不明	不明	口縁 1/5	—
478	竪穴５	②～④層	119	—	坏	(11.0)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁 1/8	—
479	竪穴５	下層	119	—	甕	(14.6)	—	—	橙色	不明	不明	口縁 1/12	—
480	竪穴５	②層	119	—	竈	(30.0)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	受部 1/6	—
481	竪穴６	下層	123	63	甕	(16.3)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/6	—
482	竪穴６	①層 床面直上	123	63	甕	(17.5)	—	—	橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/6	—
483	竪穴６	①層	123	63	坏	(16.6)	—	—	にぶい黄橙色	ミガキ	ハケ→ナデ→ケズリ	口縁 1/12	—
484	竪穴６	Ｐ１	123	63	低脚坏	—	6.7	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	脚部 3/4	—
485	竪穴６	①層 下層	123	63	竈	—	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ	ハケ→ナデ	底部 1/5	—
486	竪穴６	床面直上	123	—	須恵器 坏蓋	—	—	—	灰白色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	天井部 1/4	—
487	竪穴６	下層	123	—	須恵器 把手	—	—	—	灰色	—	ナデ	把手部 完存	—
488	竪穴６	①層	123	—	須恵器 甕	—	—	—	青灰色	タタキ→ナデ	タタキ	胴部片	—
489	竪穴６	①層	123	—	須恵器 甕	—	—	—	灰色	タタキ→ナデ	タタキ	胴部片	—
490	竪穴６	床面直上	123	63	把手	—	—	—	浅黄橙色	—	ナデ	把手部 完存	—
491	竪穴６	①層	123	63	土錘	幅 4.5	長さ 4.1	—	にぶい黄橙色	—	ナデ	全形の 2/3	径約6mmの穿孔、重量72g
492	竪穴７	下層	124	—	甕	(21.0)	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ・ナデ	ナデ	口縁 1/8	口縁部に４条１単位の平行沈線文。
493	竪穴７	上層	124	62	高坏	—	—	—	橙色	不明	不明	杯部 3/4	—
494	竪穴８	②～③層	125	—	甕	(20.2)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/7	—
495	竪穴８	①層	125	63	甕	(15.5)	—	—	淡黄橙色	不明	ハケ→ナデ	口縁 1/4	—
496	竪穴８	②～③層	125	63	甕	(13.5)	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁 1/8	—
497	竪穴８	①層	125	—	須恵器 蓋ツマミ	(3.1)	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	ツマミ部 完存	—
498	竪穴８	①層 ２層	125	—	須恵器 坏蓋	(13.4)	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ→ケズリ	口縁 1/4	—

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
						口径	底径	器高		内	外		
499	竪穴８	②～③層	125	62	高坏	－	－	－	浅黄橙色	ナデ	ハケ→ヘラナデ	脚部3/4	－
500	竪穴８	②～③層	125	62	高坏	－	－	－	浅黄橙色	ハケ→ナデ	不明	筒部完存	－
501	竪穴８	床面直上	125	62	土垂	幅3.3	長さ5.5	－	褐灰色	－	ナデ	一部欠損	径約6mmの穿孔、重量62g
502	竪穴８	②～③層	125	62	土垂	幅3.9	長さ5.1	－	浅黄橙色	－	ナデ	完存	径約6mmの穿孔、重量98g
503	Ｐ175	－	128	48	甕	(17.1)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	頸部1/8	－
504	Ｐ351	－	128	58	甕	(17.2)	－	－	橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	－
505	Ｐ197	－	128	－	甕	(18.0)	－	－	黄灰色	ナデ→ケズリ	ケズリ→ナデ	口縁1/8	－
506	土坑14	上層	135	48	深鉢	－	－	－	橙色	条痕	条痕	－	西川津式Ｂ類
507	土坑29	－	135	58	壷	(9.8)	－	－	明赤褐色	ナデ	ハケ・ナデ	口縁1/5	－
508	灰褐色土包含層	－	136	－	甕	10.4	－	－	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁3/4	口縁部に８条の平行沈線文。
509	灰褐色土包含層	－	136	－	甕	(17.0)	－	－	にぶい橙色	ナデ	ナデ	口縁1/6	口縁部に６条の平行沈線文。
510	灰褐色土包含層	－	136	－	甕	(17.2)	－	－	浅黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	口縁部にハケ目状の平行沈線。
511	灰褐色土包含層	－	136	－	甕	(20.6)	－	－	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/3	－
512	灰褐色土包含層	－	136	－	甕	(16.4)	(5.0)	15.1	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	器形の1/2	口縁部に貝殻復縁による条痕文、胴部上端に連続刺突文。
513	灰褐色土包含層	－	136	－	甕	(16.0)	－	－	にぶい橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁完存	口縁部に貝殻復縁による条痕文、胴部上端に連続刺突文。
514	灰褐色土包含層	－	136	－	甕	(19.0)	－	－	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/2	口縁部にハケ目状の平行沈線文。
515	灰褐色土包含層	－	136	－	甕	(18.2)	－	－	浅黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁完存	口縁部に貝殻復縁による条痕文。
516	灰褐色土包含層	－	136	－	甕	(16.6)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/4	口縁部に貝殻復縁による浅い平行沈線文。
517	灰褐色土包含層	－	136	－	甕	(25.0)	－	－	にぶい黄橙色	不明	ナデ	口縁1/4	胴部上端付近にハケ目状の平行沈線文。
518	灰褐色土包含層	－	136	－	壷	－	(17.8)	－	橙色	ケズリ・ナデ	不明	底部完存肩部1/2頸部1/2	－
519	灰褐色土包含層	－	136	－	器台	(20.6)	－	－	にぶい橙色	不明	ナデ	杯部1/8	－
520	灰褐色土包含層	－	136	－	器台	－	－	－	橙色	不明	ナデ	杯部1/4	口縁部に貝殻復縁による条痕文。
521	灰褐色土包含層	－	136	－	器台	－	(19.8)	－	にぶい橙色	ケズリ→ナデ	ナデ	脚部1/8	脚部に貝殻復縁による条痕文。
522	灰褐色土包含層	－	136	－	壷	8.3	－	7.8	橙色	ナデ	ナデ	器形の2/3	－
523	灰褐色土包含層	－	136	－	底部	－	3.3	－	にぶい橙色	ナデ	ナデ	底部完存	－
524	灰褐色土包含層	－	136	－	底部	－	(5.0)	－	にぶい黄橙色	不明	ハケ→ナデ	底部1/3	－
525	灰褐色土包含層	－	136	－	底部	－	7.0	－	灰黄褐色	ナデ	ナデ	底部2/3	－
526	黒色土包含層	－	137	－	壺	(16.0)	－	－	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/8	－
527	黒色土包含層	－	137	－	須恵器甕	－	－	－	青灰色	タタキ→ナデ	タタキ	胴部片	－
528	Ｉ層	－	138	－	甕	(14.6)	－	－	にぶい橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/5	－
529	Ｉ層	－	138	－	甕	(24.4)	－	－	橙色	ナデ	ナデ	口縁1/10	－
530	Ｉ層	－	138	－	須恵器坏蓋	(14.1)	－	－	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	口縁1/6	－
531	Ｉ層	－	138	－	須恵器坏	(11.2)	－	－	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	口縁1/4	－
532	Ｉ層	－	138	－	陶器擂鉢	(26.2)	－	－	暗赤褐色	ナデ→擂り目	ナデ	片口部のみ残	片口部分貼付
533	Ｉ層	－	138	－	坏	(3.7)	－	3.1	にぶい褐色	ナデ	ナデ	完存	－
534	撹乱層等	－	139	50	甕	(15.0)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	－
535	撹乱層等	－	139	－	甕	(19.4)	－	－	黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/13	内外面赤彩、口縁部に貝殻復縁による条痕文。
536	撹乱層等	－	139	－	甕	(15.0)	－	－	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/8	－
537	撹乱層等	－	139	－	甕・底部	－	4.6	－	にぶい橙色	ケズリ	ナデ	底部2/3	－
538	撹乱層等	－	139	47	甕	(16.0)	－	－	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁1/8	－
539	撹乱層等	－	139	58	甕	(15.6)	－	－	橙色	ナデ	ナデ	口縁1/5	－

No.	遺構	層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
						口径	底径	器高		内	外		
540	撹乱層等	—	139	—	甕	(18.9)	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/3	—
541	撹乱層等	—	139	—	高坏	(8.5)	—	—	にぶい黄橙色	不明	ハケ→ナデ	杯部 1/3	—
542	撹乱層等	—	139	—	高坏	(16.6)	—	—	橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁 1/4	—
543	撹乱層等	—	139	—	須恵器 鼎	(8.9)	—	—	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	口縁 1/4	口縁部に波状文。
544	撹乱層等	—	139	—	底部	—	4.0	—	にぶい橙色	ナデ	ハケ→ナデ	底部 完存	—
545	撹乱層等	—	139	—	無頸壺	(9.0)	—	—	橙色	ハケ→ナデ→ケズリ	ナデ→ミガキ	口縁 1/2	—

金属製品

No.	遺物種類(名称)	遺構・層位	図	図版	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	磁着度	メタル度	特徴
F1	鉈	竪穴住居1 最下層	9	64	(10.7)	(2.7)	(1.7)	41.4	2	錆化(△)	ほぼ完形
F2	袋状鉄斧	竪穴住居6 下層	22	64	(3.7)	(3.1)	(1.0)	28.0	4	L(●)	刃先・袋の肩部欠損。
F3	板状鉄斧	竪穴住居6 下層	22	64	(7.3)	(4.8)	(0.8)	134.0	6	特L(☆)	鍛造品。槌跡あり。成形粗い。
F4	刀子	竪穴住居9 最下層	27	64	(5.5)	(1.8)	(1.3)	8.0	2	錆化(△)	刃先欠損。
F5	丸鑿か鉈	竪穴住居9 上層	27	—	(7.5)	(1.3)	—	6.6	2	錆化(△)	丸鑿または小型の鉈。
F6	刀子	竪穴住居10 下層	30	64	(4.1)	(1.5)	(0.5)	11.0	2	錆化(△)	片まち。使い込み、研ぎ減りあり。
F7	刀子	竪穴住居16 下層	62	64	(7.9)	(1.3)	(0.5)	9.0	2	錆化(△)	片まち。基部・先端部ともに欠損。
F8	鑿か鉈	竪穴住居21 上層	72	64	(6.7)	(1.6)	(1.2)	24.8	3	錆化(△)	木質残存。断面形は台形を呈する。
F9	刀子	竪穴住居24 床面直上	86	64	(5.7)	(1.2)	(0.3)	6.1	3	錆化(△)	刀子の刃部から茎にかけて。中央の欠損は打撃によるもの。切先欠損。
F10	鉄鏃か鉈	竪穴住居27	98	64	(7.8)	(1.5)	(0.5)	13.0	2	錆化(△)	まちなし。基部・先端欠損。両刃で反り返りあり。
F11	刀子	竪穴住居27 ②～③層	98	64	(5.7)	(1.1)	(0.6)	6.5	2	錆化(△)	茎部分。
F12	鎌か鋸	竪穴住居28 床面直上	100	64	(10.5)	(2.4)	(0.8)	24.6	1	錆化(△)	鎌を鋸に、または鋸を鎌に転用か。
F13	鎌	竪穴住居29	102	—	(5.1)	(4.3)	(5.5)	21.8	3	錆化(△)	やや身幅のある鎌の基部。刃先側欠損。
F14	鉄斧	竪穴住居32 ②～④層	105	—	(5.2)	(3.9)	(0.5)	42.8	2	錆化(△)	定形斧の破片。鍛造品。
C1	銭貨	I層	138	—	(2.5)	(2.4)	(0.1)	2	—	—	寛永通寶

※1　鉄製品については、強力磁石（TUJIMA　PUP－M）と特殊金属探知機による鉄塊の抽出と、肉眼観察による考古学的な遺物の分類を行った。資料の分類、ならびに観察表の作成には穴澤義功氏にご指導賜った。

※2　磁着度は鉄滓分類用の「標準磁石」を用いて資料の反応を1～8の数字で表記したもので、数値が大きいほど磁着度が強い。

※3　メタル度の基準感度は次のとおり。
△:錆化がすすむ。
H(○):最高感度でどく小さな金属鉄が残留する。
M(◎):標準感度で一般的な大きさや金属鉄を有する。
L(●):低感度でやや大きな金属鉄が残留する。
L(☆):低感度でL以上の大きな金属鉄が残留する。

桃核

No.	遺構	層位	図	図版	法量(cm)		
					長さ	幅	厚さ
—	掘立柱建物3 P2	—	—		1.9	1.7	1.4
—	掘立柱建物3 P3	—	—		1.9	1.6	1.3

石製品

No.	種別	遺構・層位	図	図版	法量（cm）				材質	備考
					最大長	最大幅	最大厚	重さ(g)		
S1	打製石器	竪穴住居１最下層	9	65	(13.5)	(18.5)	(2.5)	651	無斑晶安山岩	打製の大型石包丁か
S2	礫石器	竪穴住居２最上層	13	65	(10.8)	(7.7)	(2.8)	455	安山岩	側面全面に敲打痕
S3	礫石器	竪穴住居２Ｐ５	13	65	(11.9)	(10.6)	(10.7)	750	安山岩	表裏に敲打痕
S4	磨製石斧	竪穴住居２上層	13	65	(14.7)	(5.8)	(3.7)	520	閃緑岩	－
S5	礫石器	竪穴住居２上層	13	65	(10.8)	(7.8)	(5.0)	600	安山岩	側面全面に敲打痕
S6	砥石	竪穴住居２②～③層	13	63	(7.2)	(5.0)	(4.9)	200	細粒花崗岩	表裏砥面
S7	礫石器	竪穴住居３床面直上	15	－	41.3	28.5	10.8	7100	安山岩	表面に磨面
S8	石鏃	竪穴住居６床面直上	20	－	(2.1)	(1.6)	(0.4)	0.9	無斑晶安山岩	－
S9	礫石器	竪穴住居10床面直上	28	65	(10.8)	(7.2)	(6.7)	725	安山岩	稜線上および下端に敲打痕
S10	敲石	竪穴住居10	28	65	(14.2)	(6.4)	(5.9)	655	安山岩	下端に敲打痕
S11	石錘	竪穴住居10最下層	28	47	(5.0)	(6.5)	(3.0)	45	安山岩	有溝石錘
S12	敲石	竪穴住居10①層	29	－	(11.3)	(6.6)	(5.8)	610	安山岩	下端に敲打痕
S13	砥石	竪穴住居10①層	29	63	(12.9)	(16.2)	(5.7)	2270	細粒花崗岩	表裏砥面
S14	礫石器	竪穴住居11上層	33	65	(9.7)	(7.1)	(4.1)	500	安山岩	磨面敲打痕
S15	礫石器	竪穴住居11床面直上	33	65	(14.9)	(7.6)	(5.4)	1000	安山岩	表面に磨面・敲打痕、上端・裏面に敲打痕
S16	礫石器	竪穴住居12床面直上	35	65	(8.8)	(7.8)	(5.3)	480	安山岩	表裏磨面
S17	礫石器	P12	50	－	(8.6)	(6.9)	(4.0)	350	安山岩	表裏・端面に敲打痕
S18	礫石器	P46	50	－	(12.3)	(8.9)	(9.0)	1410	安山岩	表面に磨面
S19	砥石	竪穴住居16上層	62	63	(11.5)	(7.7)	(4.8)	510	安山岩	表面に砥面、裏面・上端面に磨面
S20	砥石	竪穴住居16	62	63	(4.4)	(2.0)	(2.0)	27.4	細粒花崗岩	長軸方向に擦切り溝、一部線状痕あり
S21	礫石器	竪穴住居16	62	－	(11.4)	(5.4)	(3.1)	298	安山岩	右側面に敲打痕、表面に磨面
S22	勾玉	竪穴住居18床面直上	65	50	(4.2)	(1.6)	(0.6)	10.2	蛇紋岩	－
S23	砥石	竪穴住居22	79	63	(9.0)	(3.5)	(2.1)	140	細粒花崗岩	表裏端面に砥面
S24	砥石	竪穴住居22下層	79	－	(3.7)	(2.7)	(2.0)	29	細粒花崗岩	表裏端面に砥面
S25	礫石器	竪穴住居23Ｐ２・上層	81	－	(9.8)	(9.9)	(4.7)	600	安山岩	表裏に磨面
S26	礫石器	竪穴住居24床面直上	86	－	(14.4)	(5.9)	(4.2)	680	安山岩	表裏に磨面
S27	砥石	竪穴住居24下層	88	63	(7.3)	(5.0)	(3.9)	150	細粒花崗岩	表面に砥面と長軸方向に線状痕
S28	礫石器	竪穴住居25最下層	90	－	(13.5)	(11.7)	(10.0)	2170	安山岩	上下端に敲打痕
S29	礫石器	竪穴住居26床面直上	92	－	(10.3)	(8.4)	(4.9)	657	安山岩	表裏敲打痕、裏面被熱
S30	礫石器	竪穴住居27最下層	95	－	(16.2)	(12.6)	(9.8)	2820	安山岩	表面・端面敲打痕
S31	砥石	竪穴住居27④層	96	63	(8.3)	(6.1)	(3.5)	300	安山岩	表裏端面に砥面、端面一部線状痕
S32	砥石	竪穴住居27④層	96	63	(9.8)	(5.9)	(4.8)	460	細粒花崗岩	表面端面砥面
S33	管玉未製品	竪穴住居27下層	97	65	(2.6)	(1.8)	(2.0)	12.8	碧玉(周辺部)	擦切り溝、左側面に原礫面残存。
S34	砥石	竪穴住居27②～③層	97	63	(5.1)	(4.3)	(2.8)	50	細粒花崗岩	表面に砥面
S35	砥石	竪穴住居27②～③層	97	－	(14.6)	(13.0)	(7.5)	1950	安山岩	表裏端面に砥面
S36	砥石	竪穴住居28下層	100	65	(12.5)	(1.9)	(1.5)	76.5	砂岩	表面風化により灰白色を呈する。
S37	砥石	竪穴住居33下層	107	63	(5.0)	(3.3)	(1.4)	50	細粒花崗岩	表面・端面に線状痕
S38	礫石器	竪穴４床面直上	114	－	(18.2)	(8.4)	(6.0)	1363	安山岩	上端に敲打痕
S39	砥石	竪穴５①層	119	63	(9.1)	(3.5)	(2.4)	75	細粒花崗岩	裏面・端面に線状痕
S40	砥石	竪穴５①層	119	63	(6.5)	(4.2)	(1.6)	47.6	細粒花崗岩	左側面に原礫面残存
S41	礫石器	竪穴５①層	119	－	(12.0)	(4.8)	(4.6)	600	安山岩	表裏左側面敲打痕、右側面磨面
S42	勾玉	竪穴７	124	50	(3.1)	(8.5)	(1.0)	9	水晶	－
S43	礫石器	黒色土包含層	137	65	(12.0)	(10.2)	(3.8)	660	安山岩	表面に敲打痕・磨面
S44	管玉未製品	撹乱層等	139	65	(2.5)	(2.1)	(1.9)	12.8	碧玉(周辺部)	表面原礫面残存、擦切り溝あり

第５章　古御堂新林遺跡の調査

第１節　調査の経過と方法

古御堂新林遺跡は平成14年度に初めて確認された遺跡である。工事用道路法面に露出した竪穴住居によりその存在が確認され、弥生時代から古墳時代の集落遺構の存在が想定された。

調査は、５月26日に開始し８月29日に終了した。台地上の平坦面と南西側の斜面部からなる調査区のうち、平坦面の集落遺構を優先して調査し、次に斜面部の遺物包含層の調査をおこなった。その結果、平坦部からは竪穴住居跡５棟、掘立柱建物跡１棟、土坑１基のほか、道跡３本を調査した。住居跡は、出土した土器などからみて弥生時代後期後葉から古墳時代前期の所産と考えられる。斜面部では、上部でテラス状遺構を検出したほかは遺構は検出されなかった。斜面部に堆積する遺物包含層からは弥生時代後期後葉の土器が多量に出土した。包含層の調査は、コンターに直交し、かつ調査区を横断するトレンチを設定し、このトレンチを境に北西側からＡ～Ｅ区に区分した。遺物取り上げは地区ごとにおこなった。包含層の黒色土、暗褐色土出土遺物は一括して取り上げた。　（岡野）

第２節　調査地内の堆積

遺跡が立地する大山北麓域は北に向かい緩やかに傾斜する火山裾野面であるが、これを大小の河川が開削し幾筋もの谷と幅の狭い台地を形成している。遺跡の立地する台地は、南東から北西方向にのびるもので、幅500ｍ前後の平坦面をもつ。遺跡は西側の台地の縁辺部に位置する。調査開始前には調査地周辺は植林地であり、平坦部には顕著な削平がみられた。台地縁辺部から斜面上部には斜面をカットして道が形成されており最近まで使用されていた。調査地平坦面の基本堆積は、南西側に位置する古御堂笹尾山遺跡に類似した堆積であり、Ⅰ層からⅤ層に分かれる。Ⅰ層は調査地ほぼ全面に堆積する。近現代の遺物を含むことから、植林の際の整地に伴う可能性が高い。Ⅱ層～Ⅴ層は平坦部のみに堆積するが、削平のため部分的に残存するのみである。Ⅱ層はⅠ層以前の旧表土層かもしれない。Ⅲ層はＡＴ層の可能性がある。本遺跡のⅢ層は古御堂笹尾山遺跡のⅣ層に、Ⅳ層はⅤ層にそれぞれ相当する。平坦部における遺構検出面は１面でありⅢ層またはⅣ層の上面である。トレンチで確認する限り、Ⅲ層以下には遺構･遺物ともに認められないためⅠ層直下のⅢ層ないしⅣ層上面で最終遺構面と判断した。斜面部には、砂混じり褐色土の上層に黒色土、さらに遺物を包含する暗褐色土、黒色土が堆積するが、いずれも流土と考えられる。　（岡野）

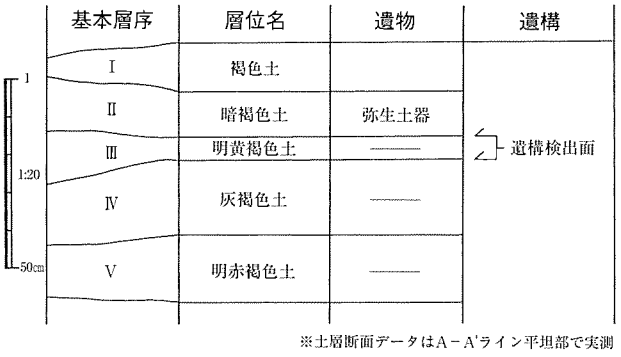


図１　調査地基本層序図

第３節　遺構の概要

調査区北東側の平坦部において竪穴住居跡５棟、掘立柱建物跡１棟、テラス１基を検出した。弥生時代後期後葉が１棟、終末期が１棟のほかは時期不明であるが、斜面部出土遺物や住居の平面形からみて、弥生時代後期後葉から終末期の時間幅に収まる遺構とみられる。竪穴住居１・２・４・５はいず

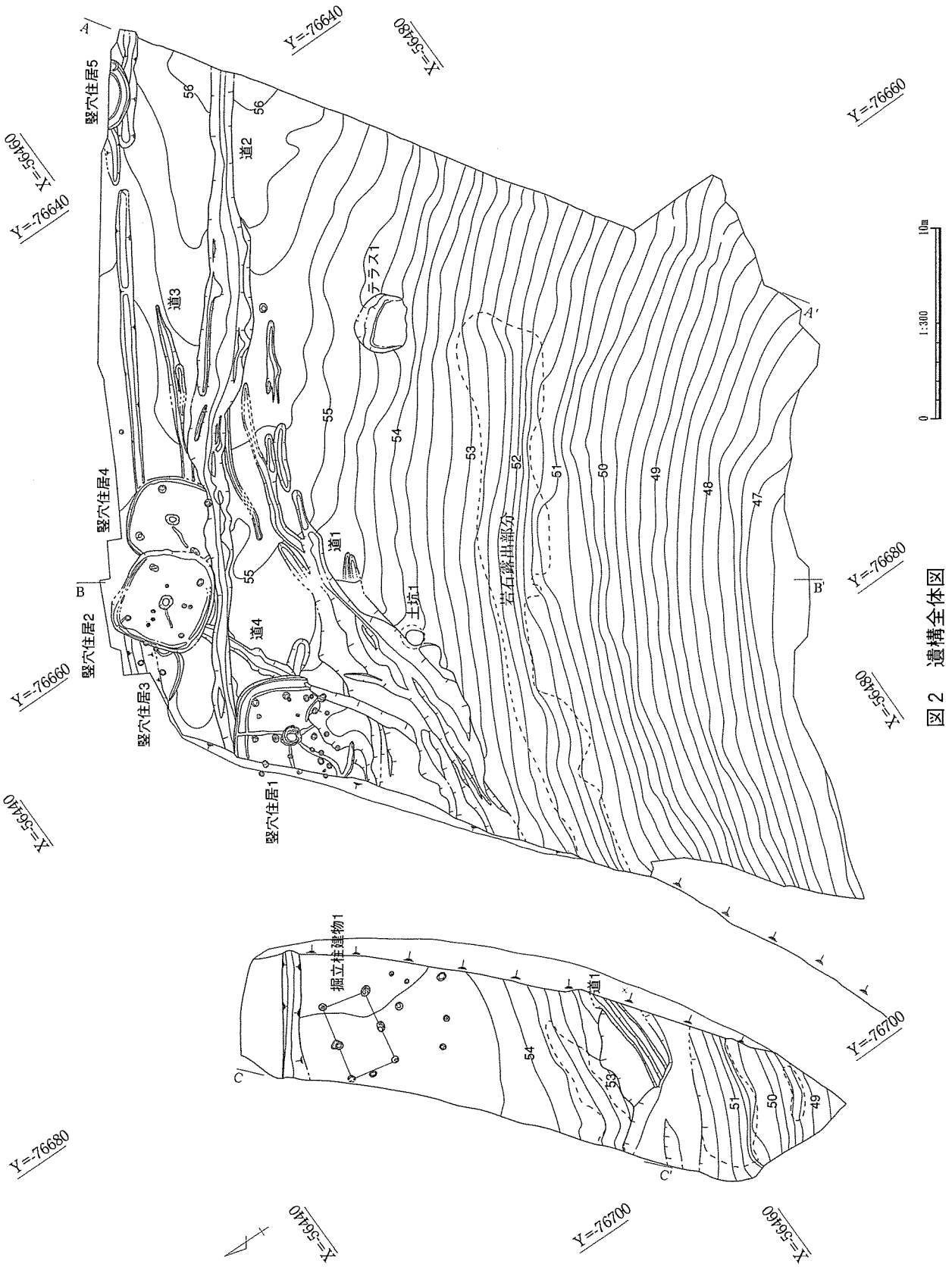

竪穴住居5
竪穴住居4
竪穴住居3
竪穴住居2
竪穴住居1
道1
道2
道3
道4
テラス1
土坑1
岩石露出部分
掘立柱建物1
A
A'
B
B'
C
C'
X=-56460
X=-56480
X=-56440
Y=-76640
Y=-76660
Y=-76680
Y=-76700
0
1:300
10m

図２　遺構全体図

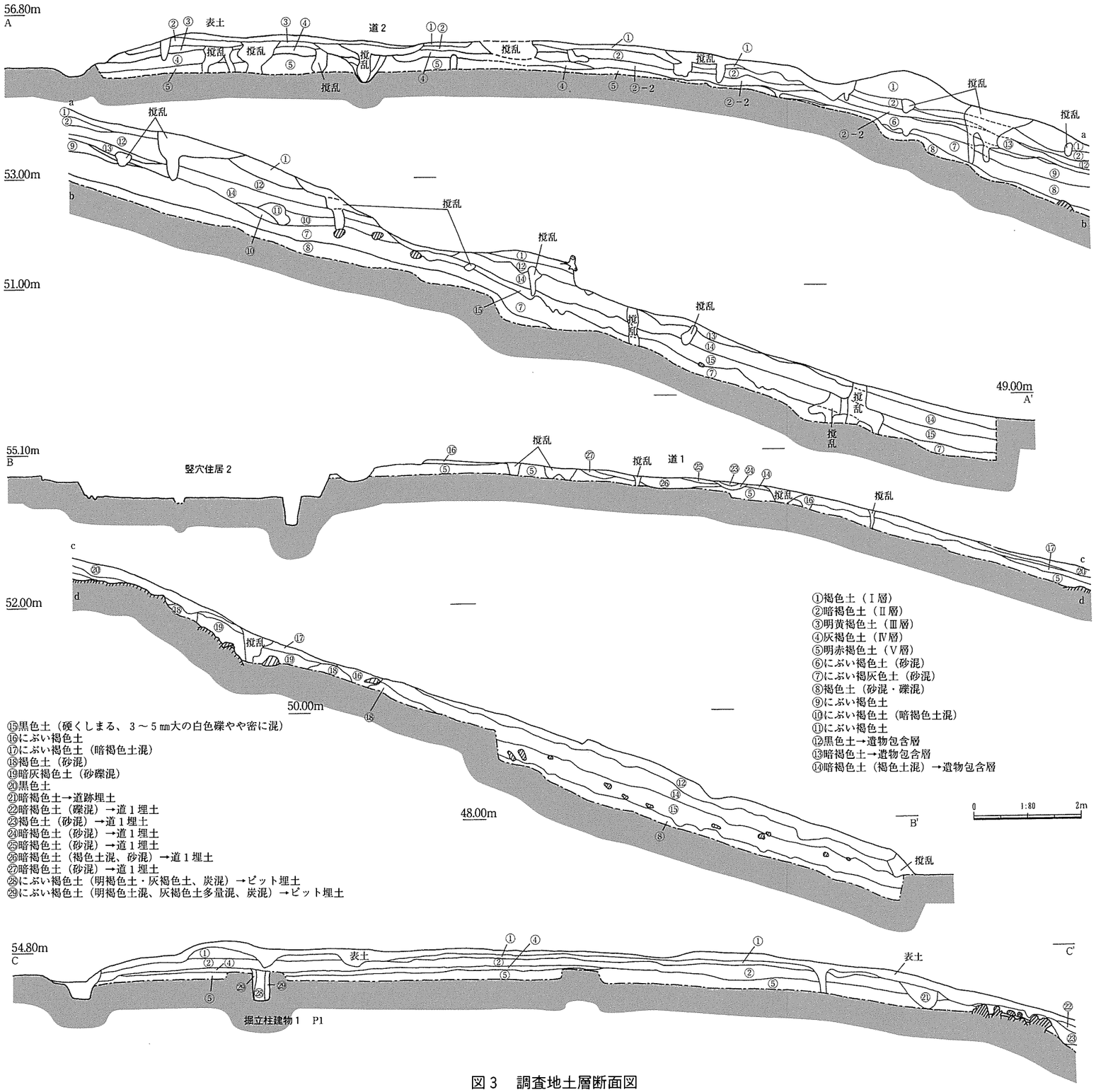

56.80m
A
表土
道２
撹乱
53.00m
51.00m
49.00m
A'
55.10m
B
竪穴住居２
道１
52.00m
50.00m
48.00m
B'
54.80m
C
C'
掘立柱建物１　P1
①褐色土（Ⅰ層）
②暗褐色土（Ⅱ層）
③明黄褐色土（Ⅲ層）
④灰褐色土（Ⅳ層）
⑤明赤褐色土（Ⅴ層）
⑥にぶい褐色土（砂混）
⑦にぶい褐灰色土（砂混）
⑧褐色土（砂混・礫混）
⑨にぶい褐色土
⑩にぶい褐色土（暗褐色土混）
⑪にぶい褐色土
⑫黒色土→遺物包含層
⑬暗褐色土→遺物包含層
⑭暗褐色土（褐色土混）→遺物包含層
⑮黒色土（硬くしまる、３～５㎜大の白色礫やや密に混）
⑯にぶい褐色土
⑰にぶい褐色土（暗褐色土混）
⑱褐色土（砂混）
⑲暗灰褐色土（砂礫混）
⑳黒色土
㉑暗褐色土→道跡埋土
㉒暗褐色土（礫混）→道１埋土
㉓褐色土（砂混）→道１埋土
㉔暗褐色土（砂混）→道１埋土
㉕暗褐色土（砂混）→道１埋土
㉖暗褐色土（褐色土混、砂混）→道１埋土
㉗暗褐色土（砂混）→道１埋土
㉘にぶい褐色土（明褐色土・灰褐色土、炭混）→ピット埋土
㉙にぶい褐色土（明褐色土混、灰褐色土多量混、炭混）→ピット埋土
0　1:80　2m

図３　調査地土層断面図

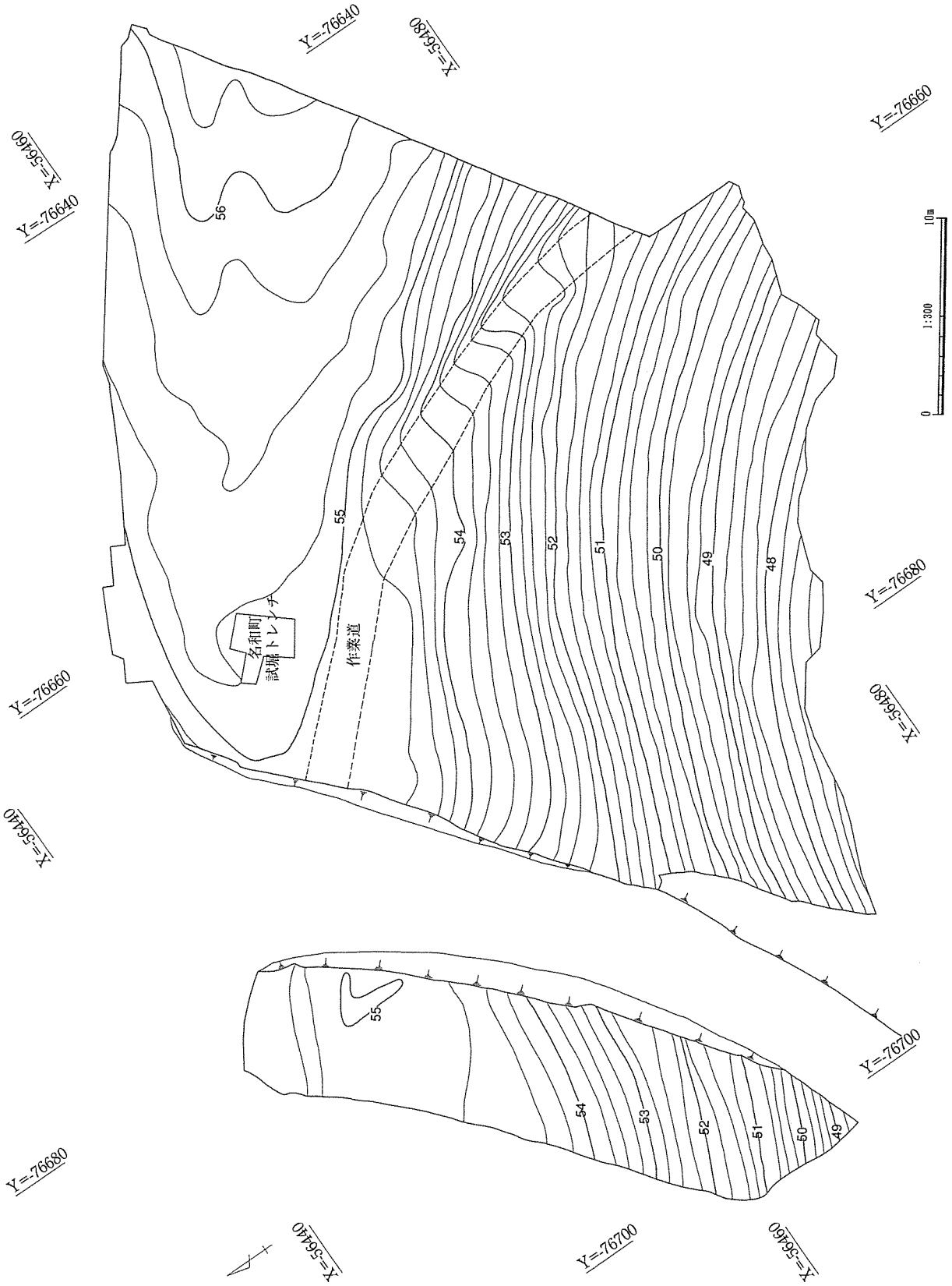

Y=-76640
X=-56480
Y=-76660
X=-56460
Y=-76640
56
55
54
53
52
51
50
49
48
名和町
試掘トレンチ
作業道
Y=-76680
Y=-76660
X=-56480
X=-56440
Y=-76700
55
54
53
52
51
50
49
Y=-76680
X=-56440
Y=-76700
X=-56460
0
1:300
10m

図４　調査前の地形

れも、埋土中および床面に炭化材や炭化物が検出されており、焼失住居の可能性をもつ。また、出土遺物の大半は調査区南西側の斜面部から出土しており住居跡床面からの出土はわずかである。このことから、住居放棄に際して土器などの生活品を斜面部に廃棄したことが考えられる。

台地平坦面および斜面下方から台地に向けてのびる道状遺構を３本検出した。時期不明であるが、道１は何度も再掘削がされており長期間にわたって使用されたものと考えられる。（岡野）

第４節　弥生時代後期から終末期の調査

竪穴住居跡には遺物が出土しておらず時期が限定できないものもあるが、住居平面形や斜面部包含層から出土した土器などからみて、弥生時代後期後葉を中心とする時期の遺構と考えられるため、弥生時代の調査の項で報告する。

竪穴住居１（図５・６、図版67･68）

調査区北端で検出された。北西側を工事用仮設道に、南側を道跡により削平されており、住居全体の約2/3を検出した。平面隅丸方形、または六角形を呈するものと考えられる。規模は、残存する東西端の周壁溝底部で計測すると約6.6mである。検出面から床面までは最大約40cm、床面の標高は約53.4mである。床面に壁溝と並行する溝が検出されており建替えが想定される。土層断面からみて外側の周壁溝が住居の最終段階に伴う。内側の周壁溝を伴う住居を１ａ、拡張後最終段階の住居を１bとする。１ａの主柱はＰ13、Ｐ11、Ｐ24、Ｐ９とみられる。これに伴う床溝は、炭化物を含まない埋土や床面焼土との切り合いから判断して、Ｐ１からP14方向へのびる１本と、Ｐ１からＰ20方向へのびる１本が想定される。

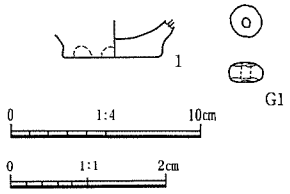


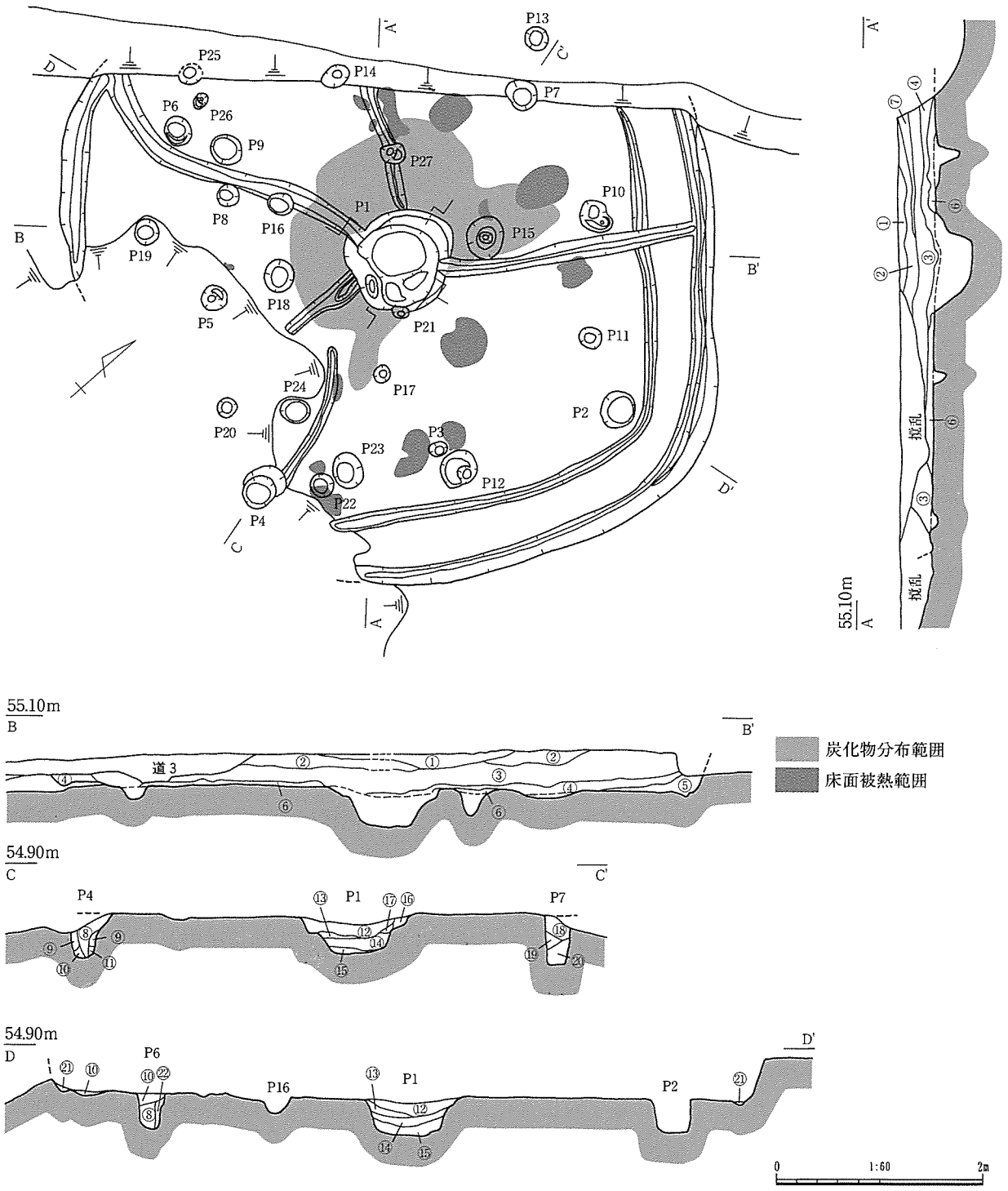
図５　竪穴住居１出土遺物

１ｂの家屋は焼失したものと考えられる。１ｂに伴う主柱穴は、炭化物を含む埋土や配置からＰ７、Ｐ2、Ｐ4、Ｐ6と考えられる。埋土に炭化物を含むＰ3、Ｐ8、Ｐ16なども１ｂに伴うものであろう。住居中央付近に検出したＰ１は、長軸1.1m、短軸0.9m、底面までの深さ約45cmを測る。床面ではＰ１から周壁溝にのびる床溝が検出された。Ｐ１周辺の床面には数カ所の焼土面が検出された。いずれも顕著に被熱し赤色に硬化していた。これら焼土面の中央付近はやや暗い色調を呈しており低温で被熱したものと考えられる。視認による限りであるが、周辺で鉄片などは確認できなかった。床面中央付近は直上に厚さ５㎜～10㎜程度の薄い炭化物の広がりが認められた。平面的に顕著な焼土の広がりを確認することは出来なかったが、埋土最下層の④･⑤･⑥層に微細な炭化物･焼土が多量に含まれる。材の形状をとどめる炭化材は検出されなかった。

表１　竪穴住居１ピット計測表

P No.	長径×短径	深さ(cm)	底面の標高(m)	土色・備考
P１	106×92	38	54.0	－
P２	25×24	33	54.0	にぶい褐色土
P３	18×14	15	54.2	暗褐色土(炭多量混)
P４	46×32	41	54.0	－
P５	16×13	36	54.0	にぶい褐色土
P６	28×24	35	54.0	－
P７	32×28	49	53.9	－
P８	23×20	32	54.1	暗褐色土(炭混)
P９	32×29	35	54.0	にぶい褐色土
P10	35×26	33	54.0	にぶい褐色土
P11	21×20	13	54.2	にぶい褐色土
P12	38×32	12	54.2	にぶい褐色砂質土
P13	23×22	10	53.9	にぶい褐色土
P14	28×21	36	54.0	にぶい褐色土
P15	42×35	32	54.0	にぶい褐色土
P16	25×19	19	54.2	暗褐色土(炭多量混)
P17	16×15	14	54.2	暗褐色土(炭多量混)
P18	32×28	21	54.2	暗褐色土(炭混)
P19	26×24	14	54.2	暗褐色土
P20	20×18	11	54.2	暗褐色土
P21	16×12	10	54.2	にぶい褐色土
P22	22×20	15	54.2	暗褐色土(炭混)
P23	34×28	7	54.3	暗褐色土(炭混)
P24	28×24	29	54.1	暗褐色土(炭混)
P25	23×18	14	54.3	にぶい褐色土
P26	16×11	9	54.3	－
P27	25×18	25	54.1	－

床面出土の遺物は、Ｐ27北側で出土したガラス小玉



①暗褐色土
②にぶい褐色土（明褐色土わずかに混、③～⑥層よりやや暗い）
③にぶい褐色土（Ⅴ層多量混、炭片やや多く混）
④にぶい褐色土（Ⅴ層混、炭・焼土混）
⑤にぶい褐色土（ややもろい、明赤褐色土混、炭混）
⑥暗褐色土（Ⅴ層多量混、炭片やや多く混）
⑦にぶい褐色土（Ⅴ層多量混、炭片やや多く混、③層よりやや暗い）
⑧暗褐色土（炭混）
⑨暗褐色土（明褐色土混）
⑩暗褐色土（明褐色土多量混、炭混）
⑪暗褐色粘質土
⑫にぶい褐色土（暗褐色土多量混、炭混）
⑬にぶい褐色土（暗褐色土混、炭混）
⑭暗褐色土（炭・焼土多量混）
⑮暗褐色土（明褐色土多量混）
⑯にぶい褐色土（明褐色土混、炭混）
⑰にぶい褐色土
⑱にぶい褐色粘質土（ブロック状、暗褐色土混、炭混）
⑲明褐色土粘質土（ブロック状、暗褐色土混、炭混）
⑳にぶい褐色土
㉑にぶい褐色土（炭少量混）
㉒暗褐色土

図６　竪穴住居１

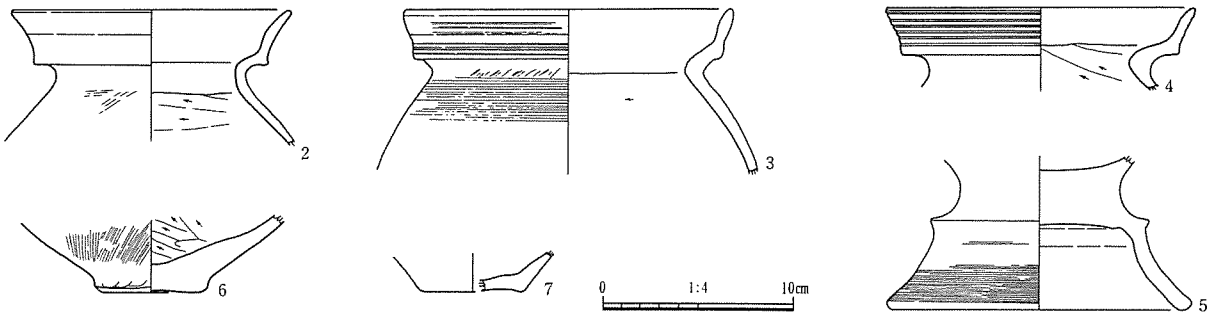


図７　竪穴住居２出土遺物

（Ｇ１）のみである。埋土中からは上層から底部１が出土したほかは、弥生土器とみられる小片のみであり図化できない。斜面部から出土した土器と隅丸方形もしくは六角形を呈する平面形などからみて、弥生時代後期後葉の遺構と想定される。

表２　竪穴住居２出土炭化材の樹種

炭化材No.	出土位置	形状・部位	樹種
1	床面直上	丸太材	クスノキ科
2	床面直上	板材	クリ
3	床面直上	丸太材	クリ
4	床面直上	丸太材	クスノキ科
5	床面直上	丸太材	クリ
6	床面直上	板材	スダジイ
7	最下層	丸太材	スダジイ
8	埋土中	丸太材	スダジイ
9	床面直上	丸太材	スダジイ

竪穴住居２（図７～９、図版67･68）

調査区北端に位置する。平面形はややいびつな隅丸方形を呈する。住居床面は貼床を介して２回使用されている。貼床下の床面を伴う住居を２ａ、貼床後の最終段階の住居を２ｂとする。２ａは周壁溝および浅いピットを検出した。主柱はＰ１～Ｐ４である。貼床は厚さ３～５cmのややしまる明褐灰色土である。貼床土から底部７が出土した。２ｂの規模は、周壁溝底部間で計測すると長軸4.8m、短軸4.5m、床面積は約16.5㎡である。床面での標高は約55.5mである。検出面から床面までの深さは住居南側で約60cmである。主柱穴はＰ１～Ｐ４の４本であるが、２ａの主柱穴を再使用している。

床面直上および埋土中から炭化材が出土しており焼失住居である。床面中央のＰ１は、長軸80cm、短軸65cmを測り、埋土には焼土、炭化物を含む。Ｐ１からＰ２方向に幅12～15cmの浅い床溝がのびる。床面および埋土中⑤層から炭化材が出土した。床面では、Ｐ１北西側で集中して出土した。Ｐ２－Ｐ５の桁行き方向に直交するNo.５・９・３のほか、ほぼ並行するNo.１がある。大半が丸太材であるが、No.２・６は板材と思われる。No.7は最下層出土である。⑤層出土のNo.4は丸太材とみられ、柱穴Ｐ３－Ｐ４ライン上で出土した。樹種鑑定の結果、おもにスダジイやクリが使用されている。

埋土中には多量の焼土粒が含まれるが顕著な焼土面や焼土層としては確認できなかった。土層断面では、焼土･炭化物を多量に包含する層は①･③･⑥･⑦層など住居の縁辺部の下層に厚く、住居の中央部分では薄い堆積状況を示す。②層③層には焼土とともに炭化材の小片が散在する。注意されるのは、⑤･⑫層の堆積状況である。⑫層は微細な炭片を多量に混入する層であるが、床面から検出面まで⑥層上面に沿って帯状に堆積する。⑤層も同様である。一般的に自然堆積は周辺部で薄く遺構の中心に向かい弓なり状に厚くなる堆積状況を示すとされ、⑫･⑤層はいずれも自然に土砂が流入した結果としては不自然である。埋土中に焼土層が形成される要因の一つとして被熱した土屋根が崩壊した結果とする見解がある。本遺構での判断は困難であるが、⑫･⑤層から下層の土砂が炎上家屋の崩壊とほぼ同時に遺構内に流入したことは考えられる。

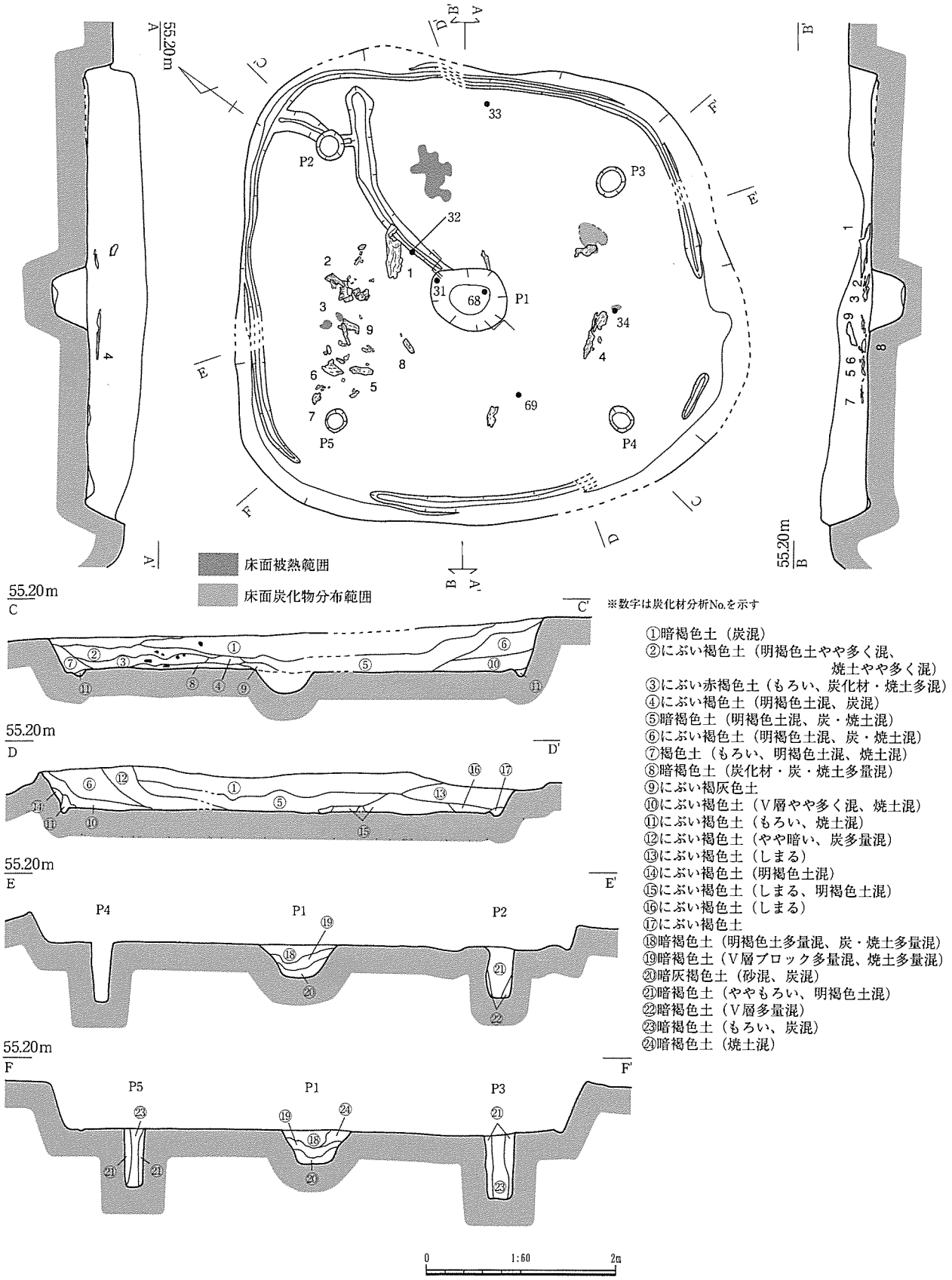

55.20m
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
P1
P2
P3
P4
P5
床面被熱範囲
床面炭化物分布範囲
※数字は炭化材分析No.を示す
①暗褐色土（炭混）
②にぶい褐色土（明褐色土やや多く混、焼土やや多く混）
③にぶい赤褐色土（もろい、炭化材・焼土多混）
④にぶい褐色土（明褐色土混、炭混）
⑤暗褐色土（明褐色土混、炭・焼土混）
⑥にぶい褐色土（明褐色土混、炭・焼土混）
⑦褐色土（もろい、明褐色土混、焼土混）
⑧暗褐色土（炭化材・炭・焼土多量混）
⑨にぶい褐灰色土
⑩にぶい褐色土（Ｖ層やや多く混、焼土混）
⑪にぶい褐色土（もろい、焼土混）
⑫にぶい褐色土（やや暗い、炭多量混）
⑬にぶい褐色土（しまる）
⑭にぶい褐色土（明褐色土混）
⑮にぶい褐色土（しまる、明褐色土混）
⑯にぶい褐色土（しまる）
⑰にぶい褐色土
⑱暗褐色土（明褐色土多量混、炭・焼土多量混）
⑲暗褐色土（Ｖ層ブロック多量混、焼土多量混）
⑳暗灰褐色土（砂混、炭混）
㉑暗褐色土（ややもろい、明褐色土混）
㉒暗褐色土（Ｖ層多量混）
㉓暗褐色土（もろい、炭混）
㉔暗褐色土（焼土混）
0
1:60
2m

図８　竪穴住居２ａ

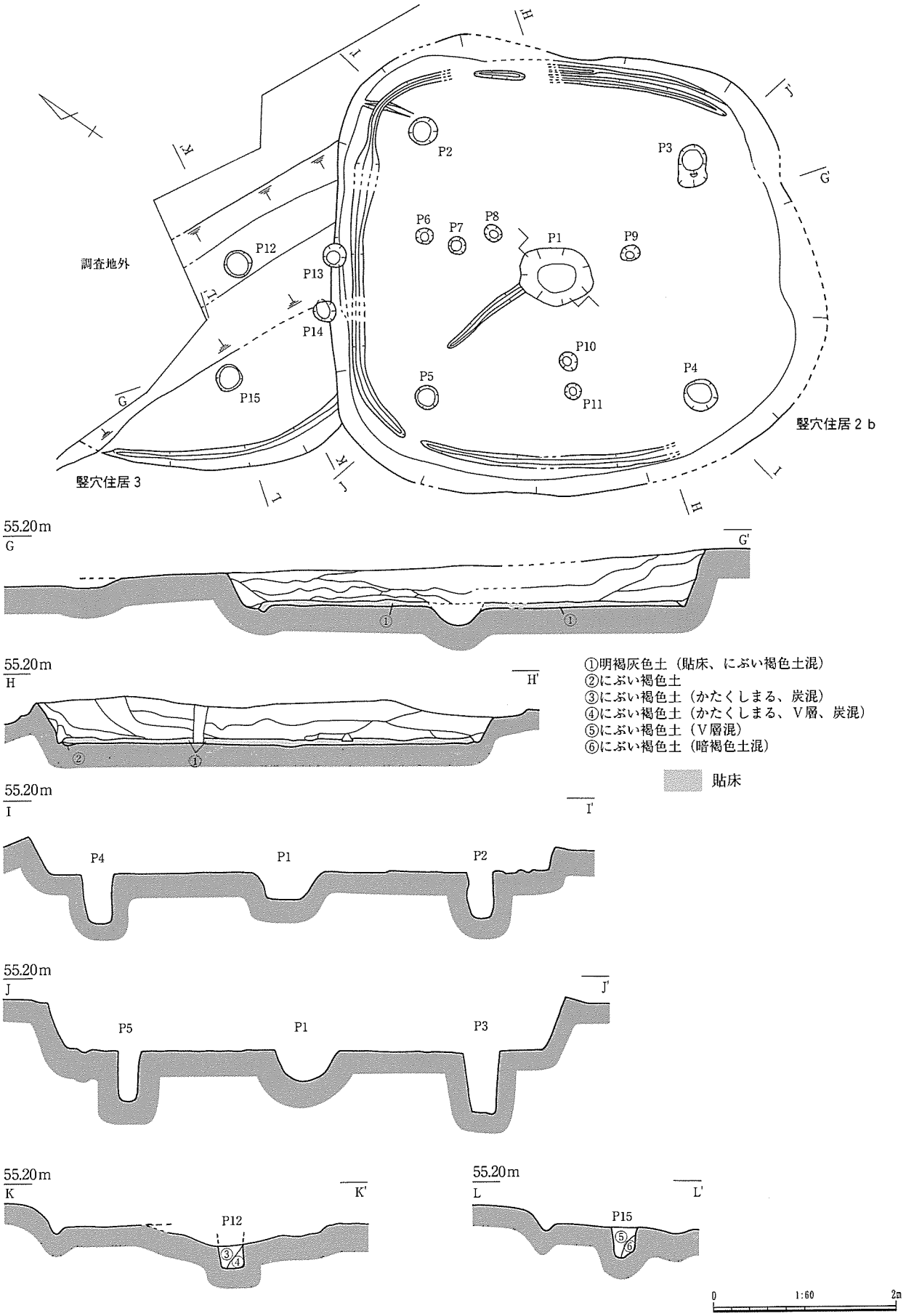

調査地外
竪穴住居３
竪穴住居２ｂ
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
55.20m
G
G'
H
H'
I
I'
J
J'
K
K'
L
L'
①明褐灰色土（貼床、にぶい褐色土混）
②にぶい褐色土
③にぶい褐色土（かたくしまる、炭混）
④にぶい褐色土（かたくしまる、Ｖ層、炭混）
⑤にぶい褐色土（Ｖ層混）
⑥にぶい褐色土（暗褐色土混）
貼床
0
1:60
2m

図９　竪穴住居２ｂ・３

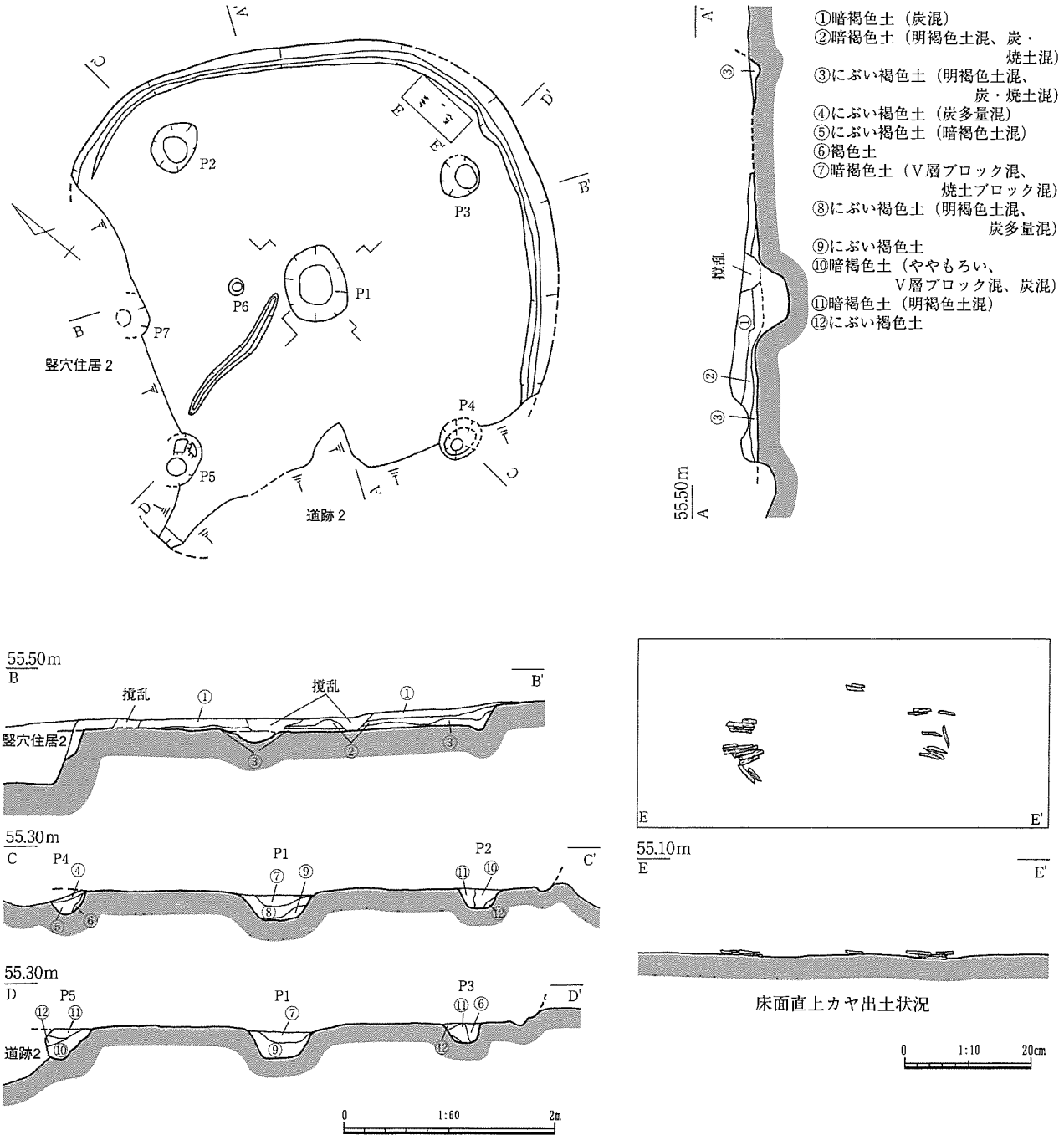


図10　竪穴住居４

床面からは甕２・６が出土した。埋土中①層からは甕３、脚部５が出土した。床面出土遺物から弥生時代終末期の住居跡と考えられる。

竪穴住居３（図９、図版66）

調査区北端に位置する。竪穴住居２に切られる。竪穴住居２および道跡などによる撹乱により、周壁や床面の一部のみを検出した。平面形は円形もしくは隅丸方形とみられる。床面での標高は約54.7ｍである。Ｐ12･Ｐ15は主柱と思われるが、住居の中央よりに位置することからみて２本柱の住居かもしれない。遺物は出土していない。

竪穴住居４（図10、図版67）

調査区北端に位置する。北西側を竪穴住居２に、南西側を道２に切られている。平面隅丸方形を呈

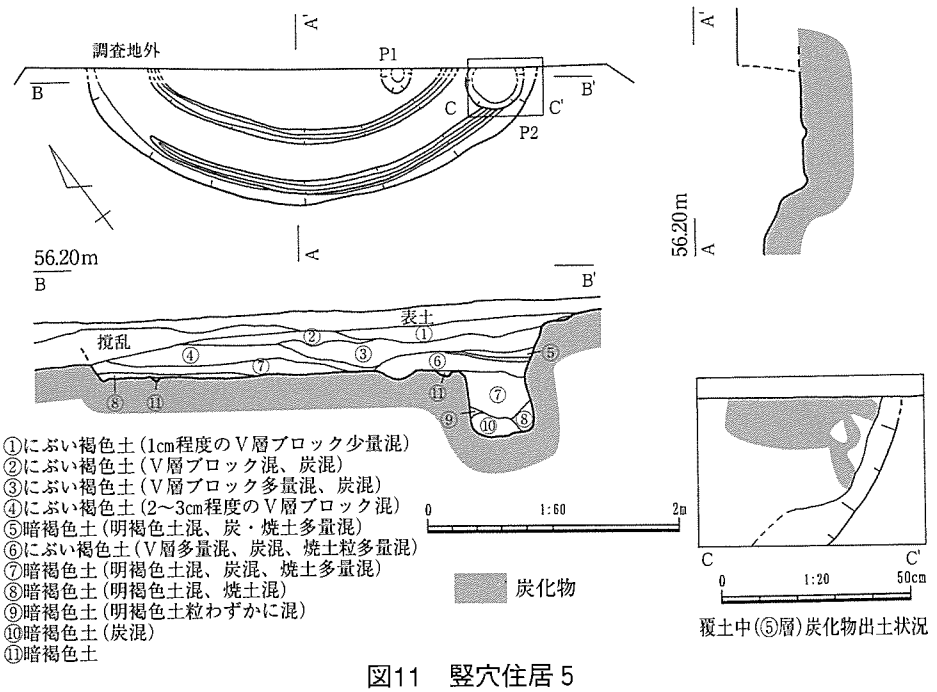


図11　竪穴住居５

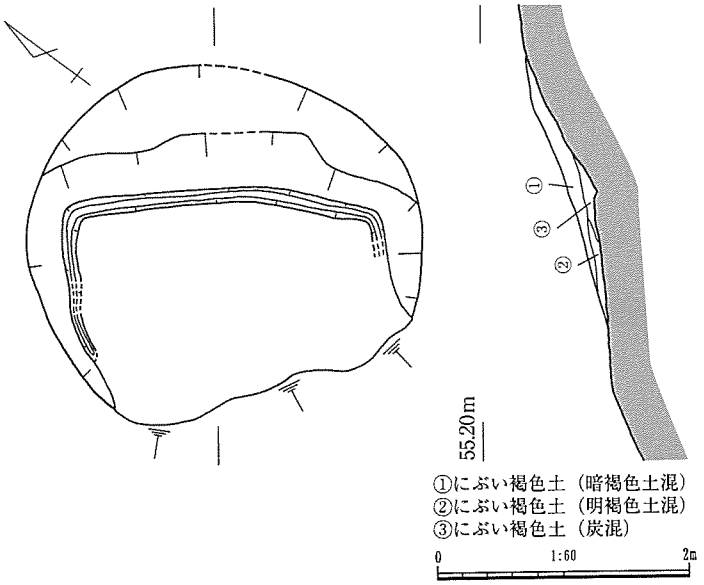


図12　テラス１

し、南東－北西方向の床面において4.5ｍ前後の規模が想定される。検出面から床面までは最も残存する南東側壁面で約28cmである。床面での標高は約54.9ｍである。Ｐ２～Ｐ５の４本を主柱とする構造とみられる。床面中央のＰ１は、検出面では長軸約73cm、短軸約60cm、床面からの深さは約25cmを測る。Ｐ１からＰ５にむけて床溝が検出された。Ｐ３北東側の床面に貼り付いた状態で少量の炭化したカヤが出土した。壁面にほぼ並行するものが多い。埋土中に多量の炭化物小片を含むことから、焼失したものと考えられる。材の形状を残す炭化材は検出できなかった。焼土はおもに②層③層に混入するが細粒化しており平面的な広がりを確認できない。床面から遺物は出土しなかった。覆土中から若干の土器小片が出土しているが図化できない。斜面部包含層から出土した土器や隅丸方形を呈する平面形からみて、弥生時代後期後葉から古墳時代前期の遺構とみられる。

竪穴住居５（図11、図版68）

調査区東端で検出した。北東部分は調査範囲外のため全形の約１／４程度を検出した。最終段階における直径が４ｍ前後の円形の住居跡と想定される。床面の標高は約55.4ｍである。周壁溝が２本検出されたことから建替えが推察される。土層断面から外側が新しい。内側の古い周溝に伴う住居を５ａ、最終段階の住居を５ｂとする。５ｂの周壁溝がＰ２埋土を切ることから、Ｐ２は５ａの壁面に袋

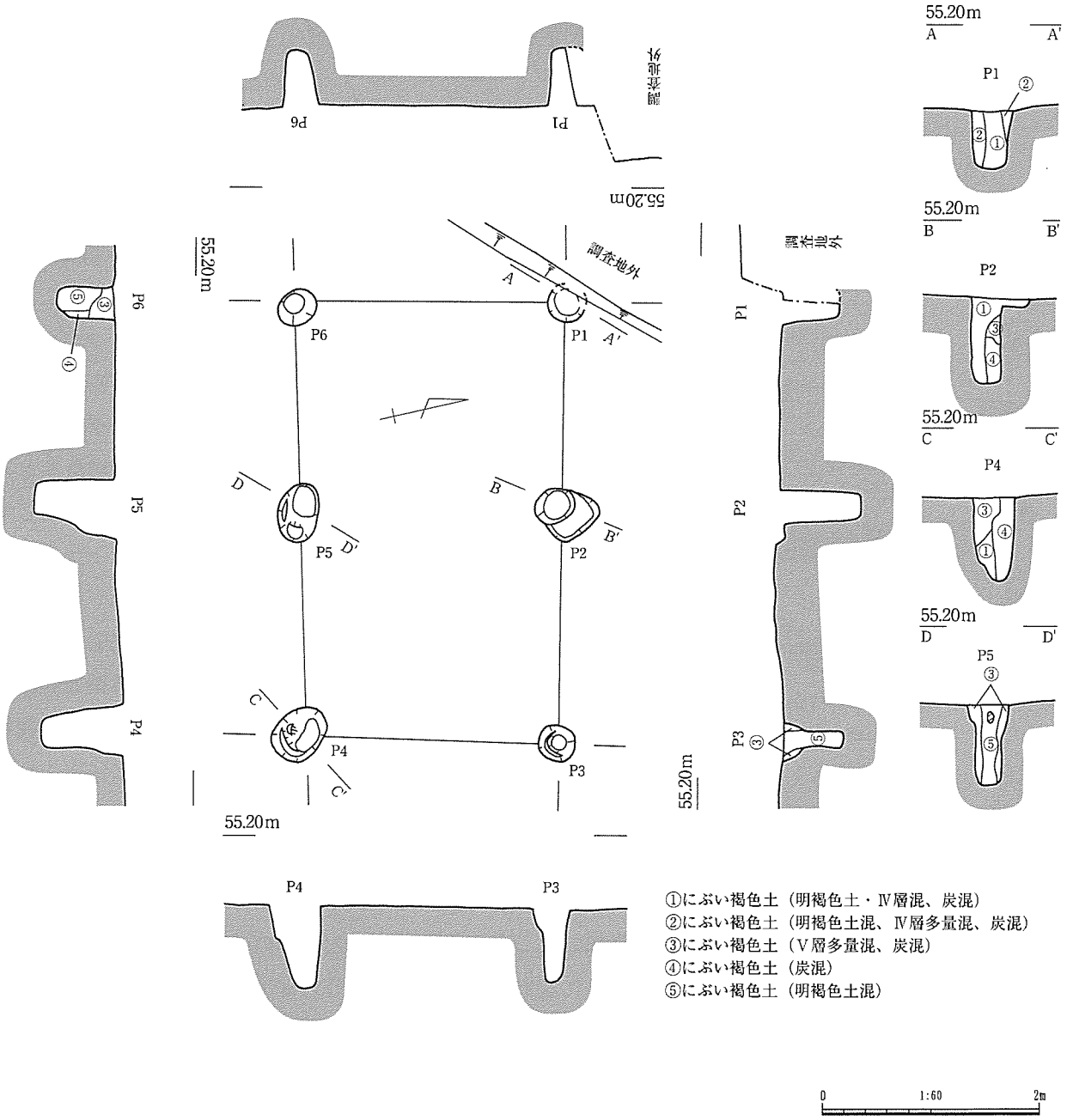


図13　掘立柱建物１

状に掘り込まれたピットと推察される。Ｐ２の床面からの深さは約50cmである。

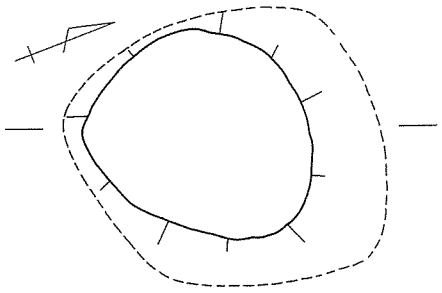
南東側の埋土中⑥層直上には、炭化物が１～３cm程度の厚さで部分的に堆積する。埋土⑥層、⑦層には炭化物、焼土が多量に混入することから、５ｂは焼失したと考えられる。

床面から遺物は出土していない。埋土中から土器小片が１点出土したのみである。斜面部から出土した土器や円形の平面形から判断して弥生時代後期後葉の遺構と想定される。（岡野）

第５節　時期不明の遺構および包含層の調査

テラス１（図12、図版68）

斜面上部において、斜面を断面Ｌ字状にカットして床面を形成したテラスを検出した。床面には方



形に周壁溝が検出された。床面、遺構周囲ともにピットは検出できなかった。床面および埋土中から遺物は出土していない。

掘立柱建物１（図13、図版68）

調査区北西端部において、桁行２間×梁行１間の掘立柱建物跡を検出した。柱間距離は1.9m～2.5mであり一定しないが、深さなどからみて周辺のピットを排除できることから、掘立柱建物跡と判断した。遺物は出土していない。

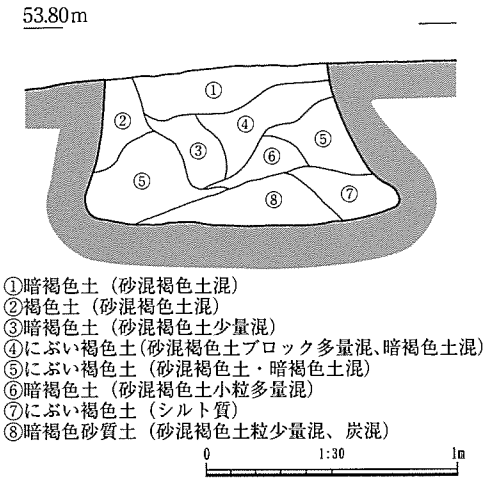


図14　土坑１

土坑１（図14、図版68）

斜面上端付近に位置する断面袋状を呈する土坑である。検出面では長軸約0.9m、短軸約0.8m、検出面からの深さは最大65cmである。底部は平坦である。埋土は壁面の崩落土とみられる周囲の地山がブロック状に混入する。遺物は出土していない。

道１（図15、図版69）

調査区の西端、斜面下方から台地上に向けて掘削された溝状の遺構である。底面に硬化面がみられるため道跡と判断した。調査前には埋没しており機能していなかった。現在使用されている農道にほぼ並行する。北寄りでは竪穴住居１を切る。道４より新しいと考えられる。斜面を浅い皿状に掘削し緩やかな平坦部を歩行面としている。道の中央部には硬くしまった硬化面が帯状に検出された。土層断面からみて何度も埋没と再掘削が確認できることから、ルートを北側に若干変えながら長期間にわたり使用されたものと考えられる。土層断面の観察では、再掘削された底面それぞれにはうすく若干硬化した状態の砂層が認められた。埋土中から須恵器の小片が１点、弥生土器とみられる土器片が数点出土したが図化できない。使用された時期は不明である。

道２（図15、図版69）

台地縁辺部に沿って掘削された溝状の遺構である。最下層に砂層が堆積する埋土や道１の存在などからみて道跡と判断した。調査開始前には若干窪んでおり、その存在を想定できた。断面逆台形に掘削し底面を歩行面としている。完掘状況での検出面の幅は0.7m～2.6m、歩行面の幅は約20～30cmである。歩行面に顕著な硬化面は認められない。土層断面からみて、２回以上の再掘削が行われていると考えられる。それぞれの底面付近にはラミナ状の薄い砂層が認められる。道１・３との切り合い関係は分からない。竪穴住居４周辺の埋土中から若干の弥生土器が出土したが混入であろう。その他の遺物は皆無であり使用された時期を限定できない。

道３（図15）

台地縁辺部に掘削された溝状遺構である。道２に平行することからみて道跡と考えられる。幅60～80cm前後、検出面からの深さ15cm～20cmである。埋土は暗褐色土であり部分的に砂層を含む。

道４（図15）

台地縁辺部から斜面部にかけて掘削された道跡と考えられる。調査前にはわずかな窪みとして認識

基盤層
⑪黒褐色土
⑫明赤褐色土（Ⅵ層）
⑬黄褐色砂礫土
竪穴住居１埋土
⑭にぶい褐色土（明赤褐色土少量混、焼土・炭混）
⑮にぶい褐色土（明褐色土少量混）
⑯にぶい褐色土（明褐色土多量混、炭混）
道跡２
⑰にぶい褐色土（砂混）
⑱暗褐色土
⑲にぶい褐色土（明褐色砂質土混）
⑳暗褐色土（明褐色土混）
㉑にぶい褐色土（砂混）
㉒暗褐色砂質土（明褐色砂質ブロック密に混）
㉓暗褐色砂質土（黒褐色砂質土、明褐色砂質ラミナ状に混・炭混）
道跡３
㉔暗褐色土
㉕暗褐色砂質土
道跡４
㉖黒褐色土
㉗暗褐色土
55.60m A
54.00m A'
54.00m B
53.00m B'
54.90m C'
55.00m D'
54.00m D
53.00m B
54.00m C
X=-56460
Y=-76640
X=-56440
Y=-76660
Y=-76680
道１
道２
道３
道４
撹乱
炭土
根
硬化面
①にぶい褐灰色砂質土（しまる）
⑫にぶい褐灰色土
⑬にぶい褐色砂質土（明褐色土混）
⑭にぶい褐灰色砂質土
⑮にぶい褐色土
⑯にぶい褐色砂質土
⑰にぶい褐色土（かたくしまる、硬化層）
⑱にぶい褐色土（礫混）
⑲暗褐色土
⑳暗褐色土（褐色土混）
㉑暗褐色土（にぶい褐色土混）
㉒暗褐色砂質土
㉓暗褐色土（にぶい褐色土混）
㉔暗褐色土（礫混）
㉕暗褐色土（黄褐色砂礫土混）
㉖暗褐色土（ややもろい）
㉗明黄褐色土（砂混）
㉘明灰褐色土（かたくしまる、砂混）
㉙黒褐色土
㉚暗褐色土（しまる）
道跡１
①褐色土（Ⅰ層）
②褐色砂質土
③にぶい褐色土
④にぶい褐色砂質土
⑤にぶい褐色砂質土（しまる）
⑥にぶい褐色砂質土（明褐色土混）
⑦にぶい褐色土（明黄褐色土混）
⑧にぶい褐色土（褐色土混）
⑨にぶい褐色土（砂混）
⑩にぶい褐灰色砂質土
0
1:300
10m
（平面図）
0
1:60
2m
（土層断面図）

図15　道１～３

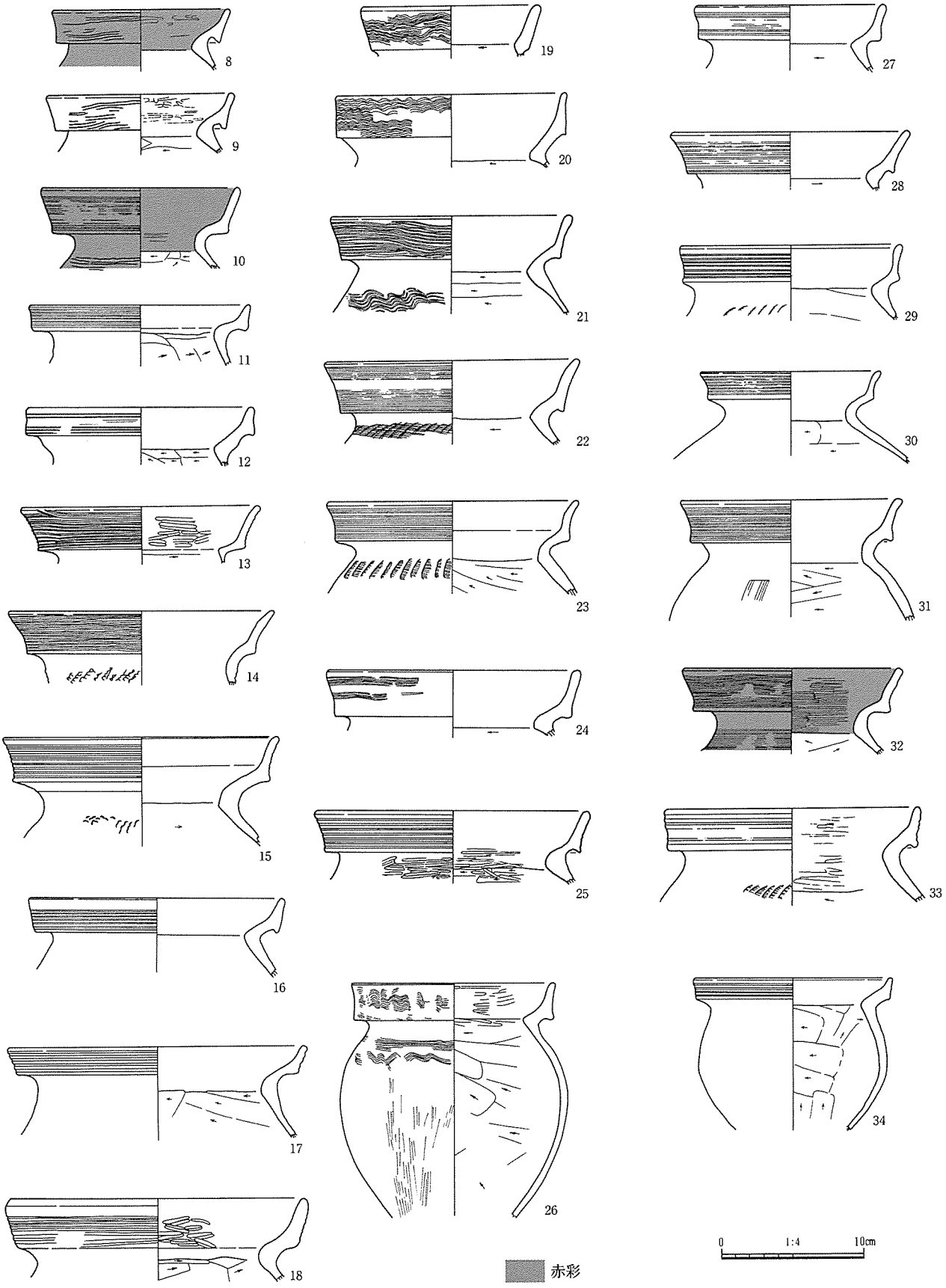


図16　包含層出土遺物（1）　斜面部黒色土・暗褐色土出土遺物

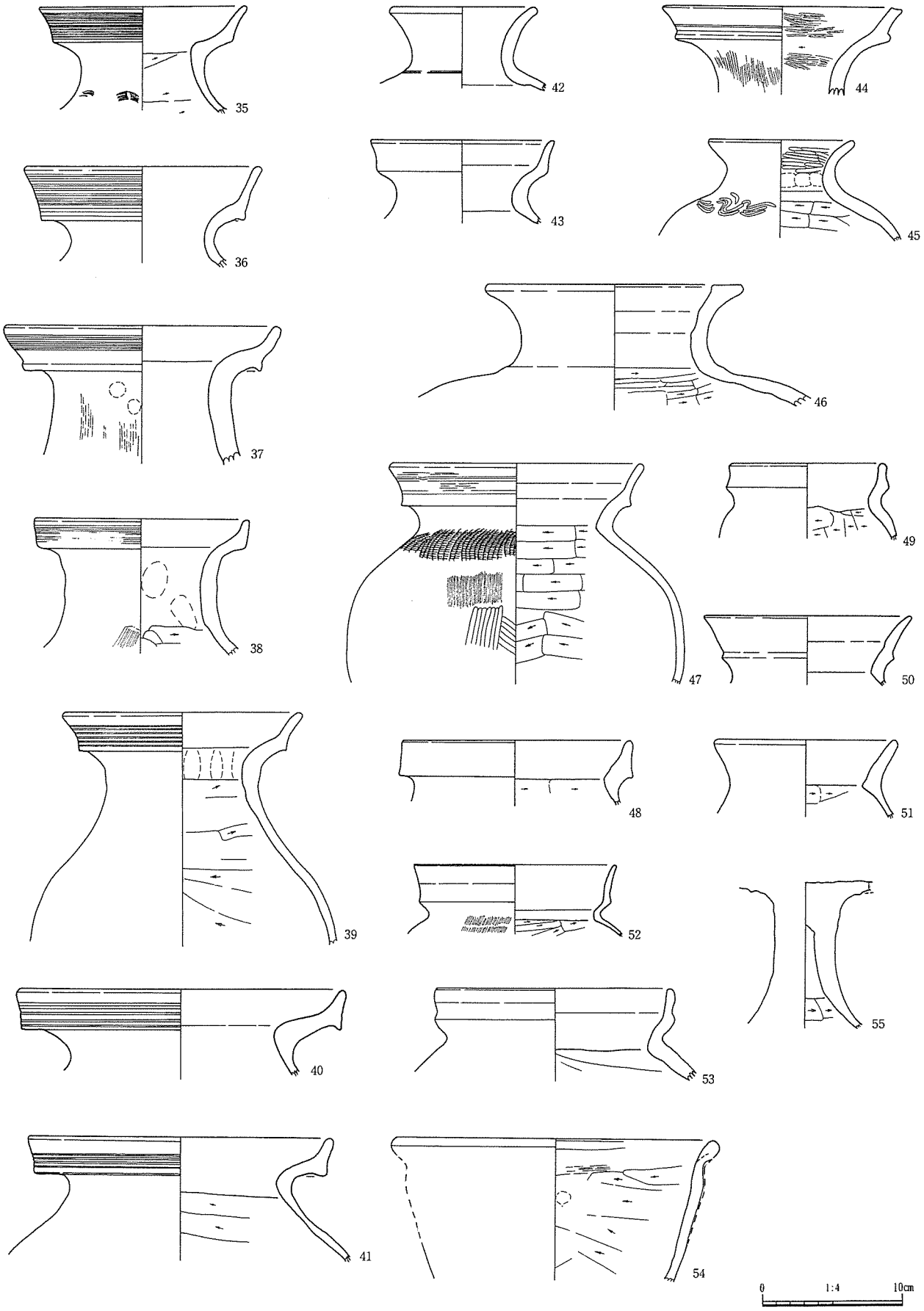


図17　包含層出土遺物（2）　斜面部黒色土・暗褐色土出土遺物（図３　⑫～⑭層）

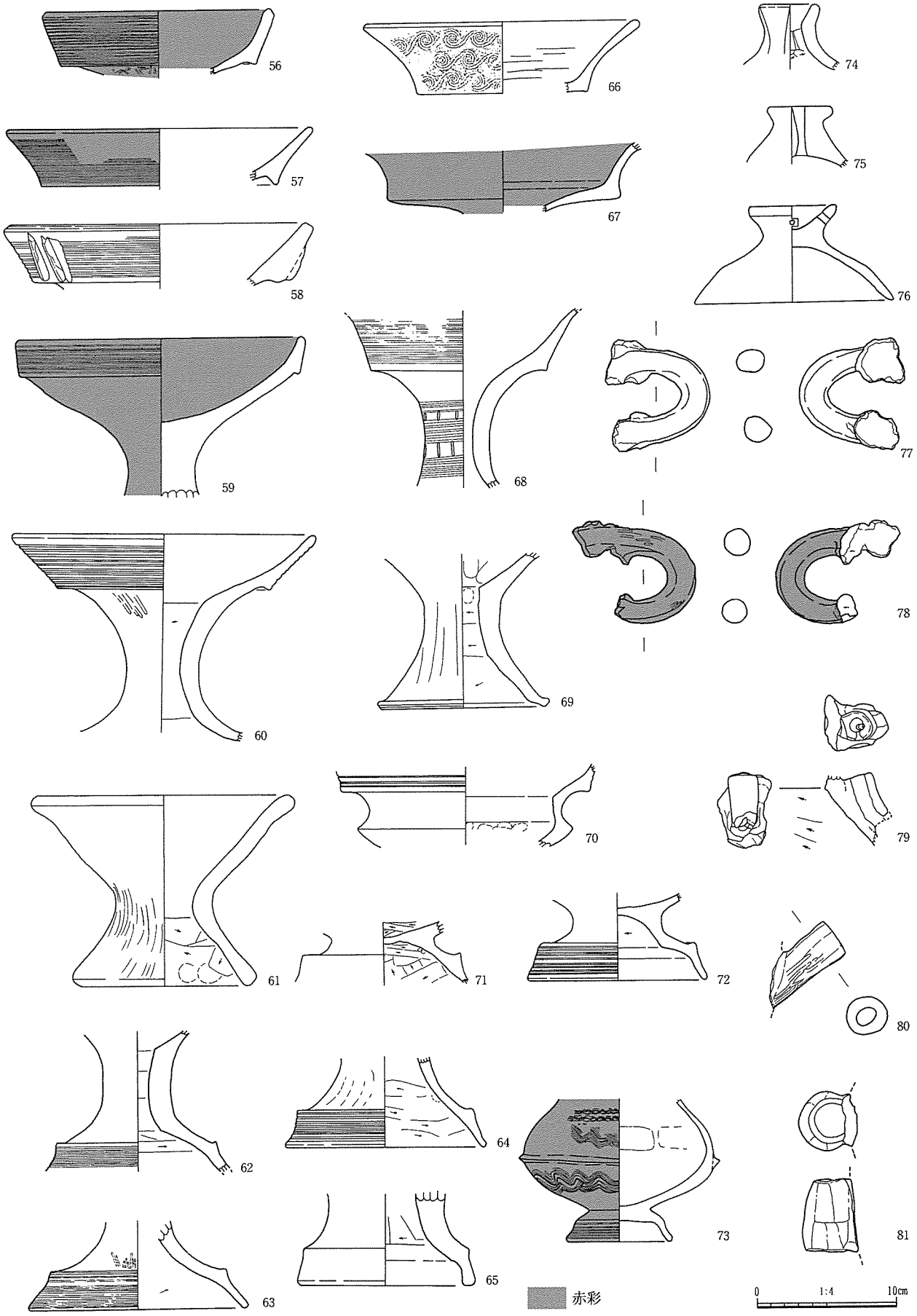


図18　包含層出土遺物（3）　斜面部黒色土・暗褐色土出土遺物（図３　⑫～⑭層）

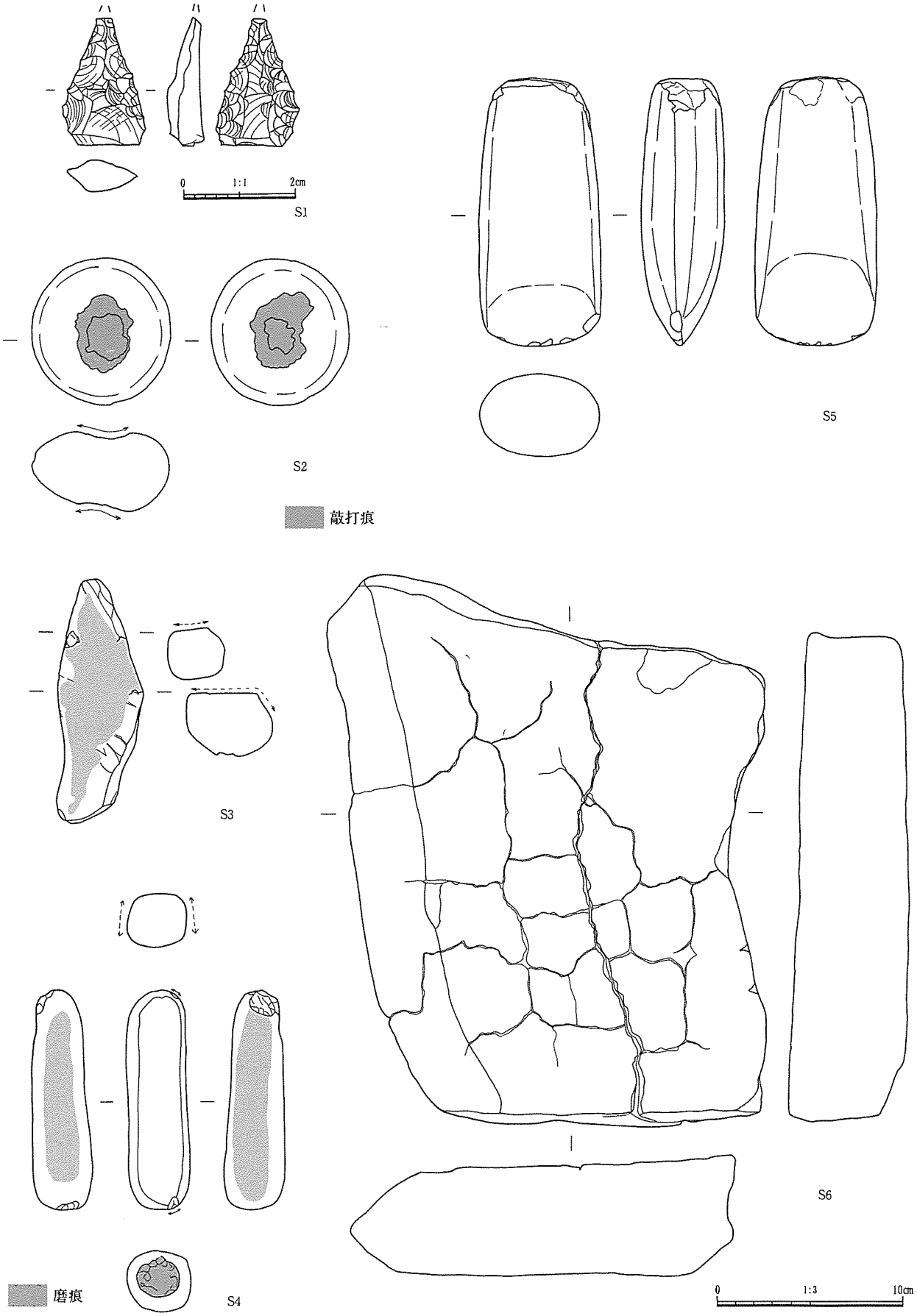


図19　包含層出土遺物（4）　斜面部黒色土・暗褐色土出土遺物（図３　⑫～⑭層）

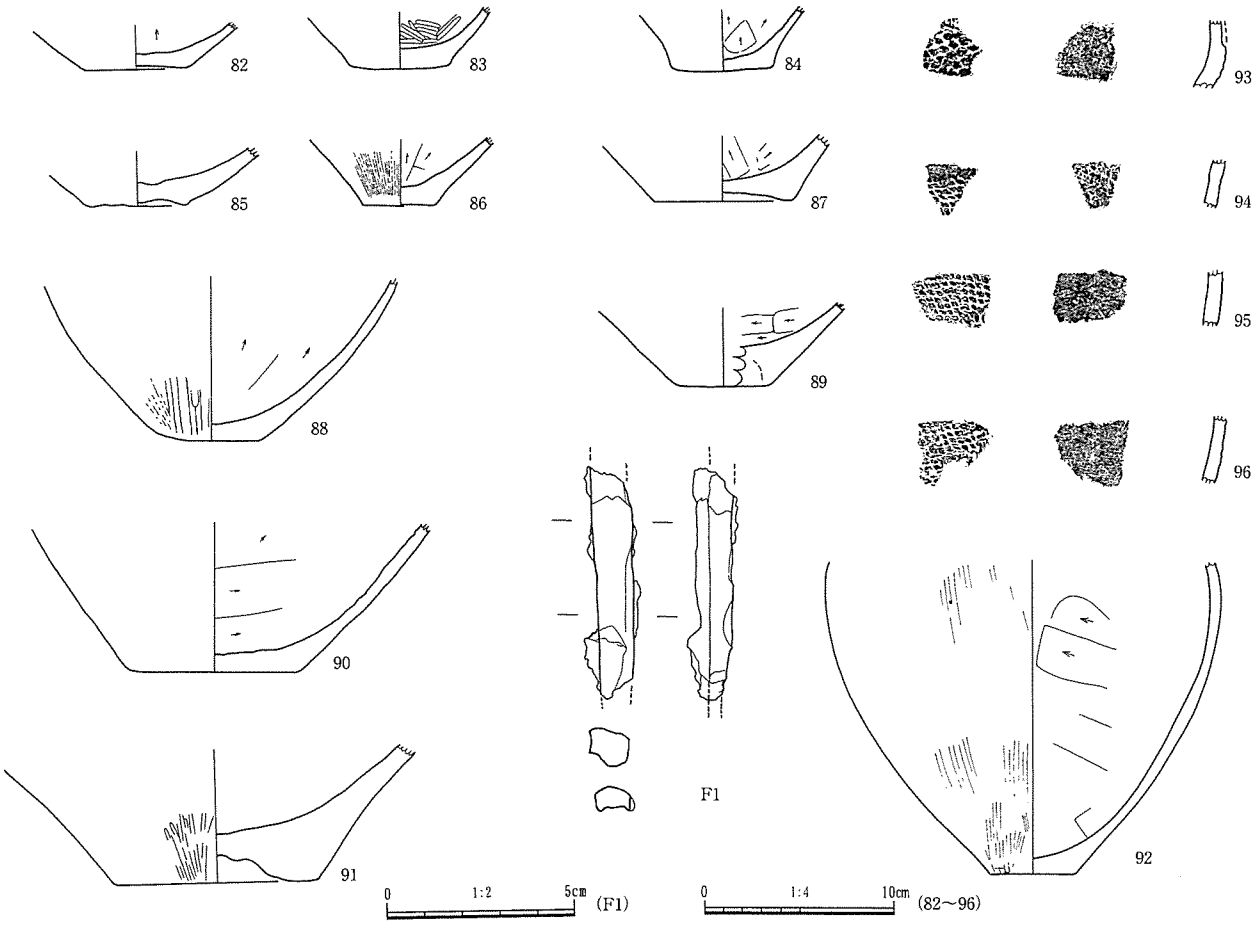


図20　包含層出土遺物（5）　斜面部黒色土・暗褐色土出土遺物

できた。再掘削された痕跡はみられない。埋土は他の道跡とは異なる黒褐色土である。竪穴住居１、道跡１の上層を切る。埋土中から遺物が出土していない。

包含層（図３･16～20、図版69～73）

調査区南西側斜面部において遺物包含層を検出した。図３の⑳層、⑫層、⑭層がこれにあたり、おおむね標高54mから下方に堆積している。斜面肩部に堆積する⑳層は、最大厚約22cmの黒色土である。弥生時代後期後葉の土器が少量出土した。⑫層、⑭層は斜面下方に堆積し、平均20cm～30cm程度の厚さをもつ黒色土・暗褐色土である。弥生時代後期後葉および終末期の土器のほか、縄文時代早期の押型文土器が出土した。調査では⑫層、⑭層を区別して掘り下げることが困難であったため同時に掘り下げを行った。出土土器の平面分布は、わずかに扇状を呈する斜面中央付近（土層断面Ｂ－Ｂ´付近）、および竪穴住居１直下の標高50m～52m付近の密度が高い。土器の大半は破片であるが、同一個体の一部がつぶれた状態で出土したものや、口縁部の１／２以上が残存するものが10個体以上みられる。斜面部上の台地に弥生時代後期後葉とみられる集落跡が存在することなどからみて、集落で使用した土器を直下の斜面部に廃棄したものと考えられる。⑭層直下の⑮層は硬くしまった黒色土であり、白色の小礫を多量に含む層である。トレンチ掘削を行ったが遺物は皆無であった。押平尾無遺跡の南側斜面でも同様の特徴をもつ無遺物層が確認されている。（岡野）

古御堂新林遺跡出土遺物観察表

土器・土製品

（ ）は復元推定値を示す、→は器面調整の順序を示す。

No.	遺構・層位	図	図版	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	色調	調整 内	調整 外	残存率	備考
1	竪穴住居１　①層	5	—	底部	—	5.2	—	にぶい褐色	ナデ	ナデ	底部完存	—
2	竪穴住居２　床面直上	7	—	甕	(14.4)	—	—	橙色	ハケ・ナデ	ナデ→ケズリ	口縁1/2	—
3	竪穴住居２　①層	7	—	甕	(16.8)	—	—	灰白色	ハケ・ナデ	ナデ・ケズリ	頸部1/4	—
4	竪穴住居２　①層	7	—	甕	(14.4)	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ・ケズリ	口縁1/2	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
5	竪穴住居２　②層	7	—	器台	—	(15.6)	—	浅黄橙色	ナデ	不明	受部欠損	口縁部外面にハケ状工具による平行沈線文。
6	竪穴住居２　最下層	7	—	底部	—	(5.2)	—	にぶい褐色	ハケ	ケズリ	底部1/5	—
7	竪穴住居２　貼床	7	—	底部	—	(5.2)	—	黄橙色	ナデ	不明	底部1/5	—
8	黒色土・暗褐色土包含層	16	70	甕	12.2	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ→ミガキ	口縁2/3	内外面赤彩、口縁部外面にハケ状工具による平行沈線文。
9	黒色土・暗褐色土包含層	16	72	甕	(12.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ→ミガキ	ナデ	頸部1/4	口縁部外面にハケ状工具による平行沈線文。
10	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(13.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/10	内外面赤彩、口縁部外面にハケ状工具による平行沈線文。
11	黒色土・暗褐色土包含層	16	72	甕	(15.3)	—	—	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/3	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
12	黒色土・暗褐色土包含層	16	72	甕	(15.6)	—	—	浅黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/3	口縁部外面に平行沈線文。
13	黒色土・暗褐色土包含層	16	72	甕	(16.6)	—	—	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/6	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
14	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(18.4)	—	—	にぶい橙色	ナデ→ミガキ	ナデ	口縁1/2	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、胴部上端に貝殻復縁による連続刺突文。
15	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(19.6)	—	—	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/5	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、胴部上端に貝殻復縁による連続刺突文。
16	黒色土・暗褐色土包含層	16	72	甕	(17.9)	—	—	にぶい褐色	不明	不明	口縁1/4	口縁部外面に平行沈線文。
17	黒色土・暗褐色土包含層	16	72	甕	(20.6)	—	—	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ナデ	頸部1/4	口縁部外面に４条の平行沈線文。
18	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(20.7)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
19	黒色土・暗褐色土包含層	16	72	甕	(12.1)	—	—	にぶい褐色	ナデ	ナデ	口縁1/3	口縁部外面に貝殻復縁による波状文のち上下端部をナデ消し。
20	黒色土・暗褐色土包含層	16	72	甕	(16.0)	—	—	にぶい褐色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	口縁部外面に貝殻復縁による波状文。
21	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(16.2)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/2	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、胴部上端に貝殻復縁による波状文。
22	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(17.6)	—	—	にぶい橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/5	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
23	黒色土・暗褐色土包含層	16	72	甕	(17.4)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/3	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、胴部上端に貝殻復縁による連続刺突文。
24	黒色土・暗褐色土包含層	16	70	甕	17.5	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁完存	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
25	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(18.9)	—	—	にぶい褐色	ハケ→ナデ・ケズリ→ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁1/3	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
26	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(14.1)	—	—	にぶい褐色	ミガキ・ケズリ	ミガキ	器形の1/2	口縁部外面および胴部上端に波状文のち口縁部下端ナデ消し。
27	黒色土・暗褐色土包含層	16	70	甕	13.2	—	—	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁完存	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
28	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(16.5)	—	—	橙色	ナデ	ナデ	口縁1/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
29	黒色土・暗褐色土包含層	16	70	甕	(15.0)	—	—	にぶい橙色	不明	不明	口縁3/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
30	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(12.4)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	不明	頸部2/3	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
31	黒色土・暗褐色土包含層	16	70	甕	(15.4)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/2	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
32	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(15.2)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/3	内外面赤彩、口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
33	黒色土・暗褐色土包含層	16	—	甕	(17.6)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ→ミガキ	ナデ	口縁1/2	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、胴部上端に貝殻復縁による連続刺突文。
34	黒色土・暗褐色土包含層	16	72	甕	(13.8)	—	—	にぶい褐色	ハケ→ナデ・ケズリ	ナデ	口縁1/3	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
35	黒色土・暗褐色土包含層	17	—	壺	14.4	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ→ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁3/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
36	黒色土・暗褐色土包含層	17	—	壺	(16.6)	—	—	橙色	ハケ→ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁1/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
37	黒色土・暗褐色土包含層	17	73	壺	(19.8)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	頸部1/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文のち下端ナデ消し。

No.	遺構・層位	図	図版	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	色調	調整 内	外	残存率	備考
38	黒色土・暗褐色土包含層	17	73	壺	(15.2)	—	—	にぶい橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁 1/3	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
39	黒色土・暗褐色土包含層	17	71	壺	(16.9)	—	—	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	頸部 完存	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
40	黒色土・暗褐色土包含層	17	—	壺	22.8	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 3/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
41	黒色土・暗褐色土包含層	17	72	壺	(20.8)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ ナデ・ケズリ	不明	口縁 1/2	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
42	黒色土・暗褐色土包含層	17	73	壺	(10.0)	—	—	浅黄橙色	ハケ→ ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/3	—
43	黒色土・暗褐色土包含層	17	72	壺	(13.7)	—	—	にぶい褐色	ハケ→ ナデ・ケズリ	不明	口縁 1/2	—
44	黒色土・暗褐色土包含層	17	—	壺	(17.2)	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ→ ハケ・ミガキ	ハケ→ナデ	口縁 1/3	—
45	黒色土・暗褐色土包含層	17	71	壺	10.1	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ	口縁 完存	胴部上端に貝殻復縁による波状文。
46	黒色土・暗褐色土包含層	17	71	壺	(14.2)	—	—	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ナデ	口縁 1/2	—
47	黒色土・暗褐色土包含層	17	—	甕	(17.6)	—	—	浅黄橙色	ケズリ→ ミガキ	ナデ	口縁 1/3	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文のち上下端部ナデ消し、胴部上端に貝殻復縁による条痕文のち連続刺突文。
48	黒色土・暗褐色土包含層	17	70	甕	16.5	—	—	浅黄橙色	ハケ→ ナデ・ケズリ	ナデ	口縁 完存	—
49	黒色土・暗褐色土包含層	17	72	甕	(10.6)	—	—	にぶい黄橙色	ハケ→ ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/2	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
50	黒色土・暗褐色土包含層	17	72	甕	(14.8)	—	—	浅黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	口縁 1/8	—
51	黒色土・暗褐色土包含層	17	—	甕	(12.6)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	不明	口縁 1/2	—
52	黒色土・暗褐色土包含層	17	72	甕	(14.5)	—	—	淡黄橙色	ナデ・ケズリ	ハケ→ナデ	口縁 1/8	—
53	黒色土・暗褐色土包含層	17	—	甕	(17.2)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	不明	口縁 1/6	—
54	黒色土・暗褐色土包含層	17	—	甕	(22.9)	—	—	にぶい褐色	ケズリ→ ハケ→ナデ	不明	口縁 1/10	—
55	黒色土・暗褐色土包含層	17	—	高坏	—	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ→ナデ	ヘラナデ	筒部 完存	—
56	黒色土・暗褐色土包含層	18	73	器台	(16.2)	—	—	にぶい橙色	ナデ	ミガキ	口縁 1/5	外面赤彩
57	黒色土・暗褐色土包含層	18	73	器台	(21.8)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁 1/2	内外面赤彩、口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
58	黒色土・暗褐色土包含層	18	—	器台	(21.4)	—	—	にぶい褐色	不明	ハケ→ナデ	口縁 1/6	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文→棒状浮文。
59	黒色土・暗褐色土包含層	18	70	高坏	20.4	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ→ ミガキ	杯部 完存	内外面赤彩
60	黒色土・暗褐色土包含層	18	70	高坏	(21.4)	—	—	橙色	ケズリ・ナデ	ヘラナデ	筒部 完存	口縁部外面に貝殻復縁による条痕。
61	黒色土・暗褐色土包含層	18	73	器台	(19.2)	—	—	にぶい黄橙色	ミガキ・ケズリ	ミガキ	器形の 1/3	—
62	黒色土・暗褐色土包含層	18	70	高坏	—	—	—	明褐色	ケズリ	ナデ	脚部 完存	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文。
63	黒色土・暗褐色土包含層	18	73	器台	—	(15.6)	—	にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ミガキ	脚部 1/3	脚部外面に貝殻復縁による条痕文。
64	黒色土・暗褐色土包含層	18	73	器台	—	(14.6)	—	橙色	ケズリ	ハケ→ナデ	脚部 1/4	脚部外面に貝殻復縁による条痕文。
65	黒色土・暗褐色土包含層	18	—	高坏	—	(11.6)	—	浅黄橙色	ケズリ・ナデ	ナデ	脚部 1/5	口縁部外面に平行沈線文。
66	黒色土・暗褐色土包含層	18	73	器台	(19.5)	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	杯部 1/6	杯部外面に３列の渦巻き状スタンプ文。
67	黒色土・暗褐色土包含層	18	73	高坏	—	—	—	にぶい黄橙色	ミガキ	ミガキ	杯部 1/5	内外面赤彩
68	黒色土・暗褐色土包含層	18	70	器台	16.4	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ・ミガキ	受部 3/4	口縁部外面に貝殻復縁による条痕文、筒部に平行沈線文。
69	黒色土・暗褐色土包含層	18	73	高坏	—	(12.0)	—	にぶい褐色	ケズリ・ナデ	ハケ→ ヘラナデ	脚部 1/4	—
70	黒色土・暗褐色土包含層	18	73	鉢	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	頸部 1/8	—
71	黒色土・暗褐色土包含層	18	—	脚部	—	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ	脚部 完存	—
72	黒色土・暗褐色土包含層	18	—	脚部	—	13.1	—	浅黄橙色	ケズリ→ナデ	ミガキ	脚部 完存	脚部外面に貝殻復縁による条痕文。
73	黒色土・暗褐色土包含層	18	71	壺	—	(7.5)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	口縁 欠損	外面赤彩、胴部に貝殻復縁による波状文。
74	黒色土・暗褐色土包含層	18	—	蓋	(3.8)	—	—	にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ	つまみ部 完存	—
75	黒色土・暗褐色土包含層	18	71	蓋	(4.3)	—	—	にぶい褐色	ケズリ→ナデ	ナデ	つまみ部 完存	つまみ部中央に内外面から焼成前穿孔。
76	黒色土・暗褐色土包含層	18	71	蓋	(6.2)	(13.8)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	つまみ部 完存	つまみ部に２カ所の焼成前穿孔。
77	黒色土・暗褐色土包含層	18	71	甕・把手	—	—	—	にぶい褐色	-	ナデ	把手部 完存	—
78	黒色土・暗褐色土包含層	18	71	甕・把手	—	—	—	にぶい褐色	-	ナデ	把手部 完存	外面赤彩
79	黒色土・暗褐色土包含層	18	—	甕・把手	—	—	—	にぶい褐色	ケズリ	ナデ	把手部 完存	甕胴部上端の外面に貼付。

No.	遺構・層位	図	図版	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
80	黒色土・暗褐色土包含層	18	—	注口土器	—	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	注口部完存	注口部下半被熱し灰色に変色し煤付着。
81	黒色土・暗褐色土包含層	18	—	甑・把手	—	—	—	浅黄橙色	ナデ	ナデ	把手部完存	—
82	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	底部	—	5.5	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	底部2/3	—
83	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	底部	—	5.3	—	にぶい褐色	ミガキ	ナデ	底部完存	—
84	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	底部	—	5.3	—	にぶい褐色	ケズリ	ナデ	底部2/3	—
85	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	底部	—	5.0	—	にぶい褐色	ケズリ→ナデ	ハケ→ナデ	底部完存	—
86	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	底部	—	3.8	—	にぶい褐色	ケズリ	ハケ	底部完存	—
87	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	底部	—	14.5	—	にぶい黄橙色	不明	ハケ	底部完存	—
88	黒色土・暗褐色土包含層	20	71	底部	—	5.0	—	にぶい褐色	ナデ	ハケ	底部完存	—
89	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	底部	—	(4.4)	—	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	底部1/2	—
90	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	底部	—	9.0	—	にぶい褐色	ケズリ	ハケ→ナデ	底部完存	—
91	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	底部	—	10.5	—	浅黄橙色	ナデ	ハケ→ナデ	底部4/5	底面に底部製作時の粘土核の剥離痕
92	黒色土・暗褐色土包含層	20	70	甕	—	4.4	—	浅黄橙色	ケズリ	ハケ→ナデ	胴部下半	—
93	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	—	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	押型文	胴部片	押型文土器
94	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	—	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	押型文	胴部片	押型文土器
95	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	—	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	押型文	胴部片	押型文土器
96	黒色土・暗褐色土包含層	20	—	—	—	—	—	にぶい黄橙色	ナデ	押型文	胴部片	押型文土器

石・ガラス製品

No.	種別	遺構・層位	図	図版	法量 (cm)				材質	備考
					最大長	最大幅	最大厚	重さ(g)		
S1	石鏃	黒色土・暗褐色土包含層	19	—	2.2	1.4	0.5	1.7	黒曜石	未製品
S2	凹石	黒色土・暗褐色土包含層	19	71	7.5	7.3	4.2	282	安山岩	表裏に敲打痕
S3	砥石	黒色土・暗褐色土包含層	19	—	13.1	4.6	3.6	215	砂粒花崗岩	上面のみ砥面
S4	敲石	黒色土・暗褐色土包含層	19	—	11.7	3.3	3.2	228	安山岩	底面に敲打痕、側面に磨痕。
S5	磨製石斧	黒色土・暗褐色土包含層	19	71	14.3	6.6	4.5	708	安山岩	—
S6	礫	黒色土・暗褐色土包含層	19	—	27.2	20.0	6.7	7120	安山岩	表面被熱
G1	小玉	竪穴住居1・床面直上	5	—	4.5mm	4.0mm	2.5mm	—	ガラス	色調：コバルトブルー

金属製品

No.	遺物種類(名称)	層位・層位	図	図版	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	磁着度	メタル度	特徴
F1	不明鉄製品	黒色土・暗褐色土包含層	19	—	6.0	1.3	0.9	15.0	—	—	—